コトヲモ禁止スルコトナカルヘシ

但シ此ノ末段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ケ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通關稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金、便益及枚金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦丁抹國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又丁抹國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ丁抹國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦丁抹國ノ船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原產地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトヲ問ハス必ス之ヲ施スヘキモノトス

本條約ハ明治三十二年七月十六日即千八百九十九年七月十六日迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ丁抹國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此ノ通知ハ明治三十一年七月十六日即千八百九十八年七月十六日以後ハ何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ

又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後八箇月以內ニ「コペンハーゲン」ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年十月十九日即耶蘇紀元千八百九十五年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テ二通ヲ作ル

赤羽四郎印
レーツス、トウト印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト丁抹國ト丁交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十二年二月二十二日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣臨時代理
文部大臣侯爵　西園寺公望　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及丁抹國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ丁抹國臣民カ日本國ニ輸入スル貨物及商品ニ關シ現今日本國ニ於テ實施スル所ノ輸入稅目ハ無效ニ歸スヘキモノタルコトニ同意スル而シテ右稅目ノ無效ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル丁抹國ノ領地及所屬地ノ生產若ハ製造ニ係ル貨物又ハ商品ニ對シテハ其ノ時現ニ行ハルル所ノ日本國普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル慶應二年十二月七日即千八百六十七年一月十二日ノ條約ノ有效ナル間ハ其ノ第十九條ノ規定ニ準據シ又右條約ノ無效ニ歸シタル後ハ本日調印シタル通商航海條約第四條及第十六條ノ規定ニ準據スヘキモノトス然レトモ日本國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年十月十九日即耶蘇紀元千八百九十五年十月十九日「コペンハーゲン」ニ於テ二通ヲ作ル

第九章　清國

㊀日清通商航海條約（明治二十九年十月勅令）

赤羽四郎印
レーツス、トウト印

朕明治二十九年七月二十一日清國北京ニ於テ朕カ全權委員ト清國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

通商航海條約

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ明治二十八年四月十四日即光緒二十一年三月二十三日下ノ關ニ於テ調印セラレタル條約第六條ノ規定ニ依リ通商航海條約ヲ締結スルコトニ決セリ因テ大日本國皇帝陛下ハ北京駐劄特命全權公使正四位勳一等男爵林董ヲ大清國皇帝陛下ハ欽差全權大臣總理各國事務大臣尚書銜戶部左侍郎張陸恒ヲ各其ノ全權大臣ニ任命シタルヲ以テ兩國ノ全權大臣ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好公當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

大日本國皇帝陛下ト大清國皇帝陛下トノ間竝ニ兩國臣民ノ間ニ永遠無窮ノ平和及親睦アルヘシ而シテ兩國臣民ハ各々兩締盟國ノ一方ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シ等シク完全ナル保護ヲ享有スヘシ

第二條

大日本國皇帝陛下ハ便宜ニ從ヒ其ノ外交官ヲ清國北京ニ駐劄セシムルコトヲ得大清國皇帝陛下モ亦便宜ニ從ヒ其ノ外交官ヲ日本國東京ニ駐劄セシムルコトヲ得

右駐劄外交官ハ各々國際公法ニ因リ之ニ附與スル一切ノ權利、特權及免除ヲ享有シ且總テ最惠國ノ同樣ノ外交官ニ附與スル所ノ待遇ヲ受ルコトヲ得

其ノ身體、家族、隨員、衙署、居館及往復書信ハ

大清國皇帝陛下モ亦同シク日本國內ニ於テ他國ノ領事官カ現ニ駐在シ若ハ將來駐在スヘキ場所ニ總領事、領事、副領事及代辦領事ヲ駐在セシムルコトヲ得而シテ右領事官ハ清國臣民及日本國ニ在ル清國臣民及其ノ財產ニ對スル日本帝國裁判所ノ裁判管轄權ニ屬スル事項ヲ除クノ外通常領事官ニ附與スル權利及特典ヲ享有スヘシ

第三條

大日本國皇帝陛下ハ外國通商ノ爲メ現ニ開カレ若ハ將來開カルヘキ清國ノ港市ノ內日本帝國ノ利害ニ必要ナリト認ムル場所ニ總領事、領事、副領事及代辦領事ヲ駐在セシムルコトヲ得

右領事官ハ清國官吏ヨリ相當ノ禮遇ヲ受ケ且最惠國ノ領事官ニ現ニ附與シ若ハ將來附與スヘキ總テノ資格、職權、裁判管轄權、特權及免除ヲ享有スヘキモノトス

大清國皇帝陛下モ亦同シク日本國內ニ於テ他國ノ領事官カ現ニ駐在シ若ハ將來駐在スヘキ場所ニ總領事、領事、副領事及代辦領事ヲ駐在セシムルコトヲ得而シテ右領事官ハ清國臣民及日本國ニ在ル清國臣民及其ノ財產ニ對スル日本帝國裁判所ノ裁判管轄權ニ屬スル事項ヲ除クノ外通常領事官ニ附與スル權利及特典ヲ享有スヘシ

第四條

日本國臣民ハ其ノ家族、雇員及僕婢ト共ニ現ニ外國人ノ居住貿易ノ爲メ開キ又ハ將來開クヘキ所ノ清國ノ諸港諸市ニ往來シ、住居シ、商工業製造業ニ從事シ且其ノ他一切合法ノ職業ニ從事シ又ハ其ノ他一切合法ノ商品ヲ搭載シ前記諸開港地ノ間ヲ隨意ニ往來スヘク又其ノ地ニ於テ外國人ノ使用及占有ノ爲メ既ニ選定シ若ハ將來選定セラルヘキ地區內ニ於テ家屋ヲ貸借シ寺院、墓所、病院ヲ建設スルコトヲ得但シ此等一切ノ事項ニ付キテハ清國ノ法律ニ遵依スルノ義務ヲ負フ

日本國臣民ハ清國ノ內地ニ於テ土地ヲ賃借シ家屋ヲ貸借シ又ハ自ラ家屋ヲ建築スルコトヲ得但シ此等ノ事項ニ付キテハ清國ノ法律ニ遵依スルノ義務ヲ負フ

日本國臣民ハ清國ノ內地ニ於テ貿易ノ爲メ又ハ製造ノ爲メ自己ノ名義ヲ以テ又ハ自己ノ計算ヲ以テ各種ノ動產ヲ購買シ又ハ賃借スルコトヲ得

日本國臣民ハ清國ノ內地ニ於テ各種ノ動產ヲ販賣シ又ハ賃貸スルコトヲ得

日本國臣民ハ清國ノ內地ニ於

課セラルヘキモノトス

第十條

清國ノ船舶ハ清國官吏ノ證書ヲ有スル場合ニ限リ日本國ノ各開港ニ入リ及ヒ其ノ港ニ碇泊スルコトヲ得

締盟國ハ本條約ノ效力ヲ完全ナラシムルニ必要ナル章程ヲ協議決定スヘシ尤モ右章程ノ實施セラルルニ至ル迄ハ現ニ清國ト泰西諸國トノ間ニ存スル取極及章程ニシテ其ノ本條約ノ規定ニ矛盾セスシテ適用セラレ得ル限ハ締盟國ニ於テ之ヲ遵守スヘキモノトス

第二十八條

本條約ハ日本文漢文及英文ニ調印スヘシ然レトモ將來議論ヲ防ク爲メ締盟國ノ全權大臣ハ日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ其ノ異ナル點ハ英文本文ニ依テ之ヲ決裁スヘキコトヲ協議決定セリ

第二十九條

本條約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ之ヲ批准セラルヘク而シテ其ノ批准書ハ本條約調印ノ日ヨリ三箇月以内ニ可成速ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ兩國ノ全權大臣本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治二十九年七月二十一日即光緒二十二年六月十一日北京ニ於テ作ル

大日本帝國北京駐劄特命全權公使　正四位勳一等男爵　林　董（記名）印

大清帝國欽差全權大臣總理各國事務大臣　尚書銜戶部左侍郎　張　蔭桓（記名）印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル大日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治二十八年四月十七日帝國ト大清國トノ間ニ締結セシ媾和條約第六條ノ規定ニ基キ明治二十九年七月二十一日北京ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ問然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十六年九月二十九日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

㊟蘇州日本居留地取極書（明治三十年四月外務省告示第三號）

明治三十年三月五日日清兩國委員間ニ協定シタル左記蘇州日本居留地取極書ハ之ヲ認可シ直ニ實施ス

蘇州日本居留地取極書

第一條　蘇州日本居留地ハ西ハ南務公司地界ヨリ東ハ水綠涇河岸ニ至リ北ハ沿河十丈官路外ヨリ南ハ採蓮涇河岸ニ至ル即チ附屬圖中紅線ヲ以テ劃セル地區ニ於テ界石ヲ立テ日本居留地ヲ設クルコトヲ承諾ス

前記沿河十丈（官路四丈此内ニ在リ）地面ニ關スル件ハ暫ラク懸案ト爲ス但シ清國ハ日本人民カ自由ニ往來通行シ客貨ヲ上下シ船舶ヲ繫泊スルコトヲ承諾シ竝ニ該地面ニ於テ一切ノ建物ヲ造築スルヲ得サルコトヲ聲明ス又將來若シ別國カ沿河地面ヲ其ノ居留地内ニ編入スルコトヲ允ス場合ニ於テハ日本モ亦一律ニ辨理スヘキモノトス

第二條　居留地内道路橋梁及營塞ノ權ハ日本領事ノ管理ニ屬シ其ノ道路橋梁ハ日本領事カ清國地方官ト干係ナカルヘシ但シ清國地方官ト照會シ清國地方官ヨリ方法ヲ設ケテ修造シ清國地方官ト干係ナカルヘシ但シ清國地方官ト照會シ清國地方官ヨリ方法附屬圖中ニ劃明セル豫定道路ノ外若シ彼我人民ノ水利ニ關スル場所ニ於テ道路ヲ開設セントスルトキハ必ラス地方官ト商議ノ上之ヲ辨理スヘシ

第三條　居留地内地所ハ日本人民ニ限リ租借スルコトヲ得但シ清國人ニシテ居留地内ニ居住ヲ願フ者ハ家屋ヲ借受ケ自ラ營業スルコトヲ許ス尤モ品行不正ニシテ一定ノ職業ナク若クハ曾テ罪科ヲ犯シ本分ヲ守ラサル清國人及居留地ノ治安ヲ妨害スル者ト認ムヘキ日本人ハ孰モ居留地内ニ居住スルヲ許サス遂フ者ハ退去ヲ命シ猶遂犯スル者ハ所屬國當該官吏ニ於テ之ヲ處分ス又居留地内居住ノ清國人民ニ關スル訴訟事件及清國地方官ノ當然取扱フヘキ事項ハ成ル可ク上海租界洋涇濱會審章程ニ依リ之ヲ辨理スヘシ清國ハ居留地内ニ會審公署ヲ設立スヘシ

第四條　居留地内地價ハ一畝ニ付洋銀百六十弗ト定メ本書調印ノ日ヨリ十箇年間ハ增額スルコトヲ得ス十箇年後ハ居留地内隣近地ノ公平價額ニ照ラシテ租借シ借地人地主雙方共何等ノ異議ヲ唱フルヲ許サス

第五條　居留地内地稅ハ一箇年一畝ニ付銅錢四千文ト定ム（尤モ調印ノ日ヨリ十箇年間ハ一箇年一畝ニ付銅錢三千文ヲ納メ十箇年後ニ至リ永遠一箇年一畝ニ付稅額銅錢四千文ヲ納ムルモノトス）每年清曆正月十六日ヨリ同月三十日ニ至ル十五日間ニ各借地人ハ必ラス該年分稅額ヲ取揃ヘ上海各國人地稅納入同一ノ手續ニ據リ之ヲ納ムヘシ但シ公共用ノ道路橋梁井溝等ハ地稅ヲ徵セス又一私人ニテ租借スルヲ許サス

第六條　凡テ借地志願者ハ必ラス日本領事ニ願出ツルヲ要ス日本領事ハ本人姓名竝ニ所願地面ノ畝數ヲ清國地方官ニ照會シ地方官ハ吏員ヲ派遣シテ領事館員ト立合ヒ現場ニ就キ何等故障ノ有無ヲ踏査シタル上始テ借地ヲ許可スヘシ而シテ借地人ヨリ地價及地稅一箇年分ヲ皆納スルヲ俟チ地方官ハ借地券三通ヲ作リ内一通ヲ留置キ餘ノ二通ヲ領事ニ送致シ領事ハ之ニ捺印ノ上一通ヲ借地本人ニ下渡シ一通ヲ領事館ニ保管シテ調査ニ供スヘシ

借地確定シタルトキハ借地人ハ自費ヲ以テ界石ヲ立ツヘキモノトス居留地内ニ於テ一個人ノ借得ヘキ地所ハ二畝以上六畝以下トス若シ六畝以上ヲ租借スル必要アルトキハ先ツ事由ヲ具シテ領事ニ願出テ領事ハ前項ニ照ラシ地方官ニ措辦方ヲ照會スヘシ

第七條　凡テ借地ニハ必ラス借地本人若クハ代理人居住經理スルヲ要ス若シ已ムヲ得サル事故ノタメ他人ニ讓渡ヲ必要トスルトキハ先ツ事由ヲ具シテ領事ニ願出テ領事ハ事由ヲ取調ヘ清國地方官ニ照會ノ上始テ借地券ヲ書換ヘ讓渡スコトヲ許スヘシ

第八條　借地券ハ三十箇年ヲ以テ期限トス但シ滿期後之ヲ書換ヘ引續キ租借スルコトヲ得以後永遠三十箇年毎ニ之ヲ書換ユルヲ例トス書換ノ時ハ借地人ヨリ日本領事ニ申出テ領事ハ清國地方官ニ照會シ書換ノ手續ヲ爲スヘシ但シ地價ハ勿論何等ノ費用ヲモ取立ツルコトヲ得ス若シ滿期ニ至リ書換ヲ申出テサル者アルトキハ地方官ヨリ一應領事ニ通知シ領事ハ本人ヲ召喚ノ上諭告スヘシ而シテ二箇月ヲ經過スルモ仍ホ書換ヲ申出テサルトキハ取締ノ爲メ該借地券ヲ取消スヘキモノトス

第九條　居留地内家屋移轉ヲ要スルモノアルトキハ清國地方官ハ之ヲ幇助辨理ス墓所ハ地方官ニ於テ極力說諭ヲ加ヘ移轉スル樣取計フヘシ尤モ墓數夥多ノ箇所ハ設踏ヲ防ク爲メ地方官ヨリ墻壁ヲ築キ之ヲ圍護スヘシ又居留地内日本人民未借ノ地所ハ清國人ノ失業ヲ免レシムル爲メ從前ノ通リ居住耕作スルコトヲ許ス

第十條　居留地内ニハ火災豫防ノ爲メ藥屋及板葺家屋等ヲ建築スルコトヲ許サス違犯スル者ハ直ニ之ヲ差止メ且ツ取毀タシムヘシ

第十一條　居留地内ニハ火藥爆裂藥其他性命財產ヲ危害ノ虞アル一切ノ物品ヲ收藏スルヲ許サス違犯スル者ハ各本國ノ法律規則ニ依リ之ヲ處分スヘク搆ニ各所ニ貯藏シ又ハ留置久シキニ渉ルコトヲ許サス若シ此等ノ事實アレハ一般ノ安寧ヲ謀ルタメ領事ヨリ本人ニ命シ之ヲ居留地外ニ轉輸セシムヘシ

第十二條　日本領事ハ清國地方官ト協議シ居留地外ニ於テ僻靜空曠ニシテ住民ニ妨ケナキ一地ヲ選ミ自ラ人民ヨリ租借シ日本人墓地トナスヘシ其面積ハ十畝ヲ度トス尤モ將來不足ノ時ハ隨時地方官ト妥商シテ之ヲ擴充スルコトヲ得

第十三條　以後蘇州別國居留地ニ對シ若シ清國ヨリ別ニ利益ヲ附與スル所アラハ日本居留地人民モ亦一律均霑スヘシ

第十四條　本取極書ニ記載セサル他ノ瑣細ノ事項ハ總テ此別ニ照會ヲ交換シ證據トスヘシ

以上各條ハ兩國委員各政府ノ命令ヲ奉シ和衷商定スルトコロナリ乃チ日本文漢文各二通ヲ作リ彼此對照セルニ誤謬ナキニ依リ茲ニ記名押璽ノ上雙方各二通ヲ執リ上蔟ノ全ク裁可アルヲ俟チ官印ヲ押捺シテ證據トシ且ツ實施セラルヘキコトヲ約ス

明治三十年三月初五日

光緒二十三年二月初三日

大日本帝國上海在勤蘇州兼勤鎭江外四港兼辦總領事　珍田　捨己　蓋押

大清帝國欽命二品頂戴蘇州承宣布政使司　陸　紐　梁　蓋押

大清帝國欽命二品銜監督蘇州關江蘇督糧道　陸　元鼎　蓋押

㊟杭州日本居留地取極書及追加取極書（明治三十年五月外務省告示第六號）

明治二十九年九月二十七日及同三十年五月十三日日清兩國委員間ニ協定シタル左記杭州日本居留地取極書及同追加取極書ハ玆ニ之ヲ認可シ直ニ實施ス

杭州日本居留地取極書十四條

第一條

杭州武林門外拱宸橋ノ北運河ノ東岸一帶即チ長公橋ヨリ起リ拱宸橋ニ至ルノ地區ヲ以テ外國居留地ト爲シ此地區内ノ一部分ヲ日本居留地ト定ム地圖二枚ヲ製シ日本領事官清國地方官各一枚宛ヲ取置クヘシ日本商民ハ此地圖ニ揭クル位置番號竟委ニ隨ヒ土地ヲ借用スルヲ得ヘシ

第二條

日本商民ノ居留地内ニ往來住居スル者ハ清國地方官ノ保護スルコトハ條約ニ準據スヘシ捕房ノ事ハ清國地方官稅務司ト商議ノ上設立管理シ仍ホ日清兩國政府ノ協議決定ヲ俟ツ唯日本領事官ハ居留地巡警規則ヲ制定シ海關道ニ照會スヘシ海關道ハ之ヲ巡撫ノ鑒核ニ供シ巡撫ヨリ稅務司ニ命シテ施行セシムヘシ

第三條
居留地内道路及沿河曳船路ノ事ハ本取極書第二條捕房ニ關スル取極ノ例ニ照シ又其建造修理ノ事ハ第四條ニ照シ辨理スヘシ但シ居留商民埠頭ニ於テ貨物ノ揚卸及一時貨物ヲ路上ニ置クヲ得ヘシ然レトモ貨物積置ノ時間ハ二日ヲ超ルコトヲ得ス又道路通行及曳船ノ者ヲ妨クルヲ得ス

第四條
一居留地内一切ノ橋梁溝渠埠頭道路ハ清國地方官ニ於テ完固ニ建設スヘシ
一前項諸工事ヲ施スノ場處位置及建設修理ノ方法ハ日本領事官清國地方官ト商議シテ施設スヘシ
一一切ノ支河浚濬ノ工事ハ時々清國地方官ヨリ處辨スヘシ
一橋梁溝渠道路ヲ修理スル工事ハ清國地方官ニ於テ確實ニ之ヲ處辨シ日本領事官ニ通知スヘシ日本領事官ハ時々適宜ニ規則ヲ制定シ何國人ヲ論セス洩レ無ク公平ニ戸毎ニ費用ヲ取立テ修理費ニ充ツヘシ此費用徴収ノ規則ハ其都度清國地方官ニ通知スヘシ
一船舶ハ埠頭ニ停泊スル毎ニ停泊料ヲ拂フヘシ日本領事官ハ清國地方官ト商議シテ取立ノ規則ヲ定メ之ヲ徴収シテ修理費ニ充ツヘシ
一前各項築造物若シ非常ノ災變ニ遇ヒ損壞流失ヲ來スコトアラハ即時日本領事官ヨリ清國地方官ニ照會シテ速ニ建修セシムヘシ日本領事官ハ居留民ヨリ費額ヲ取立テ其費用ヲ補助スヘシ
一公用ノ井戸溝渠道路ニ對シテハ居留民ハ納稅ノ義務ナシ又一家一人ニ貸與シテ衆用ヲ缺クコトヲ得ス

第五條
居留地面ヲ分テ上中下三等ト爲ス借用ノ際納ムヘキ借地料ハ上等一畝貳百五拾圓中等一畝壹百五拾圓ト定ム右ニ對シ毎年一畝毎ニ地稅貳圓ヲ徴スル外別ニ借地料等ヲ納ムルニ及ハスルモノトス右書換ノ際兩國官吏ハ制限ヲ加ヘ借地人ニ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ得ス若シ意外ノ事變アル時ハ其平定ノ後ニ於テ地券書換ヲ請求スルコトヲ得

第六條
居留地内ニ於テ日本人商業工業ヲ爲サントスル者ハ商店行棧ヲ開設スルヲ得ス違反スル者ハ夫々處分セラルヘシ身元確實品行方正ノ者ハ居留地内ニ居住營業スルコトヲ得但シ本取極書ニ揭クル借地權利ナキモノトス此等居留地内ノ清國人民ニシテ行跡疑フヘク身分ヲ辨ヘス若クハ法規ニ背反スル者アラハ清國地方官ヨリ日本領事官ニ通知シ又ハ日本領事官ヨリ清國地方官ニ通知シ雙方立會取調ノ上清國地方官ヨリ處罰スヘシ勝手ニ庇護縱容スルコトヲ得ス

第七條
地券ノ效力ハ三十年ヲ以テ期限トナス期滿ノ後地券ヲ書換ヘ借繼クコトヲ得ヘシ此書換ノ時ニ至リ商業繁盛ナル時ハ清國地方官ハ日本領事官ト協議ノ上取行フヘシ其時ニ於ケル借地權讓渡認受ノ時價ニ照シ地稅ヲ加增スルヲ得ヘシ而シテ此三十年毎ニ地券書換ノ例ハ永ク施行スルモノトス若シ期限ニ至リ書換ヲ請求セサル者ハ借地權ヲ失フヘシ然レトモ書換期限ニ至レハ直チニ地券ヲ書換ヘ借繼ク事ヲ許スヘシ此時借地人ハ重テ借地料ヲ納ムルニ及ハサルモノトス右書換ノ際兩國官吏ハ制限ヲ加ヘ借地人ニ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ得ス若シ意外ノ事變アル時ハ其平定ノ後ニ於テ地券書換ヲ請求スルコトヲ得

第八條
清國人ノ身分ナキ者私カニ居留地内ニ住居シ若クハ商店行棧ヲ開設スルヲ得ス違反スル者ハ夫々處分セラルヘシ身元確實品行方正ノ者ハ居留地内ニ居住營業スルコトヲ得但シ本取極書ニ揭クル借地權利ナキモノトス此等居留地内ノ清國人民ニシテ行跡疑フヘク身分ヲ辨ヘス若クハ法規ニ背反スル者アラハ清國地方官ヨリ日本領事官ニ通知シ又ハ日本領事官ヨリ清國地方官ニ通知シ雙方立會取調ノ上清國地方官ヨリ處罰スヘシ勝手ニ庇護縱容スルコトヲ得ス

第九條
身元確實ナル外國人ニシテ居留地内ニ居住セント欲スル者ハ居住スルコトヲ得但シ本取極ニ揭クル借地權利ナキモノトス

第十條
居留地内借用ノ地ハ其名前ヲ以テ土地ヲ借用セシ者ニ限リ居住スルコトヲ得若シ借地人事故アリテ自ラ居住スル能ハサル時ハ親屬朋友屋人組合員等身元確實ナル者ヲシテ代テ管理セシムルコトヲ得若シ已ムヲ得サル事故ニヨリ借地權ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ必要トスル時ハ其讓渡ノ以前日本領事官ニ申立テ日本領事官ヨリ清國地方官ニ照會シテ地券ノ書換ヲ爲スヘシ

第十一條

居留地地面ハ清國地方官ニ於テ現今ノ地主ヨリ買收シ此取極ノ規定ニヨリ日本商民ニ貸與スヘシ若シ地區内ニ墳墓家屋等アリテ之ヲ移轉セシムル時ハ其費用ハ借地料ニ加ヘ設カサルヲ以テ別ニ日本領事官清國地方官ト商議シ其額ヲ定メ支給セシムヘシ將來別ニ地面ヲ擇ヒ若クハ居留地接近ノ場處ニ於テ日本人墓地ヲ設ケントスル時ハ日本領事官ヨリ清國地方官ニ照會協定スヘシ

第十二條
居留地内ニ於テ草葺又ハ下等板葺ノ屋根アル家屋ハ火ヲ引キ易ク害ヲ他人ニ及ホス憂アルヲ以テ建造スルコトヲ許サス火藥爆裂藥其他人ノ身體家屋財産ニ有害ノ器物ハ總テ貯藏携帶及運途スルコトヲ許サス若シ此等ノ違反者アリテ官ヨリ發見セラレ或ハ他人ヨリ告發セラルル時ハ各本國ノ法例ニ據リ所罰セラルヘシ若シ工事上已ムヲ得ス爆裂藥ノ類ヲ使用セントスル時ハ先ツ日本領事官ニ其用途及要領ヲ記載シタル書面ヲ差出シ許可ヲ受クヘシ日本領事官之ヲ許可スル時ハ稅關ニ通知シ稅務司ハ取調ノ上陸揚ヲ許スヘシ陸揚ノ後速カニ使用シ又ハ貯留スルコトヲ得ス

第十三條
日本人民ノ犯罪者及他地ニ於テ罪ヲ犯シ居留地内ニ潛ミ居ル者ハ日本領事官ヨリ役員ヲ派シ之ヲ逮捕シ又ハ捕房ニ通知シ其巡捕ヲ派セシメ協力シテ速捕シ法規ニ照シテ處分スヘシ

第十四條
若シ現外國居留地及將來開設ノ外國居留地ニ對シ取極タル事項ニシテ本取極ニ優ル所アラハ日本居留地モ亦之ニ均沾スヘシ
以上議定シタル取極書日本文清文各二通ヲ作リ各自記名調印シテ各二通ヲ取リ置キ以テ信守ヲ昭ニス

大日本明治二十九年九月二十七日
杭州在勤大日本帝國二等領事　小田切萬壽之助　畫押

大清光緒二十二年八月二十一日
大清國杭州洋務總局督辨浙江按察使司　臬　耕　蓁　畫押

杭州日本居留地追加取極書六條

第一條
日本居留地ハ既ニ兩國政府ニ於テ新約ヲ締結シ專界專管ト爲ス事ニ定メラレタリ居留地ノ運河ニ沿ヒタル道路ハ前洋務局督辨轄製ト取極書十四條ノ語アルヲ以テ此道路ハ居留地内ニ在ルモノトス最モ此地ハ清國人民往來出入ノ道ニ係リ下方ハ官塘ニ連ナルヲ以テ之ヲ公共往來ノ路トナシ清國人民ノ自由ニ通過ヲ許ス船スルヲ得ル事ヲ聽シ制限ヲ設ケサルヲ可シ而シテ居留地内ニ立會裁判所ヲ設ケ若シ清國人民ノ此路上又ハ他ノ道路ニ於テ事ヲ惹起スル者アレハ上海立會裁判所規定ニ照シ之ヲ處分スヘシ私ニ拘禁凌虐欺侮スルコトヲ得ス蓋シ專界トハ此土地ヲ以テ專ラ日本領事官ニ於テ管理スルモノニシテ其道路土地ノ所有權ハ執レモ清國ニ屬スルモノトス此約義ハ固ヨリ明亮ナレトモ清國人民ノ此義ヲ明ニセス動モスレハ疑惧ノ心ヲ起シ反テ枝節ヲ生スルヲ慮リ清國地方官ト各布告ヲ發シ衆人ニ告知スル可シ

第二條
居留地内總テノ道路橋梁溝渠碼頭及ヒ警察ノ權ハ日本領事官ノ管理トナス其道路橋梁溝渠碼頭ハ日本領事官ヨリ清國地方官ト和衷協定スヘシ
以上追加取極書日本文清文各二通ヲ作リ各自記名

第十一條　外交　第九章　清國

ス
大日本明治二十九年九月二十七日
杭州在勤大日本帝國二等領事　小田切萬壽之助　畫押

大清光緒二十二年八月二十一日
大清國杭州洋務總局督辨浙江按察使司　臬　耕　蓁　畫押

杭州日本居留地追加取極書六條

第一條
日本居留地ハ既ニ兩國政府ニ於テ新約ヲ締結シ專界專管ト爲ス事ニ定メラレタリ居留地ノ運河ニ沿ヒタル道路ハ前洋務局督辨轄製ト取極書十四條ノ語アルヲ以テ此道路ハ居留地内ニ在ルモノトス最モ此地ハ清國人民往來出入ノ道ニ係リ下方ハ官塘ニ連ナルヲ以テ之ヲ公共往來ノ路トナシ清國人民ノ自由ニ通過ヲ許ス船スルヲ得ル事ヲ聽シ制限ヲ設ケサルヲ可シ而シテ居留地内ニ立會裁判所ヲ設ケ若シ清國人民ノ此路上又ハ他ノ道路ニ於テ事ヲ惹起スル者アレハ上海立會裁判所規定ニ照シ之ヲ處分スヘシ私ニ拘禁凌虐欺侮スルコトヲ得ス蓋シ專界トハ此土地ヲ以テ專ラ日本領事官ニ於テ管理スルモノニシテ其道路土地ノ所有權ハ執レモ清國ニ屬スルモノトス此約義ハ固ヨリ明亮ナレトモ清國人民ノ此義ヲ明ニセス動モスレハ疑惧ノ心ヲ起シ反テ枝節ヲ生スルヲ慮リ清國地方官ト各布告ヲ發シ衆人ニ告知スル可シ

第二條
居留地内總テノ道路橋梁溝渠碼頭及ヒ警察ノ權ハ日本領事官ノ管理トナス其道路橋梁溝渠碼頭ハ日本領事官ヨリ清國地方官ト和衷協定スヘシ
以上追加取極書日本文清文各二通ヲ作リ各自記名

調印シ各二通ヲ取リ置キ以テ信守ヲ昭ニス

大日本明治三十年五月十三日

抗州在勤

大日本帝國二等領事　小田切萬壽之助　㊞

大清光緒貳拾參年肆月拾貳日

大清國欽命二品頂戴分巡抗嘉湖海防兵備道監督抗州關兼辦通商事宜　王祖光　㊞

㊙沙市日本居留地章程（明治三十一年十二月外務省告示第十九號）

明治三十一年八月十八日清兩國委員間ニ協定シタル左記沙市日本居留地章程ハ玆ニ之ヲ認可シ直ニ實施ス

沙市日本居留地章程

第一條　沙市口洋碼頭荊州官地西界ヨリ起リ東南長江ニ沿ヒ直長三百八十丈其西界ヨリ直長八十丈間ハ幅八十丈以下直長三百丈間ハ幅百二十丈ノ地區ヲ以テ日本專管居留地ト定ム（別圖參照）

調後他外國居留地ヲ設定スルトキハ日本居留地以下ノ地區ニ於テ劃定スヘシ

第二條　居留地內總テノ道路橋梁溝渠埠頭隄防及ヒ警察ノ權ハ日本領事官ノ管理トス其道路橋梁及ヒ溝渠ハ日本領事官ヨリ隨時基築修理シ清國地方官ハ之ニ關渉スルヲ得ス

第三條　居留地ノ安固及ヒ浸水豫防ノ爲メ堅牢ナル隄防ヲ修築スヘシ其修築費及ヒ築隄ニ要スル地基ノ買取代價ハ（日清）兩國委員會同協算シ清國ハ其一半ヲ負擔スルモノトス

第四條　居留地內ニ在テ草葺又ハ下等板葺ノ家屋ヲ建造シ或ハ火藥爆發物其他身體財產ニ危害アル物品ヲ貯藏携帶及運送スルヲ許サス但必要止ムヲ得サル場合ニ於テ爆發物類ヲ使用セントスルトキハ其用途ヲ詳記シ日本領事官ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第十五條　清國地方官ハ日本領事官ト商議シ居留地內ニ立會裁判所ヲ設クヘシ其規則ハ上海ノ例ニ倣フ

第十六條　將來別ニ適當ナル地面ヲ撰ヒ日本人墓地ヲ設ケントスルトキハ隨時日本領事官清國地方官ト協定スヘシ

第十七條　現在及將來他外國人ニ許與シ又ハ許與スル事項ニシテ本章程ニ優ル所アラハ日本居留民モ亦一體均霑スヘシ

本章程ハ日本文清文各二通ヲ作リ記名調印ノ上雙方各一通ヲ收メ證憑トナシ政府ノ承認ヲ俟テ實施セラルヘキコトヲ約ス

明治三十一年八月十八日

大日本帝國沙市在勤二等領事　永瀧久吉　㊞

光緒二十四年七月二日

大清帝國欽加二品銜分巡荊宜施道監督　俞鐘頴　㊞

（別表竝ニ別圖略ス）

㊙天津日本居留地取極書

（明治三十一年十二月外務省告示第二十二號）

明治三十一年八月二十九日及同年十一月四日日清兩國委員間ニ協定シタル左記天津日本居留地取極書及同續約ハ玆ニ之ヲ認可シ直ニ實施ス

日本居留地取極書

清國政府ハ光緒二十二年北京總理衙門ト日本公使ト協定セシ議定書第三條ニ照シ日本ニ天津ニ於テ專管居留地ヲ設定スルコトヲ允シ玆ニ北京駐紮日本全權公使ハ總理各國事務衙門ニ照會シテ居留地ヲ設立スルニ付テハ清國地方官ト商議シ居留地ヲ劃定スヘキコトヲ請求セリ總理各國事務衙門ハ直隸總督ニ訓令シテ海關道李天津道任ヲ以テ委員トシ日本全權公使ハ天津駐在領事郎ヲ以テ委員トシテ會同議定セシメ各條ヲ列記ス

第一條　清國政府ハ議定書第三條ニ照シ日本ニ天津ニ於テ專管居留地ヲ設立スルコトヲ允シ玆ニ北京駐紮日本全權公使ハ天津駐在領事郎ヲ以テ委員トシテ會同議定セシ各條ヲ列記ス

第一條　清國政府ハ議定書第三條ニ照シ日本ニ天津ニ於テ專管居留地ヲ設立スルコトヲ允シ玆ニ北京駐紮日本全權公使ハ總理各國事務衙門ニ照會シテ居留地ヲ設立ヲ請求セリ總理各國事務衙門ハ直隸總督ニ訓令シテ海關道李天津道任ヲ以テ委員トシ日本全權公使ハ天津駐在領事郎ヲ以テ委員トシテ會同議定セシメ

ニ地丁銀一錢一分七厘及清米二升八合四勺ニシテ米一石ニ付キ銀三兩ノ割合ヲ以テ換算取立テ毎年四月日本帝國領事ヨリ漢陽縣ニ送付スルモノトス日本人民ノ未タ借用セサル地區ハ清國地主自ラ租稅ヲ納付スヘシ

一右界内ニ於テ日本ノ商工業者ハ此取極書ニ依リ地所ヲ借入レ家屋店舖ヲ建造スルヲ得ヘシ日本人民カ清國ノ地主ヨリ地所借用ノ際支拂フヘキ借地料ハ過去三年間ノ平均地價ヲ標準トシテ公平ニ取極ムヘシ江漢關監督ハ清國地主ノ其時相場ヲ高ク聽クルヲ許サス日本人民モ亦無理ニ直切ルヲ得サルモノトス日本人民ノ借用セントスル地所内ニ官地アル時ハ別ニ商議ノ上其借地料ヲ格別低廉ナラシムヘシ地所借用ノ時ハ日本帝國領事ニ願出テ地方官ニ照會シテ實地檢査ノ上地券三枚ヲ造リ日本帝國領事ノ之ニ加印シ一枚ハ地所借用者ニ與ヘ一枚ハ日本帝國領事館ニ又一枚ハ清國地方官衙門ニ取置クモノトス一タヒ借用セシ地所ハ此取極書ニ依リ借用者ニ於テ永遠借用スルモノニシテ何國何人ト雖モ強テ立退キ讓渡シヲ行ハシムルヲ得ス地券ノ式ハ既ニ成例アルヲ以テ別ニ之ヲ議セス

一清國人民ノ身元ナキ者ハ私ニ居留地内ニ於テ居住シ若クハ店舖倉庫ヲ開設スルヲ得ス違反スル者ハ夫夫處分セラルヘシ若シ身元確實品行方正ノ人ナレハ此界内ニ於テ居住營業スルヲ許ス去レトモ右清國人民ハ單ニ居住スルニ止マリ地所ヲ借用スルヲ得ス若シ行跡疑ハシク本分ニ安ンセス規則ヲ遵奉セサル者アル時ハ清國地方官ヨリ日本帝國領事ニ照會シ又ハ日本帝國領事ヨリ清國地方官ニ照會シ立會取調ヘノ上清國地方官ヨリ嚴重ニ懲罰スヘシ之ヲ見遁シ又ハ包庇スルヲ得ス

一借用ノ地所ハ其借用者ニ限リ居住スルヲ許スト雖モ其者事故アリテ自身ニ居住スル能ハサル時ハ先ツ江漢關監督ト相談シテ地勢ヲ檢査シ清國及外國船舶ノ往來ニ差障リナキトキハ之ヲ建造スルヲ得ヘシ

一日本居留地内ニ在ル清國ニ領事ヲ派駐セサル外國ノ人民若クハ清國人民ノ訴訟ハ清國官吏ヨリ取扱ヒ員ヲ派シテ居留地内ニ於テ取捌クヘシ若クハ領事ヲ派遣セサル外國ノ人民竝ニ日本人民若クハ其他ノ外國人ニシテ清國人民ヨリ受ケタル不法ノ行爲ニ對シテ告訴スル場合又ハ清國人民ノ居留地内ニ於テ規則ニ違反セシ場合ニハ清國官吏ハ日本帝國領事若クハ領事ノ派出スル官員ト立會取調フヘシ若シ清國審判官ノ判決不條理ナルトキハ日本帝國領事ヨリ江漢關監督ニ照會シテ覆審スヘシ重大ナル事件アル時ハ地方官之ヲ取扱ヒ兩國交涉事件ハ條約ニ依リ處分スヘシ

一外國居留地及將來開クヘキ外國居留地ノ施設事宜ニシテ別ニ優處アレハ日本居留地モ亦同シク均霑スヘシ

一今回定メタル日本居留地ノ區域ハ窄狹ニ過クルヲ以テ將來商家充滿セハ臨時ニ情形ヲ酌量シテ日本帝國領事ハ江漢關監督ト臨時相談シ丹水池以下ノ地ニ於テ適當ノ地所ヲ購入シテ後日製造場設立ノ便ヲ圖ルヘシ若シ丹水池以下ノ地方ニシテ既ニ外國人ノ借用セシ場所アルトキハ丹水池ヨリ沙口等各所ニ至ル地方ニ於テ江岸水深クシテ船舶ノ停繫ニ適當ナル地ヲ擇ヒ之ニ代フヘシ總テ鐵道ニ近キ地方ヲ以テ主トナスヘシ其借地ニ關スル手續ハ成ル丈此取極書ニ依リ取扱フヘシ以上ノ條款ヲ以テ借地取極書二通ヲ作リ署押ヲ畫キ兩國上役ノ批准ヲ俟チテ加印ノ上證據トナスヘシ

大日本帝國上海在勤總領事代理小田切萬壽之助　華押
大清國欽命二品頂戴升任湖北按察使司按察使湖北漢黃德道監督江漢關稅務兼辦通商事宜　廷　部　華押

明治三十一年七月十六日
光緒二十四年五月二十八日　漢口ニ於テ

（第一條規定ノ居留地境界ハ取極書議定後更ニ彼我ノ協定ヲ以テ變更シ西界ハ漢口獨逸國居留地ノ西界北端ヨリ起リ一直線ニ長一百丈トシ南界北界ハ其西端何レモ右西界ノ西端ニ至リテ止ム）

㊞日清難破船救助費用償還ニ關スル約定（明治三十一年十月勅令）

朕帝國政府ト清國政府トノ間ニ締結セル難破船救助費用償還ニ關スル約定ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國政府ト清國政府トノ間ニ締結セル難破船救助費用償還ニ關スル約定

日本國政府竝ニ清國政府ハ兩國彼此ニテ難破船ヲ救助スル際ニ當リテ支給スヘキ費用償還ノ法ヲ約定スルコト左ノ如シ

第一條

兩國彼此ニテ沿海ノ遭難人民ヲ救助スル時支給スル所ノ衣食旅費醫藥及棺屍埋葬等ノ諸入費ハ總テ其ノ難民ノ本國政府ヨリ償還スヘシ

第二條

兩國ニテ難民ヲ救助スル時派出スル所ノ官吏ノ旅費竝ニ世話送迭及往復公文往復等ノ諸入費ハ其ノ難民ノ本國政府ヨリ償還スルニ及ハス

第三條

兩國ニテ遭難ノ船貨及物貨ヲ救助保存スル爲メ需用スル所ノ人夫手間賃等ノ諸入費ハ其ノ船貨物貨所有主ヨリ償還スヘシ

第四條

以上三箇條ハ明治三十一年十月十五日即光緒二十四年九月初一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ十二箇月間效力ヲ有スヘシ

右日本文及漢文各二通ヲ作リ雙方其ノ各一通ヲ執テ證據トス

大日本北京駐劄臨時代理公使　林　權　助
大清欽命總理各國事務軍機大臣　刑部尚書　廖　壽　恒
軍機大臣　刑部尚書許　應　騤
禮部尚書敬　　信
戶部尚書王　文　韶
和碩慶親王
太子太傅文華殿大學士一等勇毅伯李　鴻　章
軍機大臣戶部尚書王　文　韶
刑部尚書歩軍統領崇　　禮
尚書衙戶部左侍郎張　百　熙

明治三十一年九月四日
光緒二十四年七月十九日

㊞清國ト婿和ニ付將來ノ所嚮ヲ明ニスルノ詔勅（明治二十八年四月二十一日）

朕惟フニ國運ノ進張ハ治平ニ由リテ求ムヘク治平ヲ保持シテ克ク終始アラシムルハ朕カ祖宗ニ承ケ在ルモノトス若シ波止場ヲ建造セントスルトキハ先ツ江漢關監督ト相談シテ地勢ヲ檢査シ清國及外國船舶ノ往來ニ差障リナキトキハ之ヲ建造スルヲ得ヘシ

一日本居留地内ニ在ル清國ニ領事ヲ派駐セサル外國ノ人民若クハ清國人民ノ訴訟ハ清國官吏ヨリ取扱ヒ員ヲ派シテ居留地内ニ於テ取捌クヘシ若クハ領事ヲ派遣セサル外國ノ人民竝ニ日本人民若クハ其他ノ外國人ニシテ清國人民ヨリ受ケタル不法ノ行爲ニ對シテ告訴スル場合又ハ清國人民ノ居留地内ニ於テ規則ニ違反セシ場合ニハ清國官吏ハ日本帝國領事若クハ領事ノ派出スル官員ト立會取調フヘシ若シ清國審判官ノ判決不條理ナルトキハ日本帝國領事ヨリ江漢關監督ニ照會シテ覆審スヘシ重大ナル事件アル時ハ地方官之ヲ取扱ヒ兩國交涉事件ハ條約ニ依リ處分スヘシ

一外國居留地及將來開クヘキ外國居留地ノ施設事宜ニシテ別ニ優處アレハ日本居留地モ亦同シク均霑スヘシ

一今回定メタル日本居留地ノ區域ハ窄狹ニ過クルヲ以テ將來商家充滿セハ臨時ニ情形ヲ酌量シテ日本帝國領事ハ江漢關監督ト臨時相談シ丹水池以下ノ地ニ於テ適當ノ地所ヲ購入シテ後日製造場設立ノ便ヲ圖ルヘシ若シ丹水池以下ノ地方ニシテ既ニ外國人ノ借用セシ場所アルトキハ丹水池ヨリ沙口等各所ニ至ル地方ニ於テ江岸水深クシテ船舶ノ停繫ニ適當ナル地ヲ擇ヒ之ニ代フヘシ總テ鐵道ニ近キ地方ヲ以テ主トナスヘシ其借地ニ關スル手續ハ成ル丈此取極書ニ依リ取扱フヘシ以上ノ條款ヲ以テ借地取極書二通ヲ作リ署押ヲ畫キ兩國上役ノ批准ヲ俟チテ加印ノ上證據トナスヘシ

ドシテ徳光愚夏ノ臣庶ニ頼ラサルヘカラス若夫覇ニ狃レテ自ラ驕リ溌ニ他ヲ侮リ信ヲ友邦ニ失フカ如キハ朕カ断シテ取ラサル所ナリ乃チ清國ニ至テハ嬉和條約批准交換ノ後ハ其ノ友交ヲ復シ以テ善鄰ノ誼愈〻敦厚ナルヲ期スヘシ汝有衆其レ善ク朕カ意ヲ體セヨ

◉占領壌地ヲ還附シ東洋ノ平和ヲ鞏固ニスルノ詔勅

（明治二十八年五月十日）

朕曩ニ清國皇帝ノ請ニ依リ全權辨理大臣ヲ命シ其ノ簡派スル所ノ使臣ト會商シ兩國講和ノ條約ヲ訂結セシメタリ

然ルニ露西亞獨逸兩帝國及法朗西共和國ノ政府ハ日本帝國カ遼東半島ノ壌地ヲ永久ノ所領トスルヲ以テ東洋永遠ノ平和ニ利アラスト爲シ交〻朕カ政府ニ慫慂スルニ其ノ地域ノ保有ヲ永久ニスル勿ラムコトヲ以テシタリ

顧フニ朕カ恆ニ平和ニ眷々タルヲ以テシテ竟ニ清國ト兵ヲ交フルニ至リシモノ洵ニ東洋ノ平和ヲシテ永遠ニ鞏固ナラシメムトスルノ目的ニ外ナラス而シテ三國政府ノ友誼ヲ以テ切偲スル所其ノ意亦玆ニ存ス朕平和ノ爲ニ計ル素ヨリ之ヲ容ルルニ吝ナラサルノミナラス更ニ事端ヲ滋シ時局ヲ艱シ治平ノ回復ヲ遷滞セシメ以テ民生ノ疾苦ヲ醸シ國運ノ伸張ヲ沮ムハ眞ニ朕カ意ニ非ス且清國ハ講和條約ノ訂結ニ依リ既ニ渝盟ヲ悔ユルノ誠ヲ致シ我カ交戦ノ理由及目的ヲシテ天下ニ炳焉タラシム今ニ於テ大局ニ顧ミ寛洪以テ事ヲ處スルモ帝國ノ光榮ト威嚴トニ於テ毀損スル所アルヲ見ス朕乃チ友邦ノ忠言ヲ容レ朕カ政府ニ命シテ三國政府ニ照覆スルニ其ノ意ヲ以テセシメタリ若シ夫レ半島壌地ノ還附ニ關スル一切ノ措置ハ朕特ニ政府ヲシテ清國政府ト商定スル所アラシメムトス今ヤ講和條約既ニ批准交換ヲ了シ兩國ノ和親益ニ復シ局外ノ列國亦斯ニ交誼ノ厚ヲ加フ百僚臣庶其レ能ク朕カ意ヲ體シ深ク時勢ノ大局ニ覩微ヲ慎ミ漸ヲ戒メ邦家ノ大計ヲ誤ルコト勿キヲ期セヨ

◉日清兩國媾和條約及別約

（明治二十八年五月勅令）

朕明治二十八年四月十七日下ノ關ニ於テ朕カ全權辨理大臣ト清國全權大臣トノ記名調印シタル媾和條約及別約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ兩國及其ノ臣民ニ平和ノ幸福ヲ回復シ且將來紛議ノ端ヲ啣クコトヲ欲シ媾和條約ヲ訂結スル爲メニ大日本國皇帝陛下ハ內閣總理大臣從二位勳一等伯爵伊藤博文帝陸下ハ內閣總理大臣從二位勳一等子爵陸奥宗光ヲ大清國皇帝陛下ハ太子太傅文華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅伯李鴻章二品頂戴前出使大臣李經方ヲ各其全權大臣ニ任命セリ因テ各全權大臣ニ任務ニ從事シ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條款ヲ協議決定セリ

第一條

清國ハ朝鮮國ノ完全無缺ナル獨立自主ヲ損害スヘキ朝鮮國ヨリ清國ニ對スル貢獻典禮等ハ將來全ク之ヲ廢止スヘシ

第二條

清國ハ左記ノ土地ノ主權竝ニ該地方ニ在ル城壘兵器製造所及官有物ヲ永遠日本國ニ割與ス

一　左ノ經界內ニ在ル奉天省南部ノ地

鴨綠江ヨリ該江ヲ溯リ安平河口ニ至リ該河口ヨリ鳳凰城海城營口ニ亘リ遼河口ニ至ル折線以南ノ地併セテ前記ノ各城市ヲ包含スル而シテ遼河ヲ以テ界トスル處ハ該河ノ中央ヲ以テ經界トスルコト知ルヘシ

遼東灣東岸及黃海北岸ニ在テ奉天省ニ屬スル諸島嶼

二　奎灣全島及其ノ附屬諸島嶼

三　澎湖列島即英國「グリーンウイチ」東經百十九度乃至百二十度及北緯二十三度乃至二十四度ノ間ニ在ル諸島嶼

第三條

前條ニ揭載シ附屬地圖ニ示ス所ノ經界線ハ本約批准交換後直チニ日清兩國ヨリ各二名以上ノ境界共同劃定委員ヲ任命シ實地ニ就テ確定スル所アルヘキモノトス而シテ若本約ニ揭記スル所ノ境界ニシテ地形上又ハ施政上ノ點ニ付完全ナラサルニ於テハ該境界劃定委員ハ之ヲ更正スルコトニ任スヘシ

該境界劃定委員ハ成ルヘク速ニ其ノ任務ニ從事シ其ノ任命後一箇年以內ニ之ヲ終了スヘシ

但シ該境界劃定委員ニ於テ更定スル所ニ對シ日清兩國政府ニ於テ可認スル迄ハ本約ニ揭記スル所ノ經界線ヲ維持スヘシ

第四條

清國ハ軍費賠償金トシテ庫平銀貳億兩ヲ日本國ニ支拂フヘキコトヲ約ス右金額ハ都合八回ニ分チ初回及次回ニハ每回五千萬兩ヲ支拂フヘシ而シテ初回ノ拂込ハ本約批准交換後六箇月以內ニ次回ノ拂込ハ本約批准交換後十二箇月以內ニ於テスヘシ殘リノ金額ハ六箇年賦ニ分チ其ノ第一次ハ本約批准

交換後二箇年以內ニ其ノ第二次ハ本約批准交換後三箇年以內ニ其ノ第三次ハ本約批准交換後四箇年以內ニ其ノ第四次ハ本約批准交換後五箇年以內ニ其ノ第五次ハ本約批准交換後六箇年以內ニ其ノ第六次ハ本約批准交換後七箇年以內ニ支拂フヘシ又初回拂込ノ期日ヨリ以後未タ拂込チ了ラサル額ニ對シテハ每年百分ノ五ノ利子チ支拂フヘキモノトス

但シ清國ハ何時タリトモ該賠償金ノ全額或ハ其ノ幾分チ前以テ一時ニ支拂フコトチ得ヘシ如シ本約批准交換後三箇年以內ニ該賠償金ノ總額チ皆濟スルトキハ總テ利子チ免除スヘシ若夫迄ニ二箇年半若クハ更ニ短期ノ利子チ拂込ミタルモノアルトキハ之チ元金ニ編入スヘシ

第五條

日本國ハ割與セラレタル地方ノ住民ニシテ右割與セラレタル地方ノ外ニ住居セムト欲スル者ハ自由ニ其ノ所有ノ不動產チ賣却シテ退去スルコトチ得ヘシ其ノ爲メ本約批准交換ノ日ヨリ二箇年間チ猶豫スヘシ但シ右年限ノ滿チタルトキハ未タ該地方チ去ラサル住民チ日本國ノ都合ニ因リ日本國臣民ト視爲スコトアルヘシ

日清兩國政府ハ本約批准交換後直チニ各一名以上ノ委員チ奎灣省ヘ派遣シ該省ノ受渡チ爲スヘシ而シテ本約批准交換後二箇月以內ニ右受渡チ完了スヘシ

第六條

日清兩國間ノ一切ノ條約ハ交戰ノ爲メ消滅シタレハ清國ハ本約批准交換ノ後速ニ全權委員チ任命シ日本國全權委員ト通商航海條約及陸路交通貿易ニ關スル約定チ締結スヘキコトチ約ス而シテ現ニ清國ト歐洲各國トノ間ニ存在スル諸條約章程チ以テ該日清兩國間諸條約ノ基礎ト爲スヘシ又本約批准交換ノ日ヨリ該諸條約ノ實施ニ至ル迄ハ清國ハ日本國政府官吏商業航海陸路交通貿易工業船舶及臣民ニ對シ總テ最惠國待遇チ與フヘシ

清國ハ右ノ外左ノ讓與チ爲シ而シテ該讓與ハ清國ノ調印ノ日ヨリ六箇月ノ後有效ノモノトス

第一　清國ニ於テ現ニ各外國ニ向テ開キ居ル所ノ各市港ノ外ニ日本國臣民ノ商業住居工業及製造業ノ爲メ左ノ市港チ開クヘシ但シ現ニ清國ノ開市場開港場ニ行ハルル所ト同一ノ條件ニ於テ同一ノ特典及便益チ享有スヘキモノトス

一　湖北省荊州府沙市

二　四川省重慶府

三　江蘇省蘇州府

四　浙江省杭州府

日本國政府ハ以上列記スル所ノ處ニモ領事官チ置クノ權利アルモノトス

第二　旅客及貨物運送ノ爲メ日本國汽船ノ航路チ左記ノ場所ニ迄擴張スヘシ

一　楊子江上流湖北省宜昌ヨリ四川省重慶ニ至ル

二　上海ヨリ吳淞江及運河ニ入リ蘇州杭州ニ至ル

日清兩國ニ於テ新章程チ妥定スル迄ハ前記航路ニ關シ適用シ得ヘキ限ハ外國船舶清國內地水路航行ニ關スル現行章程チ施行スヘシ

第三　日本國臣民カ清國內地ニ於テ貨品及生產物チ購買シ又ハ其ノ輸入シタル商品チ清國內地ヘ運送スルニハ右購買品又ハ運送品チ倉入スル爲メ何等ノ稅金取立金チモ納ムルコトナク一時倉庫チ借入ルルノ權利チ有スヘシ

第四　日本國臣民ハ清國各開市場開港場ニ於テ自由ニ各種ノ製造業ニ從事スルコトチ得ヘク又所定ノ輸入稅チ拂フノミニテ自由ニ各種ノ器械類チ清國ヘ輸入スルコトチ得ヘシ

清國ニ於ケル日本國臣民ノ製造ニ係ル一切ノ貨品ハ各種ノ內國運送稅內地稅賦課金取立金ニ關シ又清國內地ニ於ケル倉入上ノ便益ニ關シ日本國臣民カ清國ヘ輸入シタル商品ト同一ノ取扱チ受ケ且同一ノ特典免除チ享有スヘキモノトス

此等ノ讓與ニ關シ更ニ章程チ規定スルコトチ要スル場合ニハ之チ本條ニ規定スル所ノ通商航海條約中ニ具載スヘキモノトス

第七條

現ニ清國版圖內ニ在ル日本國軍隊ノ撤回ハ本約批准交換後三箇月內ニ於テスヘシ但シ次條ニ載スル所ノ規定ニ從フヘキモノトス

第八條

清國ハ本約ノ規定チ誠實ニ施行スヘキ擔保トシテ日本國軍隊ノ一時山東省威海衛チ占領スルコトチ承諾ス而シテ本約ニ規定シタル軍費賠償金ノ初回次回ノ拂込チ了リ通商航海條約ノ批准交換チ了リタル時ニ當リテ清國政府ニ於テ右賠償金ノ殘額ノ元利ニ對シ充分適當ナル取極チ立テ清國海關稅チ以テ抵當ト爲スコトチ承諾スルニ於テハ日本國ハ其ノ軍隊チ前記ノ場所ヨリ撤回スヘシ若又之ニ關シ充分適當ナル取極立タサル場合ニハ該賠償金ノ最終回ノ拂込チ了リタル時ニ非サレハ撤回セサルヘシ尤通商海航條約ノ批准交換チ了リタル後ニ非サレハ軍隊ノ撤回チ行ハサルモノト承知スヘシ

第九條

本約批准交換ノ上ハ直チニ其ノ時現ニ有ル所ノ俘

處ヲ還附スヘシ而シテ該條約批准交換ノ
セラレタル所ノ俘虜ヲ虐待若ハ處刑セサルヘキコ
トヲ約ス
日本國臣民ニシテ軍事上ノ間諜若ハ犯罪者ト認メ
ラレタルモノハ清國ニ於テ直チニ解放スヘキコト
ヲ約シ清國ハ又交戰中日本國軍隊ト種種ノ關係ヲ
有シタル清國臣民ニ對シ如何ナル處刑ヲモ爲サス
又之ヲ爲サシメサルコトヲ約ス
第十條
本約批准交換ノ日ヨリ攻戰ヲ止息スヘシ
本約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ
批准セラルヘク而シテ右批准ハ芝罘ニ於テ明治二
十八年五月八日卽光緒二十一年四月十四日ニ交換
セラルヘシ
右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ玆ニ記名調印スル
モノナリ
明治二十八年四月十七日卽光緒二十一年三月二
十三日ノ闕ニ於テ二通ヲ作ル
大日本帝國全權辨理大臣內閣總理大臣
從二位勳一等伯爵　伊藤博文　印
大清帝國全權辨理大臣外務大臣
從二位勳一等子爵　陸奥宗光　印
大清帝國欽差頭等全權大臣太子太傅文
華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅
伯　李鴻章　印
（附屬地圖略ス）
別約
第一條　本日調印シタル媾和條約第八條ノ規定ニ
依リテ一時威海衞ヲ占領スヘキ日本國軍隊ハ一
旅團ヲ超過セサルヘシ而シテ該條約批准交換ノ
ヒヨリ清國ハ每年右一時占領ニ關スル費用ノ四
分ノ一庫平銀五拾萬兩ヲ支拂フヘシ
第二條　威海衞ニ於ケル一時占領地ハ劉公島及威
海衞灣ノ全沿岸ヨリ日本里數五里ノ地ヲ以テ其
ノ區域ト爲スヘシ
右一時占領地ノ經界線ヲ距ルコト日本里數五里
ノ地內ニ在リテハ何レノ所タリトモ清國軍隊ノ
之ニ近ツキ若ハ之ヲ占領スルコトヲ許ササルヘ
シ
第三條　一時占領地ノ行政事務ハ仍ホ清國官吏ノ
管理ニ歸スルモノトス但シ清國官吏ハ常ニ日本
國占領軍司令官カ其ノ軍隊健康安全紀律ニ關シ
又ハ之カ維持配置上ニ付必要ト認メ發スル所ノ
命令ニ服從スヘキ義務アルモノトス
一時占領地內ニ於テ犯科ハ日本國軍務官ノ裁判管轄ニ屬スルモノトス
此ノ別約ハ本日調印シタル媾和條約中ニ悉ク記入
シタルト同一ノ效力ヲ有スルモノトス
右證據トシテ兩帝國全權大臣ハ之ニ記名調印スル
モノナリ
明治二十八年四月十七日卽光緒二十一年三月二
十三日ノ闕ニ於テ二通ヲ作ル
大日本帝國全權辨理大臣內閣總理大臣
從二位勳一等伯爵　伊藤博文　印
大日本帝國全權辨理大臣外務大臣
從二位勳一等子爵　陸奥宗光　印
大清帝國欽差頭等全權大臣太子太傅文
華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅
伯　李鴻章　印
大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使
大臣　李經方　印

十三日下ノ闕ニ於テ二通ヲ作ル
大日本帝國全權辨理大臣內閣總理大臣
從二位勳一等伯爵　伊藤博文　印
大日本帝國全權辨理大臣外務大臣
從二位勳一等子爵　陸奥宗光　印
大清帝國欽差頭等全權大臣太子太傅文
華殿大學士北洋大臣直隸總督一等肅毅
伯　李鴻章　印
大清帝國欽差全權大臣二品頂戴前出使
大臣　李經方　印

●奉天半島還附ニ關スル條約

（明治二十八年十二月）
勅令

朕明治二十八年十一月八日北京ニ於テ朕カ全權委員ト清國全權委員ノ記名調印シタル奉天半島還付ニ關スル條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム
大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ハ日本國ヨリ奉天省南部ノ地一切ヲ清國ニ還付スル爲メニ條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲メ大日本國皇帝陛下ハ北京駐劄特命全權公使正四位勳一等男爵林董ヲ大清國皇帝陛下ハ欽差全權大臣太子太傅文華殿大學士一等肅毅伯爵李鴻章ヲ各其ノ全權委任狀ヲ示シ其ノ善良妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

日本國ハ明治二十八年四月十七日卽光緒二十一年三月二十三日締結ノ下ノ關條約第二條ニ因リ清國ヨリ日本國ヘ讓與シタル奉天省南部ノ地方卽鴨綠江口ヨリ安平河口ニ至リ鳳凰城海城及營口ニ亘ル以南ノ各城市及遼東灣東岸竝ニ黃海北岸ニ在テ奉天省ニ屬スル諸島嶼ノ主權ヲ擧ケ本條約第三條ノ規定ニ依リ日本國軍隊カ總テ撤退スル時該地方ニ現在スル城壘兵器製造所及官有物ト共ニ永遠清國ニ還付ス因テ下ノ關條約第三條及同條約中陸路交通及貿易ヲ律スル爲メ一ノ條約ヲ締結スヘシトノ規定ハ之ヲ取消ス

第二條

清國政府ハ奉天省南部ノ地還付ノ報酬トシテ庫平銀三千萬兩ヲ明治二十八年十一月十六日卽光緒二十一年九月三十日迄ニ日本國政府ヘ拂入ルコトヲ約ス

第三條

本條約第二條ニ規定シタル報償金庫平銀三千萬兩ヲ清國ヨリ日本國ヘ拂入レタルトキハ其ノ日ヨリ三箇月以內ニ還付地ヨリ日本國軍隊ヲ總テ撤退スヘシ

第四條

清國ハ日本國軍隊還付地占領中之ト種々ノ關係ヲ有シタル清國臣民アルモ之ヲ處罰セサルコトヲ約ス

第五條

本條約ハ日本文漢文英文ニテ各二通ヲ作ル而シテ此三本文ハ總テ同一ノ意義ヲ有スト雖モ若シ日本文ト漢文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ英文ニ依リテ決裁スヘキモノトス

第六條

本條約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ニ於テ批准セラルヘク而シテ其ノ批准書ハ本條約調印ノ日ヨリ三週間以內ニ北京ニ於テ之ヲ交換スヘシ
右證據トシテ兩國全權大臣ハ之ニ記名調印スルモノナリ
明治二十八年十一月八日卽光緒二十一年九月二十二日北京ニ於テ作ル
大日本帝國北京駐劄特命全權公使
正四位勳一等男爵　林　董（記名）（印）
大清國欽差全權大臣太子太傅文華殿大學士一等肅毅伯爵　李鴻章（記名）（印）
天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス
朕親シク明治二十八年十一月八日北京ニ於テ日清兩國全權大臣ノ記名調印シタル奉天半島還附ニ關スル條約ノ各條目ヲ閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス
神武天皇卽位紀元二千五百五十五年明治二十八年十一月十七日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣臨時代理
文部大臣侯爵　西園寺公望　印

議定書

本日調印シタル奉天半島還附ニ關スル日清兩國間條約中或ル條款ヲ實施ニ至ラシムル爲メ指定シタル期日前ニ於テ該條約ノ批准交換ヲ行フコト克サルヲ慮リ大日本國皇帝陛下ノ政府及大清國皇帝陛下ノ政府ハ前記條約中諸條款ヲ實施ニ至ラシムルコトニ付萬一遲延ノ生セシコトヲ豫防センカ爲メ各其ノ全權大臣ヲ經テ左ノ條款ニ同意シタリ
日清兩國政府ハ本議定書ノ日附ヨリ五日間以內ニ各其ノ全權大臣タル下名ヲ經テ前記條約ハ大日本國皇帝陛下及大清國皇帝陛下ノ允准ヲ受ケタル旨ヲ互ニ通知スヘシ然ル上ハ前記條約ノ全部ハ實際其ノ批准交換ヲ了ヘタルト同樣ニ充分ノ效力ヲ有スルモノトス

右證據トシテ兩國全權大臣ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年十一月八日卽光緒二十一年九月二十二日北京ニ於テ作ル

大日本帝國北京駐劄特命全權公使
正四位勳一等男爵　林　董（記名）印
大清帝國欽差大臣太子太傅文華殿大學士一等肅毅伯爵　李　鴻　章（記名）印

第十章　獨逸國

◎日獨通商航海條約及領事職務條約（明治二十九年十一月勅令）

朕明治二十九年四月四日獨逸國伯林ニ於テ朕カ全權委員ト獨逸國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約及領事職務條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及獨逸帝國ノ名義ヲ以テスル獨逸國皇帝普漏西國皇帝陛下ハ日本國及獨逸國間ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ獨逸國駐劄帝國特命全權公使子爵青木周藏ヲ獨逸國皇帝普漏西國皇帝陛下ハ其ノ國務大臣外務大臣男爵「アドルフ、マルシャル、フオン、ピーベルスタイン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好公當ナルヲ認メ以テ左ノ通商航海條約ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法ニ關スル各般ノ事項ニ關シテハ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權各種動產ノ占有ニ關シ及生前行爲ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財產ヲ遺言又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財產ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權各種動產ノ占有ニ關シ及生前行爲ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財產ヲ遺言又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財產ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使用スルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法ニ關スル各般ノ事項ニ關シテハ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權各種動產ノ占有ニ關シ及生前行爲ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財產ヲ遺言又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財產ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權各種動產ノ占有ニ關シ及生前行爲ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財產ヲ遺言又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財產ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使用スルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ撰擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法ニ關スル各般ノ事項ニ關シテハ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

居住權、旅行權各種動產ノ占有ニ關シ及生前行爲ニ由リ取得スルコトヲ得ヘキ各種財產ヲ遺言又ハ死亡ニ由テ取得スルコト竝ニ合法ニ得タル所ノ各種財產ヲ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ取立金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出

ノヌリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港、海灣、船渠、碇泊所及川河ニ於テ船舶ノ繫留又貨物ノ積卸ニ關シテハ內國船舶ニ許與セサル特典ハ均シク他ノ一方ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十三條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、命令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ獨逸國ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國ニ於ケル獨逸國臣民ハ此ノ事項ニ關シテハ各右法律、命令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ將來許與セラレタル諸權利ヲ享有スルモノトス

獨逸國ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國ノ二箇以上ノ港ヘ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル獨逸國船舶ハ輸出入ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及稅關規則ニ從フヘキモノトス

但シ日本國政府ハ本條約ノ期限間是迄ノ通リ獨逸國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スルコトヲ許スコトヲ承諾ス尤大坂、新潟、及兵港ハ此限ニ在ラス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ進入スルモノハ內國船舶ノ拂フヘキ賦課金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ更ニ修復ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スヘシ但シ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲ス場合ニハ該船長ハ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スル要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最寄地方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ通知スヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ領海ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ其ノ持主、船長若ハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民ヲシテ必要ノ輔助ヲ受ケシムル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖モ右樣ノ輔助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十五條

本條約ニ於テハ獨逸國ノ國法ニ從ヒ獨逸國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ獨逸國船舶ト見認メ又日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認ムヘシ

第十六條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與シタル一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶或ハ臣民ニモ卽時且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ發明、見本（實用ニ供スル見本共）雜形、商標、製造標、商社號及其ノ他ノ商號ノ保護ニ關シ法律ニ定ムル所ノ條件ヲ遵守スルトキハ內國臣民ト同

一ノ權利ヲ享有スヘシ

第十八條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官廳ハ之ニ關シテ其ノ市區施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若ハ財產ハ之ヲ右日本國官廳ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地內ニ於テ現ニ因テ以テ地所ヲ所持スルノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右地所ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲ附セサルヘシ

右居留地內ノ地所占有權ハ將來ニ於テハ從來或ル場合ニ於ケルカ如ク領事官廳若ハ日本國官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要セスシテ其ノ占有者ヨリ自由ニ之ヲ日本國人若ハ外國人ニ賣渡スコトヲ得ヘシ原借地券ニ依リ領事官廳ニ屬シタル職務ハ日本國官廳ニ移ルモノトス

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無償料ニテ日本國政府ヨリ既ニ貸與シタル各地所ハ總テノ租稅及徵收金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ヨリ生スル諸權ニハ從フヘキモノトス

第十九條

本條約ハ兩締盟國ノ一方ト現ニ關稅同盟ノ關係ヲ有シ若ハ將來右關係ヲ有スヘキ國ノ版圖內ニモ適用スヘシ

第二十條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ千八百六十九年二月二十日締結ノ條約ニ該條約ニ附加スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無效ニ歸シ隨テ獨逸國裁判所カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ獨逸國臣民カ右期日ニ至ル迄享有シタル裁判權ハ本條約實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス而シテ此等ノ裁判權ハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十一條

本條約ハ第十七條ヲ除クノ外ハ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テ之ヲ實施セムト欲スル旨ヲ獨逸國皇帝陛下ノ政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經テ之ヲ實施スルモノトス尤本條約ハ千八百九十九年七月十七日以前ニハ實施セラレサルモノトス

又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ滿十箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタル時ニ於テ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約批准交換ノ日ヨリ實施セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ヨリ生スル諸權ニハ從フヘキモノトス

本條約ハ兩締盟國ノ一方ト現ニ關稅同盟ノ關係ヲ有シ若ハ將來右關係ヲ有スヘキ國ノ版圖內ニモ適用スヘシ

第二十條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ千八百六十九年二月二

作ル

千國　青木周藏　印

男爵　フォン、マルシャル　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト獨逸帝國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十九年四月四日伯林ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十六年明治二十九年八月二十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣侯爵　西園寺公望　印

議定書

下名ノ全權委員ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ左ノ約定ニ同意セリ

第一、條約第一條ニ付

日本國政府ハ內國ヲ開ク迄ハ獨逸國臣民ニ對シ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス卽獨逸帝國臣民カ在東京獨逸國代表者若ハ日本國開港場ニ駐在スル獨逸國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月ヲ超ヘサル期間何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地方官廳ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ內地ニ旅行スル獨逸國臣民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保續スルモノト知ルヘシ

第二、條約第一條及第三條ニ付

兩締盟國ハ其ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ內國臣民ト同樣不動產抵當權ノ取得

及占有ヲ許スコトニ同意ス

第三、條約第五條ニ付

兩締盟國ハ本日調印シタル通商航海條約批准交換後六箇月ヲ經タル後本議定書ニ附屬スル輸入稅目ニ掲ケタル物品ニシテ獨逸國ノ生産品又ハ製造品ナルトキハ之ヲ日本國ヘ輸入スル場合ニ該稅目ヲ適用スルコトニ同意ス尤兩締盟國ノ間ニ千八百六十九年締結ノ現行條約ノ有效ナル間ハ其ノ第十九條ノ規定ノ效力ヲ妨ケス又右條約消滅後ハ本日調印シタル通商航海條約第五條及第十六條ノ規定ニ準據スヘキモノトス但シ日本國政府ニ於テ純眞ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版、彫刻畫、寫眞及其ノ他ノ猥褻ナル物品竝ニ日本國ノ發明、商標又ハ版權保護ニ關スル法律ニ違背スル物品及其ノ他衛生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルノ權利ハ本議定書又ハ其ノ附屬稅目ノ爲メ制限セラルルコトナカルヘキモノトス

該稅目ニ掲ケタル從價稅ハ之ヲ實行シ得ヘシト認メラルル限リハ兩國政府間ニ成ル可ク速ニ締結セラルヘキ追加條約ヲ以テ日本國現行本位銀貨ニ換算スヘキ從量稅ニ改ムヘシ

右換算ノ基礎ニハ本議定書ノ日附ヨリ前六箇月間ニ於ケル日本國稅關報告ニ明載スル平均價格ニ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚地ニ至ル迄ノ保險料及運賃ヲ加算シ又手數料アルトキハ之ヲモ加算シタルモノヲ以テスヘシ

然レトモ兩締盟國ハ附屬稅目第二號、第十一號、第十八號、第十九號、第二十號、第二十一號、第三十號、第三十五號、第三十八號、第四十號、第四十一號、第四十七號、第四十八號、第五十九號ニ掲ケタル物品ニ對シテハ本議定書ノ日附ヨリ前六箇月以前ニ公布スヘキ稅則ニ定メラレタル稅率ヲ適用スルコトヲ得

前記ノ各稅目實施ニ至ルトキハ現今日本國ニ於テ獨逸國ノ物品及商品ニ對シテ施行スル稅目ハ其ノ效力ヲ失フモノトス

此ノ外總テノコトニ付テハ現行條約及其ノ附屬諸約定ハ本日調印シタル通商航海條約ノ全施セラルルニ至ル迄ハ無條件ニテ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第四、條約第十七條ニ付

兩締盟國ハ他ノ一方ノ臣民カ發明、見本（實用ニ供スル見本共）雛形、商標、製造標、商社號及其ノ他ノ商號ノ保護ニ關シ法律ニ定メタル條件ヲ遵守スルトキハ各、其ノ版圖內ニ於テ該臣民ニ右ノ保護ヲ與フルコトニ同意ス

尤兩締盟國ハ專賣特許、見本、商標、製造標ノ保護ニ關スル雙方ノ關係ニ付別ニ條約ヲ締結スルコトアルヘシ而シテ右條約ヲ締結スルニハ相當ノ商議ヲ開クヘシ

又日本國政府ハ日本國ニ於ケル獨逸帝國領事裁判權ノ廢止ニ先タチ版權（思想上ノ所有權）ニ關スル列國「ベルン」條約ニ加入スヘキコトヲ言明ス

第五、條約第二十條ニ付

日本國內ニ於テ獨逸帝國領事官廳ノ執行シタル裁判權ハ本日調印シタル通商航海條約ノ全部ノ實施ト同時ニ自然ニ消滅スルニ拘ハラス兩締盟國ハ右條約全部ノ實施ノ時ニ當リ裁判中ニ在ル總テノ事件ニ關シテハ其ノ判決ニ至ル迄該裁判權ヲ繼續スルコトニ同意ス

下名ノ全權委員ハ本議定書ヲ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ掲載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦均ク兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ノ規定ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ其效力ヲ失フヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年四月四日伯林ニ於テ二通ヲ作ル

子爵　青木周藏　印

男爵　フォン、マルシャル　印

附屬

日本國ヘノ輸入稅目

號	品目	從價稅率
一	綿布類	
二	綿天鵞絨類	百ニ付十
	本稅目ニ掲載セサル各種ノ純綿布及亞麻、大麻若ハ羊毛其ノ他ノ紡績シ得ヘキ物料ヲ交ヘタル各種ノ綿布但シ綿ノ重ナル	同　十
三	鉛（塊、錠ノ別ナク）	同　五
四	化學製品及藥品	同　十
五	赤燐	同　十
六	次硝酸蒼鉛	同　十
七	親雞謨化物	同　十
八	規尼涅	同　十
九	格魯兒酸劍篤亞斯「ダイナマイト」	同　十
十	沃度劍篤亞斯	同　十
十一	硝酸劍篤亞斯	同　十
十二	撒里矢爾酸	同　十
	金屬線	
十三	電線	同　五
十四	鐵線、鋼線及徑英一「インチ」ノ四分ノ一ヲ超ヘサル細竿鐵、細竿鋼	同　十
十五	鐵及鋼鐵塊	同　五
十六	軌條	同　五
十七	條、竿、板鐵ノ	同　七半
十八	鋼ノ	同　七半
十九	電鍍板（波形ト否トノ別ナク）	同　十
二十	葉鐵及葉鋼筒及管	同　十
二十一	鐵道客車及同部分品	同　五
二十二	鐵釘	同　十
二十三	鐵螺旋釘、鐵牝牡螺旋釘（電鍍シタルモノ共）	同　十
二十四	寢玻璨（尋常ノ）無色及無著色ノ	同　五
二十五	有色、著色及砂磨ノ	同　八
二十六	染料及彩料類「アニリン」「アリザリン」「ロクヴート」越幾斯	同　十
二十七	色油	同　十
二十八	纖絲類綿ノ	同　八
二十九	纖物用亞麻、大麻、「ジュート」ノ羊毛、梳理シタル羊毛共	同　八
三十	纖物用ノ其ノ他ノ此稅目ニ掲ケサル各種ノ纖絲	同　十
三十一	絹綿繻子	同　十
三十二	苔草	同　十
三十三	帽子（「フェルト」帽トモ）	同　十
三十四	護謨製品	同　十
三十五	麻布類	同　十
三十六	熟皮靴底皮	同　十
三十七	他ノ織物	同　十
三十八	亞鉛	同　十
三十九	塊、錠、板	同　五
四十	護謨板	同　五
四十一	綿糊	同　七半
四十二	從價稅算定ノ規定	同　十
四十三	本稅目ニ從ヒ納ムヘキ從價稅ハ其ノ物品ノ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル原價ニ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル其ノ他ノ鐵道機關車及同部分品	同　十
四十四	牛乳「コンデンスド」又ハ「エヴァポレーテッド」	同　五
四十五	「ステリライズド」	同　五
四十六	紙類	同　十
四十七	無味香油	同　十
四十八	無味香蠟	同　五
四十九	「ポルトランドセメント」	同　五
五十	時計（懷中時計ヲ除ク）及同部分品	同　十
	各種ノ毛布類（「ウルステッド」絲ノ織物トモ）純毛ト他物ヲ交セタルトノ別ナク但シ毛ノ重ナル	同　十
五十一	「プランケット」「フランネル」	同　十
五十二	縮緬呉呂	同　十
五十三	羅紗	同　十
五十四	「イタリアン、クロース」	同　十
五十五	他ノ織物	同　十
五十六	亞鉛	同　十
五十七	塊、錠、板	同　五
五十八	護謨板	同　七半
五十九	綿糊	同　十

迄ノ保險料及運送費ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトス

日本國皇帝陛下及獨逸帝國ノ名義ヲ以テスル獨逸國皇帝普漏西國皇帝陛下ハ相互ニ領事官ヲ接納シ且右領事官カ日本國及獨逸國ニ於テ其職務ヲ執行スルニ際シ享受スヘキ權利、特權及免除ニ關シ一層明確ノ規定ヲ設ケムコトヲ欲シ領事職務條約ヲ締結スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ獨逸國駐劄帝國特命全權公使子爵青木周藏ヲ獨逸國皇帝普漏西國皇帝陛下ハ其ノ國務大臣外務大臣男爵「アドルフ、マルシャル、フオン、ヒーベルスタイン」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ニ於テ總領事、領事、副領事、及代辨領事ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラストスル場所ヲ除クノ外之ヲ他ノ一方ノ各港、各都市及各地ニ置クコトヲ得ヘシ但シ右ノ制限ハ別國ニ對シテモ均ク之ヲ適用スル場合ニ非サレハ兩締盟國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

兩國ノ總領事、領事、副領事、代辨領事、領事館書記生、筆生、領事館事務員及屬員ハ兩國ニ於テ最惠國ノ同等官吏ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ一切ノ權利、免除及特權ヲ享受スヘシ

第二條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國ニ於テ定メラレタル書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出シタルトキハ兩國互ニ之ヲ接納承認シ而シテ其ノ認可狀ハ無料ニテ之ヲ付與スヘシ然ル上ハ右領事官ハ兩國方互ニ許與スル所ノ諸權利及免除ヲ享受スヘキモノトス

委任狀ヲ差出スニ當リ該領事官ノ管轄區域ヲ通知シ且將來之カ變更ヲ生シタルトキモ亦其ノ旨ヲ通知スヘシ

認可狀ヲ付與シタル政府ニ於テ若其ノ認可狀ヲ取消スヲ至當ト認メタルトキハ其ノ理由ヲ示シテ以テ之ヲ取消スノ權利ヲ有ス

第三條

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留置セラルルコトナク刑事ニ於テモ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト見做サルヘキ犯罪ノ場合ニ非サレハ勾留ヲ受クルコトナカルヘシ又該領事官ハ商業、工業其ノ他ノ營業又ハ職務外ニ營利事業ニ從事セサルヘシ但前記ノ官吏ニシテ職務若ハ其ノ商業ニ從事スル領事官ハ其ノ貨物ヲ免カルルコトナカルヘシ

領事官ハ其ノ特權ニ託シテ商業上ノ債務ヲ負擔スルトキハ民事ノ訴訟ニ關シ他ノ一方ノ各港、各都市及各地ニ置クコトヲ得ヘシ但シ右ノ制限ハ別國ニ對シテモ均ク之ヲ適用スル場合ニ非サレハ兩國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

兩國ノ總領事、領事、副領事、代辨領事、領事館書記生、筆生、領事館事務員及屬員ハ兩國ニ於テ最惠國ノ同等官吏ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ一切ノ權利、免除及特權ヲ享受スヘシ

第二條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國ニ於テ定メラレタル書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出シタルトキハ兩國互ニ之ヲ接納承認シ而シテ其ノ認可狀ハ無料ニテ之ヲ付與スヘシ然ル上ハ右領事官ハ兩國方互ニ許與スル所ノ諸權利及免除ヲ享受スヘキモノトス

第三條

領事官ニシテ其ノ任命國ノ臣民ナルトキハ民事ニ於テハ引致留置セラルルコトナク刑事ニ於テモ駐在國ノ法律ニ從ヒ重罪ト見做サルヘキ犯罪ノ場合ニ非サレハ勾留ヲ受クルコトナカルヘシ又該領事官ハ商業、工業其ノ他ノ營業又ハ職務外ニ營利事業ニ從事セサルヘシ但前記ノ官吏ニシテ職務若ハ其ノ商業ニ從事スル領事官ハ其ノ貨物ヲ免カルルコトヲ得

領事官ハ其ノ特權ニ託シテ商業上ノ債務ヲ負擔スルトキハ民事ノ訴訟ニ關シ他ノ一方ノ各港、各都市及各地ニ置クコトヲ得ヘシ但シ右ノ制限ハ別國ニ對シテモ均ク之ヲ適用スル場合ニ非サレハ兩國ノ一方ニモ適用セサルヘシ

兩國ノ總領事、領事、副領事、代辨領事、領事館書記生、筆生、領事館事務員及屬員ハ兩國ニ於テ最惠國ノ同等官吏ニ許與シ若ハ將來許與スヘキ一切ノ權利、免除及特權ヲ享受スヘシ

第二條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國ニ於テ定メラレタル書式ニ據ル所ノ委任狀ヲ差出シタルトキハ兩國互ニ之ヲ接納承認シ而シテ其ノ認可狀ハ無料ニテ之ヲ付與スヘシ然ル上ハ右領事官ハ兩國方互ニ許與スル所ノ諸權利及免除ヲ享受スヘキモノトス

資格ヲ通知シアル者ニ於テ一時領事官ノ職務ヲ執行スルコトヲ得而シテ其ノ職務執行中ハ領事官ノ受クル所ト同一ノ諸權利及免除ヲ享受スヘシ但シ領事官ノ爲メニ定ムル所ノ條件及制限ニ依ルヘシ

第八條

總領事及領事ハ事故アルカ又ハ一時不在ナルトキハ本國政府ノ認可及駐在國政府ノ承諾ヲ經テ領事代理ヲ任命スルコトヲ得又其ノ管轄區域内ノ都市、港及其ノ他ノ場所ニハ代辨領事ヲ任命スルコトヲ得

右領事代理又ハ代辨領事ハ其ノ之ヲ任命シタル領事若ハ其ノ本國政府ヨリ委任狀ヲ受クヘシ該領事代理及代辨領事ハ本條約中領事官ノ爲メニ定ムル所ノ特權ヲ享受スヘシ但シ領事官ノ爲メニ定ムル所ノ制限ニ依ルヘシ

第九條

兩國間ニ現存スル條約、取極若ハ國際法ニ違反スル事件アルトキハ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ管轄區域内ニ在ル所ノ駐在國ノ裁判所若ハ行政官廳ニ向テ救濟ヲ求メ且右等官廳ニ問合ヲ爲シ並ニ自國臣民ノ權利、利益ヲ保護スル爲メ申立ヲ爲スノ權アルモノトス而シテ若右等官廳ニ於テ之ニ對シ相當ノ措置ヲ爲ササルトキハ前記ノ領事官ハ本國代表者不在ノ場合ニ限リ直接ニ之ヲ其ノ駐在國ノ政府ニ申出ルコトヲ得

第十條

兩國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事又ハ其ノ部下ノ書記生ハ本國ノ法律、命令ノ許ス限リハ左ノ權利ヲ有スヘシ

一、領事事務所、領事館所在地、當事者ノ住所又ハ本國ノ船舶内ニ於テ本國ノ船長、船員、乘客、商人及其ノ他ノ本國臣民ノ陳述ヲ聽ク

コト

二、本國臣民ノ單獨法律行爲、遺言竝ニ本國臣民相互ノ間及本國臣民ト駐在國臣民又ハ駐在國在留ノ他國人トノ間ニ取結ヒタル契約竝ニ該領事官ノ任命國ノ版圖内ニ在ル地所ニ關シ及右版圖内ニ於テ處辨スヘキ法律行爲ニ關シ駐在國在留他國人ノ取結ヒタル契約ヲ登錄シ及之ヲ證明スルコト

三、本國官廳又ハ官吏ヨリ發スル所ノ總テノ文書ヲ翻譯シ及之ヲ證明スルコト

前記諸書類ノ原本又ハ其ノ之ヲ任命シタル領事官ニ於テ之ヲ證明シ其ノ謄本、拔萃及翻譯ハ右兩國ノ一方ノ當該官吏、公證人又ハ兩國ノ裁判所ニ於テ必要ト認メタル場合ニ限リ裁判官ハ其ノ官吏ノ署名ノ上官印ヲ捺シテ之ヲ證明スルコト

前記諸書類ノ原本又ハ其ノ謄本ニ對シ本國臣民ノ爲メニ定ムル所ノ印紙稅及其ノ他ノ手數料、賦課金ヲ拂フヘキモノトス

第十一條

兩國ノ代表者、總領事、領事及副領事ハ其ノ任命國ノ法律ノ許ス限リハ其ノ國民ノ出生及死亡ヲ證明スルノ權アルモノトス

前項ノ規定ハ駐在國ノ法律ニ從ヒ常事者カ駐在國ノ當該官廳ニ出生及死亡届ヲ爲スヘキ義務ヲ妨クサルモノトス

第十二條

兩國ノ代表者、總領事、領事及副領事ハ其ノ任命國ノ法律命令ニ從ヒ其ノ國民ノ出生及死亡ヲ證明スルノ權アルモノトス

前項ノ規定ハ駐在國ノ法律ニ從ヒ常事者カ駐在國ノ當該官廳ニ出生及死亡届ヲ爲スヘキ義務ヲ妨クサルモノトス

第十三條

總領事、領事及副領事ハ各其ノ本國臣民ノ後見人及保護人ヲ命シ又其ノ本國ノ法律ニ從ヒ後見及保護ノ施行ヲ監督スルノ權アルモノトス

第十四條

兩國ノ一方ノ臣民若ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ死亡シタルトキハ左ノ規定ニ遵フヘキモノトス

一、日本國臣民獨逸國ニ於テ又ハ獨逸國臣民日本國ニ於テ各本國總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ノ駐在地若ハ其ノ近傍ニテ死亡シタル場合ニハ地方ノ當該官廳ヨリ直チニ其ノ旨該領事官ニ通知スヘシ

若領事官ニ於テ地方ノ當該官廳ニ先タチ死亡ノコトヲ知リタルトキハ該領事官ヨリ其ノ旨地方ノ當該官廳ニ通知スヘシ

領事官ハ其ノ職權又ハ當事者ノ請求ニ依リ死亡者ニ屬スル一切ノ所持品、動産及書類ニ封印ヲ施スノ權アルモノトス但シ之ニ封印スルニ先タチ該領事官ト立會共同封印ヲ施スヘキ職權ヲ有スル地方ノ當該官廳ニ通知スヘシ右共同封印ハ地方ノ官吏ノ協力アルニ非サレハ之ヲ開封スルコトヲ得ス但シ地方ノ當該官廳ニ於テ領事官ヨリ共同封印ノ開封ニ立會フヘキ請求ヲ受ケ其ノ請求ヲ受ケタル時ヨリ四十八時間以内ニ臨場セサルトキハ領事官ハ地方ノ官吏ノ立會ヲ待タス單獨ニテ開封スルコトヲ得ヘシ若地方ノ官吏ニシテ立會フタルトキハ領事官ハ開封ノ後該地方ノ官吏ノ面前ニ於テ死亡者ノ財産目錄ヲ作ルヘシ而シテ該地方ノ官吏ハ其ノ面前ニテ作リタル調書ニ連署スヘシ但シ地方ノ當該官廳ハ右職務上ノ協力ノ爲メ何等ノ手數料ヲモ要求スルノ權ナキモ

ノトス

二、地方ノ當該官廳ハ其ノ國ノ慣例ニ依リ又ハ其ノ國法律ノ規定スル所ニ依リ死亡者ノ遺産處分ノ開始及相續人、債權者ノ徵招ニ關スル廣告ヲ爲シ其ノ旨ヲ領事官ニ通知スヘキモノトス但シ領事官ハ該官廳ニテ右ノ廣告ヲ爲シタル爲メ自ラ同樣ノ廣告ヲ爲スノ權利ヲ妨ケラルルコトナカルヘシ

三、死亡者ノ動產ニシテ之ヲ原狀ノ儘ニ保存シ置クトキハ遺產ニ對シ巨多ノ費用ヲ要スヘキ場合ニ於テハ領事官ニ於テ駐在國ノ法律及慣例ニ從ヒ競賣ニ附スルコトヲ得

四、領事官ハ遺產目錄ニ登記シタル所持品及有價物件竝ニ債務者拂入金、所得金、其ノ他動產ヲ賣却シタルトキハ其ノ代金ヲ地方ノ當該官廳ニテ遺產ニ關シ最終ノ廣告ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ十箇月間又地方ノ當該官廳ニテ右廣告ヲ爲ササリシトキハ死亡ノ日ヨリ起算シテ十二箇月間駐在國ノ法律ニ從ヒ保管供託物ト爲シ預リ置クヘシ

但シ領事官ハ死亡者ノ治療費、埋葬費、雇人給料、借家賃、裁判費、領事館諸手數料及其ノ他同樣ノ費用竝ニ死亡者遺族ノ爲メ發料ヲ要スルトキハ其ノ費用ヲモ預メ遺產中ヨリ之ヲ控除スルノ權アルモノトス

五、前項ノ規定ノ外領事官ハ死亡者ノ動產及不動產維持ノ爲メ相續人ノ利益ト認ムル一切ノ處置ヲ爲スノ權アルモノトス遺產ハ領事官ニ於テ自ラ之ヲ管理シ若ハ他人ヲ撰テ代理人ト爲シ領事官ノ名義ヲ以テ之ヲ管理セシムルコトヲ得ルモノトス又死亡者ノ所有ニ屬スル有價物件ハ公私ヲ論セス何レノ處ニ在リトモ領事官ニ於テ其ノ引渡ヲ求ムルノ權アルモノトス

六、若本條第四項ニ揭ケタル期間ニ駐在國ノ臣民若ハ第三國ノ臣民又ハ人民ヨリ死亡者ノ遺產ニ對シテ爲シタル要求ニ關シ爭議ヲ生シタルトキハ其ノ裁判權ハ遺產相續權又ハ遺贈ニ關スル事項ノ外駐在國ノ裁判所ニ專屬スルモノトス

死亡者ノ遺產ニシテ其ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ駐在國ノ法律ノ許ス限リハ債權者ヨリ地方ノ當該官廳ニ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ破產ノ宣告アリタル後ハ領事官ハ地方ノ當該官廳又ハ破產管財人ニ諸書類、所持品及有價物件ヲ引渡スヘシ而シテ引渡ノ際ニハ領事官ハ其ノ本國臣民ノ利益ヲ保護スル職責アルモノトス

七、本條第四項ニ揭ケタル期限ノ終ニ至リ遺產ニ對シ何等ノ請求ヲモ爲ス者アラサルトキハ領事官ハ駐在國ニテ定ムル所ノ稅率ニ照シ遺產ノ負擔ニ屬スル一切ノ費用及仕拂金ヲ支拂ヒタル上之ヲ受取リ而シテ清算ノ上正當ノ相續人ニ引渡スヘシ但シ領事官ハ其ノ他ノ當該官廳ニ於テ其ノ國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

八、獨逸國臣民日本國ニ於テ及日本國臣民獨逸國ニ於テ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所若ハ最寄ニ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所ニテ死亡シタルトキハ地方ノ當該官廳ニ於テ各本國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺產目錄ヲ調製シテ之ニ捺印シ右目錄ノ正當謄本ハ死亡證書及死亡者ノ國籍ヲ證明スル一切ノ書類ヲ添ヘ可成速ニ遺產所在地ニ最モ近キ場所ニ駐在スル領事官ニ送付スヘシ

出頭シ若ハ該國ノ法律ニ從ヒ代理人タルヘキ資格ヲ有スル者ヲ代理者トシテ出頭セシメ以テ遺產ニ關スル一切ノ事件ニ付相續人ノ利益ヲ保護シ又相續人ニ對シ要求ヲ爲ス者アルトキハ之ニ對シ答辯ヲ爲スコトヲ得

然レトモ遺言執行者アル場合ニハ右執行者若ハ相續人現ニ其ノ地ニ居ルカ又ハ代人ヲ其ノ地ニ置キタル場合ニ於テ遺產ニ對シ要求ヲ爲ス者アリタルトキハ領事官ハ右執行者、相續人又ハ代人ヲシテ其ノ要求ニ對シ故障ヲ申立ツルノ便ヲ得セシムル爲メ要求ノ趣ヲ右執行者、相續人又ハ代人ニ通知スヘキ義務アルモノトス

尤總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各本國臣民ノ代理者ト見做サルヘキノ故ヲ以テ遺產ニ關スル事件ニ付該領事官ヲ裁判上被要求者トシテ爲スコトヲ得サルモノト知ルヘシ

九、相續權及遺產ノ分配權ハ死亡者ノ本國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

相續權及遺產ノ分配權ニ關スル一切ノ要求ハ死亡者ノ本國ノ裁判所若ハ其ノ他ノ當該官廳ニ於テ其ノ國ノ法律ニ依リ決定スヘキモノトス

十、獨逸國臣民日本國ニ於テ及日本國臣民獨逸國ニ於テ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所若ハ最寄ニ自國ノ領事官ノ駐在セサル場所ニテ死亡シタルトキハ地方ノ當該官廳ニ於テ各本國ノ法律ニ從ヒ死亡者ノ遺產目錄ヲ調製シテ之ニ捺印シ右目錄ノ正當謄本ハ死亡證書及死亡者ノ國籍ヲ證明スル一切ノ書類ヲ添ヘ可成速ニ遺產所在地ニ最モ近キ場所ニ駐在スル領事官ニ送付スヘシ

地方ノ當該官廳ハ死亡者ノ遺產ニ關シ其ノ國ノ法律ニ定ムル所ノ一切ノ處置ヲ施シ而シテ遺產ハ本條第四項ニ揭ケタル期間經過後可成速ニ前記ノ領事官又ハ其ノ代理者ニ引渡スヘシ

當該領事官若ハ其ノ代理者ニシテ遺產所在地ニ到著シタル上ハ夫迄ノ之ニ干與シタル地方ノ當該官廳ニ於テ本條前諸項ニ揭ケタル規定ニ遵由スヘキコトハ勿論ナリトス

十一、本條約ノ規定ハ兩國ノ一方ノ臣民ニシテ一方ノ版圖外ニ於テ死亡シタルモ他ノ一方ノ版圖內ニ動產又ハ不動產ヲ遺シタルトキハ其ノ遺產ニモ亦均ク之ヲ適用スヘキモノトス

十二、兩國ノ一方ノ海員、船客其ノ他ノ旅行者ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ陸上若ハ船舶中ニテ死亡シタルトキハ其ノ遺產目錄ヲ調製シ及其ノ他遺產ノ維持、清算ニ關シ必要ナル職務上ノ取扱ヲ爲スノ任務ハ死亡者ノ本國ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ニ專屬スルモノトス

第十五條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ自由交通ヲ許サレタル本國船舶ニ自身ニ赴キ又ハ代理者ヲ派遣シテ乘組役員及海員ヲ訊問シ、船舶書類ヲ檢閱シ、航行ノ目的、仕向地及航行中ノ事跡ヲ明キ、積荷目錄ヲ領受シ入港及出港手續ヲ爲スコトヲ幣助シ竝ニ通辭者又ハ附添者トシテ右役員及海員ニ附添ヒ駐在國ノ裁判所及行政官廳ニ出頭スルコトヲ得ヘシ

兩國ノ一方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ノ駐在スル港ニ於テハ他ノ一方ノ官吏、公吏ハ該領事官ヲシテ立會フコトヲ得セシムル爲メ乘組員ヲ召喚シ又ハ船舶ヲ檢査スルノ權アルモノトス

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ國ノ船舶ニ關シ左ノ事項ヲ處理スルノ權アルモノトス

一、船舶ノ登錄及其ノ證書ノ發給、裏書、書換又ハ取消

二、船舶ノ國籍ヲ證明スル書類ノ發給

三、船舶ノ建造、賣買、抵當權ノ設定、讓渡又ハ消滅ニ關スル書類ノ作成

四、船舶ノ修繕、艤裝、賣却又ハ解體ニ關スル書類ノ作成

五、船舶ノ抵當權ニ關スル書類ノ作成

六、船舶ノ航海ニ關スル書類ノ作成

七、船舶ノ航海ニ關スル保險ニ關スル書類ノ作成

八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

四十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

五十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

六十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

七十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

八十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

九十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百二十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百三十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百四十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百五十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百六十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百七十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百八十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

百九十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百二十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百三十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百四十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百五十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百六十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百七十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百八十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

二百九十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百二十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百三十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十一、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十二、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十三、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十四、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十五、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十六、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十七、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十八、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百四十九、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百五十、船舶ノ航海ニ關スル海損ニ關スル書類ノ作成

三百五十一、船舶ノ航海ニ

全ク聯邦ノ名ニ於テ之ヲ為ス

聯邦帝國（約名）此等ノ條約ハ帝國ノ領土ニ適用ス

聯邦帝國ハ左ノ諸國ヲ代表スル全權委員ヲシテ千八百七十一年十一月二十六日ヲ以テ千八百七十一年十二月二十六日ヨリ施行セラルヘキ聯邦憲法ヲ確定セシメタリ

普魯西國王陛下（名）

巴威利亞國王陛下（名）

薩克遜國王陛下（名）

威爾敦堡國王陛下（名）

巴丁大公殿下（名）

黑森大公殿下（名）

梅克倫堡「シウエリン」大公殿下（名）

梅克倫堡「ストレリツ」大公殿下（名）

奧爾登堡大公殿下（名）

薩克遜「ワイマール」「アイゼナハ」大公殿下（名）

薩克遜「メニンゲン」公殿下（名）

薩克遜「アルテンブルグ」公殿下（名）

薩克遜「コブルグ」「ゴタ」公殿下（名）

安哈爾特公殿下（名）

斯瓦爾斯堡「ルドルスタット」侯殿下（名）

斯瓦爾斯堡「ソンデルスハウゼン」侯殿下（名）

瓦爾德克侯殿下（名）

利斯「ゲラ」「ダルムスタット」侯殿下（名）

利斯「ケラ」「ストレリツ」侯殿下（名）

斯瓦爾斯堡「ラウエンブルグ」侯殿下（名）

「ワルデック」侯殿下（名）

「ロイス」「エルデル」侯殿下（名）

「ロイス」「グライツ」侯殿下（名）

「シヤウムブルグ」「リツペ」侯殿下（名）

「リツペ」侯殿下（名）

「ワルデック」侯殿下（名）

「ワルデック」侯殿下（名）

「ワルデック

品目			
同			〇・三〇
綿絲	百斤	十五番手ノ	〇・三〇
四十五	紡絲	番手ノ	
四十六	百斤	十六番手ノ	〇・三〇
四十六	紡絲	番手ノ	
四十七	百斤	十七番手ノ	〇・三〇
四十七	紡絲	番手ノ	
四十八	百斤	十八番手ノ	〇・三〇
四十八	紡絲	番手ノ	
四十九	百斤	十九番手ノ	〇・三〇
四十九	紡絲	番手ノ	
五十	百斤	二十番手ノ	〇・三〇
五十	紡絲	番手ノ	
五十一	百斤	二十一番手ノ	〇・三〇
五十一	紡絲	番手ノ	
五十二	百斤	二十二番手ノ	〇・三〇
五十二	紡絲	番手ノ	
五十三	百斤	二十三番手ノ	〇・三〇
五十三	紡絲	番手ノ	
五十四	百斤	二十四番手ノ	〇・三〇
五十四	紡絲	番手ノ	
五十五	百斤	二十五番手ノ	〇・三〇
五十五	紡絲	番手ノ	
五十六	百斤	二十六番手ノ	〇・三〇
五十六	紡絲	番手ノ	
五十七	百斤	二十七番手ノ	〇・三〇
五十七	紡絲	番手ノ	
五十八	百斤	二十八番手ノ	〇・三〇
五十八	紡絲	番手ノ	
五十九	百斤	二十九番手ノ	〇・三〇
五十九	紡絲	番手ノ	
六十	百斤	三十番手ノ	〇・三〇
六十	紡絲	番手ノ	
六十一	百斤	三十一番手ノ	〇・三〇
六十一	紡絲	番手ノ	
六十二	百斤	三十二番手ノ	〇・三〇
六十二	紡絲	番手ノ	
六十三	百斤	三十三番手ノ	〇・三〇
六十三	紡絲	番手ノ	
六十四	百斤	三十四番手ノ	〇・三〇
六十四	紡絲	番手ノ	
六十五	百斤	三十五番手ノ	〇・三〇
六十五	紡絲	番手ノ	
六十六	百斤	三十六番手ノ	〇・三〇
六十六	紡絲	番手ノ	
六十七	百斤	三十七番手ノ	〇・三〇
六十七	紡絲	番手ノ	
六十八	百斤	三十八番手ノ	〇・三〇
六十八	紡絲	番手ノ	
六十九	百斤	三十九番手ノ	〇・三〇
六十九	紡絲	番手ノ	
七十	百斤	四十番手ノ	〇・三〇
七十	紡絲	番手ノ	
七十一	百斤	四十一番手ノ	〇・三〇
七十一	紡絲	番手ノ	
七十二	百斤	四十二番手ノ	〇・三〇
七十二	紡絲	番手ノ	
七十三	百斤	四十三番手ノ	〇・三〇
七十三	紡絲	番手ノ	
七十四	百斤	四十四番手ノ	〇・三〇
七十四	紡絲	番手ノ	
七十五	百斤	四十五番手ノ	〇・三〇
七十五	紡絲	番手ノ	
七十六	百斤	四十六番手ノ	〇・三〇
七十六	紡絲	番手ノ	
七十七	百斤	四十七番手ノ	〇・三〇
七十七	紡絲	番手ノ	
七十八	百斤	四十八番手ノ	〇・三〇
七十八	紡絲	番手ノ	
七十九	百斤	四十九番手ノ	〇・三〇
七十九	紡絲	番手ノ	
八十	百斤	五十番手ノ	〇・三〇
八十	紡絲	番手ノ	
八十一	百斤	五十一番手ノ	〇・三〇
八十一	紡絲	番手ノ	
八十二	百斤	五十二番手ノ	〇・三〇
八十二	紡絲	番手ノ	
八十三	百斤	五十三番手ノ	〇・三〇
八十三	紡絲	番手ノ	
八十四	百斤	五十四番手ノ	〇・三〇
八十四	紡絲	番手ノ	
八十五	百斤	五十五番手ノ	〇・三〇
八十五	紡絲	番手ノ	
八十六	百斤	五十六番手ノ	〇・三〇
八十六	紡絲	番手ノ	
八十七	百斤	五十七番手ノ	〇・三〇
八十七	紡絲	番手ノ	
八十八	百斤	五十八番手ノ	〇・三〇
八十八	紡絲	番手ノ	
八十九	百斤	五十九番手ノ	〇・三〇
八十九	紡絲	番手ノ	
九十	百斤	六十番手ノ	〇・三〇
九十	紡絲	番手ノ	
九十一	百斤	六十一番手ノ	〇・三〇
九十一	紡絲	番手ノ	
九十二	百斤	六十二番手ノ	〇・三〇
九十二	紡絲	番手ノ	
九十三	百斤	六十三番手ノ	〇・三〇
九十三	紡絲	番手ノ	
九十四	百斤	六十四番手ノ	〇・三〇
九十四	紡絲	番手ノ	
九十五	百斤	六十五番手ノ	〇・三〇
九十五	紡絲	番手ノ	
九十六	百斤	六十六番手ノ	〇・三〇
九十六	紡絲	番手ノ	
九十七	百斤	六十七番手ノ	〇・三〇
九十七	紡絲	番手ノ	
九十八	百斤	六十八番手ノ	〇・三〇
九十八	紡絲	番手ノ	
九十九	百斤	六十九番手ノ	〇・三〇
九十九	紡絲	番手ノ	
百	百斤	七十番手ノ	〇・三〇
百	紡絲	番手ノ	
百一	百斤	七十一番手ノ	〇・三〇
百一	紡絲	番手ノ	
百二	百斤	七十二番手ノ	〇・三〇
百二	紡絲	番手ノ	
百三	百斤	七十三番手ノ	〇・三〇
百三	紡絲	番手ノ	
百四	百斤	七十四番手ノ	〇・三〇
百四	紡絲	番手ノ	
百五	百斤	七十五番手ノ	〇・三〇
百五	紡絲	番手ノ	
百六	百斤	七十六番手ノ	〇・三〇
百六	紡絲	番手ノ	
百七	百斤	七十七番手ノ	〇・三〇
百七	紡絲	番手ノ	
百八	百斤	七十八番手ノ	〇・三〇
百八	紡絲	番手ノ	
百九	百斤	七十九番手ノ	〇・三〇
百九	紡絲	番手ノ	
百十	百斤	八十番手ノ	〇・三〇
百十	紡絲	番手ノ	
百十一	百斤	八十一番手ノ	〇・三〇
百十一	紡絲	番手ノ	
百十二	百斤	八十二番手ノ	〇・三〇
百十二	紡絲	番手ノ	
百十三	百斤	八十三番手ノ	〇・三〇
百十三	紡絲	番手ノ	
百十四	百斤	八十四番手ノ	〇・三〇
百十四	紡絲	番手ノ	
百十五	百斤	八十五番手ノ	〇・三〇
百十五	紡絲	番手ノ	
百十六	百斤	八十六番手ノ	〇・三〇
百十六	紡絲	番手ノ	
百十七	百斤	八十七番手ノ	〇・三〇
百十七	紡絲	番手ノ	
百十八	百斤	八十八番手ノ	〇・三〇
百十八	紡絲	番手ノ	
百十九	百斤	八十九番手ノ	〇・三〇
百十九	紡絲	番手ノ	
百二十	百斤	九十番手ノ	〇・三〇
百二十	紡絲	番手ノ	
百二十一	百斤	九十一番手ノ	〇・三〇
百二十一	紡絲	番手ノ	
百二十二	百斤	九十二番手ノ	〇・三〇
百二十二	紡絲	番手ノ	
百二十三	百斤	九十三番手ノ	〇・三〇
百二十三	紡絲	番手ノ	
百二十四	百斤	九十四番手ノ	〇・三〇
百二十四	紡絲	番手ノ	
百二十五	百斤	九十五番手ノ	〇・三〇
百二十五	紡絲	番手ノ	
百二十六	百斤	九十六番手ノ	〇・三〇
百二十六	紡絲	番手ノ	
百二十七	百斤	九十七番手ノ	〇・三〇
百二十七	紡絲	番手ノ	
百二十八	百斤	九十八番手ノ	〇・三〇
百二十八	紡絲	番手ノ	
百二十九	百斤	九十九番手ノ	〇・三〇
百二十九	紡絲	番手ノ	
百三十	百斤	百番手ノ	〇・三〇
百三十	紡絲	番手ノ	
百三十一	百斤	百一番手ノ	〇・三〇
百三十一	紡絲	番手ノ	
百三十二	百斤	百二番手ノ	〇・三〇
百三十二	紡絲	番手ノ	
百三十三	百斤	百三番手ノ	〇・三〇
百三十三	紡絲	番手ノ	
百三十四	百斤	百四番手ノ	〇・三〇
百三十四	紡絲	番手ノ	
百三十五	百斤	百五番手ノ	〇・三〇
百三十五	紡絲	番手ノ	
百三十六	百斤	百六番手ノ	〇・三〇
百三十六	紡絲	番手ノ	
百三十七	百斤	百七番手ノ	〇・三〇
百三十七	紡絲	番手ノ	
百三十八	百斤	百八番手ノ	〇・三〇
百三十八	紡絲	番手ノ	
百三十九	百斤	百九番手ノ	〇・三〇
百三十九	紡絲	番手ノ	
百四十	百斤	百十番手ノ	〇・三〇
百四十	紡絲	番手ノ	
百四十一	百斤	百十一番手ノ	〇・三〇
百四十一	紡絲	番手ノ	
百四十二	百斤	百十二番手ノ	〇・三〇
百四十二	紡絲	番手ノ	
百四十三	百斤	百十三番手ノ	〇・三〇
百四十三	紡絲	番手ノ	
百四十四	百斤	百十四番手ノ	〇・三〇
百四十四	紡絲	番手ノ	
百四十五	百斤	百十五番手ノ	〇・三〇
百四十五	紡絲	番手ノ	
百四十六	百斤	百十六番手ノ	〇・三〇
百四十六	紡絲	番手ノ	
百四十七	百斤	百十七番手ノ	〇・三〇
百四十七	紡絲	番手ノ	
百四十八	百斤	百十八番手ノ	〇・三〇
百四十八	紡絲	番手ノ	
百四十九	百斤	百十九番手ノ	〇・三〇
百四十九	紡絲	番手ノ	
百五十	百斤	百二十番手ノ	〇・三〇
百五十	紡絲	番手ノ	
百五十一	百斤	百二十一番手ノ	〇・三〇
百五十一	紡絲	番手ノ	
百五十二	百斤	百二十二番手ノ	〇・三〇
百五十二	紡絲	番手ノ	
百五十三	百斤	百二十三番手ノ	〇・三〇
百五十三	紡絲	番手ノ	
百五十四	百斤	百二十四番手ノ	〇・三〇
百五十四	紡絲	番手ノ	
百五十五	百斤	百二十五番手ノ	〇・三〇
百五十五	紡絲	番手ノ	
百五十六	百斤	百二十六番手ノ	〇・三〇
百五十六	紡絲	番手ノ	
百五十七	百斤	百二十七番手ノ	〇・三〇
百五十七	紡絲	番手ノ	
百五十八	百斤	百二十八番手ノ	〇・三〇
百五十八	紡絲	番手ノ	
百五十九	百斤	百二十九番手ノ	〇・三〇
百五十九	紡絲	番手ノ	
百六十	百斤	百三十番手ノ	〇・三〇
百六十	紡絲	番手ノ	
百六十一	百斤	百三十一番手ノ	〇・三〇
百六十一	紡絲	番手ノ	
百六十二	百斤	百三十二番手ノ	〇・三〇
百六十二	紡絲	番手ノ	
百六十三	百斤	百三十三番手ノ	〇・三〇
百六十三	紡絲	番手ノ	
百六十四	百斤	百三十四番手ノ	〇・三〇
百六十四	紡絲	番手ノ	
百六十五	百斤	百三十五番手ノ	〇・三〇
百六十五	紡絲	番手ノ	
百六十六	百斤	百三十六番手ノ	〇・三〇
百六十六	紡絲	番手ノ	
百六十七	百斤	百三十七番手ノ	〇・三〇
百六十七	紡絲	番手ノ	
百六十八	百斤	百三十八番手ノ	〇・三〇
百六十八	紡絲	番手ノ	
百六十九	百斤	百三十九番手ノ	〇・三〇
百六十九	紡絲	番手ノ	
百七十	百斤	百四十番手ノ	〇・三〇
百七十	紡絲	番手ノ	
百七十一	百斤	百四十一番手ノ	〇・三〇
百七十一	紡絲	番手ノ	
百七十二	百斤	百四十二番手ノ	〇・三〇
百七十二	紡絲	番手ノ	
百七十三	百斤	百四十三番手ノ	〇・三〇
百七十三	紡絲	番手ノ	
百七十四	百斤	百四十四番手ノ	〇・三〇
百七十四	紡絲	番手ノ	
百七十五	百斤	百四十五番手ノ	〇・三〇
百七十五	紡絲	番手ノ	
百七十六	百斤	百四十六番手ノ	〇・三〇
百七十六	紡絲	番手ノ	
百七十七	百斤	百四十七番手ノ	〇・三〇
百七十七	紡絲	番手ノ	
百七十八	百斤	百四十八番手ノ	〇・三〇
百七十八	紡絲	番手ノ	
百七十九	百斤	百四十九番手ノ	〇・三〇
百七十九	紡絲	番手ノ	
百八十	百斤	百五十番手ノ	〇・三〇
百八十	紡絲	番手ノ	
百八十一	百斤	百五十一番手ノ	〇・三〇
百八十一	紡絲	番手ノ	
百八十二	百斤	百五十二番手ノ	〇・三〇
百八十二	紡絲	番手ノ	
百八十三	百斤	百五十三番手ノ	〇・三〇
百八十三	紡絲	番手ノ	
百八十四	百斤	百五十四番手ノ	〇・三〇
百八十四	紡絲	番手ノ	
百八十五	百斤	百五十五番手ノ	〇・三〇
百八十五	紡絲	番手ノ	
百八十六	百斤	百五十六番手ノ	〇・三〇
百八十六	紡絲	番手ノ	
百八十七	百斤	百五十七番手ノ	〇・三〇
百八十七	紡絲	番手ノ	
百八十八	百斤	百五十八番手ノ	〇・三〇
百八十八	紡絲	番手ノ	
百八十九	百斤	百五十九番手ノ	〇・三〇
百八十九	紡絲	番手ノ	
百九十	百斤	百六十番手ノ	〇・三〇
百九十	紡絲	番手ノ	
百九十一	百斤	百六十一番手ノ	〇・三〇
百九十一	紡絲	番手ノ	
百九十二	百斤	百六十二番手ノ	〇・三〇
百九十二	紡絲	番手ノ	
百九十三	百斤	百六十三番手ノ	〇・三〇
百九十三	紡絲	番手ノ	
百九十四	百斤	百六十四番手ノ	〇・三〇
百九十四	紡絲	番手ノ	
百九十五	百斤	百六十五番手ノ	〇・三〇
百九十五	紡絲	番手ノ	
百九十六	百斤	百六十六番手ノ	〇・三〇
百九十六	紡絲	番手ノ	
百九十七	百斤	百六十七番手ノ	〇・三〇
百九十七	紡絲	番手ノ	
百九十八	百斤	百六十八番手ノ	〇・三〇
百九十八	紡絲	番手ノ	
百九十九	百斤	百六十九番手ノ	〇・三〇
百九十九	紡絲	番手ノ	
二百	百斤	百七十番手ノ	〇・三〇
二百	紡絲	番手ノ	
二百一	百斤	百七十一番手ノ	〇・三〇
二百一	紡絲	番手ノ	
二百二	百斤	百七十二番手ノ	〇・三〇
二百二	紡絲	番手ノ	
二百三	百斤	百七十三番手ノ	〇・三〇
二百三	紡絲	番手ノ	
二百四	百斤	百七十四番手ノ	〇・三〇
二百四	紡絲	番手ノ	
二百五	百斤	百七十五番手ノ	〇・三〇
二百五	紡絲	番手ノ	
二百六	百斤	百七十六番手ノ	〇・三〇
二百六	紡絲	番手ノ	
二百七	百斤	百七十七番手ノ	〇・三〇
二百七	紡絲	番手ノ	
二百八	百斤	百七十八番手ノ	〇・三〇
二百八	紡絲	番手ノ	
二百九	百斤	百七十九番手ノ	〇・三〇
二百九	紡絲	番手ノ	
二百十	百斤	百八十番手ノ	〇・三〇
二百十	紡絲	番手ノ	
二百十一	百斤	百八十一番手ノ	〇・三〇
二百十一	紡絲	番手ノ	
二百十二	百斤	百八十二番手ノ	〇・三〇
二百十二	紡絲	番手ノ	
二百十三	百斤	百八十三番手ノ	〇・三〇
二百十三	紡絲	番手ノ	
二百十四	百斤	百八十四番手ノ	〇・三〇
二百十四	紡絲	番手ノ	
二百十五	百斤	百八十五番手ノ	〇・三〇
二百十五	紡絲	番手ノ	
二百十六	百斤	百八十六番手ノ	〇・三〇
二百十六	紡絲	番手ノ	
二百十七	百斤	百八十七番手ノ	〇・三〇
二百十七	紡絲	番手ノ	
二百十八	百斤	百八十八番手ノ	〇・三〇
二百十八	紡絲	番手ノ	
二百十九	百斤	百八十九番手ノ	〇・三〇
二百十九	紡絲	番手ノ	
二百二十	百斤	百九十番手ノ	〇・三〇
二百二十	紡絲	番手ノ	
二百二十一	百斤	百九十一番手ノ	〇・三〇
二百二十一	紡絲	番手ノ	
二百二十二	百斤	百九十二番手ノ	〇・三〇
二百二十二	紡絲	番手ノ	
二百二十三	百斤	百九十三番手ノ	〇・三〇
二百二十三	紡絲	番手ノ	
二百二十四	百斤	百九十四番手ノ	〇・三〇
二百二十四	紡絲	番手ノ	
二百二十五	百斤	百九十五番手ノ	〇・三〇
二百二十五	紡絲	番手ノ	
二百二十六	百斤	百九十六番手ノ	〇・三〇
二百二十六	紡絲	番手ノ	
二百二十七	百斤	百九十七番手ノ	〇・三〇
二百二十七	紡絲	番手ノ	
二百二十八	百斤	百九十八番手ノ	〇・三〇
二百二十八	紡絲	番手ノ	
二百二十九	百斤	百九十九番手ノ	〇・三〇
二百二十九	紡絲	番手ノ	
二百三十	百斤	二百番手ノ	〇・三〇
二百三十	紡絲	番手ノ	
二百三十一	百斤	二百一番手ノ	〇・三〇
二百三十一	紡絲	番手ノ	
二百三十二	百斤	二百二番手ノ	〇・三〇
二百三十二	紡絲	番手ノ	
二百三十三	百斤	二百三番手ノ	〇・三〇
二百三十三	紡絲	番手ノ	
二百三十四	百斤	二百四番手ノ	〇・三〇
二百三十四	紡絲	番手ノ	
二百三十五	百斤	二百五番手ノ	〇・三〇
二百三十五	紡絲	番手ノ	
二百三十六	百斤	二百六番手ノ	〇・三〇
二百三十六	紡絲	番手ノ	
二百三十七	百斤	二百七番手ノ	〇・三〇
二百三十七	紡絲	番手ノ	
二百三十八	百斤	二百八番手ノ	〇・三〇
二百三十八	紡絲	番手ノ	
二百三十九	百斤	二百九番手ノ	〇・三〇
二百三十九	紡絲	番手ノ	
二百四十	百斤	二百十番手ノ	〇・三〇
二百四十	紡絲	番手ノ	
二百四十一	百斤	二百十一番手ノ	〇・三〇
二百四十一	紡絲	番手ノ	
二百四十二	百斤	二百十二番手ノ	〇・三〇
二百四十二	紡絲	番手ノ	
二百四十三	百斤	二百十三番手ノ	〇・三〇
二百四十三	紡絲	番手ノ	
二百四十四	百斤	二百十四番手ノ	〇・三〇
二百四十四	紡絲	番手ノ	
二百四十五	百斤	二百十五番手ノ	〇・三〇
二百四十五	紡絲	番手ノ	
二百四十六	百斤	二百十六番手ノ	〇・三〇
二百四十六	紡絲	番手ノ	
二百四十七	百斤	二百十七番手ノ	〇・三〇
二百四十七	紡絲	番手ノ	
二百四十八	百斤	二百十八番手ノ	〇・三〇
二百四十八	紡絲	番手ノ	
二百四十九	百斤	二百十九番手ノ	〇・三〇
二百四十九	紡絲	番手ノ	
二百五十	百斤	二百二十番手ノ	〇・三〇
二百五十	紡絲	番手ノ	
二百五十一	百斤	二百二十一番手ノ	〇・三〇
二百五十一	紡絲	番手ノ	
二百五十二	百斤	二百二十二番手ノ	〇・三〇
二百五十二	紡絲	番手ノ	
二百五十三	百斤	二百二十三番手ノ	〇・三〇
二百五十三	紡絲	番手ノ	
二百五十四	百斤	二百二十四番手ノ	〇・三〇
二百五十四	紡絲	番手ノ	
二百五十五	百斤	二百二十五番手ノ	〇・三〇
二百五十五	紡絲	番手ノ	
二百五十六	百斤	二百二十六番手ノ	〇・三〇
二百五十六	紡絲	番手ノ	
二百五十七	百斤	二百二十七番手ノ	〇・三〇
二百五十七	紡絲	番手ノ	
二百五十八	百斤	二百二十八番手ノ	〇・三〇
二百五十八	紡絲	番手ノ	
二百五十九	百斤	二百二十九番手ノ	〇・三〇
二百五十九	紡絲	番手ノ	
二百六十	百斤	二百三十番手ノ	〇・三〇
二百六十	紡絲	番手ノ	
二百六十一	百斤	二百三十一番手ノ	〇・三〇
二百六十一	紡絲	番手ノ	
二百六十二	百斤	二百三十二番手ノ	〇・三〇
二百六十二	紡絲	番手ノ	
二百六十三	百斤	二百三十三番手ノ	〇・三〇
二百六十三	紡絲	番手ノ	
二百六十四	百斤	二百三十四番手ノ	〇・三〇
二百六十四	紡絲	番手ノ	
二百六十五	百斤	二百三十五番手ノ	〇・三〇
二百六十五	紡絲	番手ノ	
二百六十六	百斤	二百三十六番手ノ	〇・三〇
二百六十六	紡絲	番手ノ	
二百六十七	百斤	二百三十七番手ノ	〇・三〇
二百六十七	紡絲	番手ノ	
二百六十八	百斤	二百三十八番手ノ	〇・三〇
二百六十八	紡絲	番手ノ	
二百六十九	百斤	二百三十九番手ノ	〇・三〇
二百六十九	紡絲	番手ノ	
二百七十	百斤	二百四十番手ノ	〇・三〇
二百七十	紡絲	番手ノ	
二百七十一	百斤	二百四十一番手ノ	〇・三〇
二百七十一	紡絲	番手ノ	
二百七十二	百斤	二百四十二番手ノ	〇・三〇
二百七十二	紡絲	番手ノ	
二百七十三	百斤	二百四十三番手ノ	〇・三〇
二百七十三	紡絲	番手ノ	
二百七十四	百斤	二百四十四番手ノ	〇・三〇
二百七十四	紡絲	番手ノ	
二百七十五	百斤	二百四十五番手ノ	〇・三〇
二百七十五	紡絲	番手ノ	
二百七十六	百斤	二百四十六番手ノ	〇・三〇
二百七十六	紡絲	番手ノ	
二百七十七	百斤	二百四十七番手ノ	〇・三〇
二百七十七	紡絲	番手ノ	
二百七十八	百斤	二百四十八番手ノ	〇・三〇
二百七十八	紡絲	番手ノ	
二百七十九	百斤	二百四十九番手ノ	〇・三〇
二百七十九	紡絲	番手ノ	
二百八十	百斤	二百五十番手ノ	〇・三〇
二百八十	紡絲	番手ノ	
二百八十一	百斤	二百五十一番手ノ	〇・三〇
二百八十一	紡絲	番手ノ	
二百八十二	百斤	二百五十二番手ノ	〇・三〇
二百八十二	紡絲	番手ノ	
二百八十三	百斤	二百五十三番手ノ	〇・三〇
二百八十三	紡絲	番手ノ	
二百八十四	百斤	二百五十四番手ノ	〇・三〇
二百八十四	紡絲	番手ノ	
二百八十五	百斤	二百五十五番手ノ	〇・三〇
二百八十五	紡絲	番手ノ	
二百八十六	百斤	二百五十六番手ノ	〇・三〇
二百八十六	紡絲	番手ノ	
二百八十七	百斤	二百五十七番手ノ	〇・三〇
二百八十七	紡絲	番手ノ	
二百八十八	百斤	二百五十八番手ノ	〇・三〇
二百八十八	紡絲	番手ノ	
二百八十九	百斤	二百五十九番手ノ	〇・三〇
二百八十九	紡絲	番手ノ	
二百九十	百斤	二百六十番手ノ	〇・三〇
二百九十	紡絲	番手ノ	
二百九十一	百斤	二百六十一番手ノ	〇・三〇
二百九十一	紡絲	番手ノ	
二百九十二	百斤	二百六十二番手ノ	〇・三〇
二百九十二	紡絲	番手ノ	
二百九十三	百斤	二百六十三番手ノ	〇・三〇
二百九十三	紡絲	番手ノ	
二百九十四	百斤	二百六十四番手ノ	〇・三〇
二百九十四	紡絲	番手ノ	
二百九十五	百斤	二百六十五番手ノ	〇・三〇
二百九十五	紡絲	番手ノ	
二百九十六	百斤	二百六十六番手ノ	〇・三〇
二百九十六	紡絲	番手ノ	
二百九十七	百斤	二百六十七番手ノ	〇・三〇
二百九十七	紡絲	番手ノ	
二百九十八	百斤	二百六十八番手ノ	〇・三〇
二百九十八	紡絲	番手ノ	
二百九十九	百斤	二百六十九番手ノ	〇・三〇
二百九十九	紡絲	番手ノ	
三百	百斤	二百七十番手ノ	〇・三〇
三百	紡絲	番手ノ	
三百一	百斤	二百七十一番手ノ	〇・三〇
三百一	紡絲	番手ノ	
三百二	百斤	二百七十二番手ノ	〇・三〇
三百二	紡絲	番手ノ	
三百三	百斤	二百七十三番手ノ	〇・三〇
三百三	紡絲	番手ノ	
三百四	百斤	二百七十四番手ノ	〇・三〇
三百四	紡絲	番手ノ	
三百五	百斤	二百七十五番手ノ	〇・三〇
三百五	紡絲	番手ノ	
三百六	百斤	二百七十六番手ノ	〇・三〇
三百六	紡絲	番手ノ	
三百七	百斤	二百七十七番手ノ	〇・三〇
三百七	紡絲	番手ノ	
三百八	百斤	二百七十八番手ノ	〇・三〇
三百八	紡絲	番手ノ	
三百九	百斤	二百七十九番手ノ	〇・三〇
三百九	紡絲	番手ノ	
三百十	百斤	二百八十番手ノ	〇・三〇
三百十	紡絲	番手ノ	
三百十一	百斤	二百八十一番手ノ	〇・三〇
三百十一	紡絲	番手ノ	
三百十二	百斤	二百八十二番手ノ	〇・三〇
三百十二	紡絲	番手ノ	
三百十三	百斤	二百八十三番手ノ	〇・三〇
三百十三	紡絲	番手ノ	
三百十四	百斤	二百八十四番手ノ	〇・三〇
三百十四	紡絲	番手ノ	
三百十五	百斤	二百八十五番手ノ	〇・三〇
三百十五	紡絲	番手ノ	
三百十六	百斤	二百八十六番手ノ	〇・三〇
三百十六	紡絲	番手ノ	
三百十七	百斤	二百八十七番手ノ	〇・三〇
三百十七	紡絲	番手ノ

五十五	以テ織タル「イタリアン、クロース」（綿ノ重量超過シタル「イタリアン、クロース」共）	同	○・○三九
五十六	他ノ織物「アルパカ」	同	○・○二九
	旗布	同	○・○七五
	羅世伊多「セルジ」	同	○・○三一
	甲縦ニ「ウルステッド」絲横ニ毛絲ヲ以テ織タル	同	○・○三六
	乙其ノ他各種ノ	従價	○・○五六
	其ノ他本稅目ニ記載セサル各種ノ毛布（純毛ト他物ヲ交ヘタルトノ別ナク、但シ毛ノ重量超過スルモノ）	従價	一割
	附記・既製ノ衣服及他ノ全		

	製品ハ毛布類ノ項目ニ屬セサルコト勿論ナリ		
五十七	亞鉛塊及錠若ハ板	百斤	○・四○○
五十八	薄板	同	○・八三○
五十九	精糖		
	甲和蘭標本色相ノ第十五號ヨリ第二十號ニ至ル	同	○・七四八
	乙和蘭標本色相ノ第二十號ニ超ヘタル	同	○・八二七
	重量及尺度本稅目ニ記載シタル斤ハ日本ノ衡量ニシテ「メートル」法衡量ノ六百ユボイズ「グラム」即英國ノ「アヴォイルダポイズ」衡量一「ポンド」ト三二七七二同シ「ポンド」ハ英國ノ「アヴォイルダポイズ」衡量トス		
	超ヘタル重量ニ對シテハ其ノ物品ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ保險料及運送費ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘ算定スヘキモノトス		
	布帛類尺度ノ規定		
	稅關ニ於テ布帛類ニ對シ課稅スヘキ幅ヲ檢定スルニハ半「インチ」以下ノ端數ハ總テ之ヲ切捨テ半「インチ」ニ超ヘタル端數ハ總テ之ヲ一「インチ」トシテ算入スヘキモノトス		
	附記　布帛類ノ織絲ハ其ノ尺度ニ算入セサルモノトス		

議定書

下名ハ本日調印シタル追加約定ト同時ニ左ノ規定ニ同意セリ

第一　前記追加約定附屬稅目ニ記載セル四ニ關シテハ明治二十八年七月十六日締結日英追加條約附屬稅目ニ附記セラレタル四ノ解釋ニ依リ大不列顛國ニ屬シ若ハ屬スヘキ一切ノ權利ハ獨逸國ニモ均シク許與セラルヘキモノトス尤日本國皇帝陛下ノ政府ハ右ノ宣言ニ依リ該事項ニ就キ大不列顛國ノ便宜タルヘキ何等權利ノ存在ヲ認容シタルモノト看做サレサルコトヲ希望ス

第二　製產原地證明書及送狀ノ公證ニ關シテハ明治三十年十月二十七日即千八百九十七年十月二十七日ノ日本帝國勅令第三百八十五號第二條ニ記載セラレタル「其ノ他ノ當該官廳」中ニハ當該日本帝國領事館アラサル場合ニ於テ獨逸國醫察官吏ヲモ包含スルモノトス但シ右日本帝國領事館ナル名稱ノ中ニハ日本帝國名譽領事ヲ包含セス又日本國皇帝陛下ノ政府ハ右同樣ノ場合ニ於テ獨逸國商業會議所ニ對

シ獨逸國醫察官吏ノ有スルモノト同一ナル權能ヲ付與セムカ爲必要ノ手續ヲ爲スヘシ

日本國皇帝陛下ノ政府ハ新稅率ニ從ヒ百個ヲ超エサル課稅價格ヲ有スル輸入品ニ對シテハ總テ公證サレタル送狀ヲ添附スルノ義務ヲ免除スヘキコトヲ約定ス

下名ハ本議定書所載ノ規定ハ本日調印シタル追加約定ト同一ノ效力ヲ有シ之ト同一ノ有效期限ヲ有スヘキコトヲ約定ス

右證據トシテ下名ハ玆ニ記名調印スルモノナリ

明治三十一年十二月二十六日即千八百九十八年十二月二十六日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

子爵　青木　周藏（記名印）

伯爵　フォン、ライデン（記名印）

第十一章　白耳義國

●日白通商航海條約（明治二十九年十二月勅令）

朕明治二十九年六月二十二日白耳義國　ブラッセルニ於テ朕カ全權委員ト白耳義國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及白耳義國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ益〻增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ白耳義駐劄帝國特命全權公使從二位勳一等子爵青木周藏ヲ白耳義國皇帝陛下ハ

其ノ外務大臣榮譽院議員「ナイト、テフ、セ、チレヒボルド」「エム、ポール、ド、ルダー、チフ、レヒボルド」「エム、ポール、ド、ファヴェロー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條　兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ住居スルモ全ク隨意タルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ於テモ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ擇ミ且使用スルノ外內國法取扱ニ關スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テハ何人ト雖モ其ノ心ニ關シ完全ナル自由及法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ノ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵、或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第二條

兩締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテ之ヲ爲スモ隨意タルヘク又必要ナル家屋、製造所、倉庫、店舖及附屬構造物ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居及商業ノ爲メニ土地ヲ借受クルコトヲ得但シ內國臣民ト同樣其ノ國ノ法律、警察規則及稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ノ各地、諸港及諸河ニ於テ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス內國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘシ但シ常ニ各其國ノ法律、勅令及規則ニ從フヘキモノトス

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ爲メニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ營記帳ヲ檢査點閲スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ末段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ爲メニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ末段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ爲メニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス但シ内國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又白耳義國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ末段ノ取極ハ人、畜或ハ農業ニ有用ナル植物ノ安全ヲ保護スルニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ住居若ハ商業ノ爲メニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舗及之ニ屬スル總テノ構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ營記帳ヲ檢査點閲

クヘシ

第十七條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意ス

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官憲ハ之ニ關シテ其ノ市區施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若ハ財產アルトキハ之ヲ有日本國官憲ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地內ニテ現ニ因テ以テ財產ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財產ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件モ附セサルヘシ但シ借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本國當該官吏ヲ以テ之ニ代ユヘキコトト知ルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲メニ無借料ニテ日本國政府ヨリ既ニ貸與シタル各地所ハ總テノ租稅及徵收金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

第十八條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ千八百六十六年八月一日締結ノ修好通商及航海條約及千八百六十六年十月四日ノ追加約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定竝ニ右條約ニ附屬シタル貿易章程ハ右期日ヨリ總テ無效ニ歸シ隨テ白耳義國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ關シ又ハ其ノ一部トシテ白耳義國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十九條

本條約ハ千八百九十九年七月十六日迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ白耳義國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此ノ通知ハ千八百九十八年七月十六日後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後六箇月內ニ成ルヘク速ニ「ブラッセル」ニ於テ交換スヘシ

第二十條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ヲ交換シタル日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ白耳義國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此ノ通知ハ千八百九十八年七月十六日後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ

書面ヲ以テ其ノ出廷ヲ請求シ若支障アルトキハ民事ノ場合ニ限リ供述書ヲ請求スルカ若ハ其ノ居宅又ハ事務所ニ就キ供述ヲ聽取ルヘシ

該領事官ハ成ルヘク速ニ右ノ請求ニ應スルノ義務アルモノトス

第五條

總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ事務所ノ門戸ニ其ノ本國ノ徽章ト共ニ日本國若ハ白耳義國總領事館、領事館、副領事館若ハ代辨領事館ナル文字ヲ記シタル標牌ヲ掲クルコトヲ得

右領事官ハ又其ノ事務所ニ本國國旗ヲ掲クルコトヲ得但シ其ノ場所國ノ首府ニシテ公使館所在地ナルトキハ此ノ限ニ在ラス、又港内ニ於テ職務執行ノ爲メ使用スル船艇ニモ均シク其ノ本國國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第六條

任命國ノ臣民ニシテ商業、工業又ハ其ノ他ノ營業ニ從事セサル領事官ノ事務所ハ如何ナル時ト雖侵スヘカラサルモノトス、駐在國ノ當該官廳ハ利事取調ノ爲ノ外何等ノ口實ヲ以テスルモ該事務所ニ侵入スルコトヲ得ス、又如何ナル場合ニ於テモ該事務所内ニ在ル書類ハ右官廳ニ於テ之ヲ檢閲シ又ハ差押エルコトヲ得ス、領事館事務所ハ如何ナル場合タリトモ犯罪人ノ庇護所ト爲スヘカラス、領事官ニシテ他ノ事業ニ從事スルトキハ領事館ニ關スル書類ハ別ニ保管シ置キ如何ナル時ト雖侵スヘカラサルモノトス

第七條

總領事、領事、副領事及代辨領事ノ死亡、支障若ハ不在ノ場合ニハ書記生又ハ年ニシテ日本國外務大臣若ハ白耳義國外務大臣ヘ豫メ其ノ資格ヲ通知シアル者ニ於テ臨時其ノ領事館ノ事務ヲ擔任スルコトヲ得而シテ其ノ權利、特權及免除ヲ享受スヘシ

第八條

總領事及領事ハ其ノ本國法律ノ許ス限ハ其ノ政府ノ認可ヲ經テ管轄區域内ノ市、港及其ノ他ノ場所ニ副領事及代辨領事ヲ任命スルコトヲ得、右副領事及代辨領事ハ日本國臣民、白耳義國臣民若ハ他國人中ヨリ選擇スルコトヲ得而シテ正式ノ委任狀ヲ受ケ本條約中領事官ノ爲ニ定ムル所ノ特權ヲ享受スヘシ、但シ右ノ如キ領事官ニ對シ殊ニ規定スル所ノ除外制限ニ遵フヘキモノトス

第九條

日本國ト白耳義國トノ間ニ存在スル條約又ハ約定ノ違背ニ對シ抗議ヲ爲シ又ハ自國臣民ノ權利利益ヲ保護スル爲メ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ管轄區域内ニ在ル國、府縣、郡若ハ市町村ノ行政官廳或ハ司法官廳ヘ照會スルノ權アルモノトス

若其ノ抗議ニ對シ相當ノ處分ナキトキハ右領事官ハ其ノ本國外交官不在ノ場合ニ限リ駐在國ノ政府ヘ直接ニ之ヲ申出ルコトヲ得

第十條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ其ノ本國船舶ノ船長、船員、乘客及其ノ本國ノ住民ノ供述ヲ聽取ルコトヲ得、又其ノ本國ノ法律規則ニ準據シ其ノ事務所ニ於テ本國臣民ニ關スル出生ノ證明書、私生兒ノ承認狀、結婚及死亡ノ證明書ヲ調製スルコトヲ得、但シ其ノ登錄證明シタル旨ヲ直ニ駐在國ノ官廳ヘ告知スヘシ、又其ノ本國臣民ト駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ住民トノ間ニ取結フ所ノ一切ノ契約書ヲ調製スルコトヲ得、且又契約ニシテ右領事官ノ本國ノ版圖内ニ在ル財産或ハ右版圖内ニ於テ取扱フヘキ事務ニ關係アルトキハ駐在國ノ臣民若ハ其ノ他ノ臣民若ハ其ノ住民間ニ於ケルモノト雖總テ之ヲ調製スルコトヲ得

前記各種ノ書類及證書ハ其ノ原本、謄本若ハ翻譯タルニ拘ラス總領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ證明公認シ其ノ官印ヲ捺シタルモノハ日本國及白耳義國ノ裁判所ニ於テ公認證書トシテ承認スヘキモノトス

第十一條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ專ラ本國商船船内ノ秩序ヲ保持スルコトニ任シ且起因ノ如何ヲ問ハス船長、役員及乘組員間ニ海上又ハ港内ニ於テ起ル一切ノ紛議就中給料ノ整理及契約ノ履行ニ關スル紛議ヲ單獨ニ處理スヘシ其ノ起リタル紛擾カ陸上若ハ港内ノ安寧秩序ヲ妨害スヘキ性質タルカ若ハ其ノ國ノ人民或ハ乘組員ニ非サル者ノ關係シタルトキノ外地方官廳ハ之ニ關渉スルコトヲ得サルモノトス

總テ其ノ他ノ場合ニ於テハ地方官廳ハ其ノ國民ノ關係シタル場合ヲ除クノ外領事官カ至當ト認メ之ヲ依賴スルニ於テハ乘組員名簿ニ登載シアル者ヲ逮捕シ其ノ船ノ港内ニ碇泊シ居ル間其ノ管下ノ監獄ニ留置スルコトノ援助ヲ與フルニ止マルヘシ但シ此ノ規定ハ地方官廳ニ於テ逮捕留置ノ必要アリト認メタル場合ニ限リ之ヲ適用スヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ各其ノ本國船舶ノ說船者ヲ逮捕スル爲メ駐在國地方官廳ヨリ法律ノ許ス限リ一切ノ援助ヲ受クヘキモノトス但シ脫船者カ其ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ書面ヲ以テ夫其ノ駐在國當該地方官廳ニ依賴スヘシ而シテ右脫船者ヲ請求スルニハ書面ヲ以テ之ヲ照會シ且船舶登錄簿及船員名簿ヲ示シ或ハ其ノ他ノ公證書類ヲ示シテ以テ其ノ引渡ヲ請求スル者ノ該船乘組員タルコトヲ證明スヘシ

斯ク證明アル請求ヲ受ケタル以上ハ脫船者ヲ領事官ニ引渡スコトヲ拒絕スルヲ得ス、但シ右脫船者カ乘組人員ニ編入ノトキ又ハ著港ノトキ引渡ノ請求ヲ受ケタル國ノ臣民タリシコトヲ正當ニ證明サレタル場合ハ此ノ限ニ在ラス、而シテ右ノ如ク逮捕シタル脫船者ハ之ヲ還送スルノ便ヲ得ル迄領事官ノ請求ニ應シ且其ノ費用ヲ以テ地方ノ監獄ニ抑留シ置クヘシ、但シ逮捕ノ日ヨリ三箇月以内ニ還送ノ便ヲ得サルトキハ右脫船者ハ放免セラルヘシ而シテ右事件ノ爲メ再ヒ逮捕セラルルコトナカルヘシ

脫船者ニシテ若罪科ヲ犯シタルトキハ之ヲ管轄スル權アル裁判所ニ於テ其ノ判決ヲ下シ之ヲ執行スル迄ハ引渡ヲ延期スヘシ

第十三條

兩國船舶ノ航海中受ケタル總テノ損害ハ船舶所有者、荷主及保險者ノ間ニ特ニ契約シアル場合ヲ除キ該船舶カ任意ニ寄港シタルトキ避難ノ爲メ已ヲ得ス寄港シタルトキ間ハス總テ其ノ所屬國ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ニ於テ夫夫之ヲ決定スヘキモノトス

但シ領事官ニシテ該船舶若ハ積荷ニ對シ利害ノ關係ヲ有スル場合又ハ其ノ代理人タル場合及駐在國官廳ヨリ法律ノ許ス限リ一切ノ援助ヲ受クヘキモノトス但シ脫船者カ其ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

右逮捕ヲ求ムルニハ領事官ハ書面ヲ以テ夫

ニ於テ朕カ全權委員ト秘露共和國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及秘露共和國大統領閣下ハ兩國民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ米國駐劄帝國特命全權公使從四位勳四等栗野慎一郎ヲ秘露共和國大統領閣下ハ在米國代理公使「ホセー、エメ、イリゴイエンレ」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土内何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財産ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民或ハ人民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付内國臣民或ハ人民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ内國臣民或ハ人民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動産ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動産ノ相續竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財産ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土内ニ在リテ總テノ内地通關稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ全ク内國臣民或ハ人民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ領土内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦秘露國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又秘露國ノ諸港ヘ秘露國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又秘露國ノ諸港ヘ秘露國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ秘露國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又秘露國ノ諸港ヘ秘露國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ秘露國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又秘露國ノ諸港ヘ秘露國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又秘露國ノ諸港ヘ秘露國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ秘露

日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難波シ若ハ海岸ニ乘上ケタル祕露國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ日本國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又相互ノ主義ニ基キ祕露國ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乘上ケタル日本國船舶ニ關スル一切ノ救助ノ處分ハ祕露國法律ニ從テ之レヲ爲スヘシ

右難破若ハ乘上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ寶却シタルトキハ其ノ收得金、竝ニ該遭難船內ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ內國法律ニ定メタル期限內ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辨領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ內國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ爲メニ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲メニ費捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ領土內ニ於テ遭難ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民或ハ人民ニ必要ノ輔助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其場ニ在ルトキ雖モ右樣ノ輔助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十二條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又祕露國ノ國法ニ從ヒ祕露國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ祕露國船舶ト見認ムヘシ

第十三條

若締盟國ノ一方ニ屬スル軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ領土內ニ於テ脫船シタル場合ニハ右船舶所屬國ノ領事又ハ其ノ代理者ヨリ其ノ要求アレハ之ヲ逃脫シタルモノト知ルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土內ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及意匠ニ關シ內國臣民或ハ人民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十七條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル明治六年八月二十一日卽チ八百七十三年八月二十一日締結ノ修好通商航海條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無效ニ歸シ隨テ祕露國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ祕露國人民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十八條

本條約ハ明治三十二年七月十六日ヨリ實施セラルヘキモノトス而シテ其ノ日ヨリ七箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ六箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セシムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ日本國皇帝陛下ト祕露國議會ニテ可認セシ後祕露共和國大統領閣下トニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後八箇月以內ニ可成速ニ華盛頓ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ作ル

日本帝國特命全權公使

栗野慎一郎　印

祕露共和國代理公使

ホセー、エメ、イリゴイエン　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト祕露共和國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ普ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十六年明治二十九年十月三十日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及祕露國政府ハ日本國政府ニ於テ本日調印シタル通商航海條約ノ實施ニ先タチ新關稅則ヲ有效ナラシメムト欲スルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

明治六年八月二十一日締結ノ條約第五條ハ本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又祕露國ノ國法ニ從ヒ祕露國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ祕露國船舶ト見認ムヘシ

第十三條

若締盟國ノ一方ニ屬スル軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ領土內ニ於テ脫船シタル場合ニハ右船舶所屬國ノ領事又ハ其ノ代理者ヨリ其ノ要求アレハ之ヲ逃脫シタルモノト知ルヘシ

第十四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關シ其ノ一方ノ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニモ若シ別國ヘ無報酬ニ許與シタルトキハ無報酬ニ許與シタルトキハ其レト均一ノ條件ヲ附シテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十五條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土內ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及意匠ニ關シ內國臣民或ハ人民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十七條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル明治六年八月二十一日卽チ八百七十三年八月二十一日締結ノ修好通商航海條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無效ニ歸シ隨テ祕露國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ祕露國人民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十八條

本條約ハ明治三十二年七月十六日ヨリ實施セラルヘキモノトス而シテ其ノ日ヨリ七箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ六箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セシムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ日本國皇帝陛下ト祕露國議會ニテ可認セシ後祕露共和國大統領閣下トニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後八箇月以內ニ可成速ニ華盛頓ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ作ル

日本帝國特命全權公使

栗野慎一郎　印

祕露共和國代理公使

ホセー、エメ、イリゴイエン　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト祕露共和國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ普ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十六年明治二十九年十月三十日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及祕露國政府ハ日本國政府ニ於テ本日調印シタル通商航海條約ノ實施ニ先タチ新關稅則ヲ有效ナラシメムト欲スルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

日本國皇帝陛下ノ政府ハ祕露國政府ニ對シ日本國ニ輸入シ又ハ之ヘ輸出スル同種ノ貨物ニ對シテ現ニ賦課シ若ハ將來賦課スヘキ所ノ稅金ヨリ多額ノ稅金ヲ賦課スルコトナカルヘキコトヲ知ルヘシ

本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准交換ノ日ヨリ無效ニ歸シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ日本國皇帝陛下ト祕露國議會ニテ可認セシ後祕露共和國大統領閣下トニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ本條約調印後八箇月以內ニ可成速ニ華盛頓ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ本條約二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ作ル

日本帝國特命全權公使

栗野慎一郎　印

祕露共和國代理公使

ホセー、エメ、イリゴイエン　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト祕露共和國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年三月二十日華盛頓ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ普ク朕カ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十六年明治二十九年十月三十日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及祕露國政府ハ日本國政府ニ於テ本日調印シタル通商航海條約ノ實施ニ先タチ新關稅則ヲ有效ナラシメムト欲スルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

明治六年八月二十一日締結ノ條約第五條ハ本

第十三章　伯剌西爾國

㊀日伯修好通商航海條約（明治三十二年二月勅令）

朕明治二十八年十一月五日佛蘭西國巴里ニ於テ朕カ全權委員ト伯剌西爾合衆國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ヲ批准シ竝ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下ト伯剌西爾合衆國大統領閣下ハ兩國間竝ニ其ノ臣民及人民間ノ友好通商ノ關係ヲ永久堅固ノ基礎ニ置クコトヲ欲シ修好通商航海條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ在佛蘭西國特命全權公使從四位曾禰荒助ヲ伯剌西爾合衆國大統領閣下ハ在佛蘭西國特命全權公使「ドクトル、ガブリエール、ド、トレドチ、ビザア、エ、アルメダア」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

日本帝國ト伯剌西爾合衆國トノ間竝ニ兩國臣民及人民ノ間ニ永久堅固ノ和親アルヘシ

第二條

日本國皇帝陛下ハ適宜ニ其ノ外交官ヲ伯剌西爾合衆國ニ駐劄セシムルコトヲ得伯剌西爾合衆國政府モ亦適宜ニ其ノ外交官ヲ日本國ニ駐劄セシムルコトヲ得ヘシ又兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ領土內ニ於テ最惠國領事官ノ駐在ヲ許シタル各港各地ニ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ヲ駐在セシムルノ權利ヲ有スヘシ但シ總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ職務ヲ執行スルニ先チ常式ニ從ヒ其ノ任國政府ノ認可ヲ經ヘシ其ノ認可狀ハ無報酬ノモノトス

兩締盟國ノ一方ノ外交官及領事官ハ本條約ノ規定ニ從ヒ他ノ一方ノ領土內ニ於テ最惠國ノ同格ノ外交官及領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ權利、特典、特權及免除ヲ享有スヘシ

第三條

兩締盟國ノ領土及所屬地ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地內ノ各地、諸港及諸河

ニシテ最惠國臣民或ハ人民ノ到來ヲ許ス場所ヘハ其ノ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ且安全ニ到來スルノ權利ヲ有スヘシ又該臣民或ハ人民ハ最惠國臣民或ハ人民ノ在留居住ヲ許ス各地諸港ニ在留居住シ且其ノ地ニ於テ家屋倉庫ヲ借受ケ使用シ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及商品ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルコトヲ得ヘシ

諸種ノ財產ヲ得有、使用及讓與スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ最惠國臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ享クヘシ

第四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商航海旅行及居住ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ殊遇、特權若ハ免除ハ他ノ一方ノ臣民或ハ人民ニモ若シ別國ヘ無報酬ニテ許與シタルトキハ無報酬ニテ又若シ條件ヲ附シテ許與シタルトキハ其レト均一ノ條件ヲ附シテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第五條

伯剌西爾合衆國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ日本國ニ輸入シ又日本國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ伯剌西爾合衆國ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニシテ同樣ノ目的ヲ以テ輸入スルモノニ對シ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヨリ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ別國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ヲ輸入スルコトヲ禁止スルコトナカルヘシ

又兩締盟國ノ一方ノ領土若ハ所屬地ニ於テ別國ニ向ヒ同種ノ物品ノ輸出ヲ禁止セサレハ他ノ一方ノ領土若ハ所屬地ヘ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

內地通關稅、倉入、奬勵金、便金及稅金拂戾等ノ事項ニ就テハ兩締盟國ノ一方ノ領土及所屬地ニ在リテ總テ最惠國ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テスルカ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、燈臺稅、港稅、水先案內料、檢疫費、難船救助料其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス伯剌西爾合衆國ノ船舶ハ日本國諸港ニ於テ又日本國ノ船舶ハ伯剌西爾合衆國諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ同一ノ港ニ於テ現ニ最惠國船舶ニ賦課シ若ハ將來賦課スヘキモノニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ課セラルルコトナカルヘシ

第八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ相互ニ他ノ一方ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國ノ船舶ハ伯剌西爾合衆國ノ船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認ムヘシ

第九條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認ムヘシ

第十條

日本國若ハ其ノ領海ニ到來スル伯剌西爾合衆國人民及船舶ハ其ノ日本國若ハ其ノ領海ニ在ル間ハ日本國法律及其ノ裁判管轄權ニ服從スヘシ又之ト均シク伯剌西爾合衆國若ハ其ノ領海ニ到來スル日本國臣民及船舶ハ伯剌西爾國法律及其ノ裁判管轄權ニ服從スヘシ

第十一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ相互ニ他ノ一方ノ領土及所屬地內ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シ完全ナル保護ヲ享受シ其ノ正當ナル權利ヲ執行シ及防護セムカ爲メ自由ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ內國臣民或ハ人民ト同樣ニ辯護人及代理人ヲ使用スルノ自由ヲ有スヘシ該臣民或ハ人民ハ互心ニ關シ完全ナル自由及現行法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第十二條

兵員宿泊ノ義務、陸海軍ノ強迫兵役、軍事上ノ賦欵若ハ強募公債ニ關シテハ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ領土及所屬地內ニ於テ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、免除及特權ヲ享有スヘシ

第十三條

本條約ハ批准交換後直ニ實施セラルヘシ而シテ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十四條

本條約ハ日本文、葡萄牙文及佛蘭西文各二通ニ調印スヘシ而シテ若シ日本文ト葡萄牙文ト齟齬スル所アリタル場合ニハ佛蘭西文ニ依テ之ヲ決スヘシ

佛蘭西文ハ兩國政府ニ於テ之ニ遵依スヘキモノトス

第十五條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ巴里ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ雙方ノ全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十八年即チ西曆千八百九十五年十一月五日巴里ニ於テ六通ヲ作ル

曾禰荒助　印

ガブリエール、ドートレドラビザア、セ、アルメサダア　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト伯剌西爾合衆國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十八年十一月五日巴里ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十六年明治二十九年四月七日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　陸奥宗光　印

第十四章　瑞典諾威國

●日瑞諾通商航海條約及別約（明治三十年五月）

朕明治二十九年五月二日瑞典國「ストツコルム」ニ於テ朕カ全權委員ト瑞典諾威國全權委員トノ調印シタル通商航海條約及別約ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及瑞典諾威國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益トヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メニ日本國皇帝陛下ハ瑞典諾威國駐劄帝國特命全權公使從三位西德二郎ヲ瑞典諾威國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣伯爵「ルウイ、ギーヨーム、オーギユスト、ドウグラー」ヲ各其全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ國ノ法律ニ遵由シ何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ良心ニ關シ完全ナル自由及法律、勅令及規則ニ從テ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カルヘシ但シ最惠國ノ臣民或ハ人民ニシテ同性質ノ義務ヲ負擔スル場合ハ此ノ限ニ在ラス又其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債ヲ免カルヘシ

第二條

兩締盟國ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代

理人ナリ以テ又ハ一人ニテ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテ之ヲ爲メモ竝ニ又ハ
ク又家屋、倉庫ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用
シ且住居及商業ノ爲メニ土地ヲ借受ケルコトヲ得
但シ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣其ノ國ノ法律、
警察規則及稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス
該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ノ各地、諸港及諸河ニ
シテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ
船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ
關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ
何等施設ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課
セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱
ノ如何ヲ論セス最惠國ノ臣民或ハ人民ノ拂フ所ニ
異ナリ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク最惠
國ノ臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノト
ス
但シ本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ各方ニ於テ商
業、警察及公安ニ關シ現ニ行ハルル特別ノ法律、
勅令及規則ニシテ外國人一般ニ適用スヘキモノニ
ハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

第三條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於ケル他ノ一方ノ臣民
ノ家宅、倉庫、店舖及住居若ハ商業ノ用ニ供スル
建造物ハ侵スヘカラス
右家宅、倉庫、店舖等ヘハ猥ニ侵入捜索スカヘラ
ス又帳簿、書類或ハ源記帳ヲ檢査點閱スヘカラス
但シ內國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定
セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物
品ヲ何レノ地ヨリ瑞典諾威國皇帝陛下ノ版圖內ニ
輸入シ又瑞典諾威國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ
製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ
版圖內ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ
係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之
ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ
又締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ
係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ
版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ
地ヨリ輸入スルコトモ禁止スルコトナカルヘシ
但シ此ノ末段ノ取極ハ人身ノ安寧竝ニ家畜ノ保護
及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル衞生上及
其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヨリ他ノ一方ノ版圖內ヘ
輸出スル一切ノ物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ
仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルト
ヲ問ハス締盟國ノ版圖內ニ於テハ之ニ課スル內國
一ノ輸出稅ヲ以テ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ
稅金拂戻ノコトヲ以テスヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リ
テ總テノ內地通過稅ヨリ免除セラルル所ノ噸稅、
勤金、便益及稅金拂戻等ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ
以テ適法ニ輸入シ若ハ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ
物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト瑞典諾威國
ノ船舶ヲ以テスルトヲ問ハス又其ノ輸入ノ原產地
又ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナ
カルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テハ他ノ
一方ノ版圖內ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲ禁
止セサルヘシ

第八條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ
名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲メニ課セラルル所
ノ噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其ノ
他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘
ハラス同一ノ條件ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船
舶一般ニ若ハ最惠國ノ船舶ニ課スルモノニ非サレ
ハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖內ノ港ニ於テ之ヲ他
ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱
ハ兩國ノ船舶カ何レノ地ヨリ來リ又何レノ所ニ往
クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第九條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港、海灣、船渠、川
河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物

ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ內國船
舶ニ許與セサル特典ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ
船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩
締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ
取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限
ニ在ラス日本國及瑞典諾威國ノ法律、勅令及規則
ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ瑞典諾威
國皇帝陛下ノ版圖內ニ於ケル日本國臣民又ハ日本
國皇帝陛下ノ版圖內ニ於ケル瑞典諾威國臣民ハ此
ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ヲ以テ他
ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ
諸權利ヲ享有スルモノトス
瑞典諾威國皇帝陛下ノ版圖內ノ二箇以上ノ港ヘ仕
向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶
及日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ二箇以上ノ港ヘ仕向
ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル瑞典諾威國船
舶ハ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ
積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル
荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進
航スルコトヲ得ヘシ但シ常ニ兩國ノ法律及稅關規
則ニ從フヘキモノトス
但シ日本國政府ハ本條約ノ期限關是迄ノ通リ瑞典
諾威國船舶カ帝國ノ現開港場間ニ積荷ヲ運搬スル
コトヲ許スコトヲ承諾ス尤大阪、新潟及兵港ハ此
限ニ在ラス

第十一條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其
ノ他ノ危難ニ遭遇シ避難ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一
方ノ何レノ海港ニ進入スルモ內國船舶ノ拂フヘキ
稅金ノ外何等ノ稅金ヲ拂フコトナク其ノ港ニ於テ
修繕ヲ爲シ一切ノ需用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ
得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨ス
ル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニ
ハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スキモ
ノトス
兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ
沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上方官ヨリ其ノ事件ノ生
事、領事、副領事又ハ
ヘシ但シ若其ノ地方ニ
最近地方ノ總領事、領
通知スヘシ
瑞典諾威國皇帝陛下ノ
乘上ケタル日本國船舶
ハ瑞典諾威國法律、勅
ク又相互ノ主義ニ基キ
雖破シ若ハ海岸ニ乘上
スル一切救助ノ手續ハ
從テ之ヲ爲スヘシ
右雖破若ハ乘上ケタル船舶ノ
一切ノ附屬品及該船舶ニ
品及右等ノ諸物件ニシテ
ノ又ハ之ヲ竇却シタル
雖船內ニ發見セラレタル
主或ハ代理人ヨリ要求ス
右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ內國法
律ニ定メタル期限內ニ當該總領事、領事、副領事
或ハ代辨領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シ
テ右領事官、持主或ハ代理人ハ內國船舶雖破ノ場
合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ雖破救助費
及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス
但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルト
キハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於
テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通
商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ
別國ノ政府、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來

許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十五條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス

然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、商標及意匠ニ關シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十七條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル明治元年九月二十七日即千八百六十八年十一月十一日締結ノ修好通商航海條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ右期日ヨリ該條約及諸約定ハ總テ無效ニ歸シ隨テ瑞典諾威國ノ裁判所カ日本國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ瑞典諾威國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ別ニ通知ナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十八條

本條約ハ調印ノ日ヨリ三箇年ノ後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ瑞典諾威國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此通知ハ調印ノ日ヨリ二箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ六箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ瑞典諾威國政府ニ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタル時ニ於テ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成短期日内ニ如何ナル場合タリトモ本條約調印後十二箇月内ニ東京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ佛蘭西文ノ本條約書二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十九年五月二日ヲ以テ千八百九十六年五月二日「ストツコルム」ニ於テ作ル

西　德二郎　印

ドウグラー　印

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル明治元年九月二十七日即千八百六十八年十一月十一日締結ノ修好通商航海條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ右期日ヨリ該條約及諸約定ハ總テ無效ニ歸シ隨テ瑞典諾威國ノ裁判所カ日本國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ屬シ又ハ其ノ一部トシテ瑞典諾威國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ別ニ通知ナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判管轄權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十八條

本條約ハ調印ノ日ヨリ三箇年ノ後迄ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ瑞典諾威國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス尤此通知ハ調印ノ日ヨリ二箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ六箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ瑞典諾威國政府ニ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタル時ニ於テ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十九條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成短期日内ニ如何ナル場合タリトモ本條約調印後十二箇月内ニ東京ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ佛蘭西文ノ本條約書二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十九年五月二日ヲ以テ千八百九十六年五月二日「ストツコルム」ニ於テ作ル

西　德二郎　印

ドウグラー　印

第二　瑞典諾威國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印シタル通商航海條約實施ノ日ヨリ各外國人居留地ヲ全ク其ノ所在ノ日本市區ニ編入シ而シテ其ノ編入ヲ行フタル上ハ該居留地ハ日本地方組織ノ一部ヲ爲シ當該官廳ハ之ニ關シテ其ノ地方施政上ノ責任及義務ヲ悉皆負擔シ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ關スル共有資金及財産ハ右日本官廳ヘ引渡スヘキコトヲ承諾ス

第三　日本國政府ハ瑞典諾威國臣民ニ對シ内國ヲ開クノ迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意ス即瑞典諾威國臣民カ在東京同國公使若ハ日本國開港場ニ駐在スル瑞典諾威國領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月以内ノ期限間國内何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地地方長官ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ内地ニ旅行スル瑞典諾威國臣民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保擬スヘキモノト知ルヘシ

第四　本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供スヘシ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ揭載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ佛蘭西文ノ議定書二通ニ記名調印スルモノナリ

明治二十九年五月二日即チ西曆千八百九十六年五月二日「ストツコルム」ニ於テ之ヲ作ル

西　德二郎　印

ドウグラー　印

別約

瑞典諾威國ト露西亞國及丁抹國トノ關係ハ或ル事項ニ依リテハ全ク一地方限ノ性質ヲ有スルモノニシテ一般ノ外國通商航海ノ關係ヲ有セサル規定ヲ要スルニ因リ兩締盟國ハ千八百三十八年（四月二十六日、五月八日）瑞典諾威國ト露西亞國トノ間ニ締結シタル條約中ニ包含セラルヽ所ノ特別ナル條款及其ノ他前記諸那トノ條約ヲ以テ兩締盟國ノ間ニ約定シタル通商航海ノ關係ヲ變更スルカ爲メニ之ヲ引用スルコト能ハサルヲ以テ茲ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及和蘭國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇限增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲メ日本國皇帝陛下ハ和蘭國駐劄帝國辨理公使正五位勳五等赤羽四郎ヲ和蘭國皇帝陛下及同皇帝ノ名ヲ以テスル和蘭王國攝政皇后陛下ハ其ノ外務大臣子ザールト、ヨンクヘール、セ、ルエル、水利商工務大臣ピー、エッチ、ダブルユー、ファン、デル、スライデン、大藏大臣子ザーランド、ライオン勳章ノ「ナイト」ピー、スプレンゲル、ファン、アイク、殖民大臣子ザーランド、ライオン勳章ノ「コンマンダー」ゼ、エッチ、ベルケスマ及司法大臣子ザーランド、ライオン勳章ノ「ナイト」ダブルユー、ファン、デル、カーイフ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

神武天皇即位紀元二千五百五十七年明治三十年四月十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御　名　國　璽

外務大臣伯爵　大　隈　重　信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及瑞典諾威國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ瑞典諾威國臣民カ日本國ニ於テ實施スル所ノ輸入貨物及商品ニ關シ現今日本國ニ於テ實施スル所ノ輸入稅目ハ無效ニ歸スヘキモノタルコトニ同意スルモ而シテ右稅目ノ無效ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル瑞典諾威國ノ皇帝陛下ノ領地ノ生產若ハ製造ニ係ル貨物ニ對シテハ日本國ノ國法ヲ以テ制定セラレ其ノ時現ニ行ハルル所ノ普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル千八百六十八年條約ノ有效ナル間ハ其ノ第二十六條ノ規定ニ準據シ又右千八百六十八年十一月十一日ノ條約無效ニ歸シタル後ハ本日調印シタル條約第四條ノ規定ニ準據スヘキモノトス然レトモ日本國政府ニ於テ純粗ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫眞及其ノ他總テ專賣特許、商標及版權ニ關スル日本國ノ法律ニ違背スル物品又ハ其ノ他總テ衛生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルノ權利ハ本議定書ノ爲メ制限セラルルコトナカルヘキ

第十五章　和蘭國

㉑日蘭通商航海條約（明治三十年九月勅令）

外務大臣伯爵　大隈重信　印

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ受ケ而シテ其ノ旅行シ或ハ住居スルモ全ク土著臣民ト同樣ノ義務ニ服スルモノトス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ動產及不動產ヲ問ハス凡テノ財產ヲ取得シ之ヲ所有シ賣買シ又ハ遺贈ヲ以テ之ヲ處分スルノ權利ヲ有シ且ツ其ノ國民ニ許シ又ハ許スヘキ一切ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ權利ヲ有シ且ツ其ノ國民ニ課セラルヘキ一切ノ租稅ヲ免カレ且其ノ國民ニ課セラルヘキ一切ノ強迫公債ニ應スルノ義務ヲ負フコトナシ

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ニ住所ヲ有シ又ハ營業ヲ爲ス和蘭國臣民ハ日本國ノ法律ニ從ヒ其ノ身體及財產ニ對シ保護ヲ受ケ且日本國臣民ト同一ノ權利ヲ有ス

和蘭國皇帝陛下ノ版圖內ニ住所ヲ有シ又ハ營業ヲ爲ス日本國臣民ハ和蘭國ノ法律ニ從ヒ其ノ身體及財產ニ對シ保護ヲ受ケ且和蘭國臣民ト同一ノ權利ヲ有ス

第八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第九條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第十九條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第二十九條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

第三十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ財產ヲ賣却シ又ハ贈與ヲ爲シ又ハ遺言ヲ以テ之ヲ處分スルノ場合ニ於テハ土著臣民ト同一ノ條件ニ服スルノ外土著臣民ト同一ノ租稅ヲ納メ且土著臣民ト同一ノ義務ヲ負フコトナシ

年七月十六日後ニ何時ニテモ發ス可キ旨ヲ通知シタル後ニ非サレハ本條約ノ廢棄ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准ス其ノ批准ノ書類ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ノ書類ヲ交換シタル日ヨリ十二箇月ノ後ニ實施セラルヘシ

第二十一條　本條約ハ兩締盟國ノ一方ヨリ他ノ一方ニ對シ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過スルニ非サレハ其ノ效力ヲ失ハス

兩締盟國ノ一方ハ何時ニテモ本條約ノ變更ヲ要求スルノ權利ヲ有ス此要求ヲ受ケタル他ノ一方ハ之ニ應スルノ義務ヲ負フ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十九年七月十六日ニ當リ東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

（印）　青木周藏

（印）　羽田亀次郎

（印）　ヤン、ヘンドリック、スヘルステーヘン

（印）　ヘンドリック、ヘンドリック、ファン、ヘルデン

（印）　ヘンドリック、ヘンドリック、ファン、ヘルデン

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミ朕カ臣民ノ權利ヲ保全シ其ノ福利ヲ增進スヘキハ朕カ重大ノ責務ニシテ即チ曩ニ制定シタル憲法ノ條章ニ遵由シ玆ニ帝國議會ノ協賛ヲ經テ新ニ貴族院令ヲ定メ之ヲ公布セシム

貴族院ハ皇族及勅任セラレタル者ヲ以テ組織ス

貴族院ハ前項ノ外ニ於テ左ノ各項ニ該當スル者ヲ以テ組織ス

一　公爵侯爵ニシテ成年ニ達シタル者

二　伯爵子爵男爵ニシテ其ノ爵ヲ有スル者ノ中ヨリ同爵者ノ互選ヲ以テ選定セラレタル者

三　國家ニ勳勞アル者又ハ學識アル者ノ中ヨリ勅任セラレタル者

四　各府縣ニ於テ多額納稅ノ者ノ中ヨリ勅任セラレタル者

五　帝國學士會院會員

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ議長副議長及常置委員ヲ置ク

貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ從ヒ其ノ會期ヲ延長シ又ハ停會ヲ命セラルルコトアルヘシ

貴族院ハ衆議院ト同一ノ時ニ解散セラルルコトアルヘシ

貴族院ハ衆議院ト同一ノ權限ヲ有ス

貴族院ニ於テ發生シタル法律案ハ衆議院ニ於テ發生シタル法律案ト同一ノ手續ヲ經ルニ非サレハ之ヲ兩議院ノ一ニ於テ可決シタルモノト爲スコトヲ得ス

兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同一ノ會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

兩議院ハ各〻其ノ議員ノ資格ニ關スル爭訟ヲ裁判ス

兩議院ハ各〻其ノ議長副議長及其ノ他ノ役員ヲ選舉ス

兩議院ハ各〻其ノ會議及議事ノ手續竝內部ノ規律ニ關スル規則ヲ定ム

兩議院ハ各〻其ノ會議ヲ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

兩議院ハ各〻其ノ會議ノ記事ヲ保存シ且之ヲ公表ス但シ秘密會ニ關スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六章　瑞西國

日瑞修好居住通商條約

（明治三十年九月）

（勅令）

明治二十九年十一月十日瑞西國「ベルヌ」ニ於テ朕カ全權委員ト瑞西國全權委員ノ記名調印シタル修好居住通商條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本及瑞西修好居住通商條約

日本國皇帝陛下及瑞西聯邦政府ハ兩國間ノ交際ヲ擴張增進シ以テ幸ニ其ノ間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ以テ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ瑞西聯邦政府ノ下ニ駐劄スル特命全權公使高平小五郎ヲ瑞西聯邦政府ハ商工農務省長官「アドルフ、ドウシエー」ヲ各其全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好公當ナルヲ認メ以テ左ノ條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ間ニハ永世ノ平和無窮ノ親睦アルヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ關シ該臣民或ハ人民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ移轉竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ眞心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ且法令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フコトヲ得ヘク竝ニ其ノ宗教上ノ儀習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民或ハ人民ヲシテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ內國臣民或ハ人民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルコトヲ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテハ內國臣民或ハ人民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

兩締盟國ノ間ニハ永世ノ平和無窮ノ親睦アルヘシ

日本國皇帝陛下及瑞西聯邦政府ハ兩國間ノ交際ヲ擴張增進シ以テ幸ニ其ノ間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ以テ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ瑞西聯邦政府ノ下ニ駐劄スル特命全權公使高平小五郎ヲ瑞西聯邦政府ハ商工農務省長官「アドルフ、ドウシエー」ヲ各其全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好公當ナルヲ認メ以テ左ノ條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ間ニハ永世ノ平和無窮ノ親睦アルヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ關シ該臣民或ハ人民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ移轉竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ眞心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ且法令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フコトヲ得ヘク竝ニ其ノ宗教上ノ儀習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民或ハ人民ヲシテ內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、鹽國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公償及軍事上ノ賦斂或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第三條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ通商ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民或ハ人民ト組合ヲ結ヒテ之ヲ爲スモ隨意タルヘク又必要ナル家屋、製造所、工場、倉庫、店舖及附屬構造物ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居ノ爲メ及商工業ヲ營ム爲ニ土地ヲ借受クルコトヲ得、但シ內國臣民或ハ人民ト同樣其ノ國ノ法律、警察規則及稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民或ハ人民ハ工業通商及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス內國若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國若ハ最惠國臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス但シ常ニ其ノ國ノ法令及規則ニ從フヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於ケル他ノ一方ノ臣民或ハ人民ノ住宅、製造所、工場、倉庫、店舖竝ニ住居ト商工業ノ用ニ供スルト ニ論ナク總テ之ニ附屬スル土地ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ簿記帳ヲ檢査點閱スヘカラス但シ內國臣民或ハ人民ニ對シ法令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ハ何レノ地ヨリ瑞西聯邦ノ版圖內ニ輸入シ又瑞西聯邦ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖內ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係レル同種ノ物品ニ課スルヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ別國ノ非サレハ他ノ一方ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニモ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヨリ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖內ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ人民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ總テノ內地通過稅ハ免除セラルヘク又最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、臣民或ハ人民ニ已ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、臣民或ハ人民ニモ卽時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ到ル他ノ一方ノ商人、工業者及旅商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有稅物品ニシテ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メラレタル期日內ニ資捌カレス再ヒ輸出スル分ニ對シテハ右再輸出ノ爲メ又ハ稅關倉庫ヘ送戻スル爲ニ必要ナル稅

使用セラルル限ハ總テノ租稅及徵收金ヲ免スヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

但シ若是等ノ事項ニ關シ尙ホ便益ナル條件ヲ他ノ外國ニ許與スルニ於テハ右條件ハ更ニ約定ヲ要セスシテ和關國臣民ニモ均シク適用セラルヘキモノト知ルヘシ

第四條

本日調印シタル通商航海條約ノ實施ト共ニ和關國ノ裁判官カ日本國ニ於テ現今執行スル所ノ裁判權ハ終了スヘシト雖本條約實施ノ時ニ方リ現ニ審理中ノ事件アルトキハ右事件最終ノ判決ニ至ル迄ハ該裁判權ノ執行ヲ繼續スヘキモノト知ルヘシ

第五條

左ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ハ本日調印シタル通商航海條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ揭載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治二十九年九月八日卽西曆一千八百九十六年九月八日「ヘーケ」ニ於テ本書二通ヲ作ル

赤羽四郎　印

ゼ、ルエル　印

ファン、デル、スライデン　印

スプレンゲル、ファン、アイク　印

ベルかスマ　印

ファン、デル、カーイ　印

內ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、工業ノ意匠及雛形、商標、製造標、商號竝ニ文學、美術ニ關シ內國臣民或ハ人民ト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第十二條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意ス

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ夫夫其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ留後日本國普通市區組織ノ一部トナルヘシ

然ルト雖モ日本國當該官廳ハ之ニ關シテ其ノ市區施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若ハ財產アルトキハ之ヲ右日本國官廳ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地內ニ於テ現ニ因テ以テ財產ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財產ニ對シテハ右借地券ニ載セタルモノノ外ハ其ノ性質ノ如何ニ論ナク何等ノ租稅、賦課金モ徵收セス又何等ノ條件モ附スルコトナカルヘシ

前記不動產ノ占有權ハ從來或ル場合ニ於ケルカ如ク領事官廳若ハ日本國官廳ノ認可ヲ要スルコトナクシテ自由ニ之ヲ日本國人若ハ外國人ニ讓渡スルコトヲ得ヘシ

但シ前記借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本國當該官吏ヲ以テ之ニ代ユヘキコト知ルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲ニ無借料ニテ日本國政府ヨリ既ニ貸與シタル各地所ハ總テノ租稅及徵收金ヲ課スルコトナク最初貸與シタルトキノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

第十三條

日本國皇帝陛下ノ政府及瑞西聯邦政府ハ本日調印セシ修好居住通商條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　本條約第二條ニ關シ　日本國政府ハ瑞西聯邦人民ニ對シ內國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトナク最初貸與シタルトキノ目的ニ同意ス卽瑞西聯邦人民カ在日本同聯邦代表者若ハ同聯邦領事官ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月以內ノ期限間國內何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地地方長官ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ內地ヲ旅行スル瑞西聯邦人民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保續スヘキモノト知ルヘシ

第二　本條約第五條ニ關シ　兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル修好居住通商條約批准交換後六箇月ノ後ハ瑞西聯邦人民カ日本國ニ輸入スル貨物及商品ニ關シ現今實施シ居ル所ノ輸入稅目ハ無效ニ歸スヘキモノタルコトニ同意ス而シテ右稅目ノ無效ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル瑞西聯邦領地ノ生產若ハ製造ニ係ル貨物又ハ商品ニ對シテハ日本國ノ國法ヲ以テ制定セラレタル所ノ普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル千八百六十四年條約ノ有效ナル間ハ其ノ第十六條ノ規定ニ準據シ又千八百六十四年條約ノ無效ニ歸シタル後ハ本日調印シタル條約第五條ノ規定ニ準據スヘキモノトス然レトモ日本國政府ニ於テ純良ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飮料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫眞及其ノ他總テ猥褻ノ物品、專賣特許、製造標又ハ版權ニ關スル日本國皇帝陛下ノ政府ノ法律ニ違背スル物品又ハ其ノ他衞生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルノ權利ハ本議定書ノ爲メ制限セラルルコトナカルヘキモノトス

第三　本條約第十一條ニ關シ　日本國政府ハ日本國ニ於ケル瑞西聯邦領事裁判權ノ廢止ニ先タチ千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護條約及千八百八十六年九月九日「ベルヌ」ニ於テ調印セラレタル萬國文學美術保護條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第四　本條約第十四條ニ關シ　本條約ハ全然實施ノ時期ニ至リ日本國ニ於ケル瑞西聯邦領事裁判權ハ廢止セラルヘシト雖本條約實施ノ當時未決ノ各事件ハ其ノ確定ニ至ルマテノ間ハ瑞西聯邦裁判官ニ於テ依然其ノ裁判權ヲ執行スヘシ

下ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ハ本日調印シタル修好居住通商條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ揭載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキモノタルコトヲ約ス

千八百九十六年十一月十日「ベルヌ」ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ドウシエー　印

㊁日西修好交通條約（明治三十年九月締令）

朕明治三十年一月二日西班牙國「マドリツド」ニ於テ朕カ全權委員ト西班牙國全權委員ノ記名調印シタル修好交通條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日西修好交通條約

日本國皇帝陛下及西班牙國皇帝陛下竝ニ同皇帝陛下ノ名ヲ以テスル攝政皇后陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ益〻增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ修好通商及航海條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ伊太利國駐劄帝國特命全權公使正四位勳二等栗野愼一郎ヲ西班牙國皇帝陛下ハ國務大臣「デューク、チフ、テチュアン」「マーギス、チフ、アルタミラ」「カウント、チフ、ルケナ」西班牙國「グランデー」上院議員陸軍少將侍從「チヤーレス第三世ゼ、カラー、チフ、ゼ、ローヤル、エンド、ヂスチンクイシド、チルダー」「ナイト、グランド、クロッス、チフ、ゼ、ミリタリー、チルダー、チフ、セント、ヘルメ子ギルド」「葡萄牙國ゼ、カラー、チフ、ゼ、チルダー、チフ、ゼ、タワル、エンド、スヰード」「匈牙利國ナイト、グランド、クロッス、チフ、ゼ、チルダー、チフ、セント、スチーヴン」「伊太利國ナイト、グランド、クロッス、チフ、ゼ、チルダー、チフ、セント、モーリス、エンド、ラザール」「白耳義國ナイト、グランド、クロッス、チフ、ゼ、チルダー、チフ、レチポルド」「ナイト、グランド、クロッス、チフ、ゼ、チルダー、チ

知シタル後一箇年ヲ經テ實施セラルヘキモノトス尤此ノ通知ハ千八百九十八年七月十六日後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第十六條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ「ベルヌ」ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本條約書ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年十一月十日「ベルヌ」ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ドウシエー　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト瑞西共和國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十九年十一月十日「ベルヌ」ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好居住通商條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十七年明治三十年四月十六日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

第十七章　西班牙國

フ、セ、ナスマニック」「ドン、カルロス、チド子ル、イ、アブルー」チ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀チ示シ其ノ眞好妥當ナルチ認メ以テ左ノ諸條チ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護チ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利チ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトチ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利チ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人チ選擇シ且使用スルコトチ得ヘク而シテ右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典チ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有、遺囑又ハ其ノ他ノ方法ニ因ル所ノ動產ノ相續竝ニ合法ニ得ル所ノ各種財產チ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利チ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金チ徵收セラルルコトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ各其ノ國ノ法律、勅令及規則ニ從テ禮拜チ行フノ權利チ享有シ且同樣ノ條件チ以テ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人チ埋葬スルノ權利チ享有スヘシ

何等ノ名義チ以テスルモ該臣民チシテ內國臣民若ハ最惠國ノ臣民及人民ノ納ムル所若ハ納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅チ納メシムルチ得ス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役チ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金チ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵或ハ捐資チ免カルヘシ

第三條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內何レノ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役チ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金チ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵或ハ捐資チ免カルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ住居若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舖及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ證記帳チ檢査點閱スヘカラス但シ內國臣民ニ對シ法律、勅令及規則チ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此限ニ在ラス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ總テノ內地通過稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ全ク內國臣民ト均等ノ取扱チ享クヘシ

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ輸入セラルル所ノ他ノ一方ノ版圖內ノ商品ヘハ其ノ國稅タルト地方稅タルトニ論ナク內地ノ生產ニ係ル同種ノ商品ニ賦課スルモノヨリ多額ノ內國稅若ハ入市稅チ賦課スルコトナカルヘシ

或種ノ貨物若ハ商品ニ對スル輸入稅ハ兩國ノ何レノ一方ニ於テモ其ノ內國稅ニ關スル制度ニ依リ同一ノ貨物若ハ商品ニ對シ賦課スル所ノ割合ニ應シ增額スルチ得ヘシ

第六條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ヘ日本國ノ船舶チ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦西班牙國ノ船舶チ以テ同一ノ條件チ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖內ノ港ニ於テ之チ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義チ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件チ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖內ノ港ニ於テ之チ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ內國船舶ニ課スル所ノ稅金雜費等ノ名義チ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等チ課セサルヘシ

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱チ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト西班牙國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトチ問ハス締盟國ノ版圖內ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅チ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金拂戻ノコトチ以テスヘシ

第九條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之チ規定スヘキモノトス

然レトモ西班牙國皇帝陛下ノ版圖內ニ於ケル日本國皇帝陛下ノ版圖內ニ於テハ各右法律、勅令及規則チ以テ他ノ外國臣民ニ與セラルヘキ諸權利チ享有スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ其ノ事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ其ノ旨チ通知スヘシ但シ若其ノ地方ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最近地方ノ領事官ヘ通知スヘシ

西班牙國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乘上ケタル日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ西班牙國法律、勅令及規則ニ從テ之チ爲スヘク又相互ノ主義ニ基キ日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乘上ケタル西班牙國船舶ニ關スル一切ノ救助ノ處分ハ日本國法律、勅令及規則ニ從テ之チ爲スヘシ

右難破若ハ乘上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之チ資卸シタルトキハ其ノ收得金竝ニ該遭難船內ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ內國法律ニ定メタル期限內ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辨領事ヨリ請求アレハ之チ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ內國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミチ拂フヘキモノトス

右難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ消費ノ爲メ通關手續チ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅チ免除スヘシ但シ消費ノ爲ニ實捌ク場合ニハ普通ノ關稅チ納ムルチ要スルモノトス

外何等ノ名義チ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等チ課セサルヘシ又西班牙國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ヘ西班牙國ノ船舶チ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦日本國ノ船舶チ以テ同樣ニ之チ右諸港ヘ輸入スルコトチ得此ノ場合ニ於テハ西班牙國船舶カ右樣ノ物品チ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義チ以テスルモ該臣民チシテ內國臣民若ハ最惠國ノ臣民及人民ノ納ムル所若ハ納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ稅金雜費等チ課セサルヘシ

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱チ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト西班牙國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトチ問ハス締盟國ノ版圖內ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅チ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金拂戻ノコトチ以テスヘシ

第七條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義チ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件チ以テ同樣ノ場合ニ於テ內國船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖內ノ港ニ於テ之チ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ兩國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ內國船舶ニ課スル所ノ稅金雜費等チ課セサルヘシ又西班牙國皇帝陛下ノ版圖內ノ各地、諸港及諸河ニ於テ商業、警察及公安ニ關シ實施セラルル所ノ法律、勅令及特別規則ニシテ外國人一般ニ適用スヘキモノチ無效ニ歸セシムルコトナキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ住居若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舖及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ侵スヘカラス

右家宅等ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ證記帳チ檢査點閱スヘカラス但シ內國臣民ニ對シ法律、勅令及規則チ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此限ニ在ラス

第五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ總テノ內地通過稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ全ク內國臣民ト均等ノ取扱チ享クヘシ

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ輸入セラルル所ノ他ノ一方ノ版圖內ノ商品ヘハ其ノ國稅タルト地方稅タルトニ論ナク內地ノ生產ニ係ル同種ノ商品ニ賦課スルモノヨリ多額ノ內國稅若ハ入市稅チ賦課スルコトナカルヘシ

或種ノ貨物若ハ商品ニ對スル輸入稅ハ兩國ノ何レノ一方ニ於テモ其ノ內國稅ニ關スル制度ニ依リ同一ノ貨物若ハ商品ニ對シ賦課スル所ノ割合ニ應シ增額スルチ得ヘシ

第六條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ諸港ヘ日本國ノ船舶チ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦西班牙國ノ船舶チ以テ同樣ニ之チ右諸港ニ輸入スルコトチ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品チ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ淺瀨ニ乘上ゲ或ハ難破シタルトキ其ノ持主、船長若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ補助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其ノ場ニ在ルトキト雖右權ノ補助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十一條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又西班牙國ノ國法ニ從ヒ西班牙國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ西班牙國船舶ト見認ムヘシ

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ自國ノ脫船人ヲ取戻ス爲メ法律ノ許ス所ノ輔助ハ之ヲ地方官ヨリ受クヘキモノトス

但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十三條

兩締盟國ノ一方ノ旅商ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ特許若ハ免許ニ關シ最惠國ノ旅商ニ現ニ許與シ若ハ將來許與セラルヘキモノト同一ノ權利及特典ヲ享受スルモノトス

該旅商ニシテ締盟國ノ一方ニ見本品ヲ輸入スルニ方リ關稅ヲ納付シ若ハ金圓ヲ預ケ入レタル者ハ其ノ國ノ稅關ニ關スル法律、勅令及規則ニ據リ必要ナル手續ヲ履行スルニ於テハ再輸出若ハ倉庫ヘ再倉入ノ時ニ於テ右稅金若ハ預入金ノ拂戻ヲ受クルヲ得ヘキモノトス

第十四條

兩締盟國ハ各其ノ一方ノ通商及航海ヲ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ本國ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ又ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、船舶又ハ臣民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

但シ本條ノ規定ハ兩締盟國カ他國ト現ニ締結シ若ハ該居留地内ニ於テ現ニ因テ以テ財產ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ヲ有效ノモノト確認セラルヘシ或ハ將來締結スヘキ關稅ニ關スル約定ニ對シテハ又西班牙國カ葡萄牙國若ハ西班牙亞米利加諸共和國ニ對シ保留スル所ノ特別ノ利益ニ及ホササルモノニ對シテモ亦適用セサルモノトス

第十五條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事及代辨領事ヲ置ク事ヲ得ヘキモノトス但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス

他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スル總領事、領事、副領事及代辨領事ハ一切ノ職務ヲ執リ且一切ノ特權及免除ニ關シ最惠國ノ旅商ニ現ニ許與シ若ハ將來許與セラルヘキ一切ノ權利及特典ヲ享有スヘキモノトス

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ノ駐在國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ若ハ將來許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第十七條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意ス

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ全ク其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國地方組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ之ニ關シテ其ノ市區施政上ノ責任義務ヲ悉皆負擔スヘシ又之ト同時ニ右外國人居留地ニ屬スル共有資金若ハ財產アルトキハ之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス

尤前記外國人居留地ヲ日本國市區ニ編入ノ場合ニハ該居留地内ニ於テ現ニ因テ以テ財產ヲ所持スル所ノ現在永代借地券ヲ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右財產ニ對シテハ右借地券ニ載セタル條件ノ外ハ別ニ何等ノ條件ヲモ附セサルヘシ但シ借地券中ニ領事官トアルハ總テ日本國當該官吏ヲ以テ之ニ代ユヘキコトト知ルヘシ

外國人居留地公共ノ目的ノ爲ニ無借料ニテ日本國政府ヨリ既ニ貸與シタル各地所ハ總テノ租稅及徵收金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

第十八條

本條約ノ規定ハ法律ノ許ス限ハ西班牙國ノ海外領地ニ適用スヘシ

第十九條

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル明治元年九月二十八日即一千八百六十八年十一月十二日締結ノ修好通商航海條約及同日附ノ追加條項竝ニ之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ該條約及諸約定ハ右期日ヨリ總テ無效ニ歸シ隨テ西班牙國カ日本帝國ニ於テ執行シタル裁判權及該權ニ關シ又ハ其ノ一部トシテ西班牙國臣民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサス全然消滅ニ歸シタルモノトス而シテ此等ノ裁判權ハ本條約實施後ニ於テハ日本帝國裁判所ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第二十條

本條約ハ明治三十二年七月十七日即一千八百九十九年七月十七日迄ハ實施セラルヘサルモノトス而シテ日本帝國政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ西班牙國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經テ實施セラルルモノトス

尤此ノ通知ハ明治三十一年七月十六日即一千八百九十八年七月十六日後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十一條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年一月二日即一千八百九十七年一月二日「マドリッド」ニ於テ本書二通ヲ作ル

栗野慎一郎印

エル、ザユック、テチュアン印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト西班牙國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十年一月二日「マドリッド」ニ於テ記名調印シタル修好通條約ノ各條目ヲ親シク閲覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ問然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

茲ニ二千五百五十七年明治三十年六月十七日京都皇宮ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及西班牙國皇帝陛下ノ政府ハ本日調印シタル修好交通條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヲ以テ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　兩締盟國ノ一方ヘ輸入セラルル他ノ一方ノ貨物及商品ニ對シ賦課セラルヘキ輸入稅整理ノ爲メ此ノ後更ニ相互ノ主義ニ基ク所ノ特別通商條約ヲ締結スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第二　兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル本條約批准交換後一箇月ノ後ハ西班牙國皇帝陛下ノ政府今日本國ニ於テ實施スルニ歸スヘキモノタルコトニ同意スト雖モ日本國ニ輸入スル西班牙國ノ版圖内竝ニ其ノ海外領地ノ貨物及商品ニ對シテハ其ノ時現ニ行ハルル所ノ日本國普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル一千八百六十八年十一月十二日ノ條約有效ナル間ハ其ノ第二十三條ノ規定ニ準據スヘキモノト雖モ日本國　政府ニ於テ純良ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫眞及其ノ他總テ猥褻ノ物品、日本國ノ專賣特許、商標及版權ニ關スル法律ニ違背スル物品又ハ其ノ他奇生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルノ權利ハ本議定書ノ爲メ制限セラルルコトナカルヘキモノトス

第三　日本國政府ハ西班牙國臣民ニ對シ內國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意スト雖モ即西班牙國臣民カ在東京同國公使若ハ日本國開港場ニ駐在スル西班牙國領事官ヨリノ證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月以內ノ期限間國內何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地地方長官ヨリ交付スヘシ但シ帝國ノ內地ヲ旅行スル西班牙國臣民ニ關スル現行規定ハ之ヲ保續スヘキモノト知ルヘシ

第四　日本國政府ハ日本國ニ於ケル西班牙國領事裁判權ノ廢止ニ先タチ工業ノ所有權及版權ノ保護ニ關スル列國同盟條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第五　在日本西班牙國領事裁判所廢止ノ時ニ方リ猶ホ同裁判所ニ於テ審理中ノ總テノ事件ハ最終ノ判決ニ至ル迄ハ引續キ該裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノトス

第六　兩締盟國ハ相互ニ犯罪人引渡ニ關スル特別條約ヲ締結スルコトニ同意ス尤該條約ノ締結ニ至ル迄ハ該事項竝ニ民刑事件ニ關スル要求ノ執行ニ就キ締盟國ノ一方ハ他ノ一方ニ對シ最惠國ニ既ニ許與シ若ハ將來許與セラルヘキモノト同一ナル權理及特權ヲ許與スヘキモノトス

ノトス

第七　兩締盟國ノ一方ニ於テ國法ニ據リ他ノ一方ノ臣民ニ其ノ國籍ヲ許與スル場合ニハ總テ相互ニ之ヲ通知スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス但シ前記ノ通知條件ニシテ除メ履行セラルルニ非サレハ歸化人本來ノ所屬國ニ於テハ總テ該歸化ヲ無效ト認定スヘシ又該歸化人ニシテ歸化シタル國ヘ再渡スルノ意志ナクシテ其ノ本國ヘ還ルトキハ其ノ事實ニ因リ本國臣民ノ本分タル總テノ義務責任ヲ負擔スヘキモノトス而シテ其ノ收得シタル國籍ハ默示的ニ拋棄シタルモノト看做サルヘシ

一箇年以上ノ居住ハ先以テ該拋棄ノ證據ト看做サルヘキモノトス

第八　左ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ハ本日調印シタル修好交通條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ而シテ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ揭載スル所ノ諸約定モ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ亦兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年一月二日卽一千八百九十七年一月二日「マドリッド」ニ於テ本書二通ヲ作ル

栗野慎一郎　印

エル、ジュック、ド、テチュアン　印

●日西兩國國境確定ニ關スル宣言（明治二十八年八月七日東京ニ於テ調印同年八月十七日公布）

日本國皇帝陛下ノ政府及西班牙國皇帝陛下ノ政府ハ均シク兩國間ニ現存スル所ノ好誼ヲ增進セムコトヲ希望シ而シテ太平洋ノ西部ニ於ケル兩國版圖ノ所領權ヲ明確ニ爲シ置クコト右希望ヲ達スルノ一助ナルヘシト信スルヲ以テ之カタメ兩國政府ヨリ委任ヲ受ケタル下名卽チ日本國皇帝陛下ノ外務大臣侯爵西園寺公望及西班牙國皇帝陛下ノ特命全權公使「ドン、ジョゼ、ド、ラ、リカ、井、カルウオ」ハ左ノ宣言ヲ協議決定セリ

第一　此宣言ニ於テハ「パシー」海峽ノ航行シ得ヘキ海面ノ中央ヲ通過スル所ノ緯度竝行線ヲ以テ太平洋ノ西部ニ於ケル日本國及西班牙國版圖ノ境界線ト爲スヘシ

第二　西班牙國政府ハ該境界線ノ北方及北東方ニ在ル島嶼ヲ以テ其有ナリトスルコトナキ旨ヲ宣言ス

第三　日本國政府ハ該境界線ノ南方及南東方ニ在ル島嶼ヲ以テ其有ナリトスルコトナキ旨ヲ宣言ス

明治二十八年八月七日卽チ西曆千八百九十五年八月七日東京ニ於テ宣言書二通ヲ作リ之ニ記名調印スルモノナリ

侯爵　西園寺公望

ドン、ジョゼ、ド、ラ、リカ、井、カルウオ

第十八章　葡萄牙國

●日葡通商航海條約（勅令）（明治三十年十月廿六日葡萄牙國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム）

日本國皇帝陛下及葡萄牙國及「アルガルヴ」皇帝陛下ハ兩國間ノ交際ヲ益張增進シ以テ幸ニ其ノ間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ葡萄牙國駐劄帝國特命全權公使從四位勳三等曾禰荒助ヲ葡萄牙國及「アルガルヴ」皇帝陛下ハ其ノ外務大臣クリスト章大綬章英國サン、ミシエル、エ、サン、ジョルジュ章大綬章サクス、コーブール、ゴタ國エルネスト、ヒー章大綬章「ル、コンセイエー」「ルイズ、マリア、ヒントー、ド、ソヴエラル」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテモ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテモ之ヲ爲スモ國意タルヘク又家屋、製造所、倉庫、店舖ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ（長期限ノ契約ニテモ）又ハ使用シ且住居若ハ營業ノ爲ニ期限ノ長短ヲ問ハス土地ヲ借受クルノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民或ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國ノ臣民或ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シ且此等ノ事項ニ關シテハ內國ノ臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ニ比シテ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ眞心ニ關シ完全ナル自由及法律、勅令及規則ニ從テ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利竝ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

何等ノ名義ヲ以テスルモ該臣民ヲシテ內國ノ臣民若ハ最惠國ノ臣民或ハ人民ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ又ハ之ヨリ多額ノ取立金若ハ租稅ヲ納メシムルヲ得ス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、譜國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債、軍事上ノ賦欵或ハ捐資ヲ免カルヘシ

第二條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテモ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテモ之ヲ爲スモ國意タルヘク又家屋、製造所、倉庫、店舖ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ（長期限ノ契約ニテモ）又ハ使用シ且住居若ハ營業ノ爲ニ期限ノ長短ヲ問ハス土地ヲ借受クルコトヲ得但シ內國臣民ト同樣其ノ國ノ法律、警察規則及稅關規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ稅金或ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス最惠國ノ臣民或ハ人民ノ拂フ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク最惠國ノ臣民或ハ人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

但シ本條及前條ノ規定ハ兩締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ直接ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

直接輸入トハ船舶ノ國籍如何ヲ問ハス又第三國ノ一港若ハ數港ニ定期ニ又ハ不時ニ寄泊スルト否トニ拘ハラス兩締盟國ノ一方ノ一港ニ於テ貨物ヲ積載シ一航海中ニ該貨物ヲ他ノ一方ノ一港ニ陸揚ケスルヲ謂フ直接輸入ハ積荷目錄及船積證書ヲ以テ之ヲ證スル又通シ船積證書ヲ以テスル輸入ハ假令其ノ證書ニ揭載ノ貨物ヲ他船ニ積換ベ又ハ第三國ノ倉庫ニ納レ置キタルコトアルトモ直接輸入ト看做スヘシ但シ此ノ場合ニハ生產原地證明證書ヲ要スルモノトス

又締盟國ノ一方ノ版圖內ヘ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ

但シ此ノ末段ノ規定ハ衞生上ノ理由ニ依リ若ハ公安風紀ヲ害スルノ恐アル物品ノ禁止ニハ適用スヘカラス且商業上、工業上若ハ著述上ノ所有權ノ保護又ハ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル其ノ他ノ禁止ニモ適用スヘカラサルモノトス

第三條

兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於ケル他ノ一方ノ臣民ノ家宅、製造所、倉庫、店舖及之ニ屬スル附屬物右家宅、製造所、倉庫、店舖ヘハ猥ニ侵入捜索スヘカラス又帳簿、書類或ハ簡記帳ヲ檢査點閱スヘカラス但シ內國臣民ニ對シ法律、勅令及規則ヲ以テ制定セル條件及定式ニ據ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條

日本國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ニシテ甲號表ニ列擧スルモノ又ハ葡萄牙國皇帝陛下ノ版圖內ヘ直接ニ輸入シ又ハ葡萄牙國皇帝陛下ノ版圖內ノ生產或ハ製造ニ係ル物品ニシテ乙號表ニ列擧スルモノヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖內ヘ直接ニ輸入スルニモ總テ別國ノ生產或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖內ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ

一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過稅ハ免除セラルヘク又倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第七條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ亦葡萄牙國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ日本國船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種又ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原産地ヨリ到ルト其ノ他ノ場所ヨリ到ルトヲ問ハス必ス之ヲ施スモノトス

輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト葡萄牙國船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトヲ問ハス締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金拂戻ノコトヲ以テスヘシ

第八條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テ最惠國ノ船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ

但シ此ノ條款ハ葡萄牙國カ千八百七十五年十二月十一日南亞弗利加共和國ト締結シタル條約、千八百七十六年三月十日「オランジュ」自由國ト締結シタル條約竝ニ葡萄牙國ト「ブラジル」國トノ間ニ現存シ又ハ將來取極ムヘキ約定ニハ適用セサルモノトス

第九條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ繫留又ハ貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ葡萄牙國及日本國ニ於ケル日本國船舶及日本國ニ於ケル葡萄牙國船舶ニ許與スル所ノ特典ヲ享受スヘシ

第十條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ日本國及葡萄牙國ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ葡萄牙國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル葡萄牙國臣民ハ此ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ヲ以テ他ノ外國臣民或ハ人民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ諸權利ヲ享有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ難破シタルトキハ地方官ヨリ其ノ事件ノ生シタル地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ其ノ旨ヲ通知スヘシ但シ若其ノ地ニ領事官ノ駐在セサルトキハ最近地方ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ通知スヘシ

葡萄牙國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乘上ケタル日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ葡萄牙國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘク又相互ノ主義ニ基キ日本國皇帝陛下ノ領海ニテ難破シ若ハ海岸ニ乘上ケタル葡萄牙國船舶ニ關スル一切救助ノ處分ハ日本國法律、勅令及規則ニ從テ之ヲ爲スヘシ

右難破若ハ乘上ケタル船舶竝ニ其ノ器具及其ノ他一切ノ附屬品及該船舶ヨリ救上ケタル貨物竝ニ商品及右等ノ諸物件ニシテ海中ニ投棄セラレタルモノ又ハ之ヲ賣却シタルトキハ其ノ收得金竝ニ該遭難船舶内ニ發見セラレタル一切ノ書類ハ右船舶ノ持主或ハ代理人ヨリ要求スルトキハ之ニ引渡スヘシ右持主或ハ代理人ノ現場ニ在ラサルトキハ内國法律ニ定メタル期限内ニ當該總領事、領事、副領事或ハ代辨領事ヨリ請求アレハ之ヲ引渡スヘシ而シテ右領事官、持主或ハ代理人ハ内國船舶難破ノ場合ニ於テ拂フヘキ所ノ物品保存費竝ニ難破救助費及其ノ他ノ費用ノミヲ拂フヘキモノトス

難破船ヨリ救上ケタル貨物及商品ハ内國ノ消費ノ爲メ通關手續ヲ爲スモノニ非サレハ一切ノ關稅ヲ免除スヘシ但シ消費ノ爲メニ竇捌ク場合ニハ普通ノ關稅ヲ納ムルヲ要スルモノトス

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニ屬スル船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ逸瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ其ノ持主、船長若ハ他ノ持主代理人不在ノ場合ニハ當該總領事、領事、副領事若ハ代辨領事ハ其ノ自國臣民ニ必要ノ輔助ヲ與フル爲メ職權上ノ助力ヲ爲スヲ許サルヘキモノトス此ノ規定ハ持主、船長若ハ他ノ代理人現ニ其場ニ在ルトキ難右樣ノ輔助ヲ與フルヲ請求スル場合ニハ亦適用スヘキモノトス

第十一條

本條約ニ於テハ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又葡萄牙國ノ國法ニ從ヒ葡萄牙國船舶ト見做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ葡萄牙國船舶ト見認ムヘシ

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ諸外國ニ對シテ之ヲ適用スル一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキ一方ノ軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脫船スル者アルニ際シテハ其ノ地ノ領事官ヨリ其ノ捕獲ノ爲ニ地方官ニ依頼スルトキハ該地方官ハ該脫船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡スヘキモノトス

本條及第四條ノ規定ハ葡萄牙國カ西班牙國「プラシル」國ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ特典ノ附セラレサルモノトス

第十三條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脫船スル者アルニ際シテハ其ノ地ノ領事官ヨリ其ノ捕獲ノ爲ニ地方官ニ依頼スルトキハ該地方官ハ該脫船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡スヘシ

但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船スル者アルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノトス

第十四條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商、航海及工業ニ關スル一切ノ事項ニ就テハ葡萄牙國及日本國ニ於テ總テ最惠國ノ基礎ニ置ク主意ヲ有スルニ因リ通商、航海及工業ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、臣民或ハ人民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府或ハ臣民ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

本條及第四條ノ規定ハ葡萄牙國カ西班牙國「プラシル」國ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ特典ノ附セラレサルモノトス

第十五條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ場所ニ總領事、領事、副領事又ハ貨物ノ繫留又ハ倉庫ノ設置ヲ以テ同樣ニ之ヲ許與スヘキモノトス然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ於テ最モ優遇セラルル國ノ臣民ニ對シテモ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

第十六條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ右經船所屬國ノ領事又ハ其ノ代理人ヨリ其ノ捕獲引渡ノコトヲ地方官ニ依頼スルトキハ該脫船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡スヘシ

但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船スル者アルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノトス

第十七條

葡萄牙國皇帝陛下ノ政府ハ同政府ニ關スル限リハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ夫夫其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ即後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ右新組織ヨリ生スル地方施政上ノ責任、義務ヲ悉皆負擔スヘシ又右外國人居留地ニ屬スル共有資金及財產アルトキハ當然之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス

前記ノ變更ヲ終リタルトキハ該居留地ニテ外國人カ現ニ因テ以テ不動產ヲ所持スル所ノ永代借地契約書ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右ノ如キ性質ノ不動產ニ對シテハ特ニ右借地契約書ニ規定シタルモノノ外ハ何等ノ條件ヲモ附セス又何等ノ租稅、賦課金、取立金ヲモ徵收セサルヘシ但シ右借地契約書中ニ領事官トアルハ日本國官吏ヲ以テ之ニ代ユヘキコト知ルヘシ

公共ノ目的ノ爲ニ日本國政府ヨリ無償料ニテ貸與シアル各地所ハ永久總テノ租稅、賦課金及取立金ヲ徵スルコトナク最初貸與シタルトキノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ其ノ國ノ主權ニハ從フヘキモノトス

第十八條

本條約ノ其ノ實施ノ日ヨリ兩締盟國間ニ現存スル條約及之ニ附屬スル一切ノ諸約定ニ代ハルヘキモノトス而シテ右期日ヨリ該條約及諸約定ハ總テ無

效ニ歸スヘシ

第十九條

本條約ハ明治三十二年七月十七日即西曆千八百九十九年七月十七日ヨリ實施シ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス而シテ葡萄牙國ニ在テハ本國及附近ノ諸島嶼（「マデール」、「ポルトサント」及「アゾール」）竝ニ「マカオ」ニ之ヲ實施スヘシ

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ消滅ニ歸スヘキモノトス

第二十條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ調印後六箇月內ニ成ル可ク速ニ「リスボンヌ」ニ於テ之ヲ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ佛蘭西文ノ本條約書二通ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年一月二十六日即西曆千八百九十七年一月二十六日「リスボンヌ」ニ於テ作ル

曾禰荒助印

ルイズ、ド、ソヴェラル印

甲號表

葡萄牙「マデール」、「ポルトサント」、「アゾール」及「マカオ」ノ各所ニ輸入スルニ方リ最惠國待遇ヲ享受スル日本國物品

礦酸
燐寸
安貨世尼
青銅
樟腦（生及精製ノ）
石炭
木蠟
銅（塊及板ノ）
漆荷油
扇
葉煙草
綿織絲及綿布
菜子及菜子油
樟腦油
魚油
滿俺
漆荷及漆荷臘
地漆類
竹器、七寶器、玻瓈器、象牙器、介甲器、漆器、木器、磁器及陶器
青銅器
銅器
紙器
紙（各種ノ）
海草
屏風
魚類、各種ノ貝類共（生鮮、鹹漬、乾燥、壓扁、燻ヘ若ハ鹽水等ニ漬タル）
米
絹（生絲、屑物類、撚絲屑、繭、各種ノ絲及布帛）
硫黃
茶
麥稈サナダ類

乙號表

日本ニ輸入スルニ就キ最惠國待遇ヲ享受スル葡萄牙國物品

（注意）〔此表ハ獨リ本國ノ物品ニ適用スルノミナラス又本國及「マカオ」ヨリ輸出スル所ノ各殖民地ノ物品ニモ適用スルモノトス〕

カカヲ種子及殼（生ノ）
珈琲種子（生ノ）
蠟燭（獸皮製及蠟製ノ）
帽子（「フエルト」帽共）
革（各種ノ）
亞麻製及綿製レース（各種ノ）
菓實類（生、鹹、乾燥、鹽水等ニ漬タル、糖漬若ハ油又ハ醋ニテ調理シタル竝ニ玻瓈製、土製、鐵製若ハ他ノ密閉シタル容器ニ入レタルモノ共）
植物油（阿列布油、落花生豆油、胡麻子油、椰子油及樫櫚子油）
礦物油
蔬菜（生ノ及保存シタル）
塞子樹皮（加工シタル）
金屬製品
綿布、毛布若ハ亞麻布ノ製品
革製品
鉛（塊及板ノ）
魚類（油ニ漬ケ若ハ密閉シタル容器ニ入レタルモノ）
石蠟
規尼乙涅臘類
砂糖
毛布、亞麻布及綿布
窓玻瓈片
葡萄酒、各種ノ（樽入、桶入若ハ罎入ノ、但シ亞爾爾保爾ノ強弱ヲ問ハス）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト葡萄牙國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十年一月二十六日「リスボンヌ」ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ間然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十七年明治三十年五月二十二日京都皇宮ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　外務大臣伯爵　大隈重信　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及葡萄牙國及「アルガルヴ」皇帝陛下ノ政府ハ本日調印セシ通商航海條約ノ外ニ雙方ニ關スル特別ノ事項ヲ規定スルコト兩國ノ利益上便宜ナルヤヲ認メ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　兩締盟國ニ於テハ本日調印シタル通商航海條約批准交換ヨリ一箇月ノ後ハ葡萄牙國臣民カ日本國ニ輸入スル貨物及商品ニ關シ現今實施スル所ノ輸入稅目ハ無效ニ歸スヘキモノタルコトニ同意スル而シテ右稅目ノ無效ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル葡萄牙國皇帝陛下ノ領地ノ生產若ハ製造ニ係ル貨物又ハ商品ニ對シテハ日本國ノ國法ヲ以テ制定セラルル所ノ普通關稅則ヲ適用スヘシ但シ目下兩締盟國間ニ現存スル條約ノ有效ナル間ハ其ノ第二十三條ノ規定ニ準據シ又其ノ後ハ本日調印シタル條約第四條ノ規定ニ準據スヘキモノトス然レトモ日本國政府ニ於テ純粹ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飲料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他ノ彫刻畫、寫眞及其ノ他總テ猥褻ノ物品竝ニ專賣特許、商標及版權ニ關スル日本國ノ法律ニ違背スル物品又ハ其ノ他衞生、公安若ハ風俗ニ關シ危害ヲ生スヘキ物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スルノ權利ハ本議定書ノ爲メ制限セラルルコトナカルヘキモノトス

但シ本日調印シタル條約及本議定書ヲ以テ擔保シタル關稅ノ事項ニ關スル最惠國主義ヲ適用スルニ方リ其ノ實行上滿足ナラサル場合ニ於テハ兩國ノ各方ニ於テ特殊ノ利害ヲ感スル輸出品ニ關シ約定稅目ヲ以テ之ニ代ユルコトニ兩締盟國政府ノ同意ス

第二　日本國政府ハ葡萄牙國臣民ニ全國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意シ又本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ終了スヘキコトヲ約ス

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年一月二十六日即西曆千八百九十七年一月二十六日「リスボンヌ」ニ於テ本書二通ヲ作ル

曾禰荒助印

ルイズ、ド、ソヴェラル印

第十九章　佛蘭西國

㊟日佛通商航海條約（明治三十一年三月勅令）

朕明治二十九年八月四日佛蘭西國巴里ニ於テ朕カ全權委員ト佛蘭西國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

日本國皇帝陛下及佛蘭西共和國大統領ハ兩國間ノ交際ヲ擴張增進シ以テ幸ニ其ノ間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ達セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益ヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ佛蘭西共和國政府ノ下ニ駐劄スル特命全權公使曾禰荒助ヲ佛蘭西共和國大統領ハ外務大臣「ガブリエル、アノトー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

ハ兩締盟國ノ一方ノ版圖內ノ港灣、寇泊所、港灣、船舶、艤裝、修繕、又ハ糧食、石炭、水、其ノ他ノ必要ナル一切ノ需用品ヲ求ムル爲メ、又ハ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ、若ハ積込ムノ爲メ、又ハ旅客ノ乘降ノ爲メ、隨意ニ其ノ港灣ニ入ルコトヲ得ヘシ、但シ兩締盟國ノ一方ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ地或ハ港ヘ往クニモ相互ニ同一ノ條件ヲ以テ兩方ノ船舶ニ課セサルヘシ、此ノ條件ハ兩締盟國ノ一方ノ船舶ニ課スル稅金ニ關シ、又ハ其ノ船舶ノ積荷ニ關シ、又ハ其ノ船舶ノ乘組員ニ關シ、又ハ其ノ船舶ノ旅客ニ關シ、又ハ其ノ船舶ノ積荷

本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト見認メ又佛蘭西國ノ國法ニ從ヒ佛蘭西國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ佛蘭西國船舶ト見認ムヘシ

第十七條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他ノ一方ノ總領事、領事、副領事及代辨領事ハ自國船舶ノ脫船人ヲ搜索又ハ逮捕スル爲ニ其ノ國法律ノ許ス限ハ地方官ノ助力ヲ受クヘシ但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十八條

兩締盟國ハ通商、航海、工業ニ關シ佛蘭西國ニ於ケル日本國民及日本國ニ於ケル佛蘭西國民ヲシテ總テ最惠國民ノ取扱ヲ享受セシムルノ主意ヲ有スルニ因リ通商、航海、工業ノ執行ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府或ハ國民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府或ハ國民ニモ卽時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十九條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他ノ場所ニ總領事、領事、副領事及代辨領事ヲ置クコトヲ得右等領事官及其ノ任所ニ附屬スル領事代、錄事及書記ハ自由ニ其ノ職務ヲ執行シ且相互ノ條件ヲ以テ最惠國ノ領事官ニ許與シ或ハ許與セラルヘキ一切ノ特典、特權、免除及權利ヲ享有スヘシ

右領事官ハ駐在國政府ノ認可ヲ得タル後ニ非サレハ其ノ職務ヲ執行シ諸權利、特典及免除ヲ享有セサルモノトス

領事官ノ駐在地ノ制限ニ關シテハ兩締盟國政府ハ各自ノ國ノ領事官ノ駐在ヲ許ス地方ヲ定メ又ハ廢止スルコトヲ得ル旨ヲ約定ス但シ此ノ約定ハ兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ駐在スル他ノ一方ノ總領事、副領事及代辨領事ハ自國船舶ノ脫船人ヲ搜索又ハ逮捕スル爲ニ其ノ國法律ノ許ス限ハ地方官ノ助力ヲ受クヘシ但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第二十條

兩締盟國ノ一方ノ國民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ發明ノ專賣特許、商標、製造標及各種製造ノ意匠ニ關シ内國民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第二十一條

佛蘭西共和國政府ハ同政府ニ關スル限ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ本國市區ニ編入シ爾後日本國裁判權ニ關シ佛蘭西國民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサスシテ當然消滅ニ歸スヘシ而シテ此ノ時ヨリ佛蘭西國民ハ日本國裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキモノトス

第二十二條

本條約ノ諸條款ハ之ヲ亞耳日利ニ適用スル右諸條款ハ佛蘭西國政府ニ於テ其ノ利益ヲ享有セシメムコトヲ請求スル所ノ佛蘭西諸殖民地ニモ亦之ヲ適用スルヲ得ルモノトス而シテ之ヲ適用セムト欲スルトキハ本條約批准交換ノ日ヨリ二箇年以内ニ東京ニ駐劄スル佛蘭西共和國代表者ヨリ其ノ旨ヲ日本國政府ヘ通告スヘシ

第二十三條

本條約實施ノ日ヨリ千八百五十八年十月九日ノ條約、千八百六十六年六月二十五日ノ約定及兩締盟國ノ間ニ締結シ右實施期日以前ニ現存スル一切ノ取極ハ無效ニ歸スヘシ故ニ日本國ニ於ケル佛蘭西國裁判權及右裁判權ニ關シ佛蘭西國民カ享有セシ所ノ特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲナサスシテ當然消滅ニ歸スヘシ而シテ此ノ時ヨリ佛蘭西國民ハ日本國裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキモノトス

第二十四條

本條約ハ調印ノ日ヨリ少クモ三箇年ノ間ハ實施セラレサルモノトス而シテ日本國皇帝陛下ノ政府ニ於テ本條約ヲ實施セムト欲スル旨ヲ佛蘭西共和國政府ニ通知シタル後一箇年ヲ經テ實施セラルヘキモノトス

此ノ通知ハ調印ノ日ヨリ二箇年ヲ經タル後何時ニテモ爲スコトヲ得ヘシ

本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ全ク消滅ニ歸スヘキモノトス

但シ本條約第七條ハ佛蘭西國政府ニ於テ何時タリトモ之ヲ廢止スル旨ヲ通知スルヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ通知ヨリ一箇年ノ後ニ該條ハ效力ヲ失フヘシ

第二十五條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百九十六年八月四日巴里ニ於テ本書二通ヲ作ル

曾禰荒助　印

シエ、アノトー　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト佛蘭西共和國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治二十九年八月四日巴里ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ問然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇卽位紀元二千五百五十八年明治三十一年二月一日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣男爵　西　德　二　郎　印

議定書

日本國皇帝陛下ノ政府及佛蘭西共和國政府ハ本日調印シタル通商航海條約中ニ記載セサルモノニシテ雙方ノ利益ニ關スル或ル特別問題ヲ規定スルコトヲ兩國ノ利益上便宜ナルヲ認メ雙方ノ全權委員ハ左ノ約定ニ同意セリ

第一　兩締盟國ハ左ノ事項ニ同意ス

本日調印シタル通商航海條約批准交換ヨリ六箇月ノ後ハ本書附屬輸入稅目ヲ日本國ヘ輸入スル佛蘭西共和國版圖内ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ニ適用スヘシ但シ千八百五十八年十月九日ノ條約有效ナル間ハ該條約第十九條ノ規定ニ準據シ爾後ハ本日締結ノ條約第七條及第十八條ニ準據スルモノトス尤該條約、本議定書或ハ附屬稅目中ニ記載スル規定ノ爲ニ純粹ナラサル藥材、製藥、食物若ハ飮料、猥褻ノ印刷物、圖畫、書籍、紙牌、石版若ハ其ノ他公安若ハ風俗ヲ妨害スヘキ物品若ハ日本國及佛蘭西國ニ於テ發明ノ專賣特許、商標及版權ヲ規定スル法律ニ違背スル物品ノ輸入ヲ制限シ若ハ禁止スヘキ日本國政府及佛蘭西國政府ノ權利ヲ制限セラルルコトナカルヘキモノトス又此ノ相互ノ權利ハ人身衛生ヲ目的トシタル禁止又ハ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ノ爲ニ設ケタル法律ニ適用スヘキモノトス

該稅目ニ定メタル從價稅ハ之ヲ實行シ得ヘシト認メラルル限ハ本條約ノ批准ヨリ六箇月以内ニ兩國政府間ニ締結セラルヘキ追加條約ヲ以テ之ヲ從量稅ニ換算スヘシ右從量稅ノ評定ハ千八百九十四年上半期間ニ於テ日本國稅關ニ於テ現ニ實施セラレアル輸入稅目ヲ佛蘭西國人民ノ日本國ヘ輸入スル物品及商品ニハ適用セサルモノトス

附屬稅目實施ノ日ヨリ日本國ニ於テ現ニ實施セラレアル輸入稅目ヲ佛蘭西國人民ノ日本國ヘ輸入スル物品ニハ適用セサルモノトス

現行ノ條約及約定ニ記載スル總テノ他ノ規定ハ本日締結ノ通商航海條約實施ニ至ル迄ハ別ニ條件ヲ附セスシテ之ヲ繼續スヘシ

第二　日本國政府ハ佛蘭西國人民ニ全國ヲ開ク迄ハ現行ノ旅券方法ヲ擴張スルコトニ同意シ佛蘭西國民カ在東京佛蘭西國公使館若ハ日本國開港場ニ在ル佛蘭西國領事館ヨリ紹介證書ヲ添ヘテ在東京帝國外務省又ハ開港場所在地地方長官ニ出願スルトキハ十二箇月ヲ超過セサル期限内何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ交付スヘシ

右規定ヲ除ク外ハ日本帝國内ニ旅行スル佛蘭西國人民ニ關スル現行ノ法律規則ハ之ヲ繼續スヘキモノトス

第三　日本國政府ハ日本國ニ於ケル佛蘭西國領事裁判權ノ廢止ニ先チ工業ノ所有權及版權ノ實假ニ其ノ陸揚港迄ノ運搬費及保險料竝ニ手數料アルトキハ之ヲモ加ヘタルモノニ由テ之ヲ計算スヘシ

佛蘭西國政府ヨリ本條約第七條ヲ廢止スル旨ヲ通知シタルノ結果トシテ該條效力ヲ失ヒタル場合ニハ附屬稅目若ハ之ニ代ルヘキ從量稅目モ均シク效力ヲ失フヘシ

附屬稅目ニ揭ケサル物品ニハ日本國普通國定稅則實施ノ日ヨリ之ヲ適用スヘシ但シ千八百五十八年十月九日條約ノ第十九條或ハ本日締結條約ノ第七條及第十八條ノ規定ニ從フヘシ

保護ニ關スル列國同盟條約ニ加入スルコトヲ
約ス

第四　本日調印ノ日ヨリ二箇年ノ間ニ於テ左ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ノ批准ヲ政府ニ提供シ而シテ右條約ノ批准ヲ速ニ交換スヘキコトヲ約ス

式ノ如キ本議定書ニ掲載スル所ノ全權委員ハ本條約ノ調印ノ日ヨリ經ヘキ日數ニ於テ交換スヘキモノトス又本稅目ニ關スル追加條約ハ批准ノ有效期限ニ至ル迄其效力ヲ有スヘキモノトス

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

作ル千八百九十六年八月四日巴里ニ於テ本書二通ヲ

（佛國全權委員ノ記名調印ハ略ス）

佛國追加條約（明治三十一年十二月二十五日東京ニ於テ署名　同三十二年十一月十二日）

條約ヲ批准シ茲ニ之ヲ公布セシム

追加條約

日本國皇帝陛下及佛國西共和國大統領ハ千八百九十六年八月四日巴里ニ於テ締結シタル日佛通商航海條約第二項ノ規約ヲ以テ今左ニ右追加條約ヲ以テ該條約ニ附屬スル稅目ニ代ヘ又該稅目ニ記載セサル物品ニ關シ且該規約第一條第四項ノ規定ヲ變更スルノ目的ヲ以テ其ノ全權委員ノ記名調印シタルヲ以テ

第一條　本條約ニ附屬スル稅目ハ右條約ノ批准交換ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ定マリタル後ヲ以テ右六箇月之ニ代ヘキモノトス

第二條　本條約ハ千八百九十六年八月四日ヨリ二箇年ノ間ハ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

第三條　本條約ハ批准ノ有效期限ニ至ル迄ノ間ハ本條約ノ調印ノ日ヨリ經ヘキ日數ニ於テ交換スヘキモノトス又本稅目ニ關スル追加條約ハ批准交換ノ後チ六箇月以內ニ於テ其ノ效力ヲ有スヘキモノトス

明治三十一年十二月二十五日東京ニ於テ本書二通ヲ作ル

（記名印）

（記名印）

番號	附屬稅目 品目		從價	稅
一	綿布類 「アニリン」染料		從價	一割
二 三	綿布	雲紗布	一方ヤード	○・○一六
四	綿帆布			○・○五三
五	綿絨手巾			○・○一二
六	更紗		同同	○・○一二
七	綿糸	生金巾		○・○一六
八	綾金巾			○・○二三
九	自及晒金巾			○・○一七
一〇	綿布	縞天竺		○・○一九
一一	綿糸	生金巾		○・○一六
一二	綾金巾			○・○二三
一三	綿糸	天竺		○・○四一
一四	冷紗			○・○四六
一五	綿絨	其ノ他本稅目ニ掲載セサル各種ノ純		
一六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
四九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
五九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
六九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
七九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
八九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
九九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一〇九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一一九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一二九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一三九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一四九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一五九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一六九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一七九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一八九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
一九九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二〇九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二一九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二二九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二三九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二四九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二五九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二六九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二七九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二八九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
二九九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三〇九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三一九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三二九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三七	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三八	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三三九	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四〇	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四一	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四二	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四三	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四四	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四五	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純		
三四六	綿絨	若ハ羊毛及駝毛ノ他大麻ノ純	

附記
及他ノ金銀品ハ玆ニ掲ケル所ノモノニ限リサルコト亦モ布類ニ關スル所ノ
三三　石鹸　勿論ナリ　百斤　〇・九七二
三二　螺鈿（蒔繪ノ）螺鈿及無味香嗅製ノ　同　二・一四六
三三　各種ノ沸騰セサル葡萄酒（葡萄酒ノ天然醱酵ニ由リ酒精ノ含量ヲ增加シタルモノニ限ル）
一　瓶ニ入ノ小（ボトル）　一箱　〇・七六〇
十六度ヲ超エサル酒精ノ容量
甲　樽入ノモノ　一（ヘクトリットル）　七・九二五
乙　各半「リットル」ヲ超エ一
四度ヲ超エサル
十六度ヲ超エ二十
二　純酒精ノ容量
甲　樽入ノモノ　一（ヘクトリットル）　一・二四二
乙　各半「リットル」ヲ超エ一
若ハ半「リットル」ヲ超エサル十二瓦ヲ
超エサル十二瓦ヲ超エ二十四瓦ヲ超エサル
ニ」ヲ超エサル若ハ半「リットル」ヲ超エ二十四瓦（小瓶）ヲ若
瓶）ノ　一箱　〇・七六〇
十二瓦（小瓶）ヲ超エ二十四瓦（小瓶）ヲ若
ハ半「リットル」ヲ超エ二十四瓦（小瓶）ヲ若
トル」ヲ超エサル
ノニ由リ醱酵造シタルモノ（ヘクトリットル）　一　〇・二四二
酒（葡萄酒ノ天然醱酵ノ）
三四　他各種ノ沸騰葡萄酒及其ノ
ニ準據スヘキ本項ノ規定ヲ
ハ容量ニ關シ酒精ノ含量ヲ增加セル葡萄酒
但シ酒精ノ包含
スル葡萄酒ハ
本項ノ規定ヲ
瓶）入ノモノ　一箱　〇・六八〇
二十四瓦（小瓶）ヲ超エサル
三五　印刷機械　一箇　従価　一・五五〇
三六　假製圖畫　同　一割分
假製品類
身邊裝飾用細貨品
ニ身邊裝飾用ノ細貨品ヲ
ミニアラサル「アルミニアム」「ニッケル」「ロシウム」「ホワイト」「メタル」「銀」「日本平」
ト」「メタル」「銀」「ホワイト」「メタル」「銀」「日本平」
「ルビー」「サファイア」「エメラルド」「ダイヤモンド」「ルチ」「ヤール」「ド」「ル」「ヤール」「ド」「ル」「ヤール」「ド」「ル

附記　布帛類ノ織緑ハ其ノ尺度ニ算入セサルモノトス

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治三十一年十二月二十五日東京ニ於テ日佛兩國全權委員ノ記名調印シタル追加條約ノ各條目ヲ親シク閲覧點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ固然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十八年明治三十一年十二月二十九日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣子爵　青木周藏　印

第二十章　遅羅國

●日遅修好通商航海條約

（明治三十一年六月）
勅令

朕明治三十一年二月二十五日遅羅國盤谷ニ於テ朕カ全權委員ト遅羅國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

日本遅羅修好通商航海條約

日本國皇帝陛下及遅羅國皇帝陛下ハ俱ニ兩國間竝ニ其ノ臣民間ニ幸ニ存在スル所ノ修好通商及航海ノ關係ヲ增進セムコトヲ欲シ此目的ヲ達セムカ爲メ玆ニ條約ヲ締結スルコトニ決定シ卽チ日本國皇帝陛下ハ遅羅國駐劄帝國辨理公使正五位勲垣縞次郎ヲ遅羅國皇帝陛下ハ其ノ外務大臣勲一等チヤクラクリ勲章ノ「ナイト」クロム、ルアン、デヴアウオンケセ、ヴアロプラカー親王殿下ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ雙方ノ全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ左ノ諸條ヲ協議決定セリ

第一條

日本遅羅兩國間ニハ永世ノ平和無窮ノ親睦アルヘシ

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ別國ノ臣民若ハ人民ニ許與セラレタル取扱ヲ享クヘシ

第三條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ別國ノ臣民若ハ人民カ渡來、滯在及住所ヲ問ハス最惠國臣民若ハ人民ト均等ノ總テノ榮譽、特權及免除ヲ享有スヘシ

第四條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ完全ナル通商航海ノ自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ別國ノ臣民若ハ人民ト均等ノ總テノ權利、特典及免除ヲ享有スヘシ

第五條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ内國通過稅、倉入、奬勵金、便益、其ノ他貨物ノ檢査、評價及稅金割展等ノ事項ニ就テハ全ク最惠國ノ臣民若ハ人民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第六條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル一切ノ物品ハ何レノ地ヨリ遅羅國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入シ又遅羅國皇帝陛下ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル一切ノ物品ヲ何レノ地ヨリ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ輸入スルモ總テ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ニ課スル所ノ稅金ニ異ナルカ若ハ之ヨリ多額ノ稅金ヲ課セラルルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヘ別國ノ生産或ハ製造ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナクシテ各種ノ生産、製造品及貨物ノ卸賣及小賣營業ニ從事スルコトヲ得

總テ旅行、貿易及住居ニ關スル事項竝ニ各種財産ノ收得、所有及處分又ハ各種ノ營業、職業及事業ニ從事スル權利ニ關スル事項ニ就テハ兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ何レノ臣民ニ許與セラレタル取扱ヲ享クヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ別國ノ臣民若ハ人民ト均等ノ總テノ榮譽、特權及免除ヲ享有スヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ニ對シテハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種ノ物品ニ對シテ賦課シ若ハ賦課シ若ハ賦課シ得ル多額ノ關稅、租稅若ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第八條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ遅羅國ノ船舶ヲ以テモ亦同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此場合ニ於テハ日本國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種若ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又遅羅國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ遅羅國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ日本國ノ船舶ヲ以テモ亦同樣ニ之ヲ右諸港ヘ輸入スルコトヲ得此場合ニ於テハ遅羅國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ右相互均等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原産地ヨリ到ル其ノ他ノ場所ヨリ到ル輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ兩締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト遅羅國船舶ニ依ルト或ハ第三國ノ船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ兩締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトヲ問ハス兩締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ内國稅及輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金割戻スル同種ノ物品ニ對シテ賦課シ若ハ賦課シ得ル多額ノ關稅、租稅若ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第八條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ遅羅國ノ船舶ヲ以テモ亦同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此場合ニ於テハ日本國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種若ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ又遅羅國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ遅羅國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ總テノ物品ハ日本國ノ船舶ヲ以テモ亦同樣ニ之ヲ右諸港ニ輸入スルコトヲ得此場合ニ於テハ遅羅國ノ船舶或ハ最惠國ノ船舶カ右樣ノ物品ヲ輸入スルトキ課スヘキ稅金或ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金雜費等ヲ課セサルヘシ右相互均等ノ取扱ハ右物品ノ直ニ原産地ヨリ到ル其ノ他ノ場所ヨリ到ル輸出ニ關シテモ前項ノ場合ト同樣全ク均等ノ取扱ヲ施スヘシ故ニ兩締盟國ノ一方ヨリ適法ニ輸出シ若ハ輸出セラルヘキ物品ハ其ノ輸出ノ日本國船舶ニ依ルト遅羅國船舶ニ依ルト或ハ第三國ノ船舶ニ依ルトニ拘ハラス又其ノ仕向先ノ兩締盟國ノ一港タルト第三國ノ一港タルトヲ問ハス兩締盟國ノ版圖内ニ於テハ之ニ課スルニ同一ノ内國稅及輸出稅ヲ以テシ又之ニ許スニ同一ノ奬勵金竝ニ稅金割戻スル同種ノ物品ニ對シテ賦課シ若ハ賦課シ得ル多額ノ關稅、租稅若ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第九條

日本國ノ諸港ニ於ケル遅羅船舶ニ課スル噸稅、燈臺稅、港稅、檢疫費、船舶ノ毀損若ハ破船ノ場合ニ於ケル救助料其ノ他地方取立金等ハ同シ諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ於ケル日本國船舶ニ現ニ賦課シ若ハ將來賦課セラルヘキ總テノ物品ニ對シテハ何時モ最惠國ノ船舶ニ於ケル日本國船舶ニ課スル稅、水先案内料、檢疫費、船舶ノ毀損若ハ破船ノ場合ニ於ケル救助料其ノ他地方取立金等ハ同シ諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ於ケル遅羅國船舶及遅羅國諸港ニ現ニ賦課シ若ハ將來賦課セラルヘキ總テノ物品ニ對シテハ何時モ最惠國ノ船舶ニ於ケル日本國船舶ニ課スル噸稅、燈臺稅、港稅、檢疫費、船舶ノ毀損若ハ破船ノ場合ニ於ケル救助料其ノ他地方取立金等ハ同シ諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ於ケル日本國船舶ニ現ニ賦課シ若ハ將來賦課セラルヘキ總テノ物品ニ對シテハ何時モ最惠國ノ船舶ニ於ケル日本國船舶ニ課スル噸稅、燈臺稅、港稅、檢疫費、船舶ノ毀損若ハ破船ノ場合ニ於ケル救助料其ノ他地方取立金等ハ同シ諸港ニ於テ同樣ノ場合ニ於ケル遅羅國船舶及遅羅國諸港

其ノ一方ヨリ別國ノ政府、臣民、人民、船舶或ハ商品ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ノ政府、臣民、人民、船舶或ハ商品ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十四條

本條約ハ批准交換ノ上ハ直ニ實施セラレ十箇年間效力ヲ有スルモノトス而シテ其ノ後兩締盟國ノ一方カ之ヲ廢棄スル旨ヲ通知シタル日ヨリ一箇年間ヲ經過スル迄有效ノモノトス

第十五條

本條約ハ日本文、遲羅文及英文ノ三國文各二通ニ調印シ若シ日本文ト遲羅文ノ間ニ文意ノ相違スル所アルトキハ英文ニ依テ之ヲ裁定スヘキモノトス

第十六條

本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ盤谷ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十一年二月二十五日即「ラタナコシンドル、ソック」第百十六年西曆千八百九十八年二月二十五日盤谷ニ於テ本書六通ヲ作ル

稻垣滿次郎　印

（ダヴアロオングセ、ヴアロプラカー　印）

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト遲羅國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十一年二月二十五日盤谷ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル修好通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタルニ善ク朕ノ意ニ適シ問然スル所ナキヲ以テ右條約ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百五十八年明治三十一年四月三十日東京宮城ニ於テ親カラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名　國璽

外務大臣男爵　西　德二郎　印

議定書

本日日本遲羅兩國間修好通商航海條約ニ調印スルニ方リ兩締盟國ノ全權委員ハ左ノ宣言ヲ爲セリ

第一　遲羅國政府ハ遲羅國ノ司法改革ノ完了セラルルトキハ本議定書ニ記載スル所ノ諸約定ハ別ニ正式ノ批准ヲ要セシテ兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約ス

第二　日本國政府ハ遲羅國ト條約ヲ有スル他國ノ臣民、人民及船舶ニ關スル遲羅國現行ノ貿易規則及關稅目ハ遲羅國ニ在留スル日本國ノ臣民及船舶ニ對シ有效タルヘキコトヲ承認ス

右規則及稅目ハ日本國或ハ遲羅國ノ要求ニ依リ十二箇月ノ豫告ヲ以テ何時タリトモ改正ニ附スルコトヲ得ヘシ

第三　本日調印シタル條約ノ解釋若ハ實行又ハ該條約遵反ノ結果ニ關シテ生スル所ノ一切ノ爭議ハ直接ニ調和的協定ヲ爲スヘキ方法ノ盡キタル場合ニ於テハ仲裁委員ノ裁定ニ任スヘキモノトス而シテ該仲裁委員ノ決定ハ兩國政府ノ合議ヲ以テ選定スヘク若シ何等ノ名義ヲ以テスルモ該委員ノ納ムル所若ハ將來納ムヘキ所ニ異ナルカ如何ヲ論セス內國或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナル或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享有スヘシ但シ常ニ其ノ國ノ法律、勅令及規則ヲ遵守スヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ住居、工業若ハ商業ノ爲ニ供スル家宅、製造所、倉庫、店舖及之ニ屬スル總テノ附屬構造物ハ使用シ且住居、工業及商業ノ爲ニ土地ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居、工業及商業ノ爲ニ土地ヲ借受クルコトヲ得但シ內國臣民同樣其ノ國ノ法律、警察規則及檢閱規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ノ諸港及諸河ニシテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商、工業及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス內國或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナル或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享有スヘシ但シ常ニ其ノ國ノ法律、勅令及規則ヲ遵守スヘキモノトス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵或ハ捐資ヲ免カルヘシ

土地又ハ不動產ノ所有ヲ許可セラルル時ニ當リテハ土地又ハ不動產ノ所有ニ附著スル所ノ賦課金及其ノ所有者ハ貸借人トシテ一般ノ內國人ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有權及適法ニ獲得シ又ハ相續、遺贈或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シテ此ノ條約ヲ遵守シ且內國若ハ最惠國民ニ課セラルヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其心ニ關シ公私ノ禮拜ヲ行フノ權利並ニ其ノ宗教上ノ慣習ニ從ヒ埋葬ノ爲メ設置保存セラルル所ノ適當便宜ノ地ニ自國人ヲ埋葬スルノ權利ヲ享有スヘシ

第三條

兩締盟國ノ版圖ノ間ニハ相互ニ通商及航海ノ完全ナル自由アルヘシ

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テモ總テ正業ニ屬スル各種ノ生產物、製造品及貨物ノ卸賣若ハ小賣營業ニ從事スルヲ得ヘシ右營業ニ從事スルニ於テ自身ニ之ヲ爲シ或ハ代理人ヲ以テシ又ハ一人ニテモ數人ニテモ之ヲ爲シ或ハ外國人若ハ內國臣民ト組合ヲ結ヒテ之ヲ爲スモ隨意タルヘシ

又家屋、店舖、製造所及倉庫ヲ所有シ或ハ之ヲ借受ケ又ハ使用シ且住居、工業及商業ノ爲ニ土地ヲ借受クルコトヲ得但シ內國臣民同樣其ノ國ノ法律、警察規則及檢閱規則ヲ遵守スルヲ要ス

該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ノ諸港及諸河ニシテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商、工業及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス內國或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナル或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享有スヘシ但シ常ニ其ノ國ノ法律、勅令及規則ヲ遵守スヘキモノトス

第四條

兩締盟國ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵或ハ捐資ヲ免カルヘシ

土地又ハ不動產ノ所有ニ附著スル所ノ賦課金及其ノ所有者ハ貸借人トシテ一般ノ內國人ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有權及適法ニ獲得シ又ハ相續、遺贈或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有

ラレタル仲裁者ハ一名ノ審判長ヲ選定スヘシ

仲裁ノ手續ハ各件毎ニ兩締盟國ニ於テ決定スヘク若シ之ヲ爲スコト能ハサルトキハ仲裁委員自ラ前以テ之ヲ決定スヘキ權利ヲ附與セラレタルモノトス

下ニ記名スル所ノ全權委員ハ本議定書ハ本條約ト同時ニ兩締盟國政府ニ提供シ右條約批准セラルルトキハ本議定書ニ記載スル所ノ諸約定ハ別ニ正式ノ批准ヲ要セシテ兩締盟國政府ノ可認セシモノト看做スヘキコトヲ約スルモノナリ

明治三十一年二月二十五日即「ラタナコシンドル、ソック」第百十六年西曆千八百九十八年二月二十五日盤谷ニ於テ本書六通ヲ作ル

稻垣滿次郎　印

（ダヴアロオングセ、ヴアロプラカー　印）

第二十一章　奧地利洪牙利國

（明治三十一年九月　日　勅令）

日奧通商航海條約

朕明治三十年十二月五日奧地利國維也納ニ於テ朕カ全權委員ト奧地利洪牙利國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ヲ批准シ並ニ之ヲ公布セシム

通商航海條約

日本國皇帝陛下及奧地利國ポヘミヤ國洪牙利國皇帝陛下ハ兩國臣民ノ交際ヲ皇張增進シ以テ幸ニ兩國間ニ存在スル所ノ厚誼ヲ維持セムコトヲ欲シ而シテ此ノ目的ヲ遂セムニハ從來兩國間ニ存在スル所ノ條約ヲ改正スルニ如カサルヲ確信シ公正ノ主義ト相互ノ利益トヲ基礎トシ其ノ改正ヲ完了スルコトニ決定シ之カ爲ニ日本國皇帝陛下ハ維也納駐劄帝國特命全權公使正四位勳二等高平小五郎ヲ奧地利國ポヘミヤ國洪牙利國皇帝陛下ハ其ノ「コンセイエー、アンチーム、アクチユエル」侍從、宮內大臣兼外務大臣「シユヴァリエー、ド、ロルドル、ド、ラ、トロツン、ド、ル」「シユヴァリエー、ド、ブルミエール、クラッス、ド、ロルドル、アムベリアル、ド、ラ、クーロンヌ、ド、ブエール」「アゲノル、ゴルホウスキー、ド、ゴルホウスキー」ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ其ノ眞好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ通商航海條約ヲ協議決定セリ

第一條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內何レノ所ニ到リ、旅行シ或ハ居住スルモ全ク隨意タルヘク而シテ其ノ身體及財產ニ對シテハ完全ナル保護ヲ享受スヘシ

該臣民ハ其ノ權利ヲ伸張シ及防護セムカ爲メ自由ニ且容易ニ裁判所ニ訴出ルコトヲ得ヘク又該裁判所ニ於テ其ノ權利ヲ伸張シ及防護スルニ付內國臣民ト同樣ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有權及適法ニ獲得シ又ハ相續、遺贈或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有シテ此ノ條約ヲ遵守シ且內國若ハ最惠國民ニ課セラルヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金若ハ賦課金ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其心ニ關シ完全ナル自由ヲ享有シ該臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ノ諸港及諸河ニシテ外國通商ノ爲メ開カレ又ハ開カルヘキ場所ヘ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルヲ得且通商、工業及航海ニ關シテハ政府、官吏、公吏、一私人或ハ會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ稅金或ハ取立金ハ其ノ性質若ハ名稱ノ如何ヲ論セス內國或ハ最惠國民ノ拂フ所ニ異ナル或ハ之ヨリ多額ノモノヲ拂フコトナク內國或ハ最惠國民ト同一ノ取扱ヲ享有スヘシ但シ常ニ其ノ國ノ法律、勅令及規則ヲ遵守スヘキモノトス

第二條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ住居スル者ハ陸軍、海軍、護國軍、民兵等ニ論ナク總テ強迫兵役ヲ免カレ且其ノ服役ノ代リトシテ取立ル所ノ一切ノ納金ヲ免カレ又一切ノ強募公債及軍事上ノ賦欵或ハ捐資ヲ免カルヘシ

土地又ハ不動產ノ所有ニ附著スル所ノ賦課金及其ノ所有者ハ貸借人トシテ一般ノ內國人ニ代言人、辯護人及代人ヲ選擇シ且使用スルノ自由ヲ得右ノ外司法取扱ニ關スル各般ノ事項ニ關シテ內國臣民ノ享有スル總テノ權利及特典ヲ享有スヘシ

住居權、旅行權及各種動產ノ所有權及適法ニ獲得シ又ハ相續、遺贈或ハ其他ノ方法ニ因テ移轉シ得ル所ノ各種財產ヲ如何ニ處分スルコトニ關シ兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ在リテ內國若ハ最惠國民ト同樣ノ特典、自由及權利ヲ享有

ニ係ル物品ノ輸入ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ノ生産或ハ製造ニ係ル同種ノ物品ヲ何レノ地ヨリ輸入スルコトヲモ禁止スルコトナカルヘシ但シ此ノ末段ノ取極ハ人身ノ安寧竝ニ家畜ノ保護及農業ニ有益ナル植物ノ保護ニ必要ナル衛生上及其ノ他ノ禁止ニハ適用スヘカラサルモノトス

第六條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ヨリ他ノ一方ノ版圖内ヘ輸出スル一切ノ物品ヘハ他ノ各外國ヘ輸出スル同種物品ニ對シ賦課シ若ハ賦課スヘキ所ニ異ナルカ或ハ之ヨリ多額ノ稅金又ハ雜費ヲ賦課スルコトナカルヘシ又兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ於テ他ノ各外國ニ向ヒ物品ノ輸出ヲ禁止スルニ非サレハ他ノ一方ノ版圖内ヘ同種ノ物品ヲ輸出スルコトヲモ禁止セサルヘシ

第七條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ在リテ總テノ内地通過稅ノ免除ヲ享ケ且倉入、奬勵金、便益及稅金拂戻等ノ事項ニ就テハ内國臣民ト均等ノ取扱ヲ享クヘシ

第八條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ニ到ル他ノ一方ノ商人、工業者及注文取集旅商カ見本トシテ輸入シタル總テノ有稅物品ニ對シテハ其ノ國ノ法律ヲ以テ定メタル期日内ニ竇捌カレシテ再輸出スルコトトナリ而シテ右再輸出ノ爲メ又ハ稅關倉庫ヘ送戻ス爲ニ稅關手續ヲ履行スルニ於テハ輸出入稅ヲ免除スヘシ但シ右見本ノ再輸出ニ付テハ兩締盟國ノ版圖内ニ於ケル最初ノ輸入地ニ於テ其ノ輸入ノ際稅金ニ均シキ金額ヲ預ケ入ルルカ又ハ擔保ヲ差入レテ之ヲ保障スヘシ

又見本品ニ切リ放シタル見本小片及見本トシテ唯タ見本用ニ適スルニ過キサルモノハ前項掲載以外ノ方法ニ依リ輸入セラルルトキ雖其ノ輸入稅ヲ免除スヘシ

第九條

國、市、町、村若ハ團體ノ爲ニスルニ論ナク兩締盟國ノ一方ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ或物品ノ生産、製造又ハ消費ニ對シ内國稅ヲ賦課スルトキハ他ノ一方ノ版圖内ヨリ輸入セラレタル同種ノ物品ニ對シテモ前記ノ全版圖内又ハ其ノ一部分ニ於テ同一ノ稅ヲ賦課スルコトヲ得ルモ之ヨリ多額ノ稅又ハ苛重ノ稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

同種ノ物品ニシテ前記ノ全版圖ニ於テ生産、製造セラレサルトキハ何等ノ内國稅モ賦課スルコトヲ得ス

第十條

日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ諸港ヘ日本國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦墺地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ日本國船舶ニ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國ノ諸港ヘ墺地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ日本國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ又墺地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ内國ノ船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ日本國船舶ニ輸入スルコトヲ得ル場合ニ於テハ日本國船舶ヲ以テ同樣ニ之ヲ右諸港ヘ墺地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ニ輸入スルコトヲ得ル場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ内國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ日本國船舶ニ輸入スルコトヲ得ル場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ内國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ又墺地利國又ハ洪牙利國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入シ若ハ輸入セラルヘキ物品ハ亦日本國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ右相互對等ノ取扱ハ内國ノ船舶ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テハ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ニ課スルト均シキ稅金又ハ雜費ノ外何等ノ名義ヲ以テスルモ更ニ別種或ハ多額ノ稅金、雜費等ヲ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ内國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十一條

政府、官吏、公吏、一私人、會社若ハ何等施設ノ名義ヲ以テシ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル所ノ噸稅、港稅、水先案内料、燈臺稅、檢疫費其ノ他之ト同種若ハ之ニ類似ノ稅金ハ其ノ性質竝ニ名義ノ如何ニ拘ハラス同一ノ條件ヲ以テ同樣ノ場合ニ於テ内國船舶又ハ最惠國ノ船舶ニ課スルモノニ非サレハ兩締盟國ノ一方ハ其ノ版圖内ノ港ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課セサルヘシ此ノ如キ均等ノ取扱ハ内國ノ船舶カ何レノ地或ハ港ヨリ來リ又何レノ所ニ往クモノタリトモ相互同一タルヘキモノトス

第十二條

兩締盟國ノ一方ノ版圖内ノ海港、海灣、船渠、川河或ハ其ノ他ノ碇泊所ニ於テ船舶ノ緊留又ハ貨物ノ船積、船卸ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ内國船舶ニ許與セサル特典、殊遇ハ均シク他ノ一方ノ締盟國ノ船舶ニモ許與セサルヘシ但シ本件ニ關シテモ亦兩締盟國ノ目的ハ兩國ノ船舶ニ對シ互ニ全ク均等ノ取扱ヲ施スニ在ルモノトス

第十三條

兩締盟國ノ沿海貿易ハ本條約ニ於テ規定スルノ限ニ在ラス各其ノ法律、勅令及規則ニ從ヒ之ヲ規定スヘキモノトス然レトモ墺地利洪牙利帝國内ニ於ケル日本國臣民又ハ日本國皇帝陛下ノ版圖内ニ於ケル墺地利國又ハ洪牙利國臣民ハ總テ沿海貿易ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ニ依リ他ノ外國民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ權利及特典ヲ享有スルモノトス

墺地利國又ハ洪牙利國ノ二箇以上ノ港ヘ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル日本國船舶及日本國皇帝陛下ノ版圖内ノ二箇以上ノ港ヘ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル墺地利國又ハ洪牙利國船舶ハ其ノ國ノ法律及稅關規則ニ從ヒ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ日本國政府ハ又本條約ノ期限間是迄ノ通リ帝國諸開港場間ニ荷物ノ運搬ヲ繼續スルコトヲ墺地利國及洪牙利國船舶ニ許與ス尤大阪、新潟及夷港ハ此限ニ在ラス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ理由ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ於テ避難スルモノハ右ノ如キ場合ニ於テ内國船舶ノ拂フヘキ稅金ノ外何等ノ稅金ヲモ拂フコトナク其ノ港ニ於テ修繕ヲ爲シ必要ナル一切ノ階用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ最近地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ直チニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

墺地利國又ハ洪牙利國管轄水面ニテ難破シ若ハ淺瀨ニ乘上ケタル日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ手續ハ墺地利國及ヒ洪牙利國法律、勅令及規則ニ從ヒ日本國船舶ノ救助ニ關スル一切ノ事項ニ關シテハ各右法律、勅令及規則ニ依リ他ノ外國民ニ許與シ若ハ許與セラルヘキ權利及特典ヲ享有スルモノトス

墺地利國又ハ洪牙利國ノ二箇以上ノ港ヘ其ノ全部若ハ一部ヲ仕向ケタル荷物ヲ外國ニ於テ積載シタル墺地利國又ハ洪牙利國船舶ハ其ノ國ノ法律及稅關規則ニ從ヒ外國貿易ヲ許サレタル仕向港ノ一ニ於テ其ノ積荷ノ一部ヲ陸揚シ而シテ其ノ最初ニ積載シタル荷物ノ剩餘ヲ陸揚スル爲メ他ノ一港若ハ數港ヘ進航スルコトヲ得ヘシ日本國政府ハ又本條約ノ期限間是迄ノ通リ帝國諸開港場間ニ荷物ノ運搬ヲ繼續スルコトヲ墺地利國及洪牙利國船舶ニ許與ス尤大阪、新潟及夷港ハ此限ニ在ラス

第十四條

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ暴風又ハ其ノ他ノ理由ノ爲メ已ムヲ得ス他ノ一方ノ海港ニ於テ避難スルモノハ右ノ如キ場合ニ於テ内國船舶ノ拂フヘキ稅金ノ外何等ノ稅金ヲモ拂フコトナク其ノ港ニ於テ修繕ヲ爲シ必要ナル一切ノ階用品ヲ求メ再ヒ航行スルヲ得ヘシ但シ商船ノ船長ニシテ其ノ費用ヲ支辨スル爲メ其ノ積荷ノ一部ヲ賣却スルヲ要スル場合ニハ該船長ハ其ノ寄港地ノ規則及稅目ヲ遵守スヘキモノトス

兩締盟國ノ一方ノ軍艦或ハ商船ニシテ他ノ一方ノ沿岸ニ於テ淺瀨ニ乘上ケ或ハ難破シタルトキハ地方官ヨリ最近地方ニ在ル所ノ總領事、領事、副領事又ハ代辨領事ヘ直チニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト看做シ又墺地利國又ハ洪牙利國ノ國法ニ從ヒ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ト看認ムヘシ

第十五條

本條約ヲ適用スルニ方リ日本國ノ國法ニ從ヒ日本國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ日本國船舶ト看做シ又墺地利國又ハ洪牙利國ノ國法ニ從ヒ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ト看做サルヘキ一切ノ船舶ハ之ヲ墺地利國又ハ洪牙利國船舶ト看認ムヘシ

第十六條

兩締盟國ノ一方ニ屬スル軍艦或ハ商船ノ海員ニシテ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ脫船スル者アルニ際シ右船舶所屬國ノ領事又ハ其ノ代理官ヨリ其ノ捕獲引渡ノコトヲ地方官ニ依賴スルトキハ該地方官ハ其ノ權力ノ及フ限リ該脫船人ヲ捕獲シ且之ヲ引渡ス爲メ助力ヲ爲スヲ要スルモノトス

但シ海員カ其ノ各自ノ所屬國ニ於テ脫船シタルトキハ此ノ規定ヲ適用セサルモノト知ルヘシ

第十七條

兩締盟國ハ其ノ一方ノ通商及航海ヲシテ他ノ一方ニ於テ總テ最惠國ノ取扱ヲ享受セシムルノ主意ヲ有スルニ因リ通商及航海ニ關スル一切ノ事項ニ關シ其ノ一方ヨリ別國ノ政府、船舶或ハ國民ニ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ特典、殊遇若ハ免除ハ他ノ一方ニモ即時ニ且條件ヲ附セスシテ之ヲ許與スヘキコトヲ兩締盟國ニ於テ約定ス

第十八條

兩締盟國ノ一方ノ臣民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行スルトキハ專賣特許、意匠、雛形、製造標、商標、商社號及商號ニ關シ内國臣民ト同一ノ保護ヲ受クヘシ

第十九條

兩締盟國ノ一方ハ他ノ一方ノ海港、都府及其ノ他

ノ場所ニ總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ヲ置クコトヲ得ヘシ但シ領事官ノ駐在ヲ認許スルニ便宜ナラサル場所ハ此ノ限ニ在ラス

然レトモ右ノ制限ハ他ノ諸外國ニ對シ之ヲ適用スルニ非サレハ一方ノ締盟國ニ對シテ之ヲ適用スルヲ得サルモノトス

總領事、領事、副領事、領事代及代辨領事ハ一切ノ職務ヲ執行スルコトヲ得且其ノ在留國ニ於テ最惠國ノ領事官ニ現ニ許與シ或ハ許與セラルヘキ一切ノ特典、特權及免除ハ總テ之ヲ享有スヘキモノトス

第二十條

兩締盟國ハ左ノ取極ニ同意スヘシ

日本國ニ在ル各外國人居留地ハ夫其ノ所在ノ日本國市區ニ編入シ爾後日本國市區組織ノ一部トナルヘシ

然ル上ハ日本國當該官吏ハ右ノ新組織ヨリ生スル施政上ノ責任ヲ悉皆負擔スヘシ又右外國人居留地ニ屬スル共有資金及財產アルトキハ當然之ヲ右日本國官吏ヘ引渡スヘキモノトス

前記ノ變更ヲ終リタルトキハ該居留地内ニテ外國人カ現ニ固テ以テ不動產ヲ所持スル所ノ永代借地契約書ハ有效ノモノト確認セラルヘシ而シテ右ノ如キ性質ノ不動產ニ對シテハ特ニ右借地契約書ニ規定シタルモノノ外ハ何等ノ條件モ附セス又何等ノ租稅、賦課金、取立金モ徵收セサルヘシ但シ右借地契約書中ニ領事官トアルハ日本國官吏ヲ以テ之ニ代フヘキコトト知ルヘシ

右居留地内ノ地所占有權ハ將來ニ於テハ從來或場合ニ於クルカ如ク領事官廳若ハ日本國官廳ノ認可ヲ得ルコトヲ要セスシテ其ノ占有者ヨリ自由ニ之ヲ日本國人若クハ外國人ニ讓渡スコトヲ得ヘシ

公共ノ目的ノ爲ニ日本國政府ヨリ無借料ニテ貸與シアル各地所ハ永久總テノ租稅、賦課金及取立金ヲ課スルコトナク最初貸與シタル時ノ目的ニ永代使用セラルヘシ但シ國土領有ノ大權ニハ從フヘキモノトス

第二十一條

本條約ノ規定ハ現ニ兩締盟國ノ一方ノ關稅ヲ施行シ若ハ將來施行スヘキ國土ニモ適用スヘキモノトス

第二十二條

本條約ノ全部實施ノ日ヨリ明治二年九月十四日即西曆千八百六十九年十月十八日ノ條約及兩締盟國ノ間ニ締結シ右實施期日以前ニ現存スル一切ノ取極及約定ハ總テ無效ニ歸シ隨テ執行シタル裁判所カ日本國ニ於テ執行判權ニ關シ墺地利國又ハ洪牙利國臣民カ享有セル特典、特權及免除ハ本條約實施ノ日ヨリ別ニ通知ヲ爲サスシテ當然消滅ニ歸スヘシ而シテ此ノ時ヨリ墺地利國及洪牙利國臣民ハ日本國裁判所ノ裁判權ニ服從スヘキモノトス

第二十三條

本條約ハ第十八條ヲ除クノ外政府ニ於テ之ヲ實施セムト欲スル旨ヲ墺地利洪牙利國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十年十二月五日維也納ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタル二箇年ヲ經ルニ非サレハ實施セラレサルモノトス但シ如何ナル場合ト雖千八百九十九年七月十七日以前ニハ之ヲ實施セサルモノトス又本條約ハ其ノ實施ノ日ヨリ十二箇年間效力ヲ有スルモノトス

兩締盟國ノ一方ハ本條約實施ノ日ヨリ十一箇年ヲ經過シタル後ハ何時タリトモ本條約ヲ終了セムト欲スル旨ヲ他ノ一方ヘ通知スルノ權利ヲ有スヘシ而シテ此ノ通知ヲ爲シタル後十二箇月ヲ經過シタルトキハ本條約ハ全然消滅ニ歸スヘキモノトス

本條約第十八條ハ本條約批准交換ノ日ヨリ實施セラルヘシ而シテ兩締盟國ニ於テ別ニ之ニ反スル取極ヲ爲ササルトキハ本條約ノ他ノ條項效力ヲ失フニ至ル迄其ノ效力ヲ有スヘシ

墺地利洪牙利國ハ何時ニテモ本條約第五條第一項ヲ廢止スル旨ヲ通知スルヲ得ヘシ而シテ右通知ヲ爲シタルトキハ右條項ハ通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經テ無效ニ歸スヘキモノトス

第二十四條

本條約ハ兩締盟國ニ於テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ維也納若ハ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ゴルホウスキー　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕帝國ト墺地利洪牙利國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十年十二月五日維也納ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタル二箇年ヲ經テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ維也納若ハ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ゴルホウスキー　印

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐ミタル日本國皇帝（御名）此書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕墺地利洪牙利國トノ交際ヲ永久親睦ナラシメムコトヲ欲シ明治三十年十二月五日維也納ニ於テ兩國全權委員ノ記名調印シタル通商航海條約ノ各條目ヲ親シク閱覽點檢シタル二箇年ヲ經テ之ヲ批准シ其ノ批准ハ可成速ニ維也納若ハ東京ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ゴルホウスキー　印

追加條約

下名ノ維也納駐劄日本國皇帝陛下ノ特命全權公使及墺地利國、ポヘミヤ國及洪牙利國皇帝陛下ノ外

スルニ際シ左ノ取極ニ同意セリ

第一　條約第一條ニ付

日本國政府ハ墺地利國及洪牙利國臣民ノ爲ニ全國ヲ開ク迄ハ該國臣民ニ對シ現行ノ旅券方法ヲ據服スルコトニ同意ス即墺地利國及洪牙利國臣民カ在東京墺地利洪牙利國公使館若ハ日本國開港場ニ駐在スル墺地利洪牙利國領事館ヨリノ紹介證書ヲ所持シテ出願スルニ於テハ十二箇月ヲ超エサル期間國内何レノ地ヘモ到ルコトヲ得ヘキ旅券ヲ東京外務省若ハ開港場所在地地方長官ヨリ交付スヘシ但シ日本帝國ノ内地ニ旅行スル墺地利國及洪牙利國臣民ニ適用スヘキ現行ノ法律規則ハ之ヲ保續スルモノト知ルヘシ

第二　條約第一條及第三條ニ付

兩締盟國ハ其ノ一方ノ臣民カ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ内國臣民ト同樣不動產抵當權ノ取得及占有ヲ許スコトニ同意ス

第三　條約第一條及第十九條ニ付

兩締盟國ハ領事官ノ職權、民刑事件ニ關スル司法事務ノ幣助及犯罪人引渡ニ關シ特別ノ取極ヲ以テ之ヲ規定スル迄ノ間ハ相互ニ最惠國ノ取扱ヲ許與スルモノト知ルヘシ

第四　條約第五條ニ付

本日調印シタル通商航海條約批准交換後一箇月ノ後ハ現今墺地利洪牙利帝國ヨリ日本國ニ輸入スル貨物ニ對シテ施行スル輸入稅目ハ無效ニ歸スルモノトス右稅目ノ無效ニ歸シタル後ハ日本國ニ輸入スル墺地利洪牙利國ノ生產若ハ製造ニ係ル貨物ニ對シテハ日本國ノ新關稅則及日本國ト諸外國トノ間ニ締結シタル條約ニ規定セル特別稅則ヲ適用スルモノトス而シテ

シヲ兩締盟國間ノ現行條約有效ナル間ハ其ノ第二十條ノ規定ニ依リ爾後ハ本日調印シタル條約第五條及第十七條ノ規定ニ依テ擔保セル最惠國ノ取扱ヲ維持スルモノトス

第五　條約第十八條ニ付

兩締盟國ハ專賣特許、意匠、雛形ノ保護ニ關シテ別ニ條約ヲ締結スルコトアルヘシ而シテ之カ爲メ適當ノ時期ニ至リ相當ノ商議ヲ開クヘシ

日本國政府ハ日本國ニ於ケル墺地利洪牙利國領事裁判權ノ廢止ニ先タチ工業所有權ノ保護ニ關スル列國巴里條約ニ加入スヘキコトヲ約ス

第六　條約第二十二條ニ付

日本國内ニ於ケル墺地利洪牙利國ノ領事裁判權ハ本日調印シタル通商航海條約全部ノ實施ト同時ニ自然ニ消滅スルニ拘ハラス右條約全部實施ノ時ニ當リ既ニ審理中ニ係ル總テノ事件ニ關シテハ其ノ最終判決ニ至ル迄ハ該裁判權ヲ繼續スルコトニ同意ス

本議定書ハ其ノ附屬シ居ル所ノ條約ノ批准交換ヲ終ルト同時ニ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ兩締盟國ニ於テ之ヲ可認セシモノト看做スヘシ

本議定書ハ前記條約ノ無效ニ歸スルト同時ニ效力ヲ失フヘキモノトス

右證據トシテ兩國全權委員ハ本議定書ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日即西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印
ゴルホウスキー　印

務大臣ハ本日締結セラレタル通商航海條約附屬議定書ノ規定ニ基キ左ノ條款ヲ約定ス

第一條

日本國ノ新關稅則（前記通商航海條約第五條ニ關スル議定書第四項第一節）實施セラルルト同時ニ輿地利洪牙利帝國ノ生產若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ日本國ニ輸入ノ際左ノ稅ヲ課スヘシ

品目	從價稅率
一庖廚用具、皿鉢竝ニ洋藥ヲ施シタル其ノ他ノ鐵板及鋼板製ノ器具（彩色シ若ハ彩色セサル）	百ニ付十
一ランプ各種竝ニ金屬製若ハ玻璃製ノ部分品及附屬品	同十
一曲ケ木製家具類（各種ノ）	同十
一珠玉、金銀細貨類（假製ノ）	同十
一釦鈕類（各種ノ）	同十
一玻璃製品、クリスタル玻璃及玻璃類（窓玻璃ヲ除ク）	同十
一殺蟲粉	同五
一馬	無稅

從價稅ハ仕入地、產出地若ハ製造地ニ於ケル商品ノ原價ニ其ノ仕入地、產出地若ハ製造地ヨリ陸揚港ニ至ル迄ノ運搬及保險料ヲ加ヘ又手數料アルトキハ之ヲモ加ヘテ算定スヘキモノトス

第二條

輿地利洪牙利國ノ物品カ日本國ニ於テ前記ノ取扱ヲ享クル日ヨリ日本帝國內ノ生產若ハ製造ニ係ル物品ハ輿地利洪牙利國ノ關稅施行版圖內ニ輸入ノ際最惠國ノ取扱ヲ享有スヘシ

日本國ノ生產若ハ製造ニ係ル左記ノ物品ニハ輿地利洪牙利國ノ關稅施行版圖內ニ輸入ノ際左ノ輸入稅ヲ課スヘシ

品目	從價稅率
一麁繭及未タ絲ニセサル屑物	無稅
一生絲（繰リタル又ハ捻リタル）	無稅
一絲屑物（生ノ）	無稅
一純絹布類（無地ノ）	無稅
一麥稈サナタ（各種平紐ノ形ヲ爲シタル但他物ヲ交ヘサルモノ）	二百フロリン
一壁紙	二フロリン
一磁器	十八フロリン
第一 白地ノ	百キログラムニ付金五フロリン
第二 著色シタル、縁取シタル、描キタル、形付ノ及鍍金若ハ鍍銀シタル	十フロリン
一生絹（古絹ノ斷片及屑トモ）	無稅

第三條

本追加條約有效期限中日本國ニ於テ追加條約第一條ニ記載セル商品ニ對シ一層利益アル取扱ヲ第三國ニ許與シタル場合ニハ本日調印シタル通商航海條約附屬議定書中第五條ニ關スル第四項ノ規定ニ基キ輿地利洪牙利帝國ノ生產若ハ製造ニ係ル同一ノ商品ニモ右同樣ノ取扱ヲ適用スヘキモノトス

第四條

本追加條約ハ日本國ノ新關稅則實施ノ日ヨリ效力ヲ生シ千九百三年十二月三十一日迄存續スルモノトス

輿地利洪牙利國ニ於テ本日調印シタル通商航海條約第二十三條ノ規定ニ基キ該條約第五條第一項ヲ無效ニ歸セシムルノ意思ヲ通知シタルトキハ本追加條約ハ右通知ノ日ヨリ十二箇月ヲ經タル後無效ニ歸スヘキモノトス

本追加條約ハ本日調印シタル條約ノ批准交換ヲ終ルヲ以テ別ニ正式ノ批准ヲ要セシテ兩締盟國ニ於テ之ヲ可認セシモノト看做スヘシ

右證據トシテ兩國全權委員ハ本追加條約ニ記名調印スルモノナリ

明治三十年十二月五日卽西曆千八百九十七年十二月五日維也納ニ於テ本書二通ヲ作ル

高平小五郎　印

ゴルホウスキー　印

第二十二章　雜

◎メートル條約（明治十九年四月勅令）

玆ニ明治八年佛蘭西國巴里府ニ於テ獨逸國外十六箇國ノ間ニ締結セルメートル條約ニ加入シ竝ニ之ヲ公布セシム

明治八年（西曆千八百七十五年）佛蘭西國巴里府ニ於テ獨逸國外十六箇國ノ間ニ締結セルメートル條約譯文

日耳曼皇帝陛下、墺地利洪噶利皇帝陛下、白耳義皇帝陛下、伯剌西兒皇帝陛下、亞爾然丁共和國大統領閣下、丁抹國皇帝陛下、西班牙皇帝陛下、亞米利加合衆國大統領閣下、佛蘭西共和國大統領閣下、伊太利皇帝陛下、祕露共和國大統領閣下、葡萄牙亞爾珈揮皇帝陛下、瑞西聯邦大統領閣下、瑞典那威皇帝陛下、土耳其皇帝陛下及ヴェネズエラ共和國大統領閣下ハメートル法ヲ萬國ニ施行シ且之ヲシテ完全ナラシメンコトヲ

欲シ之カ爲メ條約ヲ締結センコトニ決定シ各其全權委員ヲ任命スルコト左ノ如シ

日耳曼皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權大使、普魯西赤鷲勳章及バヴヒユール、サン、ユペール勳章ノ「クラン、クロアー」「プランス、ド、ホヘンロー」、シルンクスヒユルスト」氏

墺地利洪噶利皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權大使、現侍從兼樞密顧問金羊毛勳章及レオポール勳章ノクラン、クロアー、コント、アッポニー氏

白耳義皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使レオポール勳章ノクラン、チフヒシエ及レジョン、ドノール勳章ノクラン、チフヒシエ、パロン、ベイヤン氏

伯剌西爾皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、宮中顧問、クリスト勳章ノコンマンドール、及レジョン、ドノール勳章ノクラン、チフヒシエ、貴族ヴヰコント、ダタジユバ、マルコー、アントニヨ、ダローシヨ氏

亞爾然丁音共和國大統領閣下ハ巴里府駐在同國特命全權公使バルカルス氏

丁抹皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、ダチプロア勳章ノクラン、クロアー、及同勳章ノクルアー、ドノール竝レジョン、ドノール、勳章ノクラン、オフヒシエ、コント、ド、モルトッケ、ウヰットフエルド氏

西班牙皇帝陛下ハ巴里府駐在同國特命全權公使、金羊毛勳章ノシュヴァリユ及レジョン、ドノール、勳章ノクラン、クロアー一等貴族ヴヰコント、ロカモラ、マルキー、ド、モレン、ドン、マリヤノー、ロカ、ド、トゴール氏及西班牙國地理統計學士院長理學會院會員イザベール、ラ、カトリック勳章ノクランクロアー將官イバチー氏

亞米利加合衆國大統領閣下ハ巴里府駐在同國特命全權公使ジヤン、コンラード、ケルヌ氏

土耳其皇帝陛下ハ參謀中佐ナスマニエ第四等勳章及シヴエー第五等勳章竝レジョン、ドノール勳章ノオフヒシエ、ヒユスニーベー氏

ヴエチズエラ共和國大統領閣下ハ學士エリセチ、アコスタ氏

右全權委員ハ互ニ委任ノ書ヲ示シ其善良適當ナルコトヲ認メ左ノ條條ヲ議定ス

第一條　締約諸國ハ共同ノ費用ヲ以テ度量衡萬國中央局ヲ設立維持シ巴里府ニ之ヲ常置シテ以テ學術上ノ事ヲ司ラシムヘシ

第二條　佛國政府ハ本條約附錄ノ規則ヲ以テ定メタル條規ニ隨ヒ專ラ右目的ニ供スヘキ家屋ノ買入若クハ建築ヲ容易ナラシムルニ必要ナル處置ヲナスヘシ

第三條　萬國中央局ハ總テ度量衡萬國委員會ノ指揮監督ヲ受ケテ事務ヲ取扱フヘシ但該委員會ハ締約各國政府ノ委員ヲ以テ組織スル度量衡總會議ノ支配ヲ受クヘキモノトス

第四條　度量衡總會議ハ議長ノ任ハ巴里理學會院現職院長ニ委嘱スルモノトス

第五條　中央局ノ組織竝度量衡萬國委員會及度量衡總會ノ組成權限ハ本條約附錄ノ規則ニ於テ之ヲ規定スヘシ

第六條　度量衡萬國中央局ハ左ノ事務ヲ擔任スヘシ

第一　新製メートル及キログラム原器ノ比較監査ニ關スル事

第二　萬國原器ノ保存

第三　定期ヲ以テ各國模製原器ヲ萬國原器及其擬製品ト比較シ且各國標準寒暖計ヲ相比較ス

ル事

第四　新製原器ヲ以テ各國及學術上ニ於テ使用スル所ノ度量衡原器ニシテメートル法ニ基カサルモノニ比較スル事

第五　測地用ノ尺度ヲメートル原器ニ照準シテ之ヲ比較スル事

第六　政府、學士協會、美術家又ハ學士ノ囑托ニ應シ諸原器及確正尺度ヲ比較監査スル事

第七條　中央局ハ局長一名補助二名及其他職員ノ必要ナル員數ヲ以テ組織ス

新製原器ノ比較ヲ終了シ之ヲ各國間ニ配分シタル後ハ中央局ノ職員ヲ至當ト認ムル割合ヲ以テ減少スヘシ

中央局職員ノ任命ハ萬國委員會ヨリ締約各國政府ニ通知スヘシ

第八條　メートル及キログラム萬國原器及其擬製品ハ中央局内ニ保存シ之ニ接近スルヲ得ルハ獨リ萬國委員會ノ權内ニ在ルモノトス

第九條　度量衡萬國中央局ノ構造創設竝其維持ニ要スル毎年ノ經費及萬國委員會ノ經費等ハ凡テ締約各國ノ支出金ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ但其支出金額ハ締約各國現時ノ人口ニ基キ調製シタル割合表ニ準據シテ之ヲ定ムヘキモノトス

第十條　締約各國ハ其支出金額ヲ毎歳ノ初メ佛國外務省ヲ經由シテ巴里府貯金所ヘ拂込ムヘシ右金額ハ入用ノ都度中央局長ノ證券ヲ以テ該貯金所ヨリ之ヲ請取ルヘキモノトス

第十一條　本條約ニ加盟スルノ權ハ各邦國ニ許與スルニ付之ヲ行ハントスル政府ハ割賦ノ支出金ヲ拂入ルヘシ其金額ハ第九條ニ記載ノ基礎ニ依リ萬國委員會ニ於テ之ヲ定ムヘシ且右支出金ハ本局學術上ニ關スル器具材料ノ改良ニ充ツヘキモノトス

第十二條　締約各國ノ經驗ニ依リ本條約ニ修正ヲ加フルコトヲ有益ト認メタルトキハ協議一致ノ上之ヲ爲スノ權アルモノトス

第十三條　十二箇年ノ期限ヲ經過シタル後締約各國ハ本條約ヲ解脱スルコトヲ得ヘシ

自己ノ權利ニ依リ本條約ノ聯合ヲ脱セント欲スル政府ハ該期限ノ竟了スル一年前ニ其旨ヲ告知スヘシ然ルトキハ萬國原器及中央局ニ於テ總テノ共同所有權ヲ放棄シタルモノトス

第十四條　本條約ハ各國特有ノ憲法ニ從ヒ之ヲ批准シ巴里府ニ於テ六箇月内若クハ成ルヘク速ニ其批准書ヲ交換スヘシ而シテ本條約ハ千八百七十六年一月一日ヨリ之ヲ實行スヘキモノトス

右確證ノ爲メ各國ノ全權委員各竝ニ記名捺印スルモノナリ

千八百七十五年五月二十日巴里府ニ於テ作ル

ホヘンローフ　署名捺印　同
アッポニー　同
ペイヤン　同
ヴ井マント、ヴタヴユバ　同
エム、バルカルス　同
エル、モルトツケ、ウ井ッフエルド　同
マルキー、ド、モレン　同
カルロ、イバチー　同
エ、ペー、ウアシュピュルヌ　同
デカーズ　同
セー、ド、モー　同
ヴユマー　同
ニケラ　同
ペー、ガルケエーズ　同
フランシスコ、ド、リケエル　同
ジョセ、ダ、シルヴハ、メンド、レアルチクーチッフ　同
アデルスケアールド　同
ケルヌ　同
ヒュスニー　同
エ、アコスタ　同

㊟瑞西國外十一國間ニ締結セル赤十字條約（明治十九年十一月勅令）

朕西暦千八百六十四年戰時負傷者ノ不幸ヲ救濟スル爲メ瑞西國外十一國ノ間ニ締結セル赤十字條約ニ加入シ玆ニ之ヲ公布セシム

西暦千八百六十四年八月二十二日瑞西國ヴユチーヴ府ニ於テ瑞西國外十一國ノ間ニ締結セル赤十字條約加盟書

日本皇帝陛下ハ軍隊出陣負傷者ノ狀態改良ノ件ニ關シ千八百六十四年八月二十二日ヴユチーヴニ於テ瑞西聯邦バード大公殿下白耳義皇帝陛下丁抹皇帝陛下西班牙皇帝陛下佛蘭西皇帝陛下葡萄牙及アルガルブ皇帝陛下普魯士皇帝陛下ヴュルタンベール皇帝陛下ノ間ニ締結セシ左ノ條約ヲ識認ス

第一條

戰地假病院及ヒ陸軍病院ハ局外中立ト見做シ患者若クハ負傷者ノ該病院ニ在ルノ間ハ交戰者之ヲ保護シテ侵スコト勿ルヘシ

但戰地假病院及ヒ陸軍病院ハ兵力ヲ以テ之ヲ守ル時ハ其局外中立タルノ資格ヲ失フモノトス

第二條

戰地假病院及ヒ陸軍病院ニ於テ任用スル人員即チ監督員、醫員、事務員、負傷者運搬員竝ニ說敎者ハ各其本務ニ從事シ且ツ負傷者ノ入院スヘク若クハ救助スヘキ者アル間ハ局外中立ノ利益ヲ享有スルモノトス

第三條

前條ニ揭ケタル各員ノ從事スル戰地假病院若クハ陸軍病院ハ敵軍ノ占領ニ係ルト雖モ各員ハ依然其本務ヲ行フコトヲ得ヘク若クハ其關スル隊ニ再ヒ加ハル爲メ退去スルコトヲ得ヘシ

前項ノ場合ニ於テ各員其職ヲ罷ル時ハ占領軍隊ヨリ敵軍ノ前哨ニ之ヲ送致スヘシ

第四條

陸軍病院ノ器具什物等ハ交戰條規ニ從テ處置スヘキモノナリ故ニ該病院附屬ノ各員ハ其退去ノ際各自ノ私有品ヲ除クノ外衛餘ノ物品ヲ携帶スルコトヲ得ス

但戰地假病院ハ前項ノ場合ニ於テモ其器具什物等ヲ保有スルコトヲ得

第五條

負傷者ヲ救助スル土地ノ住民ハ侵スコトヲ得ス且ツ之ヲシテ其自由ヲ得セシメサルヘカラス

交戰國ノ將官ハ住民ニ慈善ノ擧ヲ慫慂シ且ツ慈善ノ擧ニ依テ局外中立タルノ資格ヲ有スルコトヲ得ヘキ旨ヲ豫告スルノ責アルモノトス

家屋内ニ負傷者ヲ接受シ之ヲ看護スル時ハ其家屋ヲ侵スコトヲ得ス又自己ノ家屋ニ負傷者ヲ接受スル者ハ戰時課稅ノ一部ヲ免カレ且ツ其家屋ヲ軍隊ノ宿舍ニ供用スルコトヲ免カルヘシ

第六條

負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル軍人ハ何國ノ屬籍タルヲ論セス之ヲ接受シ看護スヘシ司令長官ハ戰鬪中ニ負傷シタル兵士ヲ速ニ敵軍ノ前哨ニ送致スルコトヲ得但右ハ其時ノ狀勢ニ於テ之ヲ送致スルコトヲ得ヘク且ツ兩軍ノ協議ヲ經タル場合ニ限ルモノトス

治療後兵役ニ堪ヘスト認メタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

又其他ノ者ト雖モ戰爭中再ヒ兵器ヲ帶ヒサル旨盟約シタル者ハ其本國ニ送還スヘシ

患者負傷者退去スル時ハ其之ヲ率フル人員ト共ニ完全ナル局外中立ノ取扱ヲ受クヘシ

第七條

陸軍病院戰地假病院竝ニ患者負傷者退去ノ標章トシテ特定一樣ノ旗章ヲ用ヒ且ツ其傍ニ必ス國旗ヲ揭クヘシ

局外中立タル人員ノ爲ニ臂章ヲ裝附スルコトヲ許ス但其交付方ハ陸軍官衙ニ於テ之ヲ司トルヘシ旗及ヒ臂章ハ白地ニ赤十字形ヲ畫クヘシ

第八條

此條約ノ實施ニ關スル細目ハ交戰國ノ軍隊ヲ指揮スル將官ニ於テ其本國政府ノ訓令ニ從ヒ且ツ此條約ニ明示シタル綱領ニ準據シテ之ヲ規定スヘシ

第九條

此締盟各國ハヂユネーヴ會議ニ全權委員ヲ派遣セサリシ政府ニ此條約ヲ示シ其加盟ヲ請フコトヲ約諾セリ因テ之カ爲メ議事錄中餘白ヲ存ス

第十條

此條約ハ批准ヲ受クヘキモノトス而シテ其批准書ハ〻ルヌニ於テ四月以内若クハ可成ハ其以前ニ交換スヘシ

是ニ於テ下名瑞西聯邦駐劄日本皇帝陛下ノ特命全權公使ハ本件ニ關シ特別ノ權限ヲ帶ヒ此書ヲ以テ日本帝國ノ本條約ニ加盟スルコトヲ告知ス

右確證ノ爲メ下名ハ千八百八十六年六月五日ベルヌ府ニ於テ此告知書ニ記名調印スルモノナリ

第二　局外中立國ノ旗章ヲ揭クル船舶ニ搭載セル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿獲スヘカラサル事

侯爵　蜂須賀　茂　韶（手署）

㊟澳地利外六國間ニ締結セル海上法要義ニ關スル宣言（明治二十年三月勅令）

朕西暦千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ澳地利、佛蘭西、大不列顛、普魯西、露西亞サルヂニア、及土耳古ノ間ニ締結セル海上法要義ニ關スル宣言ニ加盟シ玆ニ之ヲ公布セシム

海上法ノ要義ヲ確定スル爲メ西暦千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ決定セシ宣言

千八百五十六年三月三十日巴里條約ニ署名セル各全權委員ハ玆ニ會議ヲ開キ戰時海上法ノ古來久シク痛嘆スヘキ紛議ノ原因ト爲リ且本件ニ關スル法津及ヒ義務ノ明確ナラサルハ局外中立國ト交戰國トノ間意見ノ相合ハサルノ基ニシテ隨テ容易ナラサル困難或ハ葛藤ヲ惹起スルノ恐レアルコトヲ悟リ此緊要ナル事項ニ關シ一定ノ主義ヲ設クルノ利益アル事竝ニ巴里公會ニ參集セル各全權委員ニ於テ本件ニ關スル列國交際上一定ノ原則ヲ議定スルハ最モ能ク各自政府ノ希圖ニ應スルモノナル事ヲ認メ

因テ右全權委員ハ各其政府ヨリ委當ノ委任ヲ受ケ此目的ヲ達スルノ方法ヲ協議センコトニ決シ評議ノ上左ノ宣言ヲ採用セリ

第一　私船ヲ拿捕ノ用ニ供スルハ自今之ヲ廢止スル事

第二　局外中立國ノ旗章ヲ揭クル船舶ニ搭載セル敵國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除クノ外之ヲ拿

第三　敵國ノ旗章ヲ掲ケル船舶ニ捕獲セル局外中立國ノ貨物ハ戰時禁制品ヲ除ノ外之ヲ拿獲スヘカラサル事

第四　港口ノ封鎖ハ有效ナラシムルニハ實力ヲ用ヰサルヘカラス即チ敵國ノ海岸ニ接到スルヲ實際防止スルニ足ルヘキ充分ノ設備ヲ要スル事ヲ非ス

❽海上法要義ニ關スル宣言

ニ加盟セシ國名（明治二十三年外務省告示第一號ニ記載ス）

本年三月十九日勅令ヲ以テ公布相成タル西曆千八百五十六年巴里公會ニ於テ締結シタル海上法要義ニ關スル宣言ニ加盟ノ國國ハ左ノ如シ

海上法ノ要義ヲ確定スル爲メ千八百五十六年四月十六日巴里公會ニ於テ決定ノ宣言ニ加盟セル諸國ノ名次

第一該宣言ニ署名セシ國

佛國西 (France)
墺地利 (Autriche)
大不列顛國 (Grande Bretagne)
普魯士 (Prusse)
露西亞 (Russie)
サルヂニヤ (Sardaigne)
土耳其 (Turquie)

第二該宣言署名後ニ加盟セシ國

バード (Bade)
千八百五十六年七月三十日
バヴィエール (Baviere)
千八百五十六年七月四日
白耳義 (Belgique)
千八百五十六年八月二十七日
ブレーメ (Breme)
千八百五十六年六月十一日
ブラジル (Bresil)
千八百五十八年三月十八日
ブルンスウィック (Brunswick)
千八百五十七年十二月七日
智利 (Chili)
千八百五十六年八月十三日
アルセンチーヌ共和國 (Confederation Argentine)
千八百五十六年十月一日
獨逸聯邦 (Confederation Germanique)
千八百五十六年七月十日
瑞西聯邦 (Confederation Suisse)
千八百五十六年七月十六日（二十八日）
丁抹 (Danemark)
千八百五十六年六月二十五日
兩シール (Deux Siciles)
千八百五十六年五月三十一日
エクアトル (Equateur)
千八百五十六年十二月六日
羅馬諸州 (Etats Romains)
千八百五十六年六月二日
フランクフォルト (Francfort)
千八百五十六年六月十七日
希臘 (Grece)
千八百五十六年六月二十日
グアテマラ (Guatemala)
千八百五十六年八月三十日
ハンブール (Hambourg)
千八百五十六年六月二十七日
ハノーヴル (Hanovre)
千八百五十六年五月三十一日
ハイチ (Haiti)
千八百五十六年九月十七日
ヘッス・カッセル (Hesse-Cassel)
千八百五十六年六月四日
ヘッス・ダルムスタット (Hesse-Darmstadt)
千八百五十六年六月十五日
リュベック (Lubeck)
千八百五十六年六月二十日
メクレンブール・シュウェリン (Mecklembourg-Schwerin)
千八百五十六年七月二十二日
メクレンブール・ストレリッツ (Mecklembourg-Strelitz)
千八百五十六年八月二十五日
ナソー (Nassau)
千八百五十六年六月十八日
オルデンブール (Oldenbourg)
千八百五十六年六月九日
パルム (Parme)
千八百五十六年八月二十日
和國 (Pays-Bas)
千八百五十六年六月七日
祕露 (Perou)
千八百五十六年十一月二十三日
葡萄牙 (Portugal)
千八百五十六年七月二十八日
サルヴァドル (Salvador)
千八百五十六年一月二日
サックス・アルテンブール (Saxe Altenbourg)
千八百五十六年六月九日
サックス・コブール・ゴタ (Saxe Cobourg Gotha)
千八百五十六年五月二十二日
サックス王國 (Saxe Royale)
千八百五十六年六月十六日
サックス・ヮイマール (Saxe Weimar)
千八百五十六年六月二十二日
瑞典及諾威 (Suede et Norwege)
千八百五十六年六月十三日
トスカーヌ (Toscane)
千八百五十六年六月五日
ヲルテンブール (Wurtemburg)
千八百五十六年六月二十五日
日本　千八百八十六年十月三十日

❾逃亡犯罪人引渡條例（明治二十六年勅令第二百四十號）

第一條　逃亡犯罪人引渡條例ハ本條例ニ於テ締約國ト稱スル外國ヲ關スル犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後締結スルニ際シ其ノ全部又ハ一部ヲ實施スル爲メ必要ナル規定ヲ設ケタル場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含スルノ點ニ關スル規定ヲ除ク外締約國ノ何レノ地ニ於テモ教カアルモノトス

第二條　本條例ニ據リ教ヲ請求スル逃亡犯罪人ハ帝國臣民ナルノ故ヲ以テ引渡ヲ拒ムコトヲ得ス但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含スルノ點ニ關スル規定ヲ除ク外締約國ノ何レノ地ニ於テモ教カアルモノトス

一　以下略

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告書ノ寫

第十二條　外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルトキハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又ハ其到著スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條　上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附錄第二號書式ニ依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條　請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ逃ニ該檢事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條　告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得

有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定スヘシ

第十六條　上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附錄第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條　逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラルコトナカルヘシ

第十八條　司法大臣ハ左ノ場合ニ限リ引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一　引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪ヲ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二　有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタル者ノ確實ナルコトヲ認メタルトキ

第十九條　國際裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國ノ問ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴告發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條　逃亡犯罪人ヲ引渡スト雖モ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條　司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國內海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得

本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合卽チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル

（附屬書式略ス）

❸外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法（明治三十二年三月法律第六十八號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關スル援助法

第一條　外國艦船乘組員ノ逮捕留置ニ關シ締盟各國トノ通商航海條約又ハ領事職務條約ニ依リテ爲スヘキ援助ハ當該領事官ノ請求ニ依リ檢事之ヲ行フ

第二條　左ノ場合ニ於テハ檢事ハ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ニ應スルコトヲ得ス

第一條　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國臣民ナルトキ

第二條　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付訴追ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキ

第三條　第八條ニ依リ放免シタル艦船乘組員ニ對シ更ニ同一ノ事件ニ付請求アリタルトキ

第四條　領事官カ援助ノ請求書ニ船舶登錄簿及艦船乘組員名簿ノ正當ナル拔萃又ハ乘組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文書ヲ添付セサリシトキ

第五條　領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保證セサリシトキ

第三條　檢事カ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢事カ艦船乘組員ノ逮捕ヲ命スヘキ場合ニ於テハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五條　逮捕狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ其ノ指定シタル者ヲ逮捕シタルトキハ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ引致スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ直ニ之ヲ訊問シ人違ナシト認メタルトキハ速ニ當該領事官ニ引渡スヘシ

第七條　逮捕シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ留置ノ請求アリタルトキハ檢事ハ之ヲ監獄ニ留置セシムヘシ

第八條　留置シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ放免ノ請求アリタルトキ又ハ逮捕ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ放免スヘシ

第九條　逮捕狀ノ發付及其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　援助ニ關スル費用ハ檢事ニ於テ當該領事官ニ對シ其ノ實費額ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　檢事ハ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタルトキハ命令ヲ以テ其ノ援助ノ手續ヲ終リタルトキ亦同シ

領事官ノ職務ニ關スル件（明治三十二年三月法律第七十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條　條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ

但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條　領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第一條　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國臣民ナルトキ

第二條　逮捕又ハ留置スヘキ者カ帝國ニ於テ重罪輕罪ノ刑ニ該ルヘキ犯罪ニ付訴追ヲ受ケ又ハ處刑中ナルトキ

第三條　第八條ニ依リ放免シタル艦船乘組員ニ對シ更ニ同一ノ事件ニ付請求アリタルトキ

第四條　領事官カ援助ノ請求書ニ船舶登錄簿及艦船乘組員名簿ノ正當ナル拔萃又ハ乘組員タルコトヲ證明スルニ足ルヘキ公文書ヲ添付セサリシトキ

第五條　領事官カ援助ニ關スル費用ノ支辨ヲ保證セサリシトキ

第三條　檢事カ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ請求ヲ正當ナリト認メタルトキハ速ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條　檢事カ艦船乘組員ノ逮捕ヲ命スヘキ場合ニ於テハ逮捕狀ヲ發スヘシ

第五條　逮捕狀執行ノ命ヲ受ケタル者カ其ノ指定シタル者ヲ逮捕シタルトキハ逮捕狀ヲ發シタル檢事ニ引致スヘシ

第六條　前條ノ場合ニ於テハ檢事ハ直ニ之ヲ訊問シ人違ナシト認メタルトキハ速ニ當該領事官ニ引渡スヘシ

第七條　逮捕シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ留置ノ請求アリタルトキハ檢事ハ之ヲ監獄ニ留置セシムヘシ

第八條　留置シタル艦船乘組員ニ付領事官ヨリ放免ノ請求アリタルトキ又ハ逮捕ノ日ヨリ六箇月以內ニ於テ引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ放免スヘシ

第九條　逮捕狀ノ發付及其ノ執行ニ付テハ刑事訴訟法中勾留狀ニ關スル規定ヲ準用ス

第十條　援助ニ關スル費用ハ檢事ニ於テ當該領事官ニ對シ其ノ實費額ノ請求ヲ爲スヘシ

第十一條　檢事ハ領事官ヨリ逮捕又ハ留置ニ關スル援助ノ請求ヲ受ケタルトキハ命令ヲ以テ其ノ援助ノ手續ヲ終リタルトキ亦同シ

領事官ノ職務ニ關スル件（明治三十二年三月法律第七十號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル領事官ノ職務ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ抵觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條　條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條　領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ

但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條　外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條　領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條　條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件竝非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條　前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ抵觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條　領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第九條　領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

第十條　前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條　前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

區裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス

第十三條　領事官ハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢事又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナ

キトキハ領事官ハ其ノ管轄區域内ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十四條　領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條　法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人タラントスル者ハ領事官ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條　第十三條及第十四條ニ揭ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國内ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條　領事館ノ設置ナキ地ニ限リ命令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條　本法其ノ他ノ法律中單ニ領事又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條　本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條　清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

海外旅行手續　（明治十一年五月第九號布告）

明治二年四月同三年正月布告海外行印鑑免狀渡方ノ儀及同九年（十月）第百二十八號布告中海外行免狀ノ廉ハ廢止候條自今外務省本年（一月）第一號布達海外旅券規則ニ照準スヘシ此旨布告候事

海外旅券規則　（明治十一年二月外務省第一號布達）

從來當省ヨリ發行候海外行免狀ノ儀海外旅券ト改稱別紙規則相定候條此旨布達候事

（別紙）

海外旅券規則

第一條　旅券ハ日本國民タルヲ證スルノ具ニシテ海外各國ニアリテ要用少ナカラサルヲ以テ外務省ヨリ之ヲ發行ス規則左ノ如シ

第二條　旅券ヲ請フ者ハ別紙雛形ノ書面ヲ以テ外務省又ハ地方行政廳ヘ願ヒ出テ之ヲ受取ルヘシ若シ五歳以下ノ小兒其父母同道ナルトキハ其父母ノ旅券ニ附記スルヲ以テ足レリトス

第三條　内地ニ於テ遺失シタルカノトキハ其國在留ノ海外ニ於テ右旅券受取ル間合之ナキカ又ハ日本公使館又ハ領事館ヘ其趣キヲ記載セル書面自身出頭シテ願ヒ受クヘシ

第四條　公用ヲ以テ旅行シ官費ヲ以テ留學スル者ハ内地ニ在リテハ其管廳ヨリ直ニ外務省ニ掛合海外ニ在リテハ前條ノ趣キニ從ヒ旅券ヲ受取ルヘシ

但手數料ハ納ムルニ及ハス

第五條　旅券ハ其趣ク所ノ國ニヨリ要用少ナカラス其節ハ其館ニ就テ直ニ之ヲ請フヘシ

但其定規ニ從ヒ手數料ヲ拂フヘキモノトス

第六條　海外ニアリテ所持ノ旅券我領事官ノ證明ヲ要用トスルコトアリ其節ハ之ヲ請ヒ得ヘシ

但領事官ナキ地ニ於テハ公使館ニ至リテ之ヲ請フヘシ

第七條　旅券ハ歸朝ノ後三十日以内ニ其最初受取タル管廳ヘ返納スヘシ

郵船等ノ海員常ニ旅券ヲ要スル者ハ此限ニアラス

但海外ニアリテハ我公使又ハ領事館ヨリ受取リタル者ハ外務省ニ返納スルヲ以テ足リトス

（別紙）旅券願書式

私儀何々ノ爲某國ヘ罷越或ハ往來致度ニツキ旅券御渡方本願候也

明治　年　月　日

何府縣下第何大區何小區

何國何郡何町村何番地又ハ寄留

士族農職業

何　姓　名　印

年何年何箇月

右之通相違無之候也

何府縣御中

前書之通證明候也

戸長　姓名　印

府知事縣令　姓名　印

封上

旅券願

何府縣下

外務省或ハ某府縣　何國何郡何驛村

御中　何町

何　誰

旅券文言

官　印

右ハ官員及官費留學生ニ與フル式タリ

年　月　日

日本皇帝陛下官位姓名自記

所持人　姓　名　自　記

籍

當　人　姓　名

齢

右ノ者故障ナク通行セシメ且必要ノ保護扶助ヲ與ヘラレンコトヲ其筋ノ諸官ニ希望ス

年　月　日

日本帝國官位姓名自記

所　持　人　手　記

右ハ華士族平民ニ與フル者ナリ共ニ英佛獨各清文ヲ譯付ス

○對馬國ヨリ韓國ヘ渡航ノ者旅券下付出願方　（明治三十年十一月外務省令第六號）

長崎縣下對馬國ヨリ韓國ヘ渡航スル者ニ限リ對馬島廳ヘ出願シ海外旅券ヲ受クルコトヲ得

本令ハ明治三十年十一月十五日ヨリ施行ス

第十二類　旌表　位階　附　華族　賑恤

第一章　旌表

第一款　褒章

◉褒章條例（明治十四年十二月第六十三號布告）

褒章條例別紙ノ通相定來明治十五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

右奉　勅旨布告候事

（別紙）褒章條例

第一條　凡ソ自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者又ハ孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ヲ表彰スル爲メ左ノ三種ノ表章ヲ定ム（二十三年勅令第七十二號ヲ以テ各種共改正同年第百二十六號ヲ以テ條中ヲ改正ス二十七年勅令第一號ヲ以テ各種共改正）

紅綬褒章

右自己ノ危難ヲ顧ミス人命ヲ救助シタル者ニ賜フモノトス

綠綬褒章

右孝子順孫節婦義僕ノ類ニシテ德行卓絕ナル者又ハ實業ニ精勵シ衆民ノ模範タルヘキ者ニ賜フモノトス

藍綬褒章

右學術技藝上ノ發明改良著述、教育衛生慈善防疫ノ事業、學校病院ノ建設、道路河渠堤防橋梁ノ修築、田野ノ墾闢、森林ノ栽培、水產ノ繁殖、農商工業ノ發達ニ關シ公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナル者ニ賜フモノトス

第二條　奇特ノ實行アリト雖モ褒章ヲ賜フヘキ場合ニ至ラサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

第三條　已ニ褒章ヲ賜ハリタル者ニ更ニ同樣ノ實行アリテ褒章ヲ賜フヘキトキハ其都度飾版一箇ヲ賜與シ其章ノ綬ニ附加セシメ以テ標識トス

第四條　褒章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ及ヒ徽號トナスヲ得然レトモ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ沒收シ其未タ授與セサル前同上ノ刑ニ處セラレタル者ニハ之ヲ授與セス（褒章圖畧ス）

佩用式

一褒章ハ左肋ノ邊ヘ佩フヘシ

但勳章及從軍記章ヲ有スル者ハ其章ノ左ヘ列シ帶フヘシ

◉褒章條例取扱手續（明治二十七年一月閣令第一號）

明治十四年第百三號達褒章條例取扱手續左ノ通改正ス

褒章條例取扱手續

第一條　褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者アルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ主務大臣ニ具申シ主務大臣ハ其ノ當否ヲ審査シ賞勳局總裁ヘ申牒スヘシ

但官吏職務上ノ勞效ニ對シテハ褒章ヲ賜フノ限ニアラス

第二條　賞勳局總裁ハ申牒書ヲ覆視シ褒章ヲ賜フヘキモノト認ムルトキハ奏請裁可ヲ得在東京ノ者ニハ之ヲ直授シ其ノ他ノ者ニハ主務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達スヘシ

第三條　外國人ニ褒章ヲ賜フヘキトキハ主務大臣外務大臣ト迯署シテ之ヲ申牒スヘシ授與ノトキハ外務大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達ス其ノ公私備ニ係ル者ハ第二條ニ依ル

第四條　褒狀ハ高等官及高等官待遇ノ者竝ニ從六位以上及勳六等以上ノ者竝ニ華族ノ戶主其ノ祖父母父母妻嫡長子孫及嫡長子孫ノ妻ニハ賞勳局總裁之ヲ授與スヘシ其ノ具申申牒施行ノ順序ハ第一條及第二條ニ同シ

其ノ他ノ者ハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事之ヲ授與スヘシ

第五條　褒狀ヲ外國人ニ授與スヘキトキハ金銀木杯金圓賜與手續第六條ニ依ル

第六條　褒章ヲ有スル者重罪ノ刑ヲ受ケタルトキハ裁判確定ノ後司法大臣又ハ陸海軍大臣宣告書寫ヲ添ヘ之ヲ賞勳局總裁ニ還付スヘシ

第七條　褒章褒狀ヲ賜フヘキ者具申後授與以前ニ於テ輕罪以上ノ罪ヲ犯シ又ハ死亡シタルトキハ警視總監北海道廳長官又ハ府縣知事ヨリ速ニ其ノ事由ヲ主務大臣ニ申報シ主務大臣ハ之ヲ賞勳局總裁ニ通知スヘシ

◉褒章ト金銀木杯金圓賜與（明治十六年一月第一號布告）

明治十四年（十二月）第六十三號布告褒章條例ニ依リ褒章ヲ賜フヘキ者又ハ公益ノ爲メニ金穀財産

等ヲ寄附シタル者ハ金銀木杯若ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト金銀木杯金圓ヲ併セ賜フコトアルヘシ

◉金銀木杯金圓賜與手續

（明治十六年三月太政官第拾七號達）

本年第壹號布告ノ旨ニ依リ金銀木杯又ハ金圓賜與手續別紙ノ通相定候條此旨相達候事

（別紙）金銀木杯金圓賜與手續

第一條　褒章ヲ賜フヘキ者ニ金銀木杯又ハ金圓ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

定例

第一等　木杯三組（品格ヲ三等ニ分ツ）又ハ金拾圓ヨリ多カラス六圓ヨリ少カラス

第二等　木杯三組（品格ヲ三等ニ分ツ）又ハ金五圓ヨリ多カラス貳圓五拾錢ヨリ少カラス

第三等　木杯壹個（品格ヲ三等ニ分ツ）又ハ金貳圓ヨリ多カラス壹圓ヨリ少カラス

但賜杯賜金ニ及ハサルモノハ褒狀ヲ與フルコトアルヘシ

特例

第一等　金杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二等　銀杯壹個又ハ三組又ハ金圓

第二條　公益ノ爲メニ金穀財産等ヲ寄附シタル者ニ金銀木杯ヲ賜ヒ又ハ褒章ト之ヲ併セ賜フトキハ其等差左ノ如シ

寄附金額又ハ價格　　褒狀

拾圓未滿　但壹圓未滿ハ褒詞ヲ以テ褒狀ニ換フルコトアルヘシ（十七年太政官第二十二號達ヲ以テ但書追加）

拾圓以上百圓未滿　木杯壹個

但五拾圓未滿ハ拾圓毎ニ五拾圓以上ハ貳拾五圓毎ニ品格ニ等差アリ

百圓以上五百圓未滿　木杯三組

但三百圓未滿ハ五十圓毎ニ三百圓以上ハ百圓毎ニ品格ニ等差アリ

五百圓以上貳千圓未滿　銀杯壹個

但千圓未滿ハ貳百五拾圓毎ニ千圓以上ハ五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

貳千圓以上五百未滿　銀杯三組

但千圓毎ニ品格ニ等差アリ

五千圓以上壹萬圓未滿　金杯壹個

但貳千五百圓毎ニ品格ニ等差アリ

壹萬圓以上　金杯三組

◉勳章ヲ定ム（明治八年四月第五十四號布告）

今般勳章別冊ノ通被定候條此旨布告候事（九年第百四十一號布告ヲ以テ賞牌ヲ勳章ト改ム　以下倣之）

（別冊）

（朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ綏ヲ顯ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ仍テ勳等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメント汝有司其斯旨ヲ體セヨ）

〔明治八年二月〕

勳等勳章

勳等ハ勳級及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勳章ヲ佩用セシム

勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ叙スル者ハ一等勳章ヲ賜フ

勳二等

右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

勳三等

右ニ叙スル者ハ三等勳章ヲ賜フ

勳四等

右ニ叙スル者ハ四等勳章ヲ賜フ

勳五等

右ニ叙スル者ハ五等勳章ヲ賜フ

勳六等

右ニ叙スル者ハ六等勳章ヲ賜フ

勳七等

右ニ叙スル者ハ七等勳章ヲ賜フ

勳八等

右ニ叙スル者ハ八等勳章ヲ賜フ

○

従軍記章

従軍記章ハ將卒ノ別ナク軍功ノ有無ヲ論セス凱旋ノ後従軍セシ徴ニ之ヲ賜フ

一　勳章及従軍記章ハ佩用本人ニ止リ子孫之ヲ用ユルコトヲ得ス

勳章佩用式（二十一年勅令第七十六號ニ依リ消滅ス）

◉勳章增設ノ詔勅（明治二十一年一月三日）

朕嘉ニ勳位ヲ定メ佩章ノ制ヲ設ケ益ニ復淵篤培設シ新恩與ニ併行シ勳功アル者ヲシテ益ニ其道ヲ擴ム汝衆庶此旨ヲ體セヨ

◉勳章等級製式及大勳位菊花章頸飾製式（明治二十一年一月勅令第一號）

第一條　大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ

但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶章ヲ賜フ・

右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル爵人ノ勳勞アル者ニ賜フ

章　資冠ト竹櫻ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地黃色雙線紅色

一　勳一等旭日桐花大綬章

旭日大綬章ノ上級トス勳勞アル者ニ賜フ

章　旭日ト桐花ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地紅色雙線白色

一　瑞寶章

勳一等ヨリ勳八等ニ至ル勳勞アル者ニ賜フ

章　鏡球ノ形ヲ以テ飾ル

綬　地淡藍色雙線橙黃色

一　大勳位菊花章頸飾

頸飾ハ大勳位ニ叙セシ者ニ特別之ヲ賜フ菊花菊葉ノ形ト明治二字古篆文ヲ以テ飾ル

◉勳章及大勳位菊花章頸飾圖樣（明治二十一年十一月閣令第二十一號）

明治二十一年（一月）勅令第一號各種ノ勳章及大勳位菊花章頸飾ノ圖樣左ノ如シ（圖樣略ス）（二十九年閣令第四號ヲ以テ圖樣中ヘ追加ス）

◉勳章佩用式（明治二十一年十一月勅令第七十六號）

朕勳章佩用式ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳章佩用式

第一條　大勳位菊花章

菊花章ハ頸飾ヲ以テ喉下ニ佩ヒ其副章ヲ左肋ニ佩フ大綬ヲ以テ佩フル時ハ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ハ左肋ニ佩フ

但菊花章ヲ賜ヒタル者ハ旭日桐花大綬章瑞寶

警視總監府知事縣令ヲシテ之ヲ傳達セシム（二十四年閣令第一號ヲ以テ本條中追加）

第五條　木杯又ハ金圓又ハ褒狀ヲ受クヘキ者ニシテ其未タ授與セサル前重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ之ヲ授與セス

第六條　外國人ニ金銀木杯金圓又ハ褒狀褒詞ヲ賜フヘキ者アルトキハ總テ內國人ノ例ニ準スト雖モ公使館員及帝室ノ貴賓ニ係ルトキハ外務大臣ヨリ賞勳局總裁ニ申牒シ授與ノトキハ亦同大臣ヲ經由シテ之ヲ傳達セシムヘシ（二十四年閣令第一號ヲ以テ本條追加）

◉圖書諸器物寄附ニ係ル取扱方（明治二十二年四月內務省訓令第十八號）

閣令第十五號ヲ以テ明治十年（十月）太政官達第七十七號同十一年同第十三號ヲ廢セラレタルヲ以テ自今各官廳ヘ圖書諸器物等ヲ寄附シ若クハ官費支辨ノ事業ニ對シ金穀其他ノ物件ヲ寄附スル者アルトキハ之ヲ受領シタル官廳ヨリ本人所在ノ地方廳ニ通知可相成ニ付右通知ヲ受ケタルトキハ明治十六年第一號布告同年太政官第十七號達ニ據リ取計フヘシ

◉黃綬褒章（明治二十年五月勅令第十六號）

朕黃綬褒章臨時制定ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　私財ヲ獻納シ防海ノ事業ヲ贊成スルモノニ授與スル爲メ黃綬褒章ヲ制定シ分テ金章銀章ノ二種トス

第二條　黃綬褒章ヲ佩用シ又ハ沒收スルノ事項ハ明治十四年（十二月）第六十三號褒章條例ニヨル

第三條　黃綬褒章ノ雛式左ノ如シ（圖式略ス）

第二款　勳章附年金

◉大勳章圖式竝大勳章以下略綬ヲ定ム（明治十年十二月太政官第九十七號達）

明治九年中欽定ノ大勳位菊花大綬章大勳位菊花章圖式別冊ノ通ニ候事（別冊略ス）

從前各種ノ略綬ヲ廢シ更ニ大勳章以下略綬別紙ノ通被定候事（別紙略ス）

右相達候事

◉勳章ヲ定ム（明治八年四月第五十四號布告）

今般勳章別冊ノ通被定候條此旨布告候事（九年第百四十一號布告ヲ以テ賞牌ヲ勳章ト改ム　以下倣之）

（別冊）

（朕惟フニ凡ソ國家ニ功ヲ立テ綏ヲ顯ス者宜ク之ヲ褒賞シ以テ之ニ酬ユヘシ仍テ勳等賞牌ノ典ヲ定メ人々ヲシテ寵異表彰スル所アルヲ知ラシメント汝有司其斯旨ヲ體セヨ）

〔明治八年二月〕

勳等勳章

勳等ハ勳級及功勞アル者ヲ賞スル爲メニ設クル所ノ階級ニシテ位階ト異ナル故ニ各種ノ勳章ヲ佩用セシム

勳等ヲ分ツテ八級ト爲ス

勳一等

右ニ叙スル者ハ一等勳章ヲ賜フ

勳二等

右ニ叙スル者ハ二等勳章ヲ賜フ

勳三等

一等章ヲ併セ佩ルコトヲ得（二十年勅令第百八號ヲ以テ追加）

第二條　賜冠章

一　勳一等賜冠章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等賜冠章以下ハ結蝶狀ノ綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第三條　旭日章

一　勳一等旭日桐花章並旭日章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等旭日章ハ右肋ニ佩ヒ其副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

三　勳三等旭日章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勳四等勳五等勳六等旭日章勳七等勳八等桐葉章ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第四條　瑞寶章

一　勳一等瑞寶章ハ大綬ヲ以テ右肩ヨリ左脇ヘ垂レ其副章ヲ左肋ニ佩フ

二　勳二等瑞寶章ハ右肋ニ佩フ

三　勳三等瑞寶章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ

四　勳四等瑞寶章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

第五條　別種ノ勳章ハ之ヲ併佩セス

◉勳章佩用式說明（明治二十一年十一月賞勳局告示第一號）

明治二十一年（十一月）勅令第七十六號勳章佩用式第三條第二項ニアル勳二等旭日章ノ副章ハ其製式勳三等旭日章ニ異ナルコトナシ

◉勳章紀章佩用心得（明治二十二年二月賞勳局告示第一號）

第一款　一等勳章ヲ有スル者更ニ別種ノ一等勳章ヲ受ケタル時ハ（旭日桐花章ト旭日章トハ同種ナリ併佩スルコトナシ）後ニ受ケタル一等勳章ノ正章並ニ其副章ト前ニ受ケタル一等勳章ノ章ヲ併佩スヘシ

第二款　二等以下ノ勳章ヲ有スル者更ニ同種上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ其下級ノ勳章ヲ佩フルコトヲ止ム別種ノ同級若クハ上級ノ勳章ヲ受ケタル時ハ之ヲ併佩スヘシ

第三款　二等勳章若クハ一等ノ副章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ニ付テ其上位ニ列佩スヘシ

第四款　三等勳章兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ上ニ佩フヘシ

第五款　四等勳章以下兩箇以上ヲ併佩スル時ハ後ニ受ケタルモノヲ前ニ受ケタルモノノ位置ノ右ニ佩ヒ其從軍記章若クハ褒章ヲ有スル者ハ之ヲ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第六款　勳章ハ男子ハ大禮服及ヒ通常禮服（燕尾服）著用ノ時佩フヘシ從軍記章及ヒ褒章ヲ有スル者亦同シ

通常禮服著用ノ時ハ大綬章ヲ上衣ノ上ヘ其位置ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上衣ノ下襯衣ノ上ニ佩ヒ副章ヲ上佩フルコトアリ時宜ニ依リ大綬章ノミヲ佩フルコトアルヘシ旭日二等章ヲ有スル者通常禮服著用ノ時ニ於テモ時宜ニ依リ之ヲ佩フルコトアルヘシ

外國勳章記章

外國勳章佩用方ハ各彼ノ規則ニ依ル

第八款　我勳章ヲ有スル者我勳章ヲ佩ヒスシテ彼ノ勳章ノミヲ佩フヘカラス

第九款　彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ屬スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

但外交ノ時宜ニ依リ彼ノ大綬章及ヒ其副章ヲ佩フル時ハ我大綬章ヲ省キ我副章ハ併佩スヘシ

第十款　彼我ノ大綬章ヲ有スル者ハ彼ノ大綬章ヲ佩ヒス之ニ屬スル副章ノミヲ我副章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

第十一款　彼我ノ綬ヲ用ヒサル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下若クハ次ニ列佩スヘシ

第十二款　彼我ノ喉下ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ下ニ佩フヘシ

第十三款　彼我ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ併佩スル時ハ彼ノ勳章ヲ我勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十四款　彼ノ左肋ニ佩フル勳章ヲ我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ我從軍記章及ヒ褒章ヲ彼ノ勳章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

第十五款　彼ノ記章ト我從軍記章及ヒ褒章ト併佩スル時ハ之ヲ我從軍記章及ヒ褒章ノ位置ノ左ニ列佩スヘシ

◉略章略綬佩用心得（明治二十二年二月賞勳局告示第二號）

一　各種勳章ノ略章（凡ソ徑曲尺五六分若クハ其以下ノ大サニシテ勳章ノ形ト彩色トヲ備ヘタル略小勳章ヲ謂フ）ハ通常禮服著用ノ時或ル場合ニ於テ連鎖或ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩用スルヲ得

外國勳章ノ略章モ亦同シ

二　略綬ハ通常禮服通常服著用ノ節左襟見返シノ鈕孔ニ掛ケ佩フヘシ

三　略綬ハ別種二箇以上ノ勳章ヲ有スル者各其綬ト同色ナル絹ヲ以テ二箇若クハ數箇合併ノモノヲ製シ之ヲ佩用スルヲ得又內外數種ノ勳章ヲ有スル者ハ內外數箇合併ノ略綬ヲ製シ之ヲ佩用スルコトヲ得

四　我略綬ヲ佩ヒテ外國ノ勳章ヲ佩フルコトナシ

◉外國勳章佩用願規則（明治十八年十一月第三十五號布告）

明治十一年（六月）第拾五號布告外國勳章佩用免許願手續左ノ通改正ス

外國勳章佩用願規則

第一條　外國ノ勳章ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ賞勳局總裁ヘ願出免許狀ヲ受クヘシ

第二條　佩用願書ニハ勳章勳記其他關係書類ヲ添ヘ賞勳局總裁ヘ差出スヘシ（三十一年勅令第三百三十九號改正ニ依ル）

第三條　外國ノ勳章ヲ佩用スル者死亡シタルトキハ三十日以內ニ其旨ヲ遺族又ハ親戚ヨリ賞勳局ヘ屆出ヘシ（同上）

第四條　外國ノ記章（從軍記章人命救助記章博覽會記章ノ類）ヲ受領シ之ヲ佩用セントスル者ハ總テ此規則ニ準據スヘシ

◉皇族外國勳章佩用願手續內規（明治十八年一月賞勳局並外務宮內兩省へ達）

皇族外國勳章佩用願手續內規左ノ通相定候條此旨相達候事

皇族外國勳章佩用願手續內規

一　皇族ヨリ外國勳章ノ佩用ヲ願ハントスルトキハ勳章勳記其他關係書類ヲ添ヘ「宮內卿」ヨリ賞勳局總裁ヘ照會スヘシ

二　賞勳局總裁ハ勳章勳記ヲ審査シ上奏裁可ヲ得タルトキハ免許狀ヲ「宮內卿」ニ傳達スルモノトス

三　皇族ニ外國ヨリ勳章寄贈ノ通知ヲ得タルトキハ「外務卿」ハ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ通知スルモノトス

四　外國ノ記章佩用願手續モ此內規ニ準據スヘキモノトス

◉勳等進敍下級勳章還納ノ件（明治二十二年三月勅令第三十八號）

朕勳章還納ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳等進敍シ同種ノ上級勳章ヲ受ケタル者ハ其下級勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

但勳記ハ還納スルノ限ニアラス

◉勳章還納手續（明治二十二年三月閣令第九號）

勳章還納手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

勳章還納手續

第一條　同種上級ノ勳章ヲ授與セラレタル者ハ一週間以內ニ其下級ノ勳章ヲ賞勳局ヘ還納スヘシ

第二條　同種上級ノ勳章ヲ賞勳局ノ途達ニヨリ受領シタル者ハ直ニ其領票ト共ニ下級ノ勳章ヲ同局ヘ差出スヘシ

官廳ヲ經テ受領シタル者ハ其官廳ヘ差出シ官廳ハ之ヲ賞勳局ヘ送付スヘシ

第三條　外國人ノ勳等進級シ同種上級勳章ヲ受ケタル者モ亦此手續ニ從ヒ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ其外國ニ在ル者ハ最寄我公使館又ハ領事館ヘ差出スヘシ

第四條　公使館又ハ領事館ニ於テ前條勳章ヲ領收シタルトキハ外務省ヘ送付シ同省ハ之ヲ賞勳局ヘ途付スヘシ

第五條　勳章還納ニ關スル費用ハ受章者ノ自辨トス又官廳ヨリ賞勳局ヘ途付スルモノハ其官廳ニ於テ支辨スヘシ

附則

一　從前同種勳章ニ進敍シタル者ハ東京ハ二週間以內各地方ハ三十日以內ニ下級ノ勳章ヲ還納スヘシ我國在留ノ外國人亦同シ其外國ニ在ル者ハ手續第五條ニ依ルヘシ

但進級者既ニ死亡シタルトキハ本文ノ限ニアラス

◉金瑪勳章創設詔勅（明治二十三年二月十一日）

朕惟ミルニ

神武天皇皇業ヲ恢弘シ繼承シテ朕ニ及ヘリ今ヤ寶カニ登極紀元ヲ算スレハ二千五百五十年ニ達セリ朕此期ニ際シ

天皇既定ノ故事ニ徵シ金瑪勳章ヲ創設シ將來武功拔群ノ者ニ授與シ永ク

天皇ノ威烈ヲ光シニシテ其忠勇ヲ奬勵セントス汝衆庶此旨ヲ體セヨ

◉金瑪勳章等級製式佩用式（明治二十三年二月勅令第十一號）

朕金瑪勳章ノ等級製式佩用式ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

一金瑪勲章
功一級ヨリ功七級ニ至ル武功抜群ナル者ニ賜フ
金瑪勲章製式（略ス）
金瑪勲章佩用式（二十八年勅令第百二十號ヲ以テ改正）
一　功一級章ハ大綬ヲ以テ左肩ヨリ右脇ニ垂レ其ノ副章ヲ左肋ニ佩フ
二　功二級章ハ右肋ニ佩ヒ其ノ副章ヲ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
三　功三級章ハ中綬ヲ以テ喉下ニ佩フ
四　功四級章以下ハ小綬ヲ以テ左肋ニ佩フ

㊀金瑪勲章叙賜條例（明治二十七年十一月勅令第百九十三號）

朕金瑪勲章叙賜條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
金瑪勲章叙賜條例
第一條　金瑪勲章ヲ武功抜群ナル者ニ叙賜スルハ本條例ノ定ムル所ニ依ル
第二條　將官ノ初叙ハ功三級ト シ武功ヲ累ヌルニ從ヒ逐次進級セシム
特旨ヲ以テ叙賜スル者ハ前項ノ限ニアラス
第三條　佐官ノ初叙ハ功四級ト シ尉官ノ初叙ハ功五級ト ス武官ハ功二級尉官ハ功三級ニ至ルヲ得
第四條　准士官下士及兵卒ノ初叙ハ功七級ト ス武功ヲ累ヌルニ從ヒ逐次進級セシメ准士官下士ハ功五級兵卒ハ功六級ニ至ルヲ得
第五條　陸軍見習士官海軍少尉候補生ハ尉官ニ準シテ擬叙ス
第六條　將校相當官及軍屬ハ將校若クハ下士ニ準シテ叙賜ス
第七條　戰役間武功嘗ニ卓越ニシテ優賞スヘシト論定シタル者又ハ重要ノ職ニ當リ武功抜群ナル者ハ第二條乃至第四條初叙ノ例ニ依ラス一等上級ニ叙賜スルコトアルヘシ
第八條　戰役ノ景況ニ依リ特ニ軍司令官又ハ艦隊司令長官ニ金瑪勲章五級以下ヲ授與スルノ權ヲ假スコトアルヘシ
第九條　金瑪勲章叙賜規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

㊀金瑪勲章年金令（明治二十七年十月勅令第百七十五號）

朕金瑪勲章年金令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
金瑪勲章年金令
第一條　金瑪勲章ヲ賜フ者ニハ年金令ヲ加賜ス
第二條　金瑪勲章年金ノ定額ハ左ノ如シ（二十八年勅令第百十號ヲ以テ年金ノ定額改正）

功一級	千五百圓
功二級	千圓
功三級	七百圓
功四級	五百圓
功五級	三百圓
功六級	二百圓
功七級	百圓

第三條　本令ノ年金受領者死亡シタルトキハ仍一年間遺族ニ其ノ年金ヲ賜フ
第四條　前條ノ遺族トハ寡婦孤兒父母祖父母ニシテ年金受領者生存中ヨリ戸籍簿ニ登記シタル者ヲ云フ
第五條　本令ノ年金ハ他ノ勲等年金又ハ恩給ヲ受クルニ妨ケナキモノトス
第六條　本令施行ニ關スル細則ハ閣令ヲ以テ之ヲ定ム

㊀勲章年金支給規則（明治二十七年十二月閣令第九號）

勲章年金支給細則左ノ通定ム
勲章年金支給細則
第一條　勲章年金ヲ賜フ者ニハ賞勲局總裁年金證書ヲ作リ之ヲ授與スヘシ
第二條　賞勲局總裁年金證書ヲ授與シタルトキハ受領者ノ官職、氏名、功級若クハ勲等、年金額、證書ノ番號、授與ノ年月日竝年金支給主管ノ地方廳ヲ大藏省ニ通牒シ同省ハ之ヲ該地方廳ニ通知スヘシ
第三條　年金支給ノ初年ニ於テハ其ノ證書ノ日附六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス
年金受領者死亡ノ年ニ於テハ其ノ六月三十日以前ニ在ルモノハ全額ヲ給シ七月一日以後ニ在ルモノハ半額ヲ給ス
第四條　年金ハ半額ヲ毎年六月十二月ノ兩回ニ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ支給ス
第五條　金瑪勲章年金令ニ依リ遺族ニ賜フ年金支給ノ期ハ年金受領者ノ死亡六月三十日以前ニ在ルモノハ七月一日ニ始マリ翌年六月三十日ヲ以テ終リ其ノ死亡七月一日以後ニ在ルモノハ翌年一月一日ニ始マリ十二月三十一日ヲ以テ終ル
第六條　年金受領者年金ヲ受取ラントスルトキハ年金證書ヲ當該官吏ニ示シ受領者タルコトヲ證明スヘシ
第七條　年金ハ受領者ノ請求ニ依リ其ノ本籍地又ハ寄留地ノ地方廳ニ於テ支給スヘシ

年金證書ヲ受領シタル者ハ三日以内ニ支給ヲ受クヘキ地方廳ヲ指定シタル書面ヲ賞勲局ニ差出スヘシ
第八條　年金受領者年金支給主管廳ノ轉換ヲ要スルトキハ現主管廳ニ届出ヘシ
現主管廳ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ新主管廳ニ通知シ其ノ旨ヲ賞勲局及大藏省ニ通報スヘシ
第九條　年金受領者死亡シタルトキハ遺族又ハ親戚ヨリ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方廳ニ於テ最終期ノ年金支給ノトキハ其ノ證書ヲ收メ賞勲局ニ還納スヘシ
金瑪勲章年金令ニ依リテ年金ヲ繼受スヘキ遺族アルトキハ其ノ賜期滿限ノ後還納スルモノトス
年金證書還納アリタルトキハ賞勲局ハ之ヲ大藏省ニ通知スヘシ
第十條　遺族ニ年金ヲ賜フトキハ其ノ順序左ノ如シ

一　寡妻
二　孤兒
三　父
四　母
五　祖父
六　祖母

孤兒數人アルトキハ家名相續人ニ賜フ其ノ他ハ男子ヲ先ニシ女子ヲ後ニシ順次年長者ニ賜フ
第十一條　此ノ規則ニ於テ孤兒トハ年齡二十歳未滿ノ男女子ニシテ未タ結婚セサル者ヲ云フ
第十二條　年金ヲ繼受シタル者死亡シ戸籍ヲ去リ又ハ公權ヲ剝奪若クハ停止セラレタルトキハ第十條ノ順序ニ依リ年金ヲ繼受スヘキ者ニ之ヲ賜フ
年金ヲ繼受シタル寡妻再婚シタルトキ又ハ孤兒年齡二十歳ニ達シ若クハ結婚シタルトキ亦前項ニ同シ
第十三條　年金ヲ繼受シタル前條ノ者故生シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ年金證書ヲ添附シ戸長ト ス以下之ニ倣フ）ノ證印ヲ受ケ且市町村長ノ證明ヲ受ケ（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長ノ寫ト年金證書トヲ添附シ地方廳ニ差出スヘシ）
第十四條　年金ヲ繼受セントスル遺族ハ受領者最終期ノ年金支給濟ノ後署名捺印シタル願書（後見人アレハ後見人連署スヘシ）ニ親族二名、親族ナキトキハ居住地ノ戸主二名連署シ市町村長（市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長戸長トス以下之ニ倣フ）ノ證印ヲ受ケ且市町村長ノ證明シタル戸籍ノ寫ト年金證書トヲ添附シ地方廳ニ差出スヘシ
第十五條　賞勲局總裁ハ前條ノ願書ヲ審査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ年金支給主管ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付シ其ノ旨ヲ大藏省ニ通知スヘシ
第十六條　遺族間年金ヲ遞受セントスルトキモ亦前二條ノ例ニ依ル
第十七條　勲章ヲ有スル者（保釋責付亦同シ以下之ニ倣フ）セラレタルトキハ勾留ノ日ヨリ放免ノ日迄年金ノ支給ヲ停ム
榮譽汚辱ノ所爲ニ依リ勲章ヲ褫奪セラレタル者ハ其ノ褫奪ノ日ヨリ年金ノ支給ヲ罷ム
輕禁錮以下ノ刑ヲ受クルモ勲章褫奪ニ至ラサル者ハ其ノ犯罪ノ訴ヲ受ケ勾留セラレタル日ヨリ年金ノ支給ヲ停ム
第十八條　年金受領者失踪シタルトキハ其ノ踪跡分明トナリタル後失踪中ニ受取ルヘキ年金ヲ支給ス
年金受領者失踪中年金ノ支給ヲ停罷セラルヘキ所爲アリト認定スルトキハ年金支給主管ノ地方廳ハ年金ノ支給ヲ猶豫シ其ノ旨ヲ賞勲局ニ具申スヘシ
第十九條　年金ノ支給ヲ罷メラレタル者ニハ褫奪以前ノ分ヲ支給シ其ノ停メラレタル者ニハ其ノ間ノ分ヲ控除シテ之ヲ支給シ其ノ支給額ハ各日割ヲ以テ之ヲ計算ス
年金ノ支給ヲ停罷セラレタル者其ノ停罷以前ノ分ヲ受クヘキ場合ニ於テ其ノ年金支給ノ期月勾留若クハ刑期中ニ方ルトキハ次回ノ期月ニ於テ之ヲ支給ス
第二十條　水火災盜難等ニ由リ年金證書ヲ亡失シタルトキハ年金ノ種類、證書ノ番號、年金額及亡失ノ事由ヲ具シ年金支給主管ノ地方廳ニ届出ヘシ
地方長官前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ賞勲局ニ申牒スヘシ賞勲局總裁ハ新ニ年金證書ヲ作リ其ノ裏面ニ再度授與ノ旨ヲ記載シ該地方廳ヲ經テ本人ニ下付スヘシ但亡失シタル年金證書ヲ發見シタルトキハ直ニ地方廳ヲ經テ賞勲局ニ還納スヘシ
年金證書亡失ノ爲メ年金ヲ受取ルコト能ハサル者ニハ新年金證書ヲ授與シタル次ノ年金支給期月ニ其ノ年金ヲ併セ支給ス
第二十一條　年金受領者氏名ヲ改メタルトキハ市町村長ノ證印アル届書ヲ年金證書ニ添ヘ年金支給主管ノ地方廳ニ差出スヘシ
地方長官ハ年金證書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ署名捺印ノ上本人ニ下付シ其ノ旨ヲ賞勲局及大

藏省ニ通知スヘシ

附錄

年金繼受願

府(縣)郡(市)町(村)番地華士族平民
故官位功勳爵氏名寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)
功何級金鵄勳章年金證第何號　氏名
何年何月生

歲額何百何圓

右ハ夫(父等)氏名何年何月何日死亡候ニ付金鵄勳章年金令第三條ニ依リ何年一月ヨリ同年十二月マテ(何年七月ヨリ何年六月マテ)一年間私拜受仕度別紙年金證並戶籍調書相添此段奉願候也

年號月日　右寡婦(孤兒)(父母)(祖父母)
市(町)村番地　氏名印
親族　氏名印
市(町)村番地
親族　氏名印

賞勳局總裁爵氏名殿

(遺族間年金遞受願書モ此ノ書式ニ準シテ作ルヘシ)

◉勳章年金受賜者居所届出方（明治二十八年十一月大藏省令第五號）

新ニ勳章年金證書ヲ授賜セラレタル者ハ年金ノ支給ヲ受クヘキ道廳府縣ヘ其居所ヲ届出ヘシ年金ヲ受領スルカ爲メ代理人ヲ設ケタルトキハ前項ニ準シ其代理人ノ居所ヲ届出ヘシ

◉明治二十七八年從軍記章條例（明治二十八年十月勳令第百四十三號）

朕明治二十七八年從軍記章條例ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治二十七八年從軍記章條例

第一條　明治二十七年二十八年ノ戰役ニ於テ大本營ヨリ發令ノ日ヨリ凱旋ノ日マテ一年間從軍シタル者ニ授與ス

第二條　從軍記章ハ敵軍ヨリ奪獲シタル大礮ノ地金ヲ以テ製造ス其ノ圖式左ノ如シ

章　鋼・瓷珠ノ形竪一寸一分横一寸表面ニ菊御紋及陸軍聯隊旗ト海軍軍艦旗ト交叉シタル圖、裏面ニ明治二十七八年從軍記章ノ十一字ヲ識ス

紐　銅、飾版ヲ附ス

綬　織地、幅一寸二分中央白兩縁線

第三條　從軍記章ハ左ニ揭クル者ニ授與ス

一　明治二十七年二十八年ノ戰役ニ於テ大本營ニ從屬シ又ハ出征軍ニ編入セラレ戰地ニ在リシ者

二　同役ニ於テ出征軍ニ編入セラレサルモ戰地ニ在テ軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬若クハ文官

但傭役人夫ノ類ハ授與ノ限ニ在ラス

第四條　第三條ニ揭クル者ニ該當セスト雖同役ノ軍務ニ從事シ若クハ之ヲ幇助シタル者ニハ特ニ從軍記章ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條　第三條第四條ニ該當スル者ト雖開戰以後左ニ揭クル事項ノ一ニ該當スル者ニハ從軍記章ヲ授與セス

一　重禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　輕禁錮ノ刑ヲ受ケ剝官ヲ附加セラレ若クハ官職ヲ失フタルトキ

三　懲戒處分ニ依リ免官セラレタルトキ

但處刑又ハ免官ノ後同役ノ軍務ニ從事シタル者ニハ特ニ之ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條　從軍記章ノ褫奪及佩用停止ニ關シテハ明治十六年第二十二號布告ヲ適用ス

第七條　從軍記章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス

第八條　從軍記章ヲ授與セラルヘキ賞格ヲ有スル者其ノ授與前死亡シタルトキハ之ヲ其ノ遺族ニ付與シテ保存セシム

第九條　從軍記章ヲ授與セラレタル者ノ名簿ハ賞勳局ニ於テ之ヲ保存ス前條ニ依リ從軍記章ヲ付與セラレタル者ノ名簿亦同シ

第十條　從軍記章ノ奏請及授與ノ規程ハ別ニ之ヲ定ム

(從軍記章圖略ス)

佩用式

一　明治二十七八年從軍記章ハ綬ヲ用ヒテ左肋ニ佩フ

◉明治二十七八年從軍記章奏請授與規程（明治二十九年二月閣令第一號）

明治二十七八年從軍記章奏請授與規程左ノ通定ム

明治二十七八年從軍記章奏請授與規程

第一條　明治二十七八年從軍記章奏請授與ノ事務ニ從事シ若クハ之ヲ幇助シタル者ニ該當セスト雖同役ノ軍務ニ從事シタル陸海軍軍人軍屬若クハ文官ニ對シテハ從軍記章ノ奏請ヲ爲スヘシ

但傭役人夫ノ類ハ此限ニ在ラス

第二條　明治二十七八年從軍記章條例第三條第四條及第八條ニ依リ從軍記章ヲ授與スヘキ者ノ名簿ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ之ヲ調整シ賞勳局總裁ヘ移牒スヘシ

第三條　明治二十七八年從軍記章條例第八條ニ依リ從軍記章ヲ死亡者ノ遺族ニ付與スヘキトキハ之ヲ其ノ家名相續人ニ付與ス家名相續人アラサルトキハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ハ遺族ナシテ算婦子孫父母祖父母兄弟姉妹ノ內付與ヲ受クヘキ者ヲ定メシメ其ノ族籍氏名住所及死亡者トノ親

屬關係ヲ記載シ賞勳局總裁ヘ移牒スヘシ

但遺族ハ死亡者ト同戶籍內ニ在ル者ニ限ル

第三條　名簿ハ明治二十八年十一月十八日現在ノ官位勳功爵氏名ニ依リ調整ス

第四條　賞勳局總裁ハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ヨリ移牒シタル名簿ヲ整具奏シ裁可ヲ得タルトキハ證狀ヲ作ルヘシ

從軍記章及證狀ハ在東京ノ高等官及高等官待遇ノ者竝ニ從六位勳六等功五級以上ノ者竝ニ有爵者及其ノ禮遇ヲ享クル者ニハ宮中ニ於テ之ヲ授與シ其ノ他ノ者ニ在テハ各所管長官若クハ地方長官ニ交付シテ之ヲ傳達セシム

第五條　賞勳局總裁ハ至急ヲ要スル場合ニ於テハ旨ヲ請ヒ前條第二項ノ規程ニ依ラサルコトヲ得

◉勳章年金褫奪及停止（明治十六年六月第二十二號布告）

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋貰付セラレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ス又之ニ關スル禮遇特權及年金ヲ受クルコトヲ得ス

右奉　勅旨布告候事

◉勳章年金褫奪及停止取扱手續（明治十九年七月閣令第十九號）

明治十六年（九月）第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ改正スルコト左ノ如シ

勳章年金褫奪及停止取扱手續

第一條　勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ルルトキハ

榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項　重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項　賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第三項　懲戒例及免黜條例ニヨリ免官セラレタル者

第四項　素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條　第一條第一項ニ觸ルル者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第三條　第一條第二項第三項第四項ニ觸ルル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ルル者ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條　賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第一條第二項第三項第四項ニ觸ルル者ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條　褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第六條　勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金ノ受領ヲ停止セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ亦同シク停止スヘシ年金票モ亦同シ

第七條　褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局總裁ヘ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第八條　勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅シタルトキ若クハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第九條　重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第十條　外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

◉從軍記章ノ褫奪及佩用停止收扱手續（明治三十二年六月勳令第三百九號）

朕從軍記章褫奪及佩用停止取扱手續ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

明治十九年閣令第十九號勳章年金褫奪及停止取扱手續ハ第八條及第九條ヲ除ク外從軍記章ノ褫奪及佩用停止ノ取扱手續ニ關シ之ヲ準用ス但シ從軍記章ヲ有スル者重罪ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於ケル取扱手續ハ重禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノノ例ニ依ル

◉勳章記章類似標章佩用禁止（明治二十八年八月勳令第百十八號）

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ勳章記章ニ類似ノ標章佩用禁止ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

勳章又ハ勳命ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ

類似ノ標章ハ何等ノ形狀ヲ問ハス公然佩用スルコトヲ得ス犯ス者ハ一日以上十日以下ノ拘留又ハ十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

外國ノ勳章記章竝ニ日本赤十字社ノ記章ノ佩用ニ關スル例規ハ本令ニ因リ變更スルノ限ニアラス

㊙勳章記章類似標章佩用禁止方心得

（明治二十八年八月內務省訓令第六百三十六號）

今般勳令第百十八號ヲ以テ勳章記章類似標章佩用禁止ノ件發布相成候ニ付テハ樞子左ノ主旨ニ依リ取扱ハルヘシ尤モ本令ノ施行ニ付テハ犯罪者ノ處罰ヨリ注意ノ制止ヲ主トセラルヘシ

勳章記章類似標章佩用禁止方心得

第一　勳令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章トハ旨トシテ從軍記章褒章（紅綠藍黃綬）憲法發布記念章、大婚二十五年祝典之章等ヲ指スモノト知ルヘシ

第二　類似ノ標章トハ地金ノ何タルト圖樣ノ如何トヲ問ハス其章形及綬色ノ勳章記章ニ見紛ハシキモノヲ云フ其要點左ノ如シ

一　綬色綬幅及章形ノ勳章記章ニ近似セルモノ

二　綬ヲ以テ章ヲ鉤懸シ勳章記章ノ如キ體裁ヲ爲シ之ヲ肋部又ハ喉下ニ佩用スルモノ

三　無綬ノ章ト雖モ星章ヲ佩フヘキ肋部ニ佩用スルモノ

四　綬ヲ單用スルモノト雖モ其染色形狀勳章記章ノ綬ト類似ノモノ

第三　公然佩用スルコトヲ得ストハ屋外、公然ノ集會、公然ノ儀式ノ席又ハ公衆群集ノ場所等ニ於テ佩用スルコトヲ得サルヲ云フト知ルヘシ

但協會ノ類ノ會員ニシテ其會員ノミニ限リ屋內又ハ屏除アル場所ニ集會スル場合ニ於テ其會ノ標章ヲ佩用スルモノノ如キハ概ネ公然ノ佩用ニアラサルモノトシテ取扱フヘシ

第四　一見玩具タリ打扮具タルコト分明ナル物ヲ歌舞遊藝又ハ兒女ノ遊戲ニ用ユル場合ハ本令ノ問フ所ニ非スト知ルヘシ

第三款　記念章

㊙帝國憲法發布記念章

（明治二十二年八月勅令第百三號）

帝國憲法發布記念章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　大婚二十五年祝典之章ハ金銀ノ兩種トス

第二條　祝典之章ハ大婚二十五年祝典ノ當日召ニ依リ參內シタル者ニ頒賜ス

第三條　祝典之章圖式左ノ如シ

環　圓形徑九分餘金若クハ銀

輪廓內表面ニ菊御紋ト雙鶴松ヲ銜ミ左右交架藤花ノ圖、裏面ニ大婚二十五年祝典之章、大日本帝國、明治二十七年三月ノ二十三字ヲ識ス

環　圓形金若クハ銀

綬　紅色、中央ニ黃線一條ヲ交フ

第四條　祝典之章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス其ノ沒收ニ關シテハ明治十四年第六十三號布告褒章條例ニ依ル

（祝典之章圖略ス）

㊙大婚二十五年祝典之章

（明治二十七年三月勅令第二十三號）

朕大婚二十五年祝典之章制定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條　大婚二十五年祝典之章ハ金銀ノ兩種トス

第二條　祝典之章ハ大婚二十五年祝典ノ當日召ニ依リ參內シタル者ニ頒賜ス

第三條　祝典之章圖式左ノ如シ

環　圓形徑九分餘金若クハ銀

輪廓內表面ニ菊御紋ト雙鶴松ヲ銜ミ左右交架藤花ノ圖、裏面ニ大婚二十五年祝典之章、大日本帝國、明治二十七年三月ノ二十三字ヲ識ス

環　圓形金若クハ銀

綬　紅色、中央ニ黃線一條ヲ交フ

第四條　祝典之章ハ本人ニ限リ終身之ヲ佩用シ子孫之ヲ保存スルコトヲ許ス其ノ沒收ニ關シテハ明治十四年第六十三號布告褒章條例ニ依ル

（祝典之章圖略ス）

環　圓形金若クハ銀

綬　幅一寸二分旭日桐花章ノ綬ヲ用フ

第四條　記念章ハ本人ニ限リ終身之ヲ保存スルヲ許ス其之ヲ沒收スルノ事項ハ明治十四年第六十三號布告褒章條例ニ依ル

佩用式

一綬ヲ用テ左胸ニ佩フ但婦人ハ蝶結ヲ用フ

第二章　位階　附華族

第一款　位階

㊙敍位條例

（明治二十年五月勅令第十號）

朕敍位條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

敍位條例

第一條　凡ソ位ハ華族勅奏任官及國家ニ勳功アル者又ハ裏彰スヘキ效績アル者ヲ敍ス

第二條　凡ソ位ハ正一位ヨリ從八位ニ至ル十六階トス

第三條　凡ソ位ハ從四位以上ハ勅授トシ宮內大臣之ヲ奉ス正五位以下ハ奏授トシ宮內大臣之ヲ宣ス

第四條　凡ソ位ハ懲戒ニ因リ返上セシムルカ又ハ刑法ニ因リ公權ヲ剝奪セラルルノ外終身之ヲ有スルヲ得

第五條　凡ソ位ハ從四位以上ハ爵ニ准シ禮遇ヲ享ク其准例左ノ如シ

公爵	侯爵	伯爵	子爵	男爵
從一位	正二位	從二位	正從三位	正從四位

第六條　爵位ヲ併有スル者ハ高キニ從テ禮遇ヲ享ク

㊙敍位手續

（明治二十年五月內閣訓令）

勅令第十號ヲ以テ位階奉宣ノ事宮內大臣ニ委セラレタル處華族及宮內官吏ノ敍位ヲ除ク外ハ從前ノ如ク內閣總理大臣ヲ經テ上奏スヘシ內閣總理大臣奏聞裁可ヲ經タル後之ヲ宮內大臣ニ移シ宮內大臣之ヲ奉宣ス

㊙有位者改姓名死亡其他ノ異動屆出方

（明治二十四年六月宮內省乙第一號達）

有位者一般（華族ヲ除ク）

自今改姓名貫屬換及轉居ハ其部度本人ヨリ死亡ハ相續人又ハ親屬ヨリ直ニ宮內省爵位局ヘ屆出ツヘシ

第二款　華族

㊙華族授爵ノ詔勅

（明治十七年七月）

詔書

朕惟フニ華族勳胄ハ國ノ瞻望ナリ宜シク授クルニ榮爵ヲ以テシ用テ寵光ヲ示スヘシ文武諸臣中興ノ偉業ヲ翼贊シ國ニ大勞アル者宜シク均シク優列ニ陞シ用テ殊典ヲ昭カニスヘシ茲ニ五爵ヲ叙テ其有禮ヲ秩ス卿等益ス爾ノ忠貞ヲ篤クシ爾ノ子孫ヲシテ世々其美ヲ濟サシメヨ

㊙華族令

（明治十七年七月宮內省番外達）

華族令左ノ通被　仰出候ニ付此旨相達候事

第一條　凡ソ爵ヲ授クルハ　勅旨ヲ以テシ宮內卿之ヲ奉行ス

第二條　爵ヲ分テ公侯伯子男ノ五等トス

第三條　爵ハ男子嫡長ノ順序ニ依リ之ヲ襲カシム女子ハ爵ヲ襲クコトヲ得ス但現在女戶主ノ華族ハ將來相續ノ男子ヲ定ムルトキニ於テ親戚中同族ノ者ノ連署ヲ以テ宮內卿ヲ經由シ授爵ヲ請願スヘシ

第四條　嗣令有爵者又ハ華族令左ノ通被　仰出候ニ付此旨相達候事

第五條　有爵者ノ婦ハ其夫ニ均シキ禮遇及ヒ名稱ヲ享ク

第六條　華族戶主ノ戶籍ニ屬スル祖父母、父母及妻及嫡長子孫及其妻ハ俱ニ華族ノ禮遇ヲ享ク

第七條　本人生存中相續人ヲシテ爵ヲ襲カシムルコトヲ得ス

但刑法又ハ懲戒ノ處分ニ由リ爵ヲ奪ヒ又ハ族籍ヲ削ラレ更ニ特旨ヲ以テ相續人ニ授クル者ハ此例ニ在ラス

第八條　華族ノ戶籍及身分ハ宮內卿之ヲ管掌ス

第九條　華族及華族ノ子弟婚姻シ又ハ養子セントスル者ハ先ツ宮內卿ノ許可ヲ受クヘシ

第十條　華族ハ其子弟ヲシテ相當ノ敎育ヲ受ケシムルノ義務ヲ負フヘシ

第十一條　華族ハ相續及家政上ノ關係ヲ定ムル爲ニ法律命令及華族ニ關スル規定ノ範圍內ニ於テ家範ヲ定ムルコトヲ得（二十七年宮內省達甲第二號ヲ以テ本條以下追加）

第十二條　家範ハ宮內大臣ノ認許ヲ經ヘシ其條項ヲ改正增補スルトキ亦同シ

第十三條　華族ノ戶主ニシテ監視ニ付セラルヘキ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ華族ノ稱ヲ除キ其爵位ヲ返上セシム

第十四條　第五條及第六條ノ禮遇ヲ享クル者ニシテ前條ニ當ルトキハ其禮遇ヲ禁止シ位記アル者ハ之ヲ返上セシム

華族ノ嫡長子孫ニシテ前條ニ當ルトキハ華族ノ榮典ヲ繼承スルコトヲ得ス

第十五條　華族ノ戶主及第五條第六條ノ禮遇ヲ享クル者ニシテ左ニ揭クル事項ノ一ニ當ルトキハ其禮遇ヲ停止ス

一　禁錮ノ刑ニ處セラレ其刑期間ノ者

二　刑事ノ訴ヲ受ケ勾留又ハ保釋若クハ責付中ノ者又ハ監視中ノ者

三　家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

四　第十條ノ義務ヲ充タササル者

五　華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者

第十六條　華族タルノ體面ヲ汚辱スル失行アル者

ハ第十三條第十四條又ハ第十五條ニ依リ處分ス

第十七條　華族ノ品位ヲ保ツ能ハサル者ハ榮典ヲ辭スルコトヲ得

第十八條　第十三條乃至第十七條ノ處分ハ勅裁ヲ仰キ宮内大臣之ヲ行フ但第十五條第四第五第十六條及第十七條ノ處分ニ付テハ華族中ヨリ勅選セラレタル七名以上ノ委員ヲシテ評議セシメ勅裁ヲ仰クヘシ

㊀華族席順（明治十七年七月宮内省乙第五號達）

華族席順ハ爵ヲ以テ定ム爵同キ者ハ位階ヲ以テ定ム

右相達候事

㊀華族ハ東京府貫屬タルヘキ件（明治四年二月布告）

先般華族（元武家）ノ輩東京住居被仰付ニ付テハ總テ可爲東京府貫屬候條此旨相達候事

㊀華族貫屬換願出方（明治二十年十月宮内省第二十號達）

自今地方ニ就キ産業ニ從事シ或ハ家計ヲ維持スル目的ヲ以テ各府縣並北海道ヘ移住セントスルモノハ其事情ヲ具シ貫屬換願出ヘシ其目的至當ト認ムルモノハ聞屆クヘシ

㊀華族ノ内國旅行屆出ノ件（明治二十二年五月宮内省第八號達）

華族ノ外ハ自今内國旅行及寄留ハ願ニ及ハス出發歸著ノ都度

爵位局長官ヘ屆出ヘシ

㊀華族家令扶等姓名住所等屆出ノ件（明治二十六年十月宮内省乙第六號達）

現在ノ家令家扶家從又ハ其名稱ヲ付セサルモ同樣ノ事務ニ從事セシムル者ノ姓名住所生年月ヲ取調ヘ本月三十日迄ニ爵位局ヘ屆出其屆出ヲ爲シタル後命免改姓名轉居ヲ爲タルトキハ仍其都度屆出ヘシ

㊀華族戸籍ニ關シ願出省略ノ件（明治二十九年十月宮内省乙第三號達）

華族戸籍ニ關シ從來本省ノ許可ヲ經タルモノノ内養子、婚姻ヲ除クノ外ハ自今願ニ及ハス（三十一年宮内省達乙第一號ヲ以テ家督相續ノ四字ヲ削ル）

但從前ノ達令ニシテ本文ニ牴觸スルモノハ總テ廢止ス

㊀華族家督相續人襲爵出願ノ件（明治三十一年七月宮内省甲第四號達）

華族家督相續人ハ家督相續開始ノ後速ニ宮内大臣ヲ經由シ襲爵ヲ願出ツヘシ

㊀華族世襲財産法（明治十九年四月勅令第三十四號）

族華族世襲財産法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

華族世襲財産法

第一條　華族戸主滿二十年以上ノ者ハ此法ニ依リ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得但滿二十年以下ノ者ト雖モ前代戸主ノ遺言アルトキハ世襲財産ヲ創設スルコトヲ得

第二條　世襲財産ノ創設ヲ願出ルトキハ地券、公債證書又ハ株券ノ華族局ニ差出シテ點檢ヲ受クヘシ其附屬物ハ華族局ノ指揮ニ依リ之ヲ差出シテ點檢ヲ受ケ又ハ華族局員ノ臨檢ヲ受クヘシ

第三條　前條差出シタル物件ハ華族局ニ留置キ其願ヲ許否スルノ日ヨリ下戻スヘシ但時宜ニ依リ點檢ノ上直ニ下戻スコトアルヘシ

第四條　前代戸主ノ遺言ニ據リ世襲財産ノ創設ヲ願出ルトキハ其後見人連署ノ上創設ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　法第五條ニ據リ世襲財産附屬物ト爲スヲ得ヘキモノハ左ノ各項ニ相當スルモノトス

一　稀世ノモノ

一　其家ニ由緒アルモノ

一　親古ノ參考トナルヘキ貴重ノモノ

第六條　法第二十一條ニ揭クル日限ヲ經過シタルトキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ直ニ該財産ニ關スル故障申立ノ有無ヲ宮内大臣ニ上申スヘシ

第七條　宮内大臣ハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ノ上申ニ據リ不都合ナシト認ムルトキハ法第二十一條ノ手續ヲ爲シ尚ホ華族局ヲシテ其旨ヲ官報ニ揭ケ公告セシムヘシ

第八條　華族局ハ世襲財産トナリタル地券、公債證書又ハ株券ノ各券面ニ「爲華族世襲財産」ノ印章ヲ押捺シ番號及ヒ年月日ヲ記入スヘシ

第九條　世襲財産ヲ創設セントスルモノハ豫メ相當ノ親屬會議員ヲ選定シテ屆出ヘシ若シ親屬ナキトキハ一族又ハ華族中ヨリ選定シテ願出ヘシ其補缺又ハ改選ヲ要スルトキ亦同シ

第十二條　世襲財産ノ純收益ハ如何ナル場合ト雖モ當主ヨリ毎年其三分一以上ヲ差押フルコトヲ得ス

第十三條　世襲財産及ヒ附屬物ハ之ヲ賣却讓與シ又ハ質入書入ト爲スコトヲ得ス

第十四條　世襲財産及ヒ附屬物ハ負債ノ抵償トシテ差押フルコトヲ得ス

第十五條　世襲財産ハ左ノ場合ニ於テハ其效力ヲ失フモノトス

一　戸主死亡ノ後家督相續スヘキ男子ナキトキ

一　第九條第十條ニ揭クタル缺額ヲ其期限内ニ補充セサルトキ

第十六條　世襲財産及ヒ附屬物ハ其所有者ニ於テ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

第十七條　世襲財産ハ宮内大臣之ヲ管理シ華族局ヲシテ其事務ヲ取扱ハシム

第十八條　華族局ハ世襲財産臺帳ヲ備ヘ置キ世襲財産及ヒ之ニ關スル事項ヲ記入スヘシ

第十九條　世襲財産ヲ創設增加更換又ハ補充セントスル者ハ其願書ニ財産目錄ヲ添ヘ宮内大臣ニ差出シ其認可ヲ受クヘシ世襲財産附屬物ヲ設ケントスル者亦同シ

第二十條　宮内大臣ハ前條ノ願書目錄ヲ審査シ第一類ノ財産及ヒ第二類ノ公債證書ハ所轄ノ地方廳ニ命シ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ世襲財産ト爲スヘキ旨ヲ官報及ヒ其地方一定ノ新聞紙ニ揭ケ一週日間之ヲ公告セシムヘシ

世襲財産附屬物ハ華族局ニ於テ之ヲ公告スヘシ

第二十一條　前條公告ヲ了リタル後三十日ヲ經テ該財産ニ關シ故障ヲ申出ル者ナキトキハ宮内大臣ハ世襲財産臺帳ニ記入セシメ第一類ノ財産ハ所轄ノ地方廳ニ命シ（地券）臺帳ニ記入セシメ第二類ノ公債證書ニ記入セシムヘシ第一類ノ地方廳ニ株券ハ銀行若クハ會社ニ命シ帳簿ニ記入セシムヘシ

第二十二條　世襲財産ノ創設ヲ願出ルトキハ地券、公債證書又ハ株券ハ華族局ニ差出シテ點檢ヲ受クヘシ其附屬物ハ華族局ノ指揮ニ依リ之ヲ差出シテ點檢ヲ受ケ又ハ華族局員ノ臨檢ヲ受クヘシ

第二十三條　第二十條及ヒ第二十二條ニ關スル公告費用ハ其財産所有者ヨリ之ヲ辨償スヘシ

第二十四條　世襲財産ニ關スル事件ヲ協議スルカ爲メ戸主及ヒ滿二十年以上ノ相續者若クハ後見人ト親屬三名以上トヲ以テ親屬會議ヲ組織シ豫メ宮内大臣ニ屆出ヘシ但親屬ナキトキハ宮内大臣ノ認可ヲ得テ一族又ハ他ノ華族ヲ以テ親屬會議員ニ充ルコトヲ得

第二十五條　世襲財産ニ關スル願書屆書ハ親屬會議各員ノ連署ヲ要ス

第二十六條　此法施行ノ手續ハ宮内大臣之ヲ定ム

第二十七條　此法ハ明治十九年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

㊀華族世襲財産法施行手續（明治十九年五月宮内省第七號達）

勅令第三十四號第二十六條ニ據リ華族世襲財産法施行手續左ノ通リ定ム

華族世襲財産法施行手續

第一條　世襲財産ニ關スル願書及ヒ屆書ハ宮内大臣ニ宛華族局ニ差出スヘシ

第十條　宗督相續者世襲財産ヲ相續シタルトキハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ於テ地券、公債證書又ハ株券ノ書換若クハ裏書ヲ受ケ速ニ其旨ヲ届出ヘシ

第十一條　第一類ノ地目ヲ變換セントシ又ハ免租地ヲ有租地ト爲サントシ或ハ有租地ヲ免租地ト爲サントシ若クハ開墾セントスルモノハ先ツ宮内大臣ノ認可ヲ經テ一般ノ手續ニ遵フヘシ

第十二條　第一類ノ財産災害又ハ其他ノ事故ニ因リ其收入ヲ減シタルトキハ事由ヲ具シテ届出ヘシ其第二類ノ財産ニ於ケル亦同シ

第十三條　第一類ノ財産公用ニ因リ買上ラレ又ハ第二類ノ財産元金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ其金額ヲ驛遞局貯金預所、日本銀行又ハ第十五國立銀行ヘ預ケ入レ其預金證書ヲ華族局ヲ經テ内藏寮ヘ預ケ置キ其補充財産購求ノ時ニ至リ下渡ヲ願出ヘシ

第十四條　世襲財産ニ關シ必要ト認ムルコトアルトキハ華族局員ヲ派遣シテ臨檢セシムルヘシ但時宜ニ依リ地方廳ニ命シ該廳官吏ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ

第十五條　地券、公債證書又ハ株券毀損亡失等ノ故ヲ以テ再度又ハ書換ヲ受ケタルトキハ之ヲ華族局ニ差出シテ第八條ニ揭クル券面ノ記入ヲ受クヘシ

第十六條　世襲財産附屬物ヲ毀損亡失シ又ハ亡失シタルモノヲ發見シタルトキハ其事由ヲ届出ヘシ

第十七條　世襲財産其效力ヲ失ヒタルトキハ法第二十二條ノ公告ヲ爲サシムルト同時ニ其旨ヲ所有者及ヒ親屬會議員ニ達スヘシ

第十八條　前條ノ達ヲ受ケタルモノハ直ニ地券、公債證書又ハ株券ヲ華族局ニ差出シ其券面記入ノ取消ヲ願出ツヘシ

書式

世襲財産記入取消願

第二類第何號

記號番號

一何公債證書額面何圓

第二類第何號

番號

一何銀行（會社）株式何株　資金何圓

右ハ今般當籤（營業滿期）（解散）ニ付元金ノ償還ヲ受ケ度候間券面中「爲華族世襲財産」ノ記入御取消被下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奏願候也

年月日　位爵氏名印

（親屬會議員連署スヘシ）

宮内大臣爵氏名殿

◎公債證書ヲ世襲財産トスルトキハ記名トス（明治二十六年七月官内省乙第三號達）

自今公債證書ヲ以テ世襲財産ト爲サントスルトキ無記名證書ハ記名ニ變換シテ願出ツヘシ

◎株式會社十五銀行株券世襲財産トナスノ件（明治三十年三月法律第四十號）

族帝國議會ノ協賛ヲ經タル株式會社十五銀行株式ヲ華族世襲財産ト爲スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第十五國立銀行明治二十九年法律第七號營業滿期ニ付テハ其ノ株式ハ華族世襲財産法第三條第二類ニ準シ世襲財産ト爲スコトヲ得

◎華族就學規則（明治二十五年八月宮内省甲第五號達）

明治二十年一月宮内省達第一號華族就學規則左ノ通改正ス

奉　勅

華族就學規則

第一章　通則

第一條　本則ハ華族學齡男子ノ教育ヲ規定スルモノトス

第二條　學齡ハ滿六年以上滿二十四年以下トス

第三條　華族ノ男子ハ學齡中ニ於テ少クモ學習院中等學科又ハ之ニ相當スヘキ程度ノ學科ヲ修了スルヲ要ス

第四條　華族學齡男子ノ本則ニ關スル學事ニ付テハ其ノ戸主又ハ後見人責任ヲ負フヘキモノトス

第五條　本則ニ關スル願届ハ總テ戸主又ハ後見人ヨリ差出スヘキモノトス

但シ疾病傷痍等ニ原由スルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添フヘシ

第二章　修學

第六條　學齡者ハ學習院ニ入リ修學スヘキモノトス

第七條　東京府外ニ住居スル十四年未滿ノ學齡者及東京府内ニ住居スル十年未滿ノ學齡者ニシテ學習院ニ入學シ難キ事由アルトキハ便宜ノ學校ニ就キ普通教育ヲ受クヘシ

本條ノ場合ニ於テハ其ノ事由及學校ノ位置名稱ヲ具シ豫メ其筋ノ許可ヲ受クヘシ

第八條　第七條ノ年齡ヲ過クルノ後尚ホ學習院ニ入學シ難キ者ハ其ノ事由ヲ詳記シ年月ヲ豫期シ宗族親屬ノ連署ヲ以テ宮内大臣ニ延期ノ認可ヲ請フヘシ

第九條　第八條ニ依リ學習院入學延期ヲ許サレタル者ハ疾病ニ原由スル者ノ外仍ホ其ノ年齡學力ニ應シ總テ普通教育ヲ受クヘシ若シ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由及修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十條　疾病傷痍ニ由リ六箇月以上就學ノ延期ヲ要スル者又ハ三箇月以上引續キ學業ヲ休止セサルヲ得サル者又ハ癈疾不具若クハ體質虚弱ニシテ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由及修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十一條　學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ普通教育ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ（三十一年宮内省甲第九號達ヲ以テ改正）

第十二條　學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ陸軍各兵科現役士官候補生又ハ陸海軍所轄各學校ノ學生タラント欲シ其ノ入學試驗ニ合格シタル者ハ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第十二條　學習院初等學科ヲ修了シテ退學シタル者又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニシテ專門ノ學校ニ入ラント欲スル者ハ其ノ學校ノ名稱學科ノ種類等ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シ第十四條ノ修學ヲ完成シ其ノ目的ノ學科ニ就ク者ハ爵位局長ニ届出ツヘシ（同上達ヲ以テ但書追加）

第十三條　第三條ノ學科程度ヲ修了シタル者ニシテ海外留學ヲ爲サント欲スルトキハ其ノ國名地

公債證書又ハ株券ヲ華族局ニ差出シ其券面記入ノ取消ヲ受クヘシ

第十九條　法第二十條第二十二條ニ據リ公告ヲ爲シタル地方廳又ハ銀行若クハ會社ハ其費用計算書ヲ以テ華族局ニ請求スヘシ華族局ハ計算書ヲ取纏メ其納金方ヲ所有者又ハ親屬會議員等ニ達スヘシ

第二十條　前條納金方ノ達ヲ受取リタルモノハ三日以内ニ納金證書ニ現金又ハ爲換手形ヲ添ヘ華族局ハ直ニ之ヲ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ送付スヘシ

第二十一條　遠隔ノ地方ニ在ル會社ニ於テ公告ヲ爲シ又ハ地方廳又ハ銀行若クハ會社ニ於テ其金額ヲ預所、日本銀行又ハ第十五國立銀行ヘ預ケ入レ其預金證書ヲ華族局ヲ經テ内藏寮ヘ預ケ置キ其補充財産購求ノ時ニ至リ下渡ヲ願出ヘシ

第二十二條　世襲財産ニ關シ必要ト認ムルコトアルトキハ華族局員ヲ派遣シテ臨檢セシムルヘシ但時宜ニ依リ地方廳ニ命シ該廳官吏ヲシテ臨檢セシムルコトアルヘシ

（書式略ス）

◎世襲財産目錄中削除願書式（明治十九年十二月宮内省第十七號達）

世襲財産創設其他出願中ニ係ル財産目錄中ノ地所公用ノ爲メ被買上又ハ公債證書當籤セシトキハ左ノ書式ニ依リ削除願出ツヘシ

書式

削除願

私世襲財産何々出願中ニ係ル財産目錄中ノ地所列記ノ（地所公用ノ爲メ被買上）（何公債證書當籤相成）候ニ付財産目錄中削除被成下度親屬會議員連署ヲ以テ此段奏願候也

年月日　位爵氏名印

宮内大臣爵氏名殿

◎旅行ノ節ハ世襲財産ニ付代理人ヲ定メ届出方（明治十九年十二月宮内省第十八號達）

世襲財産創設出願者又ハ所有者旅行數箇月ニ亘リ候者ハ出發前世襲財産親屬會議員ノ内ニテ代理人ヲ定メ左ノ書式ニ依リ華族局ヘ届出ツヘシ

書式

旅行中代理届

私儀今般何々ノ爲メ（何箇月）（何箇年）何國何地ヘ旅行致シ候ニ付不在中世襲財産ニ關スル儀ハ親屬會議員某ヲ以テ代理爲致候條親屬會議員連署ヲ以テ此段御届仕候也

年月日　位爵氏名印

親屬會議員連署スヘシ

華族局長官爵氏名殿

◎土地ヲ以テ世襲財産トスルトキ土地臺帳謄本添付（明治二十五年二月宮内省乙第二號達）

華族世襲財産法ニ據リ土地ヲ以テ世襲財産ト爲サントスルモノハ財産目錄ニ其土地臺帳謄本ヲ付添スヘシ

◎世襲財産記入取消願書式（明治二十六年六月宮内省乙第一號達）

世襲財産タル公債證書又ハ株券元金ノ償還ヲ受ケ

名及修業セント欲スル學科ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ

但シ第三條ノ學科程度ヲ修了セスシテ留學ヲ必要トスル特別ノ事由アル者ニハ特ニ許可ヲ與フルコトアルヘシ

第十四條　第十一條第十二條及第十三條ノ目的ヲ達スルニ便宜ナル豫備ノ修學ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ年月ヲ豫期シ修學ノ場所及其ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第三章　廢學及退學

第十五條　疾病傷痍ニ由リ成學ノ目的ナク廢學セント欲スル者アルトキハ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ

第十六條　官吏又ハ公吏ニ任用セラレ修學ノ餘暇ナク廢學セントスル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十七條　學齢中ニ於テ陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學科ヲ卒業シタル者若クハ學齢滿期ニ至リ廢學スル者アルトキハ爵位局長ニ届出ツヘシ

第十八條　學齢中ニ於テ第三條ノ學科程度ヲ修了シタル後止ムヲ得サル事由アリテ廢學セントスル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ（三十一年宮内省達甲第九號ヲ以テ但書　削除）

第十九條　戸主又ハ嫡長子孫ヲ除クノ外第三條ノ學科程度ヲ修了スルニ至ラスシテ後來自活ノ計ヲ爲サンカ爲メ廢學セサルヲ得サル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ノ許可ヲ請フヘシ（同上達ヲ以テ本條中削除）

但シ學習院初等學科又ハ之ニ相當スヘキ普通學科ヲ修了シタル者ニアラサレハ之ヲ許サス

第二十條　第十一條及第十二條ニ依リ修學中半途ニシテ退學シタル者アルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ宮内大臣ニ届出ツヘシ

第二十一條　學習院學則第十五條ニ依リ事故ヲ以テ退學シタル者及陸海軍學校又ハ其ノ他ノ專門學科ノ學習ヲ爲サント欲スル者若クハ海外留學中半途ニシテ歸朝シタル者ハ更ニ修學ノ方法ヲ詳記シ宮内大臣ノ認可ヲ請フヘシ（同上達ヲ以テ本條中改正）

第二十二條　本則ノ規定ニ遵ハサル者アルトキハ宮内大臣之ヲ督責ス

第二十三條　第二十二條ニ依リ督責ヲ加フルモ尚ホ之ニ從ハサル者アルトキハ宮内大臣ノ勅許ヲ經テ宮中ノ禮遇ヲ停止スルコトアルヘシ

第五章　雜則

第二十四條　學習院外ニ於テ修學スル者ハ每年一回學年ノ終リニ於テ其ノ修業シタル成績ヲ記載シ爵位局長ニ届出ツヘシ（三十一年宮内省甲第九號達改正ニ依ル）

第二十五條　第十三條ノ許可ヲ得テ海外ニ留學シタル者ハ其ノ修學ノ場所ヲ爵位局長ニ届出ツヘシ（同上）

第二十六條　學習院學生ノ轉學退學休學等ニ關スル事項ハ總テ學習院ノ規則ニ依ルモノトヘキス

學習院學則（明治二十三年七月宮内省第十五號達）

廢シ學習院學則更ニ左ノ通相定ム

學習院學則

第一章　總則

第一條　學習院ハ專ラ　天皇陛下ノ聖旨ニ基キ華族ノ男子ニ華族相當セル教育ヲ施ス所トス

第二號　學習院ノ學科ヲ初等學科中等學科高等學科大學科海軍豫科ノ五種トス其修業年限及相當年齢左ノ如シ但初等中等ノ二學科ハ每學科各分テ六級トシテ自餘ノ三學科ハ每學科各分テ三級トス一級ノ修學期限ハ各一箇年トス（二十六年宮内省乙第五號達ヲ以テ別科ヲ大學科ト改ム以下倣之）

其一	初等學科　六箇年	自滿六年至滿十二年
其二	中等學科　六箇年	自滿十二年至滿十八年

中等學科三年級卒業ノ者ニハ陸軍幼年學校ニ入ルニ堪フル學術ヲモ備ヘシメ其六年級卒業ノ者ニハ陸軍各兵科士官候補生タルニ堪フル學術ヲモ備ヘシムルモノトス

其三	高等學科　三箇年	自滿十八年至滿二十一年
其四	大學科　三箇年	自滿二十一年至滿二十四年
其五	海軍豫科　三箇年	自滿十五年至滿十八年

海軍豫科ハ志願ニ由リ中等學科三年級卒業以上ノ者ヲシテ之ニ就カシメ卒業ノ者ハ海軍兵學校ニ入ルニ堪フルノミナラス尚入校ノ上其課業ヲ修ムルニ餘地アルヘキ學術ヲ備ヘシム尤海軍兵學校入學檢査ノ格例及同校學科課程等ニ變更アルトキハ隨テ之ヲ改ムルモノトス

第三條　五學科ノ教課々目等概子左表ノ如シ

（學習院學科一覽表略ス）（二十九年宮内省乙第二號達ヲ以テ第三號第四號改正）

第四條　中等學科以上ノ學生ニシテ年齢過長體質虚弱等ノ爲定則ノ課業ヲ受クルコト能ハサル者アルトキハ志願ニ由リ詮議ノ上各學科中ノ一教課若クハ數教課ヲ撰修セシムル此學生ヲ撰科學生ト稱ス

第二章　學暦

第五條　學習院ノ學年（即教育ノ年度）ハ當年ノ九月一日ヨリ翌年ノ八月三十一日迄ヲ期トス此内休業日左ノ如シ

日曜日		
秋季皇靈祭		
神嘗祭		
開院紀念式		十月十八日
天長節		
靖國神社大祭		
新嘗祭		
冬季休業		自十二月二十五日至一月七日
孝明天皇祭		
紀元節		
春季皇靈祭		
神武天皇祭		
春季休業	自四月四日至四月十日	
夏季休業	自七月十一日至八月三十一日	

但高等學科及別科ニ在リテハ九月一日ヨリ同二十日迄モ夏季休業トスルコトアルヘシ

第六條　學年中休業日ヲ除キ實際教學ノ日數ヲ算シテ之ヲ三學期ニ區別ス

第一學期　九月一日以後十二月二十四日以前凡九十三日（此間經過ノ日數百十五日週數凡十六週半日曜日凡十六自餘休業日凡六）

第二學期　一月八日以後四月三日以前凡七十日（此間經過ノ日數凡八十六日週數凡十二週三分一日曜日凡十二自餘休業日凡四）

第三學期　四月十一日以後七月十日以前凡七十一日曜日凡十二自餘休業日凡一）

七日（此間經過ノ日數九十一日週數十三週日

時間ハ每週土曜日ハ牽モ三時五時間又ハ六時間トス七月一日以後ニ在リテハ土曜日ニアヲ

第七條　日々ノ課業時間ハ每學年ノ終ニ於テ本學年中ノ成績ヲ明カニスル爲平常問自餘ノ日ハ牽モ五時間日以後九月二十日以前ニ於テ時々試驗ヲ行ヒ點數ヲ以テ之ヲサルモ三時間迄ニ減スルコトアルヘシ而シテ始業ノ時刻ハ午前八時ナルヲ常トス但第一第二學期ニ於テハ午前九時トスルコトアルヘシ每時間課業實際ノ時間ハ學科表ノ備考ニ載ス

第三章　成績

第八條　各學科共修學ノ成績ヲ明カニスル爲平常ノ功過ヲ按檢シ又時々試驗ヲ行ヒ點數ヲ以テ之ヲ表ス其成績調査ノ期ハ概子每學期ニ一回若クハ二回トス而シテ第三學期ニ於クル一回ヲ除クノ外每回調査セル成績ノ差等ニ隨テ學生ノ席次ヲ定ム

第九條　各學科共學年ノ終ニ於テ本學年中ノ成績ヲ審査シ之ニ據テ學生ノ及第落第及席次ヲ定ム

第十條　各學科ノ最上級及第ノ者及其各級及第ノ者ニハ各相當ノ證書ヲ付與ス尤夏季休業中ニ於テ其日ヲ定メ特ニ儀式ヲ設ケテ之ヲ授クルモノトス

第十一條　大學科卒業生ハ學習院學士ト稱スルコトヲ得（二十七年宮内省乙第四號達ヲ以テ追加）

第二章　位階附華族　第二款　華族

第十二條　學習院學則第十號ノ規定ニ依リ退學ヲ命セラレ該國大學ニ於テ滿三箇年以上ノ學科課程ヲ卒業シタル者ハ學習院長ノ認可ヲ經テ學習院學士ト稱スルコトヲ得（二十九年宮内省乙第一號達ヲ以テ追加）

自己ノ志望ヲ以テ海外ニ留學シ其修學ノ程度前項ニ等シキ者ハ學習院長ニ於テ詮議ノ上宮内大臣ノ裁可ヲ經テ學習院學士ノ稱號ヲ認可スルコトアルヘシ（同上）

第四章　入退學及保證人資格竝心得

第十二條　學習院ニ入學スヘキ華族男子ハ本章ノ規定ニ遵由シ及第一章ノ諸條ニ基キ學習院ニ於テ施行スル入學試驗ニ合格シタル者トス

華族ニアラサル者モ教育ノ都合ニ由リ入學セシムルコトアルヘシ其規則ハ別ニ學習院長ノ定ムル所ニ依ル

但皇族ノ入學ハ制規ノ外トス

第十三條　入學ノ期ハ前學年ノ終即チ夏季休業中チ例規トス但冬季休業又ハ春季休業間其他臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十四條　入學ハ學習院ヨリ官報若クハ便宜ノ新聞紙ヲ以テ廣告シ又ハ其他ノ手續ヲ以テ通知セル日限ニ從ヒ其保證人ヨリ第一二號ノ書式ニ準シタル願書及履歴書ヲ出タシ學習院ニ於テ檢査ノ上合格ノ者ニ願意聽屆ノ指令ヲ附シ保證人ヨリハ更ニ第三號書式ニ準シタル保證書ヲ出タシ而シテ後定ムルモノトス

第一號書式（用紙美濃紙正副二通）

入學願

華族位（爵）氏名子弟孫等

（本人戸主ナレハ之ヲ省ク）

（位爵）氏　名

何年何月何日生

右御院へ入學爲致度此段奉願候也

何府(縣)何區(郡)何町(村)何番地
華族
年月日　保證人　位(爵)　氏　名印
學習院長(卿)氏名殿

第二號書式（用紙美濃紙一通）

履歷書

（肩書第一號ニ同シ）　位(爵)　氏　名

一出生年月
一生國地名
一本籍及現住地
一天然痘（或ハ種痘）年月
一家庭ニ於テシタル教育ノ概況何年何月何日ヨリ何地幼稚園ニ入リ或ハ何某ニ就キ或ハ何學校ヘ入學或ハ入塾何學修業何年何月何日何級卒業或ハ何學校ヘ轉學現今何學校何級修業等（學科程度等ノ世ニ明ラカナラサルモノハ其學ヒタル學課ノ名稱程度書籍等ヲ詳ニ記スヘシ）

右之通候也

（肩書第一號ニ同シ）
年月日　保證人　位(爵)　氏　名印

第三號書式（用紙美濃紙一通）

保證書

（肩書第一號ニ同シ）　位(爵)　氏　名

右御院へ入學御許可相成候ニ付テハ御院則ヲ謹守セシメ候ヘ勿論總テ本人身上ニ係ル儀ハ拙者ニ於テ一切引受可申候依テ保證書如此候也

（肩書第一號ニ同シ）
年月日　保證人　位(爵)　氏　名印

學習院長(卿)氏名殿

但保證書ニハ必ス印鑑ヲ添フヘシ

第十五條　保證人ハ父兄宗親屬ニシテ東京ニ住居セル丁年以上ノ有位華族タルヲ要ス若シ其父兄宗親屬ニ相當ノ者ナキトキハ同樣ノ資格ヲ具ヘタル他ノ華族中ヨリ立ツヘキモノトス

其一　保證人死亡スルカ又ハ他ノ事故ニ由リ保證人ノ責任ヲ盡スヘキ能力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其父兄又ハ後見人又ハ其他ノ宗親屬ニ於テ第一項ノ資格アル者ヲ繼續者ト定メ其繼續者ヨリ第二項甲號書式ニ準シタル書面及印鑑ヲ出スヲ要ス

其二　保證人東京府外ニ轉住スルカ又ハ他ノ都合ニ由リ保證人ノ責任ヲ盡シ難キ場合ヲ生スルトキハ更ニ前項ノ資格アル人ヲ其繼續者トシ新舊保證人ヨリ同時ニ左ノ甲乙號書式ニ準シタル書面ニ新保證人ノ印鑑ヲ添ヘテ差出スヘシ

甲號書式（用紙美濃紙一通）

保證繼續書

（肩書第一號ニ同シ）　位(爵)

右ノ者身上ノ儀是迄何誰引受居候處何々ニ付留學中ニ於テ繼續シ同人同樣引受可申保證繼續後拙者ニ於テ繼續シ同人同樣引受可申保證繼續書如此候也

（肩書第一號ニ同シ）
年月日　保證人　位(爵)
學習院長(卿)氏名殿

乙號書式（用紙前ニ同シ）

拙者儀何誰（學生氏名）身上保證致居候處今般何々ニ付爾後何誰（新保證人氏名）ヘ右保證ノ儀繼續爲致候依之同人保證繼續書ニ添ヘ此段及御屆候也

（肩書前ニ同シ）　位(爵)
年月日
學習院長(卿)氏名殿

其三　保證人一時府外ヘ出ツルコトアルトキハ其間ノ代理者ヲ定メテ屆出テ其印鑑ヲモ差出シ其代理人ヲ解ク時亦屆出ツヘシ

其四　保證人ノ責任ヲ盡スヘキ能力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其父兄又ハ後見人又ハ其他ノ宗親屬ニ於テ第一項ノ資格アル者ヲ繼續者ト定メ其繼續者ヨリ第二項甲號書式ニ準シタル書面及印鑑ヲ出スヲ要ス

第十六條　學習院在學ノ學生ハ別科ヲ卒業スル迄左ニ揭クル場合ノ外妄ニ退學スルヲ得サルモノトス若此等場合ノ外退學セント欲スル者アルトキハ其事情ヲ具陳シ保證人ヨリ學習院長ヲ經テ宮內大臣ニ出願シ其許否ニ從フヘシ

其一　陸軍幼年學校入學ヲ差許サレタル時
其二　陸軍士官候補生タルヲ差許サレタル時
其三　海軍兵學校入學ヲ差許サレタル時
但三項共保證人ヨリ屆書ヲ出スヲ要ス

◉學習院研修科卒業生ニ學士ノ名稱認可ノ件（明治二十七年十一月宮內省乙第五號達）

學習院元研修科卒業學生ニシテ學習院長ノ認可ヲ經タル者ハ同院大學科卒業學生ニ準シ學習院學士ト稱スルコトヲ得

◉華族女學校規則（明治二十六年八月宮內省達第十五號）

明治二十二年（八月）宮內省達第十五號華族女學校規則左ノ通改正ス

華族女學校規則

第一章　通則

第一條　本校ハ

皇后陛下ノ令旨ニ依リ華族ノ爲メニ建テラレタル女學校ニシテ宮內省ノ所轄タリ

第二條　本校教育ノ趣旨ハ德育ヲ本トシテ知識ヲ發達セシメ高尙ノ性情ヲ養ヒ身體ヲ強壯ナラシメ上流ノ賢母良妻タルヘキ者ヲ陶冶スルニ在リ

第三條　生徒ハ年齡滿六年以上滿十八年以下ノ華族ノ女子ニシテ品行正シク體質修學ニ堪ヘ得ヘキ者タルヘシ

但都合ニヨリ士族平民ノ女子モ入學ヲ許スコトアルヘシ

第二章　教科

第四條　教科ヲ大別シテ小學科中學科トシ小學科ヲ小分シテ初等小學科高等小學科トシ中學科ヲ小分シテ初等中學科高等中學科トシ小學中學ノ每等科ヲ更ニ三學級トシ每學級ヲ三學期ニ分ツ

第五條　小學課程ハ初等ノ普通學科ヲ授ケ中學課程ハヤヽ高等ナル普通學科ヲ授ケテ本校教育ノ趣旨ヲ成就スルモノトス

第六條　本校ノ卒業生ニシテ尙高等ノ學科ヲ修メントス欲スル者ノタメニ更ニ二三ノ學科ヲ專修セシムルコトアルヘシ

第七條　年齡既ニ長シ普通ノ學科ヲ修ムル暇ナキ者ノタメニ別科ヲ置キ二三ノ學科ヲ授クルコトアルヘシ

第八條　授業時間ハ初等小學ハ一日四時間其他ハ五時間トシ土曜日ハスヘテ三時間トス

第九條　小學中學ノ學科課程及授業時間ノ配當左表ノ如シ

等科	初等小學科				高等小學科				初等中學科				高等中學科			
學科 / 級	第三級		第二級		第一級				第三級		第二級		第一級			
每週時間	上級	下級	上級	下級	上級	下級			上級	下級	上級	下級	上級	下級		
修身	二	二	二	二	二	二			一	一	一	一	一	一		
國文	六 讀方	六 同上	六 同上	六 同上	四 講讀 作文	四 同上			四 講讀 作文	四 同上	三 同上	三 同上	三 同上	三 同上		
淡文									二	二	二	二	二	二		
歐語																
地理					二 本邦地理	二 同上			二 外國地理	二 地文						
歷史									二 本邦史談		二 本邦歷史		三 同上	二 同上		
算術	三 加減	三 乘除	三 同上	四 同上	四 同上	四 加減假名	三 復名數	三 分數	三 分數小數	九 例	三 百分法					
實物	二 通常ノ動植物		二 同上	二 同上	三 天然物及人工		二 同上	二 普通ノ天然物及現象								
理科													三 化學物理	二 博物生理		
家政																
習字	四 平假名		四 片假名		四 楷書		四 行書									
圖畫	二 繪畫		二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上								
裁縫																
音樂	二 唱歌		二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上								
體操	二 遊戲		二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上	二 同上								
通計	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六	三六		

一歐語ハ生徒ノ望ニヨリ英佛ノ中其一ヲ教フ
一中學ノ圖畫ハ生徒ノ望ニヨリ國畫洋畫ノ中其一ヲ教フ
一高等中學第一級第二級ニハ生徒ノ望ニヨリ毎土曜日ノ午後ニ於テ點茶挿花ヲ教フ
一高等小學以上ノ音樂ノ中箏洋琴ハ生徒ノ望ニヨリ其一ヲ教フ

第三章　進級及證書

第十條　平素學力ヲ考定スルニハ教授上ノ視察或ハ臨時試問ヲ以テス

第十一條　學期末ニ於テ各學科毎ニ學業ノ成績ヲ考定ス

第十二條　學年末ニ於テ各學科毎ニ三學期ノ成績ニヨリ一學年ノ成績ヲ判定ス

第十三條　學年末ニ於テ各學科ノ成績ニヨリ生徒ノ進級ヲ判定ス

第十四條　平素ノ行狀秀拔ニシテ學力優等ノ者ニハ學年末ニ於テ褒賞ヲ與フルコトアルヘシ

第十五條　小學科及中學科每級及第ノ者ニハ該級卒業證書ヲ授與シ小學及中學全科卒業ノ者ニハ全科卒業證書ヲ授與ス其書式左ノ如シ

證書

第何號

位爵氏名何女或ハ姉妹

何　年　齡

校印　何　誰

何等小學中學第何級ノ學科ヲ卒業セリ依テ之ヲ證ス

年月日

校　名

第四章　學年及休業

第十六條　學年ハ九月一日ニ始リ翌年八月三十一日ニ終ル之ヲ一學級ニ配シ三學期ニ分ツ第一學期ハ九月一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ一月十一日ヨリ四月三日ニ至リ第三學期ハ四月十一日ニ至ル

第十七條　一學年中休業日左ノ如シ

日曜日
第五章　入退學及缺席
第十八條　生徒ノ募集ハ每學年ノ終ニ於テス尤缺員アルトキハ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
第十九條　入學志願ノ者ハ左ノ書式ニ準シ願書及學業履歷書ヲ出スヘシ

入學願（用紙美濃紙）

何府縣華族
位爵氏名何女或ハ姉妹
何　年　齡　誰

右ハ今般御校ヘ入學志願ニ付御許可下サレ度之ニ依テ學業履歷書相添ヘ（履歷ナキ者ハ以上八字ヲ削ル）此段相願候也

住所
右父兄或ハ後見人
年月日　位爵　何　誰　印

華族女學校
御中

學業履歷書

位爵氏名何女或ハ姉妹
何　誰

生年月
生所
現住所
父兄ノ官職或ハ業務
一年月日何地何幼稚園ニ入園或ハ何小學校ニ入學何科何年級修業中又ハ卒業
一年月日何地何學校ニ入リ或ハ何誰ニ就キ何年月間何學科修業用書何々
一學業證書寫何々
右之通候也

第二十條　入學願書ハ必ス正副二通ヲ出シ又學業履歷無キ者ハ生年月生所現住所及父兄ノ官職或ハ業務ヲ別記シ之ヲ願書ニ添ヘテ差出スヘシ

第二十一條　入學ノ許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ依リ保證書ヲ出スヘシ

保證書

何府縣華族
位爵氏名何女或ハ姉妹
何　年　齡　誰

右ノ者今般御校ヘ入學御許可相成候ニ付テハ御校則竝御告諭等堅ク相守ラセ勤學致サスヘク候且本人在學中身上ヨリ起リ候事柄ハ一切引受申スヘク候依テ保證書此ノ如ク候也

東京府華族
住所
右保證人
年月日　位爵　何　誰　印

華族女學校
御中

第二十二條　保證人ハ必ス東京在籍ノ父兄若クハ宗親兩族ノ內ヲ以テ之ニ充ツヘシ若東京在籍ノ父兄若クハ宗親兩族無キ者ハ校長ノ承認ヲ經テ他ノ東京在籍ノ者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

但保證人ハ必ス其印鑑ヲ本校ヘ差出シ置クヘシ

第二十三條　保證人他府縣ヘ移轉スル等已ムヲ得サル事故アルトキハ前條ノ規則ニ依リ更ニ保證人ヲ定メ届出ツヘシ

第二十四條　本校ノ生徒ハ修學半途ニシテ妄リニ退學スルコトヲ許サス尤病氣或ハ已ムヲ得サル事故ニ依リ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ具シ許可ヲ得ヘシ

第二十五條　生徒ハ妄リニ缺席スルコトヲ許サス若シ病氣或ハ他ノ事故ニ依リ已ムヲ得ス缺席シ或ハ週日ヲ過スル者ハ卽日保證人若クハ父兄又ハ後見人ヨリ届出ツヘシ

但病氣缺席一週間以上ニ亙ル時ハ更ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘテ届出ツヘシ

第二十六條　放課時間ニ先チ退校セサルヲ得サル事故アル時ハ保證人若クハ父兄又ハ後見人ヨリ届出ツヘシ

第六章　授業料

第二十七條　本校ノ生徒ハ每月金一圓ヨリ少ナカラス三圓ヨリ多カラサル授業料ヲ納ムヘシ

但本則第四章第十七條ニ定ムル夏季休業ノ月ハ之ヲ除ク

第二十八條　保證人ハ前條ノ範圍內ニ於テ納額ヲ定メ左ノ書式ニ準シ入學許可ノ日ヨリ三日間ニ届出ツヘシ

授業料納額届（用紙美濃紙）

何府縣華族
何　誰　印

右ノ者授業料每月金若干宛相納申スヘク候此段御届ニ及ヒ候也

右保證人
年月日

華族女學校
御中

第二十九條　授業料納附期日ハ每月三日ヨリ五日迄ノ三日間トス

但新ニ入學ノ月ハ納額届出ノ日ヲ以テ納附期日トス

第三十條　本校ノ承認ヲ經テ一箇月間全ク出席セサル者ハ其月分授業料ノ全額十五日後新ニ入學スル者ハ其月分ノ半額ヲ納附スルニ及ハス

第七章　生徒心得

第三十一條　本校ノ生徒タル者ハ常ニ皇后陛下ノ令旨ヲ服膺シテ心ヲ正シクシ行ヲ勵マシ溫良貞淑ノ女德ヲ養成センコトヲ勉ムヘシ

第三十二條　平素禮讓ヲ厚ウシ信義ヲ重ンシ又堅ク學校ノ規則及敎誡ヲ守ルヘシ

第三十三節　常ニ飮食ヲ節シ運動ヲ適宜ニシ氣力ヲ爽快ニシテ身體ヲ壯健ニセンコトヲ勉ムヘシ

第三十四條　衣服ハ質素ニシテ身體ニ適スルヲ旨トシ外觀ノ美ヲ競ヒテ浮華ニ流ルヘカラス

㊎華族女學校幼稚園規則

（明治二十七年二月宮內省乙第一號達）

華族女學校內ニ幼稚園ヲ設置シ其規則左ノ通定ム

華族女學校幼稚園規則

第一條　本園ハ華族ノ子女學齡未滿ノ者ヲ保育スル所トス

但シ士族平民ノ幼兒モ入園ヲ許スコトアルヘシ

第二條　本園保育ノ趣旨ハ幼兒身心ノ發達ヲ幇助シ善良ナル言行ヲ養成スルニアリ

第三條　入園幼兒ノ年齡ハ凡ソ三年以上六年未滿トス

第四條　保育ハ修身、談話、庶物、計方、手技、唱歌、遊戲、等ノ方法ニ據ルモノトス

第五條　入園ノ幼兒ハ年齡ニ依リ大約三組ニ分ツモノトス

第六條　保育時間ハ一週二十二時間以內トス

但シ望ニ依リ一日二時間以內保育時間後ニ於テ幼兒ヲ監護スルコトアルヘシ

第七條　休業日左ノ如シ

秋季皇靈祭　神嘗祭
天長節
新嘗祭
冬期休業　十二月二十五日ヨリ翌年一月十日ニ至ル
孝明天皇祭
紀元節
春季皇靈祭
神武天皇祭
春季休業　四月四日ヨリ同十日ニ至ル
皇后陛下御誕辰
夏期休業　七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル
本校開校紀念日

第八條　幼兒ヲ入園セシメントスル者ハ左ノ書式ニ依リ願書及ヒ經歷書ヲ差出スヘシ

入園願

何府縣華族或ハ士族平民
位爵氏名何男女或ハ何々
何　誰

年　齡

右ノ者今般御校幼稚園ヘ入園致サセ度候依テ經歷書相添ヘ此段相願候也

住所
右父兄或ハ後見人（後見人ナル時ハ本貫族籍ヲ記スヘシ）

位爵　何　誰　印

年月日

華族女學校長位爵何誰殿

經歷書

位爵氏名何男女或ハ何々
何　誰

一生所
一生年月
一現住所
一種痘或ハ天然痘
一生來著キ疾病ニ罹リシコトノ有無及病名病狀等
一父兄ノ官職或ハ業務
其ノ他特別ノ事情

右ノ通ニ候也

第十條　幼兒入園ノ許可ヲ得タル時ハ保證人ヨリ左ノ書式ニ依リ保證書ヲ出スヘシ

保證書

何府縣華族或ハ士族平民
位爵氏名何男女或ハ何々
何　誰

但シ夏季休業中七月十六日ヨリ八月三十一日ニ至ル一箇月半分ハ之ヲ除ク

第十七條　保證人ハ前條ノ範圍内ニ於テ納額ヲ定メ左ノ書式ニ依リ入園許可ノ日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ

保育料納額届

何　誰

右ノ者保育料毎月若干宛相納メ申スヘク候也

右保證人

年月日　華族女學校　何　誰　印

御中

第十八條　保育料納付期日ハ毎月三日ヨリ五日マテノ三日間トス

但シ新ニ入園ノ月ハ納額届出ノ日ヲ以テ納付

第十一條　保證人他府縣ヘ移住スル等止ムヲ得サル事故アルトキハ前條ニ依リ更ニ保證人ヲ定メ保證書ヲ差出スヘシ

第十二條　保證人ハ其ノ家族ニ傳染病ノ患者アル時ハ特ニ保證人ヨリ其旨ヲ届出テ幼兒ノ出席ニ付テハ本校ノ指揮ヲ請フヘシ

第十三條　幼兒入園ノ後其ノ住所ヲ轉シタル時ハ直ニ保證人ヨリ届出ツヘシ保證人自ラ轉居シタル時モ亦同シ

第十四條　在園ノ幼兒疾病又ハ事故ニ依リ缺席一週間以上ニ渉ルトキハ保證人ヨリ其ノ事由ヲ届出ツヘシ

第十五條　在園ノ幼兒傳染病ニ罹リタル時若シクハ其ノ家族ニ傳染病ノ患者アル時ハ特ニ保證人ヨリ其旨ヲ届出テ幼兒ノ出席ニ付テハ本校ノ指揮ヲ請フヘシ

第十六條　在園ノ幼兒ハ毎月金七拾錢ヨリ少ナカラス弐圓ヨリ多カラサル保育料ヲ納ムヘキモノトス

但シ夏季休業中七月十六日ヨリ八月三十一日ニ至ル一箇月半分ハ之ヲ除ク

第十七條　保證人ハ前條ノ範圍内ニ於テ納額ヲ定メ左ノ書式ニ依リ入園許可ノ日ヨリ三日以内ニ届出ツヘシ

保育料納額届

何　誰

右ノ者保育料毎月若干宛相納メ申スヘク候也

右保證人

年月日　華族女學校　何　誰　印

御中

第十八條　保育料納付期日ハ毎月三日ヨリ五日マテノ三日間トス

但シ新ニ入園ノ月ハ納額届出ノ日ヲ以テ納付

第十九條　本校ノ承認ヲ經テ一箇月間全ク出席セサル者ハ其ノ月半箇月分及十六日後新ニ入園シタル者ハ其ノ月半箇月分ノ保育料ヲ納付スルニ及ハス

第二十條　幼兒ヲ退園セシメントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ保證人ヨリ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三章　賑恤

第一款　恤救

恤救規則（明治七年十二月太政官第百六拾弐號達）

濟貧恤窮ハ人民相互ノ情誼ニ因テ其方法ヲ設ヘキ筈ニ候得共目下難差置無告ノ窮民ハ自今各地ノ遠近ニヨリ五十日以内ノ分左ノ規則ニ照シ取計置委曲内務省ヘ可伺出此旨相達候事

恤救規則

一極貧ノ者獨身ニテ癈疾ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身癈疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十年以上ノ者重病或ハ老衰シテ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ケ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一獨身ニテ疾病ニ罹リ産業ヲ營ム能ハサル者ニハ一日米（男ハ三合、女ハ二合）ノ割ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ一箇月間全ク出席セサル者ハ其ノ月半箇月分ノ保育料ヲ納付スルニ及ハス

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ケ渡スヘキ事

恤救規則ノ細目ニ關スル件

（明治八年七月内務省乙第八十五號達）

窮民恤救ノ儀ニ付テハ昨七年第百六十二號ヲ以テ御達ノ趣モ有之候處爾後右等ノ取扱振區々ニ相成候ニ付テハ左ノ箇條ニ照シ篤ト調査ノ上可伺出此旨相達候事

第一條　恤救規則ニヨル可キモノハ獨身老幼癈疾病等ニテ何等ノ業モ爲ス能ハス事實赤貧ニシテ曾テ他ニ保育スル者モ無之全ク無告ノ窮民而已ニ限ルヘシ然ルニ唯年齡癈疾等ノ名義ニヨリ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人癈疾病老幼ニテ事實雖捨置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルコトモアルヘキニ付其旨趣ヲ以テ具狀スヘシ併シ右樣ノ場合ニハイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ミ伺出ツ可シ

（名源雜形略ス）

第二條　同上ニヨリ是迄其市村内ニヨリ互ニ協救仕來ル如キハ別段官ノ給與ヲ乞ヲ以本旨トスヘシ

第三條　同上ニヨリ互ニ協救スルト雖モ若シ其手當不足ニシテ其内幾分ヲ官ヨリ不仰ハ補助スルヲ以テ救助之次第及ヒ石數金員ニ至ル迄詳悉記載申出ヘシ

第四條　同上ニヨリ十三年以上七十年以下ノ者疾病中救助米賜ルト雖全快ノ期ヲ篤ト調査シ徒ラニ支給等無之樣注意イタスヘシ

第五條　同上ニヨリ疾病或ハ病者トノミ記載申請ノ向モ有之候得共後左ノ雛形ニ準シ詳悉記載別紙ニ認シ具申イタスヘシ

但規則脇書ニゴレアル餘ノ家人アラハ本文雛形ニ記載スル本人名前ノ左傍ニ委詳書記スヘシ

第六條　同上ニヨリ五十日以内給與シ申請ノ節（何月幾日ヨリ同幾日マテ）何日分ト記載伺出ヘシ

第七條　同上ニヨリ何濟ノ上其石數ヲ以給與セシムルハ勿論ナレト譬ハ一箇年一石八斗ヲ目途ニ立テ其以内ヲ以テ足レリトスルカ如キハ其數益實地至當ニ斟酌シ適宜ノ處分ハ不苦候間其旨精細具狀イタスヘシ

第八條　老幼癈疾病等ニテ獨身ニ非スト雖モ餘ノ家人七十年以上十五年以下タレハ本人ノミヘ獨身ニ準シ給與スヘキ成規ノ處若シ餘ノ家人癈疾病老幼ニテ事實雖捨置情故アラハ其者共ヘモ救助セシムルコトモアルヘキニ付其旨趣ヲ以テ具狀スヘシ併シ右樣ノ場合ニハイテ一家數人ノ救助ニ及フトキハ各自給與ヲ致サストモ其適度ニ斟酌シ可成丈減省ヲ見込ミ伺出ツ可シ

（名源雜形略ス）

棄兒養育米給與方（明治四年六月第三百號布告）

從來棄兒救育ノ儀所預リノ分ハ養育米被下貰受人有之分ハ不被下候處自今預リ貰受ニ不拘棄兒當歳ヨリ十五歳迄年々米七斗ツヽ被下候間實意養育可致事

◎棄兒養育米被下年限及年齢見定方（明治六年四月第百三拾八號布告）

棄兒養育米ノ儀辛未六月中相達候通十五歳迄年々米七斗宛下渡候處自今滿十三年ヲ限リ被下候條生年月日見定ノ儀ハ其所戸長等立合身體骨格等篤ト檢査シ本年第三十六號布告ニ照シ年齢相定候樣可致事（同年第三百四十號布告ヲ以テ但書削除）

◎三子養育ノ件（明治六年三月第七十九號布告）

三子出産ノ者其家困窮ニテ孳養行屆兼候向ハ以來養育料トシテ一時金五圓給與致シ候間地方官ニ於テ速ニ施行致シ追テ請取方大藏省ヘ可申出候事

◎恤救米棄兒養育米等支給方（明治八年四月大藏省乙第六十三號達）

昨七年十二月中第百六十二號公布恤救米及棄兒養育米等都テ石代金下渡方ノ儀各廳ニ於テ本人共ヘハ三箇月分ヲ取束テ其初月ニ後チノ兩月ヲ括シ渡方可取計且疾病等ニテ日當給米ノ分ハ凡一箇月分ヲ其月初メニ繰上ケ相渡候儀ハ不苦候條概數ヲ以テ支給シ尤本年七月ヨリハ額外常數ヲ以可仕拂此旨相達候事

但本文三箇月分取束相渡候節ハ總テ渡前月ノ下米相場ヲ以石代給與可致候且本人病死等ノ節ハ渡過相成候分返納ニ不及候事

◎恤救米及棄兒養育米石代相場立方（明治九年三月大藏省乙第三十二號達）

昨八年四月中大藏省乙第六十三號ヲ以恤救米及ヒ棄兒養育米等渡前月ノ平均相場ヲ以石代給與ノ旨相達置候處地方ノ都合ニ寄實際交付ノ節迄ニ前月相場調成難相成事實差閊候向ハ渡前々月ノ下米平均相場相用不苦候條豫テ大藏省ヘ届濟可致施行此旨相達候事

◎迷兒取扱ノ件（明治二十二年二月内務省訓令第五號）

迷兒ハ棄兒ニ準シテ取扱ヒ家元發見シ若シ其費用辨償ノ突力ナキトキハ養育費ヨリ支辨スヘシ

但本文ニ抵觸スル從前ノ指令等ハ取消ス

第二款　罹災救助基金

◎罹災救助基金法（明治三十二年三月法律第七十七號）

第一條　府縣ハ罹災救助基金ヲ貯蓄スヘシ

第二條　罹災救助基金ハ府縣ノ全部又ハ一部ニ亙ル非常災害ニ罹リタル者ヲ救助スル爲支出スルモノトス

罹災ノ範圍前項ニ該當セサルモ多數ノ人民同一ノ災害ニ罹リタルトキ亦前項ニ同シ

第三條　各府縣ニ於テ貯蓄スヘキ罹災救助基金ノ最少額ハ五拾萬圓トシ且明治二十年度ヨリ同二十九年度迄ノ間ニ備荒儲蓄法ニ依リ支給シタルコトヲ要ス但シ支給額ノ最高及最低年度ハ本文平均計算ニ加ヘス

第四條　府縣ハ罹災救助基金貯蓄ノ爲直接國稅ノ附加稅ヲ徴收スル場合ニ於テハ他ノ法律ニ依ル制限ノ外百分ノ三以内ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

第五條　國庫ハ罹災救助基金ノ貯蓄ニ對シ其ノ差額ニ割合ヒ之ヲ交付ス

前項ノ外國庫ハ罹災救助基金ノ補助トシテ十箇年度間毎年度拾五萬圓ヲ支出シ府縣ニ於テ府縣稅若ハ地方稅ヲ以テ罹災救助基金ニ積立タル金額ニ割合ヒ之ヲ交付ス但シ第三條ノ制限額ニ達シタル府縣ニ付テハ此ノ限ニアラス

第六條　罹災救助基金ヨリ生スル收入ハ總テ罹災救助基金ニ編入スヘシ

第七條　第二條ノ支出額其ノ年度初ノ罹災救助基金現在高百分ノ五ヲ超過シタルトキハ罹災救助基金ノ補助トシテ國庫ハ其ノ超過額ノ三分ノ一ヲ府縣ニ交付ス

第八條　罹災救助ノ爲メ罹災救助基金ヲ支出スヘキ費目左ノ如シ

一　避難所費
二　食料費
三　被服費
四　治療費
五　小屋掛費
六　就業費

第九條　避難所費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル避難所ヲ設クル費用ニ充ツ

第十條　食料費ハ罹災者ノ爲ニ必要ナル焚出ヲ爲シ又ハ食品ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十一條　被服費ハ罹災者自ラ被服ヲ給スルコト能ハサル場合ニ於テ被服ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十二條　治療費ハ災害ノ際罹災者ノ傷痍疾病ヲ治療スルノ必要アル場合ニ於テ其ノ費用ニ充ツ

第十三條　小屋掛費ハ災害ノ際罹災者ノ爲ニ心要ナル小屋掛ヲ爲シ又ハ爲スヘキ材料ヲ給與スル費用ニ充ツ

第十四條　就業費ハ主トシテ勞働ニ依リテ業務ニ從事シ價格僅少ナル資料又ハ器具ニ依賴スル貧民ニシテ罹災ノ爲其ノ資料又ハ器具ヲ亡失シタル者ニ就業ノ爲必要缺クヘカラサル資料又ハ器具ヲ給與スルノ費用ニ充ツ

第十五條　第三條ノ制限額以上ニ達シタル府縣ノ都市町村ニ於テ罹災救助ノ方法ヲ設ケ資金ヲ貯蓄スルトキハ地方長官ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受ケ該制限額ヲ下ルニ至ラサル範圍内ニ於テ罹災救助基金ヨリ補助スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ資金監督ノ方法ヲ設クヘシ

第十六條　罹災救助基金ノ管理支出又ハ補充ニ關スル方法ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　罹災救助基金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得

一　國債證券地方債證券ヲ買入レ又ハ非常災害ノ爲ニ要スル府縣土木費ヘ利付ニテ貸出スコト但シ地方債證券買入額及土木費貸出額ハ合シテ罹災救助基金年度初ノ現在高三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス其ノ土木費貸出ニ付テハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

二　豫メ給與品ヲ買入ルルコト

三　大藏省預金ニ預ケ入ルルコト

四　確實ナル銀行ニ利付ニテ當坐預ケ定期預ケヲ爲スコト但シ罹災救助基金年度初ノ現在高十分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第十八條　罹災救助基金ノ管理ニ關スル費用ハ罹災救助基金ヨリ支出スルコトヲ得ス

第十九條　罹災救助基金ノ出納ハ内務大臣及大藏大臣之ヲ檢査ス

第二十條　罹災救助基金ノ收支ニ關スル豫算及決算ハ内務大臣及大藏大臣ニ報告スヘシ

附則

第二十一條　此ノ法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ二十箇年度間之ヲ施行ス

第二十二條　備荒儲蓄法ニ依リ積立テタル府縣儲蓄金ハ總テ罹災救助基金トス

第二十三條　此ノ法律ハ沖繩縣ニ施行セス

第二十四條　備荒儲蓄法ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

◎罹災救助基金法施行ノ件（明治三十二年七月一日勅令第二百三十三號）

朕罹災救助基金法施行ノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

罹災救助基金法第七條ニ依リ國庫ノ補助ヲ裁請スヘシ

第三條　罹災救助基金法第七條ニ依リ國庫ノ補助ヲ裁請スル府縣ハ前條第二項ト同一ノ期限内ニ別記第二號書式ニ依リ調製シタル計算書ヲ添付シ内務大臣及大藏大臣ニ裁請スヘシ

第四條　罹災救助基金ノ豫算ハ決定ノ後決算ハ府縣會ニ報告ノ後一箇月以内ニ内務大臣及大藏大臣ヘ進達スヘシ

第五條　罹災救助基金ノ管理支出又ハ補充ニ關スル内規等ヲ設定シ又ハ變更シタルトキハ直チニ之ヲ内務大臣及大藏大臣ヘ各別ニ報告スヘシ

（別記）

第一號

罹災救助基金府縣稅積立額計算書

一金　明治某年度罹災救助基金積立額

内譯

金　地租賦課額但シ地租物納ニ付金何程

金　所得稅賦課額但シ何々

金　何々

金　何々

第二號ノ一

何年度何府（縣）罹災救助基金百分ノ五計算書

一金　年度首現在高

内

金　現金

金　預ケ金土木費貸出金

金　國債證券原價

金　給與品原價

金　地租賃與

此百分ノ五金

第二號ノ二　何年度何府（縣）罹災救助基金救助支出計算書

一金　災害救助總額

內

金　避難所費
金　食料費
金　被服費
金　治療費
金　小屋掛費
金　就業費

此譯

金　罹災救助基金百分ノ五高
金　內　同　百分ノ五超過高
金　罹災救助基金三分ノ二支出高
金　國庫ヨリ補助スヘキ三分ノ一高

第三款　北海道土人保護

●北海道舊土人保護法（明治三十二年三月法律第二十七號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル北海道舊土人保護法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

北海道舊土人保護法

第一條　北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戶ニ付土地一萬五千坪以內ヲ限リ無償下付スルコトヲ得

第二條　前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノトス

一　相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス

二　質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス

三　北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役ヲ設定スルコトヲ得ス

四　留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外第一項第二及第三ニ揭ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

第三條　第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス

第四條　北海道舊土人ニシテ貧困ナル者ニハ農具及種子ヲ給スルコトヲ得

第五條　北海道舊土人ニシテ疾病ニ罹リ自費治療スルコト能ハサル者ニハ藥餌ヲ給スルコトヲ得

第六條　北海道舊土人ニシテ疾病、不具、老衰又ハ幼少ノ爲自活スルコト能ハサル者ハ從來ノ成規ニ依リ救助スル外仍之ヲ救助シ救助中死亡シタルトキハ埋葬料ヲ給スルコトヲ得

第七條　北海道舊土人ノ貧困ナル者ノ子弟ニシテ就學スル者ニハ授業料ヲ給スルコトヲ得

第八條　第四條乃至第七條ニ要スル費用ハ北海道舊土人共有財產ノ收益ヲ以テ之ニ充ツ若シ不足アルトキハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第九條　國庫ノ費用ヲ以テ小學校ヲ設クヘキ場所ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

第十條　北海道廳長官ハ北海道舊土人共有財產ヲ管理スルコトヲ得

北海道廳長官ハ內務大臣ノ認可ヲ經テ共有者ノ利益ノ爲ニ共有財產ノ處分ヲ爲シ又必要ト認ムルトキハ其ノ分割ヲ指ムコトヲ得

北海道廳長官ノ管理スル共有財產ハ北海道廳長官之ヲ指定ス

第十一條　北海道廳長官ハ北海道舊土人保護ニ關シテ警察令ヲ發シ之ニ二圓以上二十五圓以下ノ罰金若ハ十一日以上二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

附則

第十二條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第十三條　此ノ法律ノ施行ニ關スル細則ハ內務大臣之ヲ定ム

●北海道舊土人保護法施行規則（明治三十二年四月內務省令第五號）

北海道舊土人保護法施行規則

第一條　北海道舊土人保護法第一條及第四條乃至第七條ノ下付又ハ給與ヲ受ケントスル者ハ北海道廳長官ニ願出ツ可シ

第二條　北海道舊土人全體ノ共有財產ノ收益ハ舊土人全體ノ爲ニ舊土人一部ノ共有財產ノ收益ハ其部內ノ舊土人ノ爲ニ之ヲ充用ス可シ但共有財產ノ性質上其ノ費途ノ目的ヲ限ラレタルモノハ他ノ目的ノ爲ニ其ノ收益ヲ充用スルヲ得ス

第三條　北海道舊土人保護法第九條ニ依リ小學校ヲ設クヘキ場所ハ主務大臣ノ認可ヲ經テ北海道廳長官之ヲ定ム

第四條　前數條ノ外北海道舊土人保護法ノ施行ニ必要ナル細則ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十三類　地方制度

第一章　府縣

●府縣制（明治三十二年三月法律第六十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル府縣制改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

府縣制

第一章　總則
第二章　府縣會
第一款　組織及選舉
第二款　職務權限及處務規程
第三章　府縣參事會
第一款　組織及選舉
第二款　職務權限及處務規程
第四章　府縣行政
第一款　府縣吏員ノ組織及任免
第二款　府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程
第三款　給料及給與
第五章　府縣ノ財務
第一款　財產營造物及府縣稅
第二款　歲入出豫算及決算
第六章　府縣行政ノ監督
第七章　附則

府縣制

第一章　總則

第一條　府縣ハ從來ノ區域ニ依リ郡市及島嶼ヲ包括ス

第二條　府縣ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ其ノ公共事務並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　府縣ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣ノ境界ニ渉リテ郡市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變更ス所屬未定地ヲ生シタルトキ亦同シ

市町村ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二章　府縣會

第一款　組織及選舉

第四條　府縣會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル

第五條　府縣會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五十萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル每ニ一人ヲ增ス

各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　府縣內ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣內ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同府縣內ニ在ルトキハ之カ爲其職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲申斷セラルルコトナシ

左ニ揭クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一　其ノ府縣ノ官吏及有給吏員
二　檢事警察官吏及收稅官吏
三　神官僧侶其ノ他諸宗教師
四　小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ケヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏員ハ其ノ關係區域內ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス

第七條　府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

府縣會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　府縣會議員中闕員アルトキ及府縣會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以內ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條　町村長ハ每年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ其ノ町村內ノ選舉人名簿二本ヲ調製シ其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ送付スヘシ

郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ每年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十條　市長ハ每年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條　選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限內ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

第十二條　郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限內ニ之ヲ郡市長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ之ヲ決定スヘシ

前項郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十四條　府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス

第十五條　投票所ハ市役所町村役場又ハ市町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ市町村長其ノ事務ヲ管理ス

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條　市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域內ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

投票立會人ハ名譽職トス

第十七條　選舉人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選舉人ハ投票ヲ爲スコトヲ得

第十八條　選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票錄ニ捺印シ投票スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式

ヲ用フヘシ

第十九條　投票ノ拒否ハ投票立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ市町村長之ヲ決スヘシ

第二十條　市町村長ハ投票錄ヲ製シ投票ニ關スル顚末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條　投票ヲ終リタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票錄ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第二十二條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第二十三條　選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ之ヲ告示スヘシ

第二十四條　郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

第二十五條　郡市長ハ選舉長トナリ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉錄ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ投票ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十六條　選舉人ハ其ノ選舉會ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

第二十七條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　投票中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ

三　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ

但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條　投票ノ效力ハ選舉長之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ選舉長ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

第二十九條　府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者ハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以內ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

定期改選增員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル

前三項ノ申立ヲ爲ス期限內ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以內トス

第三十二條　府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選シタル者ヲ以テ當選ト爲ス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選ト爲ス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選ト爲ス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十一條　選舉ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第三十二條　選舉ノ顚末ハ選舉長之ヲ選舉錄ニ記載シ選舉立會人ト共ニ署名スヘシ

選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡役所又ハ郡市長ニ送付スヘシ

第三十三條　當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

第三十四條　選舉人選舉者ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以內ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ

府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ第一項中立ノ有無ニ拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡市長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第三十五條　選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無效トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無效トス

第三十六條　選舉若ハ當選無效ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ查定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無效ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

第三十七條　府縣會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ府縣參事會之ヲ決定ス

府縣會ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ府縣知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ府縣知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セストスル決定ノ確定シタル日ヨリ三十日以內ニ

第三十八條　本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定若ハ裁決書ヲ交付シタルトキヨリ

直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條　第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又ハ區役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條　府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十一條　府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十二條　府縣會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得

第四十三條　府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第四十四條　府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第四十五條　府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十六條　府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第四十七條　府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第四十八條　議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第四十九條　府縣知事及其ノ委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第五十條　府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ每年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ三十日以內トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限リ之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以內トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

第五十一條　府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス

招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣會ハ府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條　府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第五十三條　府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條　議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ同意ヲ得ルニ非サレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條　法律命令ノ規定ニ依リ府縣會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名每ニ匿名投票ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得タル者ヲ以テ當選ト定ム若過半數ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取リ之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選ト定ム若同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條第二十七條及第二十八條ノ規定ヲ準用ス

前項ノ選舉ニ付テハ府縣會ハ其ノ議決ヲ以テ指名推選若ハ連名投票ノ法ヲ用ヰルコトヲ得其ノ連名投票ノ法ヲ用ヰル場合ニ於テハ前項ノ例ニ依ル

第五十六條　府縣會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　府縣知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二　議長若ハ議員三名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條　議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序及秩序ヲ保持シ會議ヲ代表ス

第五十八條　府縣會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヰス又ハ他人ノ身上ニ渉リ冒瀆スルコトヲ得ス

第五十九條　會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十條　傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧囂ニ渉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

傍聽席區援ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條　議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席者ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第六十二條　府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム

書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條　議長ハ書記ヲシテ會議錄ヲ製シ會議ノ顚末竝出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議錄ハ議長及議員二名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議錄ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六十四條　府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

會議規則ニハ此ノ法律竝會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依リ五日以內出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

第三章　府縣參事會

第六十五條　府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス

府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十六條　名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

府縣會ハ名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

第六十七條　名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ

第六十八條　府縣參事會ハ府縣知事之ヲ議長トシ府縣知事故障アルトキハ其ノ指名シタル高等官議長ト爲リ其ノ指名ナキトキハ年長ノ高等官議長ト爲ル

府縣參事會ハ議長ノ外名譽職參事會員三名以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十九條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經タル豫算ニ基キ府縣ノ收入支出ノ命令及會計ヲ監督ス

第七十條　府縣參事會ハ府縣ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ム但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十一條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事項

第七十二條　府縣參事會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣會ニ委任スルコトヲ得

第七十三條　府縣參事會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ

第七十四條　府縣參事會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第七十五條　府縣參事會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣參事會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣參事會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第七十六條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第七十七條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第七十八條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第七十九條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十一條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十二條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十三條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十四條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十五條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十六條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十七條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十八條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第八十九條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十一條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十二條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十三條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十四條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十五條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十六條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十七條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十八條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第九十九條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

第百條　府縣參事會ハ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得

シ
補闕員ハ前任者ノ殘任期間在任ス
名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス
第六十七條　府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス府縣知事故障アルトキハ高等官參事會員議長ノ職務ヲ代理ス

第二款　職務權限及處務規程

第六十八條　府縣參事會ノ職務權限左ノ如シ
一　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
二　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキ府縣會ニ代テ議決スル事
三　府縣知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニ付府縣知事ニ對シ意見ヲ述フル事
四　府縣會ノ議決シタル範圍內ニ於テ財產及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事項ヲ議決スル事
五　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
六　府縣ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項

第六十九條　府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選擧シ之ヲシテ府縣ニ係ル出納ヲ檢查セシムルコトヲ得
前項ノ檢查ニハ府縣知事又ハ其ノ指命シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要ス

第七十條　第四十四條第四十五條第四十九條及第六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス
第七十一條　府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ
府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム
第七十二條　府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス
第七十三條　府縣參事會ハ名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス
第七十四條　府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
會議ノ顚末ハ之ヲ會議錄ニ記載シ議長及參事會員二名以上之ニ署名スヘシ
第七十五條　府縣參事會ノ會議ハ府縣知事之ヲ定ム
第七十六條　府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス
第七十七條　府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トス
委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款　府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條　府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス
府縣知事ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
一　府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事
二　府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事
三　財產及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事
四　收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
五　證書及公文書類ヲ保管スル事
六　法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手數料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事
七　其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事項

第七十九條　府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付シ若府縣參事會ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ
第八十條　府縣ニ府縣出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス
第八十一條　府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得
委員ハ名譽職トス
委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

權ニ屬スル事務ノ一部ヲ部長ノ官吏吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得
府縣知事ハ府縣ノ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理セシムルコトヲ得

第八十一條　府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得
懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ府縣ノ公職ニ選擧セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八十二條　府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選擧ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ
前項取消處分ニ不服アル府縣會若ハ府縣參事會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十三條　府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

第八十四條　府縣知事ハ期日ヲ定メ府縣會ノ停會ヲ命スルコトヲ得
第八十五條　府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事項ニ關シテハ成立セサルトキハ府縣知事ハ其ノ狀況ヲ具シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ヲ經ヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得第五十四條第七十四條ノ場合ニ於テ府縣會若ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣會ニ於テ議決シタル事件ニ關シ議案ヲ提出セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議決セス又ハ府縣參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得
第八十六條　府縣知事ハ府縣會ノ議決若ハ選擧ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ノ指揮ヲ請フコトヲ得
第八十七條　府縣知事ハ府縣參事會ノ議決若ハ選擧ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ
第八十八條　府縣會若ハ府縣參事會ノ議決若ハ選擧其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ
第八十九條　府縣出納吏ハ出納事務ヲ掌ル
第九十條　府縣吏員ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス
第九十一條　委員ハ府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造物ヲ管理シ其ノ他府縣行政事務ノ一部ヲ調查シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス
第九十二條　府縣ノ事務ニ關スル處務規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三款　給料及給與

第九十三條　有給府縣吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ府縣知事之ヲ定ム
第九十四條　府縣會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
費用辨償額及其ノ支給方法ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム
第九十五條　有給府縣吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ前條第二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム
第九十六條　退隱料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルトキハ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得
前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
前項ノ決定ニ關シテハ府縣知事ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得
第九十七條　給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ府縣ノ負擔トス

第五章　府縣ノ財務

第一款　財産營造物及府縣稅

第九十八條　府縣ハ特立金穀等ヲ設クルコトヲ得

第九十九條　府縣ハ營造物者ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第百條　此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手數料ニ關スル細則ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料二個以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第百一條　府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附者ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第百二條　府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

第百三條　府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依ル

府縣ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

第百四條　府縣內ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百五條　三箇月以上府縣內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第百六條　府縣內ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖府縣內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ又ハ府縣內ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ收入ニ對シ又ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百七條　納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メテ營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所滯在一府縣以上ニ渉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニノミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第百八條　一府縣以上ニ渉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百九條　府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

第百十條　府縣稅ヲ賦課スルニハ納稅義務者ヲシテ期限內ニ其ノ課稅標準ヲ申告セシムルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定メラレタル期限內ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ爲シタルトキハ內務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

第百十一條　府縣內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ヲ起シタル場合ニ於テハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十二條　府縣ハ其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ課スルコトヲ得

府縣內一部ノ市町村其ノ他公共團體若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

第百十三條　府縣稅ノ減免若ハ納稅ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限リ府縣知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

第百十四條　市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舍建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ屬スル部分ノ負擔トス

第百十五條　府縣稅ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルトキハ其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以內ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

使用料及手數料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第三項ノ例ニ依ル

本條ノ決定ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第百十六條　府縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出ヨリ日沒マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ銀藏物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

府縣稅使用料手數料夫役現品ニ代フル金錢過料其ノ他府縣ノ收入ヲ定期內ニ納メサル者アルトキハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ

本條ニ記載スル徵收金ハ國ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

本條第二項ノ場合ニ於テ郡島ノ官吏吏員市町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡島ノ官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第百十七條　府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ府縣會ノ議決ヲ經テ府縣債ヲ起スコトヲ得

府縣債ヲ起スニ付府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

府縣ハ豫算內ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款　歲入出豫算及決算

第百十八條　府縣知事ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前府縣會ノ議決ヲ經ヘシ

府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣知事ハ併セテ財產表ヲ提出スヘシ

第百十九條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第百二十條　府縣費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費トナスコトヲ得

第百二十一條　豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クルコトヲ得

第百二十二條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十三條　府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定ノ會計ヲ設クルコトヲ得

第百二十四條　決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ニ提出スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

府縣知事ハ府縣參事會ノ會計ニ關スル書類及證憑書類ヲ府縣會ノ議決ヲ經タル後十箇年間保存スヘシ

第百二十五條　豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百二十六條　府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　府縣行政ノ監督

第百二十七條　府縣ノ行政ハ內務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條　此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ハ處分ノ效力ヲ停止スルコトヲ得ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百二十九條　內務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

內務大臣ハ府縣行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百三十條　內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百三十一條　內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ府縣會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十條第二項ノ規定ニ拘ラス內務大臣ノ許可ヲ得テ則ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百三十二條　府縣吏員ノ服務規律ハ內務大臣之ヲ定ム

第百三十三條　左ニ揭ク事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二　使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　寄附若ハ補助ヲ爲ス事

四　不動產ノ處分ニ關スル事

五　第百十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

六　繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

七　特別會計ヲ設クル事

第百三十四條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　府縣債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更スル事但シ第百十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二　地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百三十五條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ主務大臣ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百三十六條　府縣ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナルモノハ勅令ノ規定ニ依リ許可ヲ經スシテ處分スルコトヲ得

附則

此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十二號府縣制ヲ施行シタル府縣ニハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第百三十七條　島嶼ニ關スル府縣ノ行政ニ付テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第百三十九條　法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定スル郡長ノ職務ハ島司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第百四十條　從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ヲ以テ特例ヲ設クルコトヲ得

第百四十一條　明治二十三年法律第八十八號府縣稅ニ關スル從前ノ規定ハ此ノ法律施行ノ日ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百四十四條　此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ效力ヲ有ス

第百四十五條　此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百四十六條　明治十三年第十五號布告府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ府縣ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第百四十七條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

㊟府縣會議員ノ選舉人名簿ニ關スル件（明治三十二年六月勅令第二百二十六號）

朕府縣會議員ノ選舉人名簿ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　島嶼ノ經濟ト所屬本地ノ經濟トハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ分別スルコトヲ得

第二條　東京府下伊豆七島及小笠原島ニ於ケル府稅ノ賦課及府會議員ノ選舉ニ關シテハ當分從前ノ例ニ依ル

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

㊟府縣會議員ノ配當ニ關スル件（明治三十二年五月內務省令第十七號）

本年法律第六十四號府縣制第五條第三項ニ依リ府縣會議員ノ配當ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　府縣制第五條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

特別ノ事情アル府縣ニ付テハ內務大臣ハ則ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得

本條ノ人口ハ內務大臣ノ告示シタル最近ノ人口表ニ依ル

第二條　議員配當ノ更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ議員ノ定數ニ異動ヲ生シ若ハ選舉區ノ增減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

㊟府縣會議員選舉投票ニ關スル件（明治三十二年五月內務省令第十九號）

本年法律第六十四號府縣制第十五條第三項ニ依リ

一　府縣制第九條第一項ノ府縣會議員選舉資格查定ノ期日ヲ八月一日トシ選舉人名簿送付ノ期限ヲ八月十五日トシ同條第二項ノ選舉人名簿調製ノ期限ヲ八月二十五日トス

一　府縣制第十條ノ府縣會議員選舉資格查定ノ期日ヲ八月一日トシ選舉人名簿調製ノ期限ヲ八月二十五日トス

一　府縣制第十一條ノ直接國稅屆出ノ期限ヲ八月一日トス

一　府縣制第十二條第一項ノ選舉人名簿縱覽ノ期間ヲ八月二十六日ヨリ七日トシ異議ニ對スル決定ノ期限ヲ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ七日トシ同條第四項ノ選舉人名簿ノ確定期限ヲ九月二十日トシ同條第九項ノ府縣會議員選舉資格查定ノ期日ヲ八月一日トス

㊟島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件（明治三十二年六月勅令第二百二十七號）

朕島嶼ノ府縣會議員選舉ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　町村制ヲ施行セサル島嶼ハ府縣會議員ノ一選舉區トス

第二條　左ノ要件ヲ具備スル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

一　帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル滿二十五歲以上ノ男子

二　一戶ヲ構ヘ二年以來町村內ニ住所ヲ有シ其ノ町村ノ負擔ヲ分任シ及其ノ町村內ニ於テ地租ヲ納メ若ハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者

三　其ノ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者

左ニ揭ク者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有セス

一　治產ノ禁ヲ受ケタル者

一　公權停止中ノ者

一　租稅滯納處分中ノ者

一　公費ヲ以テ貧民救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者

一　家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ復權ノ決定アルマテノ者

一　公權剝奪若ハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲公判ニ付セラレタルトキヨリ其ノ裁判ノ確定者

第三條　府縣會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣內ニ於テ一年以來直接國稅年額十圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

第四條　府縣會議員ハ他ノ町村ニ其ノ住所ヲ移スモ其ノ住所同府縣內ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

第五條　島嶼ノ府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ一戶長役場管轄區域ヲ以テ一町村ト看做ス

第六條　本令ニ定ムルモノヲ除ク外島嶼ヨリ選出スル府縣會議員ノ選舉ニ關シテハ總テ府縣制ノ規定ニ依ル

附則

本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

㊟府縣會議員選舉投票ニ關スル件（明治三十二年五月內務省令第十九號）

本年法律第六十四號府縣制第十五條第三項ニ依リ

府縣會議員選舉投票ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　府縣制第十五條第三項ニ依リ二箇以上ノ投票所ヲ設クルコトヲ要スルトキハ府縣知事之ヲ定ム

第二條　前條ノ場合ニ於テハ市町村長ハ投票所ノ一ヲ管理シ他ノ投票所ハ市町村長ノ指名シタル市町村吏員之ヲ管理ス

第三條　市町村長ノ指名シタル市町村吏員ノ管理スル投票所ニ關シテハ府縣制第十六條第十九條及第二十條ノ規定ヲ準用ス

第四條　投票ヲ終リタルトキハ市町村長ノ指名シタル管理者ハ其ノ指定シタル投票立會人ト共ニ直ニ投票函及投票錄ヲ市町村長ノ管理スル投票所ニ送致スヘシ

町村長ニ於テ前項ノ送致ヲ受ケタルトキハ其ノ管理ニ係ル投票函及投票錄ト共ニ之ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

第五條　二箇以上ノ投票所ヲ設ケタル市東京市京都市大阪市ニ在テハ區ニ於テハ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ選舉會ヲ開クコトヲ得ス

第六條　本令ニ規定スル市長ノ職務ハ東京市京都市大阪市ニ在テハ區長之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長之ヲ行フ

第七條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

❹府縣制郡制ノ直接稅ノ種類

（明治三十二年六月內務省告示第六十七號）

本年法律第六十四號府縣制第百四十五條本年法律第六十五號郡制第百二十七條直接稅ノ種類左ノ如シ

國稅　地租　所得稅　營業稅

府縣稅　地租割　家屋稅　營業稅附加稅

府縣制及郡制ニ依リ定ムヘキ豫算調製式竝費目流用ニ關スル規定ノ件（明治三十二年四月內務省令第六號）

本年法律第六十四號府縣制第百二十五條及同第六十五號郡制第百三條ニ依リ定ムヘキ豫算調製ノ式竝費目流用ニ關スル規定ハ當分ノ內總テ從前ノ例ニ依ル

❹府縣歲入歲出豫算調製式竝費目流用ニ關スル規定（明治二十四年八月內務省令第十二號）

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條　府縣歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歲入歲出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ通シ其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　數年繼續費府縣制第七十六條第二項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

府縣制第七十五條第三項ニ依リ府縣歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條　府縣歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號雛式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歲入歲出豫算ニハ府縣會參考ノ爲各項ヲ通シ其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　數年繼續費府縣制第七十六條第二項ノ年期及支出方法ハ第二號ノ式ニ依ルヘシ

夫役現品ヲ增課（府縣制第七十三條）スル場合ニ在テハ第三號ノ式ニ依ルヘシ

第四條　歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此雛式ニ依準スルモノトス

第五條　各款ノ金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス

各項目ノ豫算金額ニシテ不得止流用ヲ要スルノ必要アルトキハ府縣參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第六條　市制施行ノ縣ニ在テ府縣制第七十二條第一項ノ負擔ニ任セシメ及同條第二項ニ依リ一方ノ負擔ノ增加スル場合ハ第一號雛式中ヘ第四號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第七條　東京府京都府大阪府ニ在テハ府縣制第二十七條第一項ニ依リ專ラ東京市京都市大阪市ニ關スルモノト專ラ其他ノ部分ニ關スルモノトヲ分別スルトキ府縣制第七十一條ノ豫算ハ第一號雛式ニ基キ第五號ノ式ノ如ク之レヲ調製シ其市部限リ郡部限リノ豫算ハ第一號雛式ニ準シ第六號第七號ノ式ノ如ク之レヲ記載スヘシ

第八條　府縣ノ歲入歲出中會計ニ異ニスルモノノ豫算モ總テ本令ノ式ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

附　則

第九條　年度央ニ於テ府縣制ヲ施行シタル府縣ニ在テハ明治二十三年法律第八十五號第三條ニ依リ從前府縣會ノ議決尙其效ヲ存シタル各款ニ於テ從前ノ小科目ニシテ本令雛式ノ項ト名稱ノ異ナルモノ又ハ消滅ニ歸シタルモノハ其細目ニ就キ金員ヲ區別シ各相當ノ項ニ編入整理スヘシ

第十條　第九條ニ依リ組替ヲ爲シタルモノハ府縣會ニ報告スヘシ（第一號）

明治何年度某府縣歲入歲出豫算雛

歲　入

經常部

第一款　地租割金

第一項　地租割金　但本年地租豫算高金若干地租壹圓ニ付若干

第二款　營業稅金

第一項　商業稅金

第二項　工業稅金

第三款　雜種稅金

第一項　料理屋稅金

第二項　待合茶屋稅金

第三項　遊船宿稅金

第四項　芝居茶屋稅金

第五項　飮食店稅金

第六項　湯屋稅金

第七項　理髮人稅金

第八項　旅人請宿稅金

第九項　遊藝師匠稅金

第十項　遊藝稼人稅金

第十一項　相撲優稅金

第十二項　俳優稅金

第十三項　幇間藝妓稅金

第十四項　遊覽人寄席稅金

第十五項　市場稅金

第十六項　演劇興行稅金

第十七項　遊技場稅金

第十八項　車稅金

第二十項　船稅金

第二十一項　水車稅金

第二十二項　賦稅金

第二十三項　某

第二十四項　乘馬稅金

第二十五項　居業稅金

第二十六項　漁業稅金

第二十七項　採藻稅金

第二十八項　某（特別ニ許可ヲ得タルモノ）稅金

第四款　戶數割金

第一項　戶數割金　但何年何月調總戶數若干壹戶ニ付若干

第五款　家屋稅金（許可ヲ得タル縣ニ限ル）

第一項　家屋稅金

第六款　財產收入金

第一項　不動產收入金

第二項　動產收入金

第七款　國庫下渡金

第一項　警察費下渡金

第二項　在府縣獄囚徒費金

第八款　雜收入金

第一項　調題查費納付金

第二項　過怠及沒收金

第三項　使用料金

第四項　藥價及入院料金

第五項　診察及手術料金

第六項　授產收益金

第七項　物品賣拂代金

第八項　囚徒工錢收入金

第九項　慈惠用（物品代）收入金

第十項　作業收益金

第十一項　賦金

第十二項　某收入金

經常部合計金

臨時部

第一款　繰越金

第一項　前年度繰越金

第二款　國庫補助金

第一項　某費補助金

第二項　某費補助金

第三款　寄附金

第一項　某費寄附金

第二項　某費寄附金

第四款　財產賣拂代金

第一項　不動產賣拂代金

第二項　動產賣拂代金

第五款　府縣債

第一項　府縣債

臨時部合計金

歲入總計金

歲　出

經常部

第一款　警察費金

第一項　俸給及諸給金

第二項　廳費金

第三項　機密費金

第二款　警察廳舍修繕費金

第一項　修繕費金

第三款　土木費金

第一項　道路橋梁費金

第二項　治水堤防費金

第三項　港灣費金

第四項　測量費金

第四款　府縣會議諸費金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
第十四款　第十三款　第十二款　第十一款　第十款　第九款　第八款　第七款　第六款　第五款　第四款　第三款　第二款　第一款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
修繕費　徴金　勸業費　勸地勸力費　令　踏査費　破船　救助費　給料及給金　修繕費　救助費　中部停車場設置費　郡　學校費　常備消防組織費　病院及病舍費　病院及病舍費
金庫　收　稅　測　踏　船　船　及　給　舍　學　師　生　者　院　院
取扱諸費　稅業測量費　踏査費　破船費　救助費　給料及給金　修繕費　校舍費　常備消防組織費　病院及病舍費　病院及病舍費
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第十三類　地方制度　第一章　府縣

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十六款　十五款　十四款　十三款　十二款　十一款　十款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十七款　十六款　十五款　十四款　十三款　十二款　十一款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十八款　十七款　十六款　十五款　十四款　十三款　十二款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十九款　十八款　十七款　十六款　十五款　十四款　十三款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十八款　十七款　十六款　十五款　十四款　十三款　十二款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第　第
二款　一款　五款　四款　三款　二款　一款　十九款　十八款　十七款　十六款　十五款　十四款　十三款
一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項　一項
府縣　府縣　郡　郡　郡　郡　郡　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣　府縣
元金　償還金　市　市　市　市　市　債　工　監　議　選　委　負
償還金　出ノ年度支出額ニ超過シタル金額　町　町　町　町　町　債　事　獄　會　舉　員　擔
利子　償還金　村　村　村　村　村　償還金　費　監　議　選　委　負
金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金　金

第一項　市豫算編入額　金
　何々部合計金
　歳入總計金
　歳出
　　何々部
第一款　某　　費金
第一項　何　　々金
第二項　何　　々金
第何款　市郡分賦市部負擔額　金（ト）
第一項　市郡分賦市部負擔額　金（ト）
　何々部合計金
　歳出總計金
（第七號）

明治何年度某府郡部歳入歳出豫算書

（ニ）（ホ）ノ符印ハ第五號ノ式ト對照

　歳入
　　何々部
第一款　何　　々金
第一項　何　　々金
第何款　市郡連帶郡部收入額　金（ニ）
第一項　市郡連帶郡部收入額　金（ニ）
　何々部合計金
　歳入總計金
　歳出
　　何々部
第一款　某　　費金
第一項　何　　々金
第何款　市郡分賦郡部負擔額　金（ホ）
第一項　市郡分賦郡部負擔額　金（ホ）
　何々部合計金
　歳出總計金

㊀府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選擧區域等ニ關スル件

（明治二十三年九月）
（法律第八十五號）

府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選擧區域ハ地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選擧ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條　郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ增減セス其ノ補缺選擧ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第三條　府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歳入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其他歳出ハ總テ從前府縣會議決ノ效ヲ存ス

但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

第四條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス

第五條　東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財產トス

前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要スル府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常置委員ナシテ府縣會ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得

常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第六條　郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條　府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ關スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ施行スヘシ

㊁市制施行地ニ係ル府縣會議員選擧及市公民資格

（明治二十二年二月法律第七號）

府市制施行ニ付府縣會議員ノ選擧及市公民ノ資格ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　市制ヲ施行スルモ府縣會議員ハ之ヲ改選セス

第二條　郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スルモ府縣會議員選擧ノ區域及區部會郡部會ニ係ル規定竝區部議員ノ數ハ總テ從前ノ通ダルヘシ但區部ハ改テ市部ト稱スヘシ

區ノ區域ヲ變更シテ市ト爲スニ因リ議員ノ數ヲ增減スヘキトキハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ增減スルコトヲ得此場合ニ於テ其退職スヘキ議員ハ抽籤ヲ以テ定メ其增加スヘキ議員ハ新ニ選擧スヘシ

第三條　郡内ノ市街ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テモ府縣會議員選擧ノ區域ハ之ヲ變更セス其選擧事務ハ郡長ニ於テ之ヲ管理シ選擧ニ關スル費用ハ郡役所經費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條　郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ於テ從來地方稅ヲ以テ支辨シタル事業ニシテ市ノ事業ニ屬スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ市ニ引繼クヘシ

第五條　郡部ト經濟ヲ異ニセサル區ニ市制ヲ施行シ若クハ町村ヲ區ニ合併シテ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ其區費又ハ町村費ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ

郡部ト經濟ヲ異ニスル區ニ市制ヲ施行スル場合ニ於テハ府縣會ノ議決ヲ以テ區部地方稅中事ラ區ノ費用ニ支出シタルモノヲ區分シ其區分シタル稅金ヲ二年以來納メタル者ヲ市制第七條ノ市ノ負擔分任者ト看做スヘシ其區分シタル稅金ノ外區費ヲ納メタル者アルトキハ其金額ヲ併算スヘシ

㊂地方稅經濟ニ於テ起債及地租制限外賦課ノ件

（明治二十九年三月法律第六十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル地方稅經濟ニ於テ臨時土木費ヲ要シ地方稅ノ負擔ニ堪ヘ難キ場合ニ於テ府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得三十箇年以内ノ償還期限ヲ定メ公債ヲ起シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ償還ノ初期ハ三年以内トスヘシ

第二條　府縣制ヲ施行セサル府縣ニ於テ臨時土木費ヲ要スル場合ニ於テモ府縣知事必要ナリト認ムルトキハ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣大藏大臣ノ許可ヲ得テ地租三分一ヲ超過スル地方稅ヲ土地ニ賦課スルコトヲ得

第三條　第一條ノ借入金ヲ爲スニ當リ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ得テ其ノ府縣ノ備荒儲蓄金ヨリ其ノ年度初現在高ノ三分一マテ借入ルルコトヲ得但シ本條ノ借入金ニ對シテモ相當ノ利息ヲ拂フヘキモノトス

前項ノ場合ニ於テ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ府縣會ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ常置委員ナシテ府縣會ニ代テ議決ヲ爲サシムルコトヲ得常置委員ハ其ノ議決ヲ府縣會ニ報告スヘシ

第四條　第一條ノ認可ヲ得ムトスルトキハ府縣會ノ議決ヲ經タル公債募集ノ方法又ハ借入ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲモ併セテ内務大臣大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

第六條　明治二十三年法律第三號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢ス

㊃府縣委托金ヲ地方稅經濟ニ移スノ件

（明治二十三年三月勅令第六十六號）

朕府縣委托金ヲ地方稅經濟ニ移スノ件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　從來府縣廳ニ存在スル府縣委托金及之ニ屬スル財產ハ明治二十三年三月三十一日ノ現況ヲ以テ其府縣ノ地方稅經濟ニ下付スヘシ

第二條　府縣委托金ニ關シ從前府縣知事ニ於テ契約シタルモノハ其契約ヲ繼續シ從前府縣知事ヨリ發シタル命令ハ之ヲ履行スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大臣農商務大臣ノ認可ヲ經ルニ非サレハ之カ命令ヲ變更スルコトヲ得ス

第三條　元金ハ務メテ之ヲ保存スヘシ府縣會ノ議決ニ依ルモ内務大臣農商務大臣ノ認許ヲ經ルニ非サレハ之ヲ支消スルコトヲ得ス

第四條　元金ヨリ生スル利子ハ府縣會ノ議決ニ依リ公共ノ勸業費途ニ充用シ又ハ之ヲ蓄積スルコトヲ得

第五條　府縣委托金中獻金又ハ寄附金等ヨリ成立ツモノニシテ當初使用ノ途ヲ指定シタルモノハ將來ト雖モ其使用ノ途ヲ變スルコトヲ得ス

第六條　府縣委托金ノ種類ハ大藏大臣之ヲ府縣ニ達スヘシ

㊄各府縣下ニ存在スル公共財產管理方

（明治二十二年一月内務省令第一號）

第一條　從來各府縣下ニ存在スル公共ノ財產ニシテ府縣會區町村會及水利土功會ノ議定ニ付セサルモノハ其管理方法又ハ名義ノ如何ニ拘ラス府縣知事ニ於テ其管理者又ハ關係者ノ意見ヲ聞キ其所屬ヲ定メ自今府縣會若クハ區町村會ノ議定ヲ經テ府縣知事若クハ郡區長戸長ニ於テ之ヲ管理スヘシ

第二條　前條ノ財產ニシテ地方稅又ハ區町村費ト經濟ヲ異ニスルノ必要アルモノハ議會ノ決議ニヨリ則ニ經濟ヲ立ツルコトヲ得

第三條　公益ニ供スル爲メ有志人民ノ協力ヲ以テ設立シタル學校病院ノ類ハ府縣立ノ名義ヲ附シ府縣知事ニ於テ之ヲ管理スルモ本令第一條ノ限ニ在ラス

㊅國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事

業ニ關スル件（明治三十年三月法律第三十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國庫ヨリ補助スル公共團體ノ事業ニ關スル法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國庫ヨリ其ノ費用ヲ補助スルモノニ關シ必要アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ事業ノ設計施行管理竝經費收支ノ方法等ニ付期間ヲ指定シテ之カ變更ヲ命シ若シ命ニ從ハサルトキハ直ニ之ヲ變更スルコトヲ得

主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ事業ノ全部若クハ一部ヲ直接施行スルコトヲ得

第二條　前條ノ事業ニ關シ經費ノ負擔ヲ爲シ又ハ經費ノ變更ヲ爲スヘキ場合ニ於テ主務大臣ノ指定シタル期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ直ニ豫算ヲ定メ又ハ豫算ヲ追加シ若クハ更正シ必要ナル費用ヲ支辨セシムルコトヲ得

第三條　此ノ法律ニ規定シタル主務大臣ノ職權ハ其ノ委任ヲ受ケタル地方長官ヲシテ之ヲ執行セシムルコトヲ得

第四條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ニシテ國ノ事業ト關聯スル場合ニ於テハ此ノ法律ノ規程ヲ準用スルコトヲ得

第五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

●國庫ヨリ補助スル公共團体事業ニ關スル法律施行ニ付テノ件（明治三十一年八月勅令第百八十四號）

朕明治三十年法律第三十七號ノ施行ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　內務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ノ事業ヲ直接施行スルトキハ官報ヲ以テ其ノ事業ノ區域及其ノ始期ヲ告示スヘシ

內務大臣ニ於テ前項事業ノ直接施行ヲ廢止シ又ハ事業ヲ終了シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ハ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ區域ニ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　府縣郡市區町村其ノ他公共團體ハ內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ノ區域ニ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ引渡スヘシ但シ其ノ事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條　內務大臣ハ其ノ直接施行ニ係ル事業ノ爲取得シ又ハ第三條ノ規定ニ依リ引渡ヲ受ケタル物件及權利ニシテ現存スルモノハ之ヲ其ノ事業ノ區域ニ屬スル府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ移付スヘシ

前項ニ依リ移付ヲ爲スヘキ物件及權利ノ範圍竝其ノ移付シ難キモノニ關スル處分ハ內務大臣之ヲ定ム

第五條　內務大臣ニ於テ其ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ノ不足額ノ補充及殘餘金ノ處分等ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　內務大臣ニ於テ前條ニ依リ移付ヲ爲スヘキ期間竝豫算金額ハ內務大臣之ヲ定ム

第七條　內務大臣ノ直接施行ニ係ル事業ニ要スル費用ニ充ツル爲府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ於テ負擔スヘキ金額ハ內務大臣之ヲ定ム

第八條　內務大臣ニ於テ府縣郡市區町村其ノ他公共團體ニ屬スル事業ノ直接施行ヲ廢止シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第九條　此ノ勅令ニ規定シタルモノノ外內務大臣ハ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

●東京府及神奈川縣境域變更ニ附キ地方稅備荒儲蓄ノ分割其他府縣會議員ニ關スル手續（明治二十六年內務省令第二號）

本年三月法律第十二號ヲ以テ神奈川縣下武藏國西多摩郡北多摩郡南多摩郡ヲ東京府ノ境域ニ移サレタルニ付テハ地方稅備荒儲蓄ノ分割及府縣會議員ニ關スル手續左ノ通之ヲ定ム

第一條　神奈川縣ニ於テ二十五年度地方稅收支決算ニ至リ殘餘金アルトキハ其年度實收入ノ割合ニ依リ分割シ東京府ヘ引繼ヘシ若シ不足アルトキハ其年度實收入ニ割合各其府縣ニ於テ分擔スヘシ

第二條　地方稅及備荒儲蓄經濟中土地建物等ハ總テ其物件所在ノ府縣ニ屬スルモノトス

第三條　神奈川縣ニ於テ備荒儲蓄金穀ハ明治二十三年（二月）法律第五號備荒儲蓄法改正前迄ニ徵收シタル金額ノ割合ニ依リ之ヲ分割シ東京府ヘ引繼クヘシ但地租貸與金ニ屬スルモノハ將來其所屬ノ府縣ニ收入スルモノトシ其額ハ現金分割ノ內ニ算入シテ差引ヲ爲スヘシ

第四條　神奈川縣東京府府會議員及正副議長常置委員ハ改選ヲ要セス但神奈川縣西多摩郡北多摩郡南多摩郡縣會議員ハ本年（二月）法律第十二號施行ノ日ヨリ當然其職ヲ解キ東京府ニ於テハ右三郡ニ於テ其府既定ノ選出法ニ依リ每郡ノ人員ヲ定メ更ニ府會議員ヲ選舉セシムヘシ

第五條　囚人ハ犯罪地逮捕地等土地ニ依リ其裁判管轄ヲ定ムルモノハ其土地所屬ノ庫其他ノ囚人竝ニ證憑人ハ其裁判ヲ言渡シタル地ニ依リ之ヲ分割スヘシ

（明治二十六年法律第二十號「東京府神奈川縣境域變更ノ件」ハ第一類第三章第三款衆議院ノ部ニ掲載ス）

●岡山縣兵庫縣境界變更並福岡縣大分縣境界變更ノ件（明治二十九年三月法律第五十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル岡山縣兵庫縣境界變更竝福岡縣大分縣境界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　岡山縣及兵庫縣ノ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ

岡山縣美作國吉野郡石井村ヲ兵庫縣播磨國佐用郡ニ編入シ岡山縣美作國吉野郡讀甘村大字中山ヲ兵庫縣播磨國佐用郡江川村ニ編入ス

第二條　福岡縣及大分縣ノ境界ヲ變更スルコト左ノ如シ

福岡縣豐前國上毛郡高瀨村大字小祝ノ內山國川下利根川以北ヲ茨城縣下總國北相馬郡布川町ニ編入ス

千葉縣下總國東葛飾郡佐町大字布佐ノ內支流以東ヲ大分縣豐前國下毛郡中津町ニ編入ス

第三條　此ノ法律施行ノ爲メ縣境ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係縣會ノ意見ヲ聞キ內務大臣之ヲ定メ村ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係町村會ノ意見ヲ聞キ內務大臣之ヲ定ム

第四條　衆議院議員及縣會議員ノ選舉區ニ關シテハ此ノ法律ニ依レルモノハ此ノ法律ニ依リ其選舉ヲ行フヘシ

第五條　此ノ法律ヲ施行スル爲ニ必要ナル規程ハ內務大臣之ヲ定ム

●千葉縣茨城縣境界變更ノ件（明治二十九年四月一日ヨリ施行ス）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル千葉縣茨城縣境界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　千葉縣下總國東葛飾郡佐町大字布佐ノ內

一　千葉縣下總國東葛飾郡二川村大字新田戶ノ內大字桐ケ作ノ內中利根川以北ヲ茨城縣下總國猿島郡栗戶村ニ編入ス

二　千葉縣下總國東葛飾郡木間ケ瀨村大字木間ケ瀨ノ內中利根川以北及千葉縣下總國猿島郡間村大字稻戶井ノ內中利根川以北ヲ茨城縣下總國猿島郡間村ニ編入ス

三　千葉縣下總國東葛飾郡二川村大字古布內ノ內中利根川以北ヲ茨城縣下總國東葛飾郡木間ケ瀨村大字木間ケ瀨ノ內中利根川以北ヲ茨城縣下總國猿島郡間村ニ編入ス

四　千葉縣下總國東葛飾郡佐町大字布佐ノ內下利根川以北ヲ茨城縣下總國北相馬郡布川町ニ編入ス

五　千葉縣下總國香取郡金江津村下利根川以南ヲ除クヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入シ千葉縣下總國印幡郡豐住村大字田川ヲ右金江津村ニ編入シ千葉縣下總國香取郡金江津村大字平川ノ內下利根川以南ヲ千葉縣下總國香取郡高岡村ニ編入ス

六　千葉縣下總國香取郡十余島村ヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入シ千葉縣下總國香取郡神崎町大字小松ノ內大字神崎神宿ノ內大字神崎本宿ノ內大字今ノ內下利根川以北及千葉縣下總國香取郡本新島村大字野間谷原ノ內下利根川以北ヲ右十余島村ニ編入ス

七　千葉縣下總國香取郡本新島村下利根川以南ヲ除クヲ茨城縣常陸國稻敷郡ニ編入シ千葉縣下總國香取郡新島村大字八筋川ノ內大字境島ノ內大字大島ノ內大字三島ノ內橫利根川以西及千葉縣下總國香取郡佐原町大字佐原ノ內橫利根川以西ヲ右本新島村ニ編入シ千葉縣下總國香取郡本新島村大字川尻大字大戶新田及大字野間谷原ノ內大字石納ノ內大字仮島ノ內下利根川以南ヲ千葉縣下總國香取郡東大戶村ニ編入ス

八　茨城縣下總國猿島郡中川村大字長谷ノ內大字小山ノ內及大字莚打ノ內中利根川以南ヲ千葉縣下總國東葛飾郡川間村ニ編入ス

九　茨城縣下總國北相馬郡稻戶井村大字稻ノ內中利根川以南及茨城縣下總國北相馬郡取手町大字取手ノ內中利根川以南ヲ千葉縣下總國東葛飾郡我孫子町ニ編入ス

第二條　此ノ法律施行ノ爲縣ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係アル縣參事會ノ意見ヲ聞キ內務大臣之ヲ定メ郡ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係アル郡參事會及縣參事會ノ意見ヲ聞キ縣知事協議ノ上之ヲ定メ町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係アル町村會郡參事會及縣參事會ノ意見ヲ聞キ縣知事協議ノ上之ヲ定ム若シ協議整ハサルトキハ內務大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

第三條　現任衆議院議員及縣會議員ハ此ノ法律ニ依レル縣境界變更ノ爲ニ其ノ議員タル資格ヲ失フコトナシ但シ千葉縣會議員ニシテ住居ノ茨城縣ニ移リ茨城縣會議員ニシテ住居ノ千葉縣ニ移ル者ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　衆議院議員及縣會議員ノ選擧及被選擧資格中其ノ年限ニ關スルモノハ此ノ法律ニ依レル縣境界變更ノ爲ニ中斷セラルルコトナシ

第五條　此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

㊟千葉縣ト茨城縣トノ間ニ於ケル縣ノ財產處分方（明治三十二年五月內務省訓令第十二號）

明治三十二年（二月）法律第四號第二條ニ依リ千葉縣ト茨城縣トノ間ニ於ケル縣ノ財產處分左ノ通リ相定ム

第一　明治三十一年度縣歲入出決算殘金ハ其年度縣稅實收入ノ割合ニ依リ分割スヘシ

第二　備荒儲蓄金穀ハ明治二十二年度ニ於テ徵收シタル金穀ノ割合ニ依リ分割スヘシ但シ地租貸與金ニ關スルモノハ將來其ノ所屬ノ縣ニ收入スルモノトシ其ノ額ハ現金分割ノ內ニ算入シテ差引チ爲スヘシ

第三　小學校教員恩給基金及明治三十一年度小學校恩給金歲入出決算殘金ハ明治三十一年度實收入ノ割合ニ依リ分割スヘシ

第四　尋常中學校資本金縣立病院資本金慈惠救濟基本金縣立病院歲入出決算殘金ハ明治三十一年度縣稅實收入ノ割合ニ依リ分割スヘシ

第五　縣經濟ニ關スル借入金及貸付金ハ明治三十一年度縣稅實收入ノ割合ニ依リ債權及債務ヲ有スルモノトシ其ノ額ハ現金分割ノ內ニ算入シテ差引チ爲スヘシ

第六　縣經濟ニ關スルモノトシテ前條ニ揭ケサル土地建物等ハ總テ其ノ所在ノ縣ニ關スルモノトス

㊟東京府埼玉縣千葉縣茨城縣境界變更法（明治二十八年三月法律第二十四號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル東京府埼玉縣千葉縣茨城縣境界變更法ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　東京府埼玉縣千葉縣茨城縣境界ヲ左ノ如シ變更スルコト左ノ如シ

一　東京府南葛飾郡篠崎村大字古ヶ崎ノ內江戶川以東ハ千葉縣東葛飾郡行德村ニ編入ス

上籔田ノ內江戶川以東ハ千葉縣東葛飾郡行德村ニ編入ス

町ニ編入ス

一　埼玉縣中葛飾郡流山町大字三輪野山ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡三輪野江村ニ大字加ノ內大字流山ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡早稻田村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡流山町大字三輪野山ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡三輪野江村ニ大字加ノ內大字流山ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡早稻田村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡馬橋村大字外河原ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡八木鄉村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡明村大字古ヶ崎ノ內江戶川以西ハ埼玉縣北葛飾郡八木鄉村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡行德町大字大和田ノ內大字本行德ノ內江戶川以西ハ東京府南葛飾郡篠崎村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡南行德村大字欠真間ノ內字前野及字妙見島ハ東京府南葛飾郡瑞穗村ニ編入ス

一　千葉縣東葛飾郡浦安村大字堀江ノ內江戶川以西ハ東京府南葛飾郡葛西村ニ編入ス

第二條　此ノ法律施行ノ爲府縣ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係府縣會ノ意見ヲ聞キ內務大臣之ヲ定メ町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係町村會ノ意見ヲ聞キ其ノ關係府縣知事協議ノ上之ヲ定ムヘシ若協議整ハサルトキハ內務大臣ノ裁定ヲ

請フヘシ

第三條　衆議院議員及府縣會議員ノ選擧及被選擧資格中其ノ年限ニ關スルモノハ此ノ法律ニ依レル府縣境界ノ變更ノ爲ニ中斷セラルルコトナシ

第四條　此ノ法律ハ明治二十八年四月一日ヨリ施行ス

第二章　郡

㊟郡制（明治三十二年三月法律第六十五號）

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル郡制改正法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

郡制

第一章　總則

第二章　郡會

第一款　組織及選擧

第二款　職務權限及處務規程

第三章　郡參事會

第一款　組織及選擧

第二款　職務權限及處務規程

第四章　郡行政

第一款　郡吏員ノ組織及任免

第二款　郡官吏郡吏員ノ職務權限及處務規程

第三款　給料及給與

第五章　郡ノ財務

第一款　財產營造物及郡費

第二款　歲入出豫算及決算

第六章　郡組合

第七章　郡行政ノ監督

第八章　附則

郡制

第一章　總則

第一條　郡ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括スル事務ヲ處理ス

第二條　郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍內ニ於テ公共事務竝法律勅令ニ依リ郡ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條　郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　郡會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區ハ町村ノ區域ニ依リ但シ事情ニ依リ郡長ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設クルコトヲ得

第五條　郡會議員ノ員數ハ十五人以上三十人以下トス

郡ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ增加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及各選擧區ニ於テ選擧スヘキ郡會議員ノ數ハ郡會ノ議決ヲ經府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　郡內ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選擧權ヲ有シ且其ノ郡內ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

郡會議員ハ住所ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡內ニ在ルトキハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

郡會議員ノ選擧權被選擧權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルルコトナシ

左ニ揭ケル者ハ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一　所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二　其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三　檢事警察官吏及收稅官吏

四　神官僧侶其ノ他諸宗教師

五　小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選擧事務ニ關係アル吏員ハ其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

郡ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ郡ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ郡ノ郡會議員ノ被選擧權ヲ有セス

第七條　郡會議員ハ名譽職トス

郡會議員ノ任期ハ四年トス

議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ缺員ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　郡會議員中闕員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選擧ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九條　郡會議員ノ選擧ニ關シ府縣知事郡長町村長ヨリ指揮ヲ受ケタルトキハ其ノ指揮ニ從ヒ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第十條　郡會議員ノ選擧ハ町村長之ヲ管理ス

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條　町村長ハ選擧期日六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧人名簿ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選擧人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十二條　選擧會ハ町村役場若ハ選擧ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタルトキハ選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選擧會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ」

選擧會ノ場所ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ三日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選擧分會ヲ設ケ其ノ選擧ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　選擧ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選擧人中ヨリ二名乃至四名ノ選擧立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選擧長トナル

選擧立會人ハ名譽職トス

第十四條　選擧人ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス

但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得

但シ被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ

但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　投票ノ拒否竝效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第十八條　郡會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條　選擧長ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選擧人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

自ラ被選擧人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ郡長ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヰサルモノ

二　一投票中二人以上ノ被選擧人ヲ記載シタルモノ

當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヤヲ郡長ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選擧區ノ選擧ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選擧ニ應スヘキカヲ郡長ニ申立ツヘシ

前項ノ申立ヲ爲ササルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム」

當選者其ノ當選ヲ辭シタルトキ又ハ當選無效ト確定シタルトキハ其ノ當選ヲ辭シタル者又ハ當選無效ト確定シタル者ノ得票數ニシテ最多數ナル者ヲ當選者ト定ム

第二十一條　郡會議員ノ當選ニシテ被選擧權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ハ無效トス

第二十二條　當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ之ヲ郡長ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得

郡長ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第二十三條　選擧人選擧若ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選擧人選擧ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘシ

郡長ニ於テ選擧者ハ當選ノ效力ニ關シ異議アル者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ」

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第十一條　郡會議員中闕員アルトキ及郡會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選擧ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第九條　郡會議員ノ選擧ニ關シ府縣知事郡長町村長ヨリ指揮ヲ受ケタルトキハ其ノ指揮ニ從ヒ選擧人名簿ヲ調製スヘシ

第十條　郡會議員ノ選擧ハ町村長之ヲ管理ス

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

第十一條　町村長ハ選擧期日六十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選擧人名簿ヲ調製スヘシ但シ數町村ノ區域ニ依リ選擧區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選擧人名簿ヲ管理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ

選擧人其ノ住所ヲ有スル町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ前項ノ期日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選擧人名簿ニ記載セラルヘキ要件ニ算入セス

選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧前五十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間町村役場又ハ其ノ他ノ場所ニ於テ選擧人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキハ又ハ正當ノ事故ニ依リ前項ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ」

前項町村長ノ決定ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十二條　選擧會ハ町村役場若ハ選擧ヲ管理スル町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

數町村ヲ以テ一選擧區ト爲シタルトキハ選擧ヲ管理スル町村長ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選擧會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ」

選擧會ノ場所ハ選擧ノ日ヨリ少クトモ三日前町村長ニ於テ之ヲ告示スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ選擧分會ヲ設ケ其ノ選擧ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條　選擧ヲ管理スル町村長ハ臨時ニ選擧人中ヨリ二名乃至四名ノ選擧立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選擧長トナル

選擧立會人ハ名譽職トス

第十四條　選擧人ハ選擧會場ニ入ルコトヲ得ス

但シ選擧會場ノ事務ニ從事スル者選擧會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者ハ此ノ限ニ在ラス

選擧人ハ選擧會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條　選擧ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選擧人ハ選擧ノ當日自ラ選擧會場ニ到リ選擧人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選擧人一名ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ニハ選擧人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得

但シ被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選擧人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

四　被選擧權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

五　被選擧人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ

但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　投票ノ拒否竝效力ハ選擧立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選擧長之ヲ決スヘシ

第十八條　郡會議員ノ選擧ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同シキトキハ年長者ヲ取リ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選擧スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選擧長抽籤シテ之ヲ定ム

第十九條　選擧長ハ選擧錄ヲ製シテ選擧ノ顚末ヲ記載シ選擧ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票選擧人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選擧ノ效力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

第二十條　選擧ヲ終リタルトキハ選擧長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選擧錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告スヘシ

第四十六條　町會議員ハ會議ノ開カレタル場所ニ於テ其職務ニ關シ故意ニ虚偽ノ申立ヲ爲シ又ハ收賄ノ罪ヲ犯シタルトキハ刑法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ處斷ス

第四十七條　町會議員ニ對スル懲罰ハ譴責、過怠金又ハ除名トス

過怠金ハ五圓以上五十圓以下ノ金額ヲ以テ之ヲ科ス

除名ハ町會議員ノ被選權ヲ喪失セシムルモノトス

第四十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルハ町會ニ於テ議員定數三分ノ二以上出席シ其四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第四十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ町會ハ其ノ事件ヲ府縣參事會ニ報告スヘシ

第五十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ議決ヲ執行スル前ニ於テ本人ニ對シ辨明ノ機會ヲ與フヘシ

第五十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第五十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第六十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第七十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第八十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第九十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百二十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百三十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百四十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百五十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百六十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百七十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百八十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第百九十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百二十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百三十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百四十九條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十一條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十二條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十三條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十四條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十五條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十六條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十七條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與スルコトヲ得ス

第二百五十八條　町會議員ニ懲罰ヲ科スルトキハ其ノ事件ニ關シ利害ノ關係アル町會議員ハ議決ニ參與

第
六五四　理者ヲ収入支出ヲ命令其ノ非違ヲ糺正スル事
法律命令又ハ郡会及郡ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スル事
第
二一　郡長ノ擅任スル事務ノ概目左ノ如シ
第六十六條　郡長ハ郡ヲ統轄シ郡ヲ代表ス
第六十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ支弁スヘキ非常ノ費用ヲ予算ニ追加シ及収入ノ方法ヲ変更スルコトヲ得
第六十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料及其ノ他ノ収入ニ関スル条例ヲ設ケ又ハ改正シ及廃止スルコトヲ得
第六十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ特別ノ賦課金ヲ徴収スルコトヲ得
第七十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第七十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第八十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第九十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百二十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百三十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百四十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百五十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百六十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百七十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百八十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十一條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十二條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十三條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十四條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十五條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十六條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十七條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十八條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第百九十九條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得
第二百條　郡長ハ郡会ノ議決ヲ以テ使用料手数料ノ徴収ヲ目的トスル税ヲ起シ及其ノ税率ヲ定ムルコトヲ得

決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長町村吏員ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條第一項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十五條　郡ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ郡會ノ議決ヲ經テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スニ付郡會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

郡ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス郡參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款　歲入出豫算及決算

第九十六條　郡長ハ每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ年度開始前郡會ノ議決ヲ經ヘシ

郡ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ財產表ヲ提出スヘシ

第九十七條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ得

第九十八條　郡費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第九十九條　豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ但シ郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百條　豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百一條　郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第百二條　決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ郡會ニ報告スヘシ

郡長ハ決算ヲ郡會ニ報告スル前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ郡參事會ノ意見ヲ決算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ

決算ハ之ヲ府縣知事ニ報告シ並其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百三條　豫算調製ノ式並費目流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ內務大臣之ヲ定ム

第百四條　郡吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六章　郡組合

第百五條　特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得

第百六條　郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ

第百七條　郡組合ニ法人トスル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ議決ヲ經テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第百八條　郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ內務大臣之ヲ監督ス

第百九條　此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以內ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以內ニ之ヲ提起スヘシ

決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ

前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算並天災事變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス

異議ヲ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限リ處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第百十條　監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戻セサルヤ又ハ公益ヲ害セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ並實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閱スルノ權ヲ有ス

監督官廳ハ郡行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス

第百十一條　監督官廳ハ郡ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第百十二條　內務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

郡會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以內ニ議員ヲ選舉スヘシ

解散後始メテ郡會ヲ招集スルトキハ郡長ハ第三十八條第二項ノ規定ニ拘ラス府縣知事ノ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第百十三條　郡吏員ノ服務紀律ハ內務大臣之ヲ定ム

第百十四條　左ニ揭クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二　使用料手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

第百十五條　郡債ヲ起シ並起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ之ヲ變更スルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百十六條　左ニ揭クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二　寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三　不動產ノ處分ニ關スル事

四　第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事

但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

五　繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

六　特別會計ヲ設クル事

第百十七條　郡ノ行政ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍內ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第百十八條　郡ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナル事項ニ付テハ勅令ヲ以テ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

第百十九條　府縣知事ハ郡吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ讀責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ郡吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間其ノ郡ノ公職ニ選舉セラレ若ハ任命セラルルコトヲ得ス

第八章　附則

第百二十條　此ノ法律ハ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニハ明治二十二年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第百二十一條　郡內總町村ニ屬スル事業並其ノ財產營造物ハ小學校ヲ除ク外此ノ法律施行ノ日ヨリ郡ニ移ルモノトス

第百二十二條　此ノ法律ノ規定ニ依リ府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ內務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百二十三條　島嶼ニ關シテハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ムルコトヲ得

本條ノ人口ハ內務大臣ノ告示シタル最近ノ人口

第百二十四條　明治二十三年法律第三十六號郡制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル郡會議員郡參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十六號郡制ヲ施行シタル府縣ニ於テハ郡會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行ハス議員ノ本法施行ノ日マテ在任ス

第百二十五條　此ノ法律施行ノ際郡會及郡參事會ノ職務ニ關スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間郡長之ヲ行フ

第百二十六條　此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

第百二十七條　此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十八條　明治十一年第十七號布告郡區町村編制法其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律施行ノ地ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十九條　此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

㊟郡會議員ノ配當ニ關スル件（明治三十二年五月內務省令第十八號）

本年法律第六十五號郡制第五條第四項ニ依リ郡會議員ノ配當ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　郡制第四條ニ依リ各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ハ人口ヲ標準トシテ之ヲ定ムヘシ

特別ノ事情アル郡ニ付テハ府縣知事ハ別ニ配當標準ヲ加フルコトヲ得

本條ノ人口ハ內務大臣ノ告示シタル最近ノ人口

表ニ依ル

第二條　議員配當ノ更正ヲ要スルトキハ改選ノ際ヲ俟テ之ヲ行フ但シ選擧區ノ增減アリタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

◉郡會議員選擧ニ關スル件（明治三十二年五月内務省令第二十號）

本年法律第六十五號郡制第十二條第四項ニ依リ郡會議員選擧ニ關スル件左ノ通定ム

第一條　郡制第十二條第四項ニ依リ選擧分會ヲ設クルコトヲ要スルトキハ郡之ヲ定ム

第二條　選擧分會ハ郡制第十條ニ依リ選擧ヲ管理スル町村長ノ指名シタル町村長其ノ他町村吏員之ヲ管理ス

選擧分會ニ於ケル選擧立會人及投票ノ拒否ニ關シテハ郡制第十三條及第十七條ノ規定ヲ準用ス

第三條　選擧分會ノ管理者ハ選擧錄ヲ製シテ投票ノ顚末ヲ記載シ投票ヲ終リタル後選擧立會人二名以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四條　前條ノ手續ヲ終リタルトキハ選擧分會ノ管理者ハ其ノ指定シタル選擧立會人ト共ニ直ニ投票函及選擧錄ヲ選擧本會ニ送致スヘシ

第五條　選擧本會ニ於テハ選擧分會ノ投票函ノ總テ到達スルニ非サレハ投票ノ點檢ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ於ケル選擧分會ニ付テハ郡長ハ適宜ニ其ノ選擧期日ヲ定メ選擧本會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第七條　本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ府縣知事之ヲ定ム

◉郡歲入歲出豫算調製式竝ニ費目流用規定（明治二十四年四月内務省令第二號）

郡制第六十五條第三項ニ依リ郡歲入歲出豫算調製ノ式ヲ定メ竝ニ費目流用ノ規定ヲ設ク

第一條　郡歲入歲出豫算ハ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分シ第一號ノ式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條　歲入歲出豫算ニハ郡會參考ノ爲各項ヲ各目ニ區別シ各其豫算ノ基ク所ヲ詳記シタルモノヲ添付スヘシ

第三條　數年繼續費（郡制第六十六條第二項）ノ年期及支出方法ト第二號ノ式ニ依ルヘシ

第四條　歲入歲出中更ニ科目ヲ設クルコトヲ要スルトキ其款項ハ此書式ニ依準スルモノトス

第五條　各款ノ豫算金額ハ彼此流用スルヲ得サルモノトス（二十四年内務省令第十三號改正ニ依ル）

各項目豫算金額ニシテ不得已流用ヲ要スルノ必用アルトキハ郡參事會ノ決議ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

（第一號）

明治何年度某府縣某郡歲入歲出豫算書

歲入

經常部

第一款　會議費　金

第一項　郡會議費　金

第二項　郡參事會諮問費　金

第二款　郡吏員費　金

第一項　吏員費　金

第二項　委員費　金

第三款　土木費　金

第一項　道路橋梁費　金

第二項　治水堤防費　金

第三項　港灣費　金

第四款　教育費　金

第二項　物品賣拂代　金

第三款　各町村分賦額　金

第一項　各町村分賦額　金

經常部合計金　金

臨時部

第一款　繰越金　金

第一項　前年度繰越金　金

第二款　府縣補助金　金

第一項　某費補助金　金

第二項　某費補助金　金

第三款　寄附金　金

第一項　某費寄附金　金

第二項　某費寄附金　金

第四款　財產賣拂代　金

第一項　公債證書賣拂代　金

第五款　郡債　金

第一項　郡債　金

臨時部合計金　金

歲入總計金　金

歲出

經常部

第一款　會議費　金

第一項　郡會議費　金

第二項　郡參事會諮問費　金

第二款　郡吏員費　金

第一項　吏員費　金

第二項　委員費　金

第三款　土木費　金

第一項　道路橋梁費　金

第二項　治水堤防費　金

第三項　港灣費　金

第四款　教育費　金

第一項　某學校費　金

第五款　衛生及病院費　金

第一項　衛生費　金

第二項　某病院費　金

第六款　救助費　金

第一項　養育費　金

第七款　勸業費　金

第一項　勸業會費　金

第二項　植物試驗費　金

第八款　財產費　金

第一項　維持費　金

第二項　管理費　金

第九款　豫備費　金

第一項　豫備費　金

經常部合計金　金

臨時部

第一款　土木費　金

第一項　道路橋梁費　金

第二款　某費本年度支出額　金

第一項　某費ノ內某費本年度支出額　金

第三款　郡債費　金

第一項　元金償還　金

第二項　郡債利子　金

第三項　雜費　金

臨時部合計金　金

歲出總計金　金

明治何年何月何日提出

某府縣某郡長　氏名　印

（第二號）

自明治何年度至同何年度某府縣某郡某費繼續年期及支出方法

某費中

一金　某費

明治何年度支出額

同　何年度支出額

（某費ノ內某費本年度支出額ヲ記載ス）

某府縣某郡長　氏名　印

件（明治三十二年六月勅令第二百八十五號）

市部會郡部會等ノ特例ニ關スル

府縣知事之ヲ定ム

第三條　市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ府縣會議員ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス

第四條　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第五條　市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス

市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選擧ス

市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選擧シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第六條　府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第七條　第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第八條　本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第九條　市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

附　則

第一條　從來市部郡部ノ經濟ヲ分別シタル府縣ニ於テハ內務大臣ハ其ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設ケシムルコトヲ得

第二條　市部會郡部會ハ各市部郡部ニ於テ選出シタル府縣會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

市部又ハ郡部ニ於テ選出スヘキ府縣會議員ノ數十二名ニ滿タサルトキハ府縣制第五條ノ定員ニ拘ラス之ヲ十二名トス

第三條　府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府縣會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第四條　市部會郡部會ヲ設ケタル縣ニ於テハ名譽職參事會員ノ定員ヲ八名トス

市部會郡部會ヲ設ケタル府縣ノ名譽職參事會員ハ各會ニ於テ其ノ定員ノ半數ヲ選擧ス

市部參事會郡部參事會ハ府縣知事府縣高等官參事會員及各部會ニ於テ選擧シタル府縣名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　府縣費ニ關スル市部郡部ノ分擔及收入ノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム若許可スヘカラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ定ム

第六條　第三條第五條ノ事件ニ付テハ議員定員ノ五分ノ四以上出席スルニ非レハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第七條　本令ニ規定スルモノヲ除ク外總テ府縣制ノ規定ヲ準用ス

第八條　市部會又ハ郡部會解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議員ハ府縣會議員ノ職ヲ失フ

附　則

第九條　本令ニ依リ市部會郡部會ヲ設クル府縣ニ

於テハ從來市部若ハ郡部ニ關スル事件及市部郡部連帶ニ關スル事件ハ本令ニ於テモ亦其ノ效力アルモノト有ス

第十條　本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○內務省令　明治三十二年六月本年勅令第二百第二十五號

八十五號ニ依リ左ノ府縣ニ於テハ從來ノ區域ニ依リ市部郡部ノ經濟ヲ分別シ市部會郡部會市部參事會郡部參事會ヲ設クヘシ

東京府　京都府　大阪府　神奈川縣
兵庫縣　愛知縣　廣島縣

●沖繩縣ノ郡編制ニ關スル件　（明治二十九年三月勅令第十三號）

朕沖繩縣ノ郡編制ニ關スル件ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

第一條　那覇首里兩區ノ區域ヲ除ク外沖繩縣ヲ擧ケテ左ノ五郡トス

島尻郡　島尻各間切久米島慶良間諸島渡名喜島
粟國島伊平屋諸島島島及大東島
中頭郡　中頭各間切
國頭郡　國頭各間切及伊江島
宮古郡　宮古諸島
八重山郡　八重山諸島

第二條　郡ノ境界若クハ名稱ヲ變更スルコトヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム

附　則

第三條　本令施行ノ時期ハ內務大臣之ヲ定ム

●神奈川縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル神奈川縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

山口縣長門國阿武郡及見島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ阿武郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●長崎縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル長崎縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

長崎縣壹岐國壹岐郡及石田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ壹岐郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●新潟縣下郡界變更郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル新潟縣下郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

新潟縣越後國三島郡ノ一部（間瀨村）ヲ同縣同國西蒲原郡ニ編入ス

新潟縣佐渡國雜太郡、加茂郡及羽茂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ佐渡郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●山口縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル山口縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

山口縣長門國阿武郡及見島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ阿武郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●和歌山縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル和歌山縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

和歌山縣紀伊國名草郡及海部郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ海草郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●福岡縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル福岡縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

福岡縣筑前國嘉麻郡及穗波郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ嘉穗郡ヲ置ク

福岡縣筑前國上座郡、下座郡及夜須郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ朝倉郡ヲ置ク

福岡縣筑前國御笠郡、那珂郡及席田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ筑紫郡ヲ置ク

福岡縣筑前國怡土郡及志摩郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ糸島郡ヲ置ク

福岡縣筑後國竹野郡ヲ廢シ其ノ區域ト生葉郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（姫治村、大石村、山春村、椿子村、浮羽村、千年村、福富村、江南村、吉井町）トヲ以テ浮羽郡ヲ置ク

福岡縣筑後國上妻郡及下妻郡ヲ廢シ其ノ區域ト生葉郡ニ屬セシ區域ノ一部（星野村）トヲ以テ八女郡ヲ置ク

福岡縣筑後國御井郡、御原郡及山本郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三井郡ヲ置ク

福岡縣豐前國京都郡及仲津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ京都郡ヲ置ク

福岡縣豐前國築城郡ヲ廢シ其ノ區域ト上毛郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（山田村、八屋町、宇島町、千束村、三毛門村、黒土村、横武村、合河村、西吉富村、岩屋村、友枝村、唐原村、南吉富村、東吉富村、高瀨村、「大字小祝ノ內山國川支流以東ヲ除ク」）トヲ以テ築上郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●佐賀縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル佐賀縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

佐賀縣肥前國基肄郡、養父郡及三根郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三養基郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●宮崎縣下郡廢置ノ件　（明治二十九年三月法律第二十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル宮崎縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

宮崎縣日向國宮崎郡及北那珂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ宮崎郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●東京府下郡廢置ノ件　（第三十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル東京府下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

東京府武藏國南豐島郡及東多摩郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ豐多摩郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●大阪府下郡廢置ノ件　（第三十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル大阪府下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

大阪府河內國石川郡、錦部郡、八上郡、古市郡、安宿部郡及丹南郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ志紀郡ヲ置ク

大阪府河內國丹北郡、大縣郡及澁川郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（三木本村）トヲ以テ中河內郡ヲ置ク

大阪府河內國茨田郡、交野郡及讃良郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北河內郡ヲ置ク

大阪府和泉國大鳥郡及泉郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ泉北郡ヲ置ク

大阪府和泉國南郡及日根郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ泉南郡ヲ置ク

大阪府攝津國東成郡及住吉郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東成郡ヲ置ク

大阪府攝津國島上郡及島下郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三島郡ヲ置ク

大阪府攝津國豐島郡及能勢郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ豐能郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●兵庫縣下郡廢置、郡界變更ノ件　（明治二十九年三月法律第三十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル兵庫縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

兵庫縣攝津國武庫郡、菟原郡及八部郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ武庫郡ヲ置ク

兵庫縣攝津國川邊郡ノ一部（高平村）ヲ同縣同國有馬郡ニ編入ス

兵庫縣但馬國城崎郡、美含郡及氣多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ城崎郡ヲ置ク

兵庫縣但馬國七美郡及二方郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ美方郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國飾東郡及飾西郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飾磨郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國神東郡及神西郡ヲ廢シ其ノ區域ト多可郡ノ一部（越知谷村）トヲ以テ神崎郡ヲ置ク

兵庫縣播磨國揖東郡及揖西郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ揖保郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●埼玉縣下國界變更、郡廢置ノ件

（明治二十九年三月法律第四十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル埼玉縣下國界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

埼玉縣武藏國北足立郡及新座郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北足立郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國入間郡及高麗郡ヲ廢シ其ノ區域ト比企郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（楡木村）トヲ以テ入間郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國橫見郡ヲ廢シ其ノ區域ト比企郡ニ屬セシ區域ノ一部（松山町、大岡村、福田村、宮前村、唐子村、菅谷村、七郷村、八和田村、小川町、大河村、竹澤村、平村、玉川村、明覺村、越非村、今宿村、高坂村、野本村、小見野村、中山村、八ツ保村、伊草村、三保谷村、出丸村）トヲ以テ比企郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國兒玉郡、賀美郡及那珂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ兒玉郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國大里郡、幡羅郡、榛澤郡及男衾郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ大里郡ヲ置ク

埼玉縣武藏國北葛飾郡及同縣下總國中葛飾郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北葛飾郡ヲ置キ武藏國ニ屬ス

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●群馬縣下郡廢置、郡界變更ノ件

（明治二十九年三月法律第四十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル群馬縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

群馬縣下郡廢置ノ件

第一　群馬縣下ノ勢多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ勢多郡ヲ置ク

第二　群馬縣上野國片岡郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（高崎町、元總社村、亘郷村、長野村、清里村、相馬村、瀧川村、六郷村、室田村、大類村、箕輪村、久留馬村、國府村、總社町、金古町、佐野村、東村、上郊村、倉田村、岩鼻村、中川村、新高尾村、倉賀野町、瀧川町、京ヶ島村、長尾村、小野上村、古巻村、白郷井村、金島村、桃井村、駒寄村、明治村、豐秋村、伊香保町）トヲ以テ群馬縣上野國東群馬郡ニ屬セシ區域ノ一部（高山村）トヲ以テ群馬縣上野國西群馬郡ニ屬セシ區域ノ一部（多胡郡及南甘樂郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ多野郡ヲ置ク

群馬縣上野國利根郡及北勢多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ利根郡ヲ置ク

吾妻郡ノ一部（久賀村）トヲ以テ群馬縣上野國吾妻郡及那波郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ吾妻郡ヲ置ク

千葉縣上總國山邊郡及武射郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ山武郡ヲ置ク

千葉縣下總國東葛飾郡及南相馬郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東葛飾郡ヲ置ク

千葉縣下總國印幡郡及下埴生郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ印幡郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●千葉縣下郡廢置、郡界變更ノ件

（明治二十九年三月法律第四十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル千葉縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

千葉縣安房國安房郡、平郡、朝夷郡及長狹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ安房郡ヲ置ク

千葉縣上總國望陀郡、周准郡及天羽郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ君津郡ヲ置ク

千葉縣上總國長柄郡及上埴生郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ長生郡ヲ置ク

●茨城縣下郡廢置、郡界變更ノ件

（明治二十九年三月法律第四十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル茨城縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

茨城縣下總國結城郡、岡田郡及豐田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ結城郡ヲ置ク

茨城縣下總國西葛飾郡及猿島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ猿島郡ヲ置ク

茨城縣常陸國信太郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（江戸崎町、君賀村、沼里村、奥野村、朝日村、君原村、阿見村、鳩崎村、木原村、舟島村、安中村、浮島村）ト河内郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（大宮村、生板村、源清田村、長竿村、柴崎村、根本村、長戸村、入原村、岡田村、馴柴村、牛久村、堅崎村、太田村、高田村、大須賀村、伊崎村、阿波村、古渡村、龍ヶ崎町）トヲ以テ稲敷郡ヲ置ク

茨城縣常陸國筑波郡ノ一部（山ノ井村）及信太郡ニ屬セシ區域ノ一部（東村、中家村）ヲ同縣同國新治郡ニ編入ス

茨城縣下總國北相馬郡ノ一部、長崎村、同縣常陸國新治郡ノ一部（葛城村、大穂村、田水山村）及同縣常陸國河内郡ニ屬セシ區域ノ一部（小野川村）ヲ同縣常陸國筑波郡ニ編入ス

●栃木縣下郡廢置ノ件

（明治二十九年三月法律第四十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル栃木縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

栃木縣下ノ都賀郡及下都賀郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ都賀郡ヲ置ク

栃木縣下ノ河内郡及芳賀郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ芳賀郡ヲ置ク

栃木縣下ノ那須郡及塩谷郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ那須郡ヲ置ク

栃木縣下ノ安蘇郡及梁田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ足利郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●奈良縣下郡廢置ノ件

（明治二十九年三月法律第四十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル奈良縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

奈良縣大和國宇陀下郡及平群郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ生駒郡ヲ置ク

奈良縣大和國廣瀬郡及葛下郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ北葛城郡ヲ置ク

奈良縣大和國式上郡、式下郡及十市郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ磯城郡ヲ置ク

奈良縣大和國葛上郡及忍海郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ南葛城郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

●三重縣下郡廢置ノ件

（明治二十九年三月法律第四十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル三重縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

三重縣伊賀國阿拜郡及山田郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ阿山郡ヲ置ク

三重縣伊賀國名張郡及伊賀郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ名賀郡ヲ置ク

三重縣伊勢國三重郡及朝明郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ三重郡ヲ置ク

三重縣伊勢國奄藝郡及河曲郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ河藝郡ヲ置ク

三重縣伊勢國飯高郡及飯野郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飯南郡ヲ置ク

三重縣志摩國答志郡及英虞郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ志摩郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

●静岡縣下郡廢置ノ件

（明治二十九年三月法律第四十七號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル靜岡縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

靜岡縣遠江國佐野郡及城東郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ小笠郡ヲ置ク

靜岡縣遠江國榛田郡及山名郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（中泉町、袋原村、天龍村、長野村、袖浦村、十束村、非通村、池田村、富岡村、大藤村、今井村、三川村、龍川村、山香村、敷地村、二俣町、野部村、光明村、山香村、佐久間村、浦川村、熊村、上阿多古村、下阿多古村）ト長上郡ニ屬セシ區域ノ一部（掛塚村）トヲ以テ磐田郡ヲ置ク

靜岡縣遠江國濱名郡ヲ廢シ其ノ區域ト長上郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（笠井町、有玉村、美島村、天王村、市野村、飯田村、河輪村、五島村、小野田村、中郡村、和田村、蒲村、芳川村、平貫村）ト敷知郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（濱松町、曳馬村、三方原村、天神町村、白脇村、濱場村、新津村、篠原村、舞阪町、新居町、吉津村、新所村、知波田村、入出村、和地村、吉野村、北庄内村、南庄内村、村櫛村、雄踏村、神久呂村、入野村、伊佐見村、宮塚村）ト豐田郡ニ屬セシ區域ノ一部、赤佐村、中瀬村、龍池村、豐西村、中ノ町村）トヲ以テ濱名郡ヲ置ク

靜岡縣遠江國引佐郡及龜玉郡ヲ廢シ其ノ區域ト敷知郡ニ屬セシ區域ノ一部（西濱名村、東濱名村）トヲ以テ引佐郡ヲ置ク

靜岡縣駿河國安倍郡及有渡郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ安倍郡ヲ置ク

靜岡縣駿河國志太郡及益津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ志太郡ヲ置ク

靜岡縣伊豆國那賀郡ヲ廢シ其ノ區域ト賀茂郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（下田町、城東村、稲取村、下河津村、上河津村、稲梓村、稲生澤村、濱崎村、朝日村、竹麻村、南崎村、南中村、南上村、三坂村、三濱村、岩科村、松崎村）トヲ以テ賀茂郡ヲ置ク

靜岡縣伊豆國田方郡及君澤郡ヲ廢シ其ノ區域ト賀茂郡ニ屬セシ區域ノ一部、多賀村、網代村、宇佐美村、伊東村、小室村、上大見村、中大見村、下大見村、對島村、熱海町）トヲ以テ田方郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊳滋賀縣下郡界變更、郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第四十八號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル滋賀縣下郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

滋賀縣近江國神崎郡ノ一部（葉枝見村）ヲ同縣同國愛知郡ニ編入ス

滋賀縣近江國伊香郡及西淺井郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ伊香郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

㊴福島縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第四十九號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル福島縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

福島縣磐城國菊多郡、磐前郡及磐城郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ石城郡ヲ置ク

福島縣磐城國標葉郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（川前村）ヲ以テ石城郡ヲ置ク

福島縣磐城國楢葉郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（久之濱村、大久村、廣野村、木戸村、龍田村、富岡村、上岡村、川内村）ヲ以テ雙葉郡ヲ置ク

福島縣磐城國行方郡及宇多郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ相馬郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

㊵巖手縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル巖手縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

巖手縣陸中國西和賀郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ巖手郡ヲ置ク

巖手縣陸中國南巖手郡及北巖手郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ巖手郡ヲ置ク

巖手縣陸中國西和賀郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（黒澤尻町、鬼柳村、岩崎村、横川目村、藤根村、江釣子村、笹間村、飯豊村、二子村、立花村、更木村、中内村、谷内村、十二鎌村、小山田村）ト以テ和賀郡ヲ置ク

巖手縣陸中國東和賀郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（相去村）ヲ同縣同國膽澤郡ニ編入ス

巖手縣陸中國西閉伊郡及南閉伊郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ上閉伊郡ヲ置ク

巖手縣陸中國東閉伊郡、中閉伊郡及北閉伊郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ下閉伊郡ヲ置ク

巖手縣陸中國南九戸郡及北九戸郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ九戸郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

㊶富山縣郡分離、廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十一號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル富山縣下郡分離及廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

富山縣越中國上新川郡ノ一部（西水橋町、西三鄕村、東三鄕村、舟橋村、大森村、釜ヶ淵村、立山村、上段村、東谷村、下段村、白萩村、音杉村、上市町、相ノ木村、富川村、上條村、下條村、東水橋町、滑川町、南加積村、中加積村、北加積村、東加積村、早月加積村、遊加積村）ヲ以テ中新川郡ヲ置ク

富山縣越中國射水郡ノ一部（太田村、宮田村、雄神村、佛生寺村、布勢村、神代村、十二町村、水見町、加納村、上庄村、熊無村、速川村、久目村、阿尾村、蔵田村、余川村、稗萩村、巌石村、八代村、宇波村、女良村）ヲ以テ氷見郡ヲ置ク

富山縣越中國礪波郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（北山田村、山田村、南山田村、大鋸屋村、城端町、能美村、平村、上平村、利賀村、青島村、東山見村、雄神村、梅檀山村、梅檀野村、般若村、般若野村、中田町、般若村、北般若村、柳瀬村、太田村、中野村、油田村、庄下村、非波町、南山見村、非口村、高瀬村、山野村、稲田村、福野町、南野尻村、廣塚村、野尻村、東野尻村、五鹿屋村、出町）ヲ以テ東礪波郡ヲ置キ其ノ區域ノ一部（石動町、宮島村、子撫村、南谷村、埴生村、北蟹谷村、南蟹谷村、東蟹谷村、薮波村、石黒村、西野尻村、福光町、西太美村、廣瀬村、廣瀬舘村、太美山村、東太美村、吉江村、東石黒村、戸出町、津澤町、水島村、麻栖村、高波村、林村、醍醐村、弁戸村、小勢村、福田村、東五位村、立野村、山王村、福岡町、正得村、大瀧村、松澤村、若林村、荘川村、西五位村、五位山村、石堤村、赤丸村、國吉村）ヲ以テ西礪波郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊷鳥取縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十二號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鳥取縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鳥取縣因幡國高草郡及氣多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ氣高郡ヲ置ク

鳥取縣伯耆國河村郡、久米郡及八橋郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東伯郡ヲ置ク

鳥取縣伯耆國汗入郡及會見郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ西伯郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊸島根縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル島根縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

島根縣出雲國島根郡、秋鹿郡及意宇郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ八束郡ヲ置ク

島根縣出雲國出雲郡、楯縫郡及神門郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ簸川郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊹熊本縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル熊本縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

熊本縣肥後國飽田郡及託麻郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飽託郡ヲ置ク

熊本縣肥後國山鹿郡及山本郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿本郡ヲ置ク

熊本縣肥後國菊池郡及合志郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ菊池郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊺鹿兒島縣下國界、郡界變更、郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鹿兒島縣下國界竝郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鹿兒島縣日向國南諸縣郡及同縣大隅國東囎唹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ囎唹郡ヲ置キ大隅國ニ屬ス

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡及谿山郡竝同縣大隅國北大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿兒島郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國菱刈郡及同縣薩摩國北伊佐郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國姶良郡、桑原郡及西囎唹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ姶良郡ヲ置ク

鹿兒島縣大隅國肝屬郡及南大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ肝屬郡ヲ置ク

鹿兒島縣大隅國熊毛郡及馭謨郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ熊毛郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國揖宿郡及頴娃郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（給黎郡ニ屬セシ區域ノ一部及宿郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國川邊郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（川邊村、加世田村、西加世田村、勝目村、東南方村、西南方村）ト給黎郡ニ屬セシ區域ノ一部（知覧村）トヲ以テ川邊郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國日置郡及阿多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ日置郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國薩摩郡、高城郡、南伊佐郡及甑島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ八頭郡ヲ置ク

鳥取縣因幡國高草郡及氣多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ氣高郡ヲ置ク

鳥取縣伯耆國河村郡、久米郡及八橋郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ東伯郡ヲ置ク

鳥取縣伯耆國汗入郡及會見郡ヲ廢シ其區域ヲ以テ西伯郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊻島根縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十三號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル島根縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

島根縣出雲國島根郡、秋鹿郡及意宇郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ八束郡ヲ置ク

島根縣出雲國出雲郡、楯縫郡及神門郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ簸川郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊼熊本縣下郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十四號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル熊本縣下郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

熊本縣肥後國飽田郡及託麻郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ飽託郡ヲ置ク

熊本縣肥後國山鹿郡及山本郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿本郡ヲ置ク

熊本縣肥後國菊池郡及合志郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ菊池郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

㊽鹿兒島縣下國界、郡界變更、郡廢置ノ件（明治二十九年三月）

（法律第五十五號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル鹿兒島縣下國界竝郡界變更及郡廢置法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

鹿兒島縣日向國南諸縣郡及同縣大隅國東囎唹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ囎唹郡ヲ置キ大隅國ニ屬ス

鹿兒島縣薩摩國鹿兒島郡及谿山郡竝同縣大隅國北大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ鹿兒島郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國菱刈郡及同縣薩摩國北伊佐郡ヲ置キ薩摩國ニ屬ス

鹿兒島縣大隅國姶良郡、桑原郡及西囎唹郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ姶良郡ヲ置ク

鹿兒島縣大隅國肝屬郡及南大隅郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ肝屬郡ヲ置ク

鹿兒島縣大隅國熊毛郡及馭謨郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ熊毛郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國揖宿郡及頴娃郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（給黎郡ニ屬セシ區域ノ一部及宿郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國川邊郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（川邊村、加世田村、西加世田村、勝目村、東南方村、西南方村）ト給黎郡ニ屬セシ區域ノ一部（知覧村）トヲ以テ川邊郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國日置郡及阿多郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ日置郡ヲ置ク

鹿兒島縣薩摩國薩摩郡、高城郡、南伊佐郡及甑島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ菊池郡ヲ置ク

附　則

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

㊾岐阜縣下郡廢置及郡界變更ノ件（明治二十九年四月）

（法律第八十六號）

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル岐阜縣下郡廢置及郡界變更法律ヲ裁可シ玆ニ之ヲ公布セシム

岐阜縣美濃國厚見郡及各務郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（木田村、下尾毛村、鷲野村、下鵜飼村、御望村、洞村、交人村、折立村、今黒村、古市場村、安食村、彦坂村、佐野村、石谷村、岩利村、打越村、城田寺村、上土居村、椿洞村、正木村、山村、下土居村、長良村、福光村、雄総村、志段見村、古津村、則武村）トヲ以テ稲葉郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國羽栗郡及中島郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ羽島郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國海西郡及下石津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ安八郡ノ一部（今尾町、高田村、三鄕村、佛師川村、平原村、土倉村、脇野村、西島村）トヲ以テ海津郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國多藝郡及上石津郡ヲ廢シ其ノ區域ヲ以テ養老郡ヲ置ク

岐阜縣美濃國池田郡ヲ廢シ其ノ區域ト大野郡ヲ廢シ其ノ區域ノ一部（揖斐町、北方村、上南方村、房島村、若松村、極楽寺村、清水村、松山村、瀬古村、牛洞村、中之元村、豊木村、稲宮村、上秋村、古川村、寺内

村、稲知村、豚野村、六里村、廐生村、相羽村、鞘村、公郷村、大走銭村、小丞銭村、領家村、杉野村、下加方村、上磯村、郡家村、本庄村、下磯村、西浜名村、下前方村、元一ノ里村、下前方村、長瀬村、岐阜村、大洞村、深坂村、横識村）トヲ以テ高利方村、中宮村、横屋村、資延村、西祖尾村）トヲ以テ呂方村、崎村、田ノ上村、宮田村、大日村、居倉村、古橋村、七久保郡ヲ除ク

（豊野村、岩崎村、三田洞村）ヲ編入ス

此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

❸愛媛縣下郡廢置ノ件（元明治四十年法律第十七號）

愛媛縣伊予國温泉郡、久米郡、風早郡及和気郡ヲ除キ其ノ区域ノ内、南吉井村、浮穴郡ヲ廢シ其ノ区域ノ一部（三坂村）トヲ以テ温泉郡ヲ廢シ其ノ区域ノ一部（垣生村、余土村）ヲ以テ温泉郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ越智郡及野間郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ越智郡及桑村郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ

愛媛縣伊予國周布郡及桑村郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ

愛媛縣伊予國桑郡ヲ廢ク

愛媛縣伊予國桑郡ヲ廢シ其ノ区域ノ一部（南山崎ノ一部（原町村、郡部村、岐田村、中村、郡中町、郡中村、南伊予村、北伊予村、岡田村、松山村）トヲ以テ伊予郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ

此法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

○法律第四十二號（明治三十二年三月勅令ノ協賛ヲ經タル愛媛縣下郡界變更法律ヲ裁可シ並ニ之ヲ公布セシム）

愛媛縣伊予國西宇和郡平野村ヲ同縣同國喜多郡ニ編入ス

❸香川縣下郡廢置ノ件（明治三十三年法律第四十二號）

香川縣下ノ大内郡及寒川郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ大内郡及寒川郡ヲ置ク

香川縣下ノ三豊郡及豊田郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ三豊郡及豊田郡ヲ置ク

香川縣下ノ仲多度郡及多度郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ仲多度郡及多度郡ヲ置ク

香川縣下ノ綾歌郡及鵜足郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ綾歌郡及鵜足郡ヲ置ク

香川縣下ノ木田郡及山田郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ木田郡及山田郡ヲ置ク

香川縣下ノ香川郡及阿野郡ヲ廢シ其ノ区域ヲ以テ香川郡及阿野郡ヲ置ク

❸大分縣下郡界變更ノ件（明治三十二年法律第四十二號）

大分縣下ノ速見郡及日田郡ノ一部（玖珠郡ノ一部（九重村、野上村、野上村、野上

ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剥奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ（二十八年法律第六號ヲ以テ全條改正）

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ市ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ臨時若クハ非常ノ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

市公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル市吏員ニシテ公權剥奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得

第三款　市條例

第十條　市ノ事務及市住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各市ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

市ニ於テハ其市ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

市條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方廳行ノ公告式ニ依ル可シ

第二章　市會

第一款　組織及選舉

第十一條　市會議員ハ其市ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ人口五萬未滿ノ市ニ於テハ三十人トシ人口五萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ於テハ三十六人トス

人口十萬以上ノ市ニ於テハ人口十萬ヲ加フル毎ニ六人ヲ增シ六十人ヲ定限トス

議員ノ定員ハ市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得但定限ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條　市公民（第七條）ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルル者（第八條第三項第九條第二項）及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス（二十八年法律第六號ヲ以テ本條中改正）

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接市稅ヲ納ムル者其額市公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルル者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

第十三條　選舉人ハ分テ三級トス

選舉人總員ノ納ムル總額ノ三分一ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ三級トス

各級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ上級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其市ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ノ多キ者ヲ以テ上級ニ入ル若シ年齡ニモ依リ難キトキハ市長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人每級各別ニ議員ノ三分一ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラス三級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

第十四條　區域廣濶又ハ人口稠密ナル市ニ於テハ市條例ヲ以テ選舉區ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級若クハ三級選舉ノ爲メ之ヲ設クルモ妨ケナシ

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區ヲ以テ市會議員ノ選舉區トス（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

選舉區ノ數及其區域並各選舉區ヨリ選出スル議員ノ員數ハ市條例ヲ以テ選舉人ノ員數ニ準シ之ヲ定ム可シ

選舉人ハ其住居ノ地ニ依テ其所屬ノ區ヲ定ム其市內ニ住居ナキ者ハ課稅ヲ受ケタル物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム若シ數選舉區ニ亘リ納稅スル者ハ課稅ノ最多キ物件ノ所在ニ依テ之ヲ定ム可シ

選舉區ヲ設クルトキハ其選舉區ニ於テ選舉人ノ等級ヲ分ツ可シ

被選舉人ハ其選舉區內ノ者ニ限ラサルモノトス

第十五條　選舉權ヲ有スル市公民（第十二條第一項）ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ揭ル者ハ市會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣ノ官吏

二　有給ノ市吏員

三　檢察官及警察官吏

四　神官僧侶及其他諸宗教師

五　小學校教員

其他官吏ニシテ當選ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他

ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

市參事會員トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ニ市會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者市參事會員ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ每三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

第十七條　議員中闕員アルトキハ每三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上闕員アルトキ又ハ市會市參事會若クハ府縣知事ニ於テ臨時補闕ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補闕選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級及選舉區ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條　市長ハ選舉ヲ行フ每ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ原簿及名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間市役所又ハ其他ノ場所ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限內ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ市長ハ市會ノ裁決（第三十五條第一項）ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿ト爲シ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選舉ハ選舉掛之ヲ執行スルトキハ市長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級各區ニ分チ選舉前七日間ニ告示ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ三級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ

第二十條　選舉掛ハ名譽職トシ市長ニ於テ臨時ニ、選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ選任シ市長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス但選舉區ヲ設クルトキハ每區各別ニ選舉掛ヲ設ク可シ

第二十一條　選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條　選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ掛長ニ差出スコトヲ得ス但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルモ選舉會場ニ入ルニ及テ之ヲ開キ投票ヲ檢シ其數ノ選舉人名簿ニ照シテ之ヲ受ケ投票函ニ投入ス可シ但投票函ニ投入スル前ニ於テ投票ノ數ト選舉人ノ數ト符合セサルトキハ投票ノ全部ヲ取消ス可シ

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ

左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可シ否同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第二十五條　選舉掛ハ名簿ニ依リ選舉權ヲ有スル者ヲ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得又且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トス可シ

第二十六條　議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ（第十七條）投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十六條　選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ期日ヲ定メ

簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十七條　選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ數級又ハ數區ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限內何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十八條　選舉人選舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ市長ニ申立ツルコトヲ得（第三十五條第一項）

市長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ府縣知事ニ報告シ府縣知事ニ於テ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス府縣參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定期ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシム可シ

第二十九條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ノ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市會之ヲ議決ス

第二款　職務權限及處務規程

第三十條　市會ハ其市ヲ代表シ此法律ニ準據シテ市ニ關スル一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セラルル事件ヲ議決スルモノトス

第三十一條　市會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一　市條例規則ヲ設ケ並ニ改正スル事

二　市費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第七十四條ニ揭クル事務ハ此限ニ在ラス

三　歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認定スル事

四　決算報告ヲ認定スル事

五　法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手數料、市稅及夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事

六　市有不動產ノ賣買交換讓受讓渡並質入書入ヲ爲ス事

七　基本財產ノ處分ニ關スル事

八　新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

九　市有ノ財產及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十　市吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一　市ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

十二　市會ノ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル市吏員ノ選舉ヲ行フ可シ

第三十二條　市會ハ市ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ市長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決執行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

市會ハ其市ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十三條　市會ハ市ノ事務ニ關シ市長ノ諮問アルトキハ意見ヲ答ヘ又ハ市長ニ對シテ建議スルコトヲ得

第三十四條　市會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答ヘ又ハ市長ニ對シテ建議スルコトヲ得

第三十五條　市住民及公民タル權利ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權ニ關スル訴訟ノ裁判ハ府縣參事會之ヲ決ス可シ

第三十六條　市會ハ市ノ公益ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ市條例規則ヲ以テ過怠金ヲ設ケ又ハ五圓以下ノ科料ヲ處スル權アリ

第三十七條　市會ハ市ノ公益ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ市條例規則ヲ以テ五圓以下ノ罰金ヲ設ケ又ハ五圓以下ノ科料ヲ處スル權アリ

第三十八條　市會ハ市ノ公益ニ關シ必要ナル場合ニ於テハ市條例規則ヲ以テ五圓以下ノ過怠金ヲ設ケ又ハ五圓以下ノ科料ヲ處スル權アリ

第三十九條　市參事會ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十條　市會ハ會議ノ必要ナル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキ又ハ市長若クハ市參事會ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ會議ノ三日前タルヲ可シ但市會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

市參事會員ヲ市會ノ會議ニ招集スルトキモ亦前項ノ例ニ依ル

第四十一條　市會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス（二十八年法律第六號ヲ以テ本條中改正）

第四十二條　市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條　市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選ト爲シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條　市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條　市會ハ書記ナシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選舉ノ顚末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

市會ハ議事錄ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告ス可シ

市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條　市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

市行政

第一款　市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長　一名

二　助役　東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三　名譽職參事會員　東京ハ十二名京都大阪ハ各六名其他ハ六名

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十條　市長ハ內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ追テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條　助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票ノ同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス府縣參事會之ヲ決ス可シ

第五十二條　助役ハ有給吏員トシ其任期ハ六年トス

助役ノ選舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ進テ選舉ヲ行ヒ之認可ヲ得ルニ至ルノ間府縣知事ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ助役ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十三條　市長及助役ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十四條　名譽職參事會員ハ其市公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス其任期ハ四年トス任期滿限ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十五條　市長及助役其他參事會員ハ第十五條第二項ニ揭載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス同條第四項ニ揭載スル者ハ名譽職參事會員ニ選舉セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ市參事會員タルコトヲ得ス若シ其緣故アル者市長ノ任ヲ受クルトキハ其緣故アル市參事會員ハ其職ヲ退ク可シ其他ハ第十五條第五項ヲ適用ス

第五十一條　助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票

レハ議決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス（二十八年法律第六號ヲ以テ本條中改正）

第四十二條　市會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ市會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ府縣參事會市會ニ代テ議決ス

第四十四條　市會ニ於テ市吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選ト爲シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム其他ハ第二十二條第二十三條第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ市會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十五條　市會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十六條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十七條　市會ハ書記ナシテ議事錄ヲ製シテ其議決及選舉ノ顚末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ

市會ハ議事錄ノ謄寫又ハ原書ヲ以テ其議決ヲ市長ニ報告ス可シ

市會ノ書記ハ市會之ヲ選任ス

第四十八條　市會ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第三章　市行政

第一款　市參事會及市吏員ノ組織選任

第四十九條　市ニ市參事會ヲ置キ左ノ吏員ヲ以テ之ヲ組織ス

一　市長　一名

二　助役　東京ハ三名京都大阪ハ各二名其他ハ一名

三　名譽職參事會員　東京ハ十二名京都大阪ハ各六名其他ハ六名

名譽職參事會員ハ每二年其半數ヲ改選ス若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ退任セシム初回ノ退任者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム但退任者ハ再選セラルルコトヲ得

若シ闕員アルトキハ其殘任期ヲ補充スル爲メ直ニ補闕選舉ヲ爲ス可シ

第五十條　市長ハ內務大臣市會ヲシテ候補者三名ヲ推薦セシメ上奏裁可ヲ請フ可シ若シ其裁可ヲ得サルトキハ再推薦ヲ爲サシム可シ再推薦ニシテ猶裁可ヲ得サルトキハ進テ推薦セシメ裁可ヲ得ルニ至ルノ間內務大臣ハ臨時代理者ヲ選任シ又ハ市費ヲ以テ派遣シ市長ノ職務ヲ管掌セシム可シ

第五十一條　助役及名譽職參事會員ハ市會之ヲ選舉ス其選舉ハ第四十四條ニ依テ行フ可シ但投票

職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十六條　市長及助役ハ他ノ有給ノ職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ府縣知事ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十七條　名譽職參事會員ノ選擧ニ付テハ市參事會自ラ其資格ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ市參事會之ヲ議決ス其議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其他ハ第三十五條末項ヲ適用ス

第五十八條　市ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ市參事會ノ推薦ニ依リ市會之ヲ選任ス

收入役ハ市參事會員ヲ兼ヌルコトヲ得ス

收入役ノ選任ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス其他ハ第五十一條、第五十二條、第五十三條、第五十五條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ハ身元保證金ヲ出スヘシ

第五十九條　市ニ書記其他必要ノ附屬員ヲ置キ市長之ヲ以テ之ヲ定メ市參事會之ヲ任用ス

第六十條　凡市ハ處務便宜ノ爲メ市參事會ノ意見ヲ以テ之ヲ數區ニ分チ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

但東京京都大阪ニ於テハ區長ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

區長及其代理者ハ市會ニ於テ其區若クハ隣區ノ公民中選擧權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選擧ス區會

（第百十三條）ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ選擧ス但東京京都大阪ニ於テハ市參事會之ヲ選任ス

東京京都大阪ニ於テハ前條ニ依リ區ニ附屬員並使丁ヲ置クコトヲ得

東京市、京都市、大阪市ハ市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得（三十一年法律第二十號ヲ以テ本項追加）

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス

第六十一條　市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

市會ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六十二條　區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メ要スル實費辨償ノ外市會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十三條　市吏員ハ任期滿限ノ後再選セラルルコトヲ得

常設委員ノ組織ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十四條　市參事會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

市會ノ議決ニ依リ區ニ區收入役ヲ置クコトヲ得（三十一年法律第二十號ヲ以テ本項追加）

前項區收入役ハ區附屬員中ニ就キ市參事會之ヲ命ス

第六十一條　市ハ市會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

市會ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ府縣參事會ノ裁決ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　市ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　市ノ權利ヲ保護シ市有財產ヲ管理スル事

五　市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ證貴及十圓以下ノ過怠金トス

六　市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律命令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十五條　市參事會ハ其職務ノ一部ヲ區長ニ委任スルコトヲ得

市參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　市會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ市會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ市參事會ハ自己ノ意見ニ由リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ由リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　市ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　市ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他市會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　市ノ權利ヲ保護シ市有財產ヲ管理スル事

五　市吏員及使丁ヲ監督シ市長ヲ除クノ外其他ニ對シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ證貴及十圓以下ノ過怠金トス

六　市ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ市ヲ代表シ市ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事

八　法律命令ニ依リ又ハ市會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、市稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ市參事會ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十四條　市參事會ハ其職務ノ一部ヲ區長ニ委任スルコトヲ得

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十條　市收入役ハ市ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十一條　書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條　區長及其代理者（第六十條）ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケ區內ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又市ノ收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ヲ區內ニ關スルモノヲ管掌ス

（三十一年法律第二十號ヲ以テ本項以下追加）

第七十三條　委員ハ（第六十一條）市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十一條　書記ハ市長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十二條　區長及其代理者（第六十條）ハ市參事會ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケ區內ニ關スル市行政事務ヲ補助執行スルモノトス

東京市、京都市、大阪市ニ於テハ區長ハ市長市參事會又市ノ收入役ノ指揮命令ヲ受ケ若クハ委任ニ依リ市ノ公共事務及法律命令ヲ以テ市ニ屬シタル事務ヲ區內ニ關スルモノヲ管掌ス

（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

第七十三條　委員ハ（第六十一條）市參事會ノ監督ニ屬シ市行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

市長ハ隨時委員會ニ列席シテ議決ニ加ハリ其議長タルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ市條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得此場合ニ於テハ名譽職會員ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得

市條例ヲ以テ助役及名譽職會員ノ特別ナル職務並市長代理ノ順序ヲ規定ス可シ若シ條例ノ規定ナキトキハ府縣知事ノ定ムル所ニ從ヒ上席者之ヲ代理ス可シ

第七十四條　市長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ管スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　浦役場ノ事務

三　區ノ行政並府縣ノ行政ニシテ市ニ關スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ市參事會員ノ一名ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ揭載スル事務ヲ執行スル爲メニ要スル費用ハ市ノ負擔トス

東京市、京都市、大阪市ノ市長ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ本條ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

第三款　給料及給與

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第七十六條　市長助役其他有給吏員及使丁ノ給料額ハ市會之ヲ議決ス

市會ノ議決ヲ以テ市長ノ給料額ヲ定ムルトキハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス若シ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ確定ス

市會ノ議決ヲ以テ助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス府縣知事ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ內務大臣之ヲ確定ス

第八十一條　凡市ハ公益ノ爲メ必要アルトキハ法律勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ區域ヲ變更シ又ハ市ヲ廢止スルコトヲ得

第八十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ハサルトキ又ハ協議調フモ之ヲ決定スヘキ者ナキトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事之ヲ決定ス

第八十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內務大臣之ヲ決定ス

第八十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣之ヲ決定ス

第八十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內務大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第八十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第八十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第八十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第八十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第九十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百二十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百三十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十一條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十二條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十三條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十四條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十五條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十六條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十七條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十八條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百四十九條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

第百五十條　市ノ境界變更ニ關シ關係アル市町村ノ協議調ヒ府縣參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ決定ヲ經タルモ尚ホ其ノ協議調ハサルトキハ內閣總理大臣ニ於テ之ヲ裁定ス

豫算表ヲ市會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市ノ事務報告書及財產明細表ヲ提出スル可シ

第百九條　定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得ヲ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スル爲メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十條　市會ニ於ヲ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付スル可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ（第百二十一條ヨリ第百二十三條ニ至ル）先ツ其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ市參事會（第六十四條第二項第三）又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條　市ノ出納ハ每月例日ヲ定メテ檢查シ及每年少クモ一回臨時檢查ヲ爲スヘシ例月檢查ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢查ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條　決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以內ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

決算報告ヲ爲ストキハ第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ市參事會員故障アルモノトス

第五章　特別ノ財產ヲ有スル市區ノ行政

第百十三條　市內ノ一區ニシテ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其區限リ特ニ費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ府縣參事會ハ其市會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會ヲ設クルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第百十四條　前條ニ記載スル事務ハ市參事會之ヲ管理スル可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別スル可シ

第六章　市行政ノ監督

第百十五條　市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於ヲ內務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ參與スルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第百九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十六條　此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル府縣知事若クハ府縣參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以內ニ提出スル可シ但此法律中別ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スル可キ事件ヲ議決シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財產ヲ差押フルコトヲ得

第七章　附則

第百二十六條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第百二十七條　府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ內閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百二十八條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務幷市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百二十九條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其他ノ習慣ニ從フ

第百三十條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十一條　現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十二條　明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

前項第一ノ場合ニ於テハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可シ

第百二十三條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　新ニ市ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ增加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以內ノモノハ此限ニ在ラス

二　市特別稅並使用料、手數料ヲ新設シ增額シ又ハ變更スル事

三　地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四　間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五　法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

第百二十四條　左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事

二　基本財產ノ處分ニ關スル事（第八十一條）

三　市有ノ動產ノ賣却讓與並貸入借入ヲ爲ス事

四　各個人特ニ使用スル市有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）

五　各種ノ保證ヲ與フル事

六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事

七　均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事（第九十條第二項）

八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市內ノ一區ニ費用ヲ賦課スル事

九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十四條　府縣知事ハ市長、助役、市參事會員、委員、區長其他市吏員ニ對シテ懲戒ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財產ヲ差押フルコトヲ得

第七章　附則

第百二十六條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣指定スル地ニ之ヲ施行ス

第百二十七條　府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間府縣參事會ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ內閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百二十八條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務幷市條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百二十九條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其他ノ習慣ニ從フ

第百三十條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十一條　現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十二條　明治九年十月第百三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起功規則明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第四條、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十三條　內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布スルコトヲ得

此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市、京都市、大阪市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（三十一年法律第二十號ヲ以テ追加）

町村制

第一章　總則
第一款　町村及其區域
第二款　町村住民及其權利義務
第三款　町村條例
第二章　町村會
第一款　組織及選舉
第二款　職務權限及處務規程
第三章　町村行政
第一款　町村吏員ノ組織選任
第二款　町村吏員ノ職務權限
第三款　給料及給與
第四章　町村有財產ノ管理
第一款　町村有財產及町村稅
第二款　町村ノ歲入出豫算及決算
第五章　町村內各部ノ行政
第六章　町村組合
第七章　町村行政ノ監督
第八章　附則

町村制

第一章　總則

第一款　町村及其區域

第一條　此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條　町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理スルモノトス

第三條　凡町村ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス但將來其變更ヲ要スルトキハ此法律ニ準據スヘシ

第四條　町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

此法律ニ於テ關係アル町村會ト稱スルハ關係者ノ異議ニ拘ハラス町村ヲ合併シ其境界ヲ變更スルコトアル可シ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決スヘシ

第五條　町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ裁決ス其郡ヲ渉リ若クハ市ノ境界ニ渉ルモノハ府縣參事會之ヲ裁決ス其數郡ニ渉リ若クハ市ノ境界ニ渉ルモノハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條　凡町村住民及其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ關係アル町村會及郡參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且治產ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條　凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラルルノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
二　營業ノ爲メニ常ニ其町村內ニ居ルコトヲ得サル者
三　年齡滿六十歲以上ノ者
四　官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五　四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
六　其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タルニ在ラス

第七條　凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ年以來（一）町村ノ住民トナリ（二）其町村ノ負擔ヲ分任シ及（三）其町村內ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經サル者ハ此限ニ在ラス但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムル二個年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

此法律ニ於テ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戶ヲ構ヘ且治產ノ禁ヲ受ケサル者ヲ云フ

第八條　凡町村公民ハ町村ノ選舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ選舉セラルルノ權利アリ又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ス

一　疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
二　營業ノ爲メニ常ニ其町村內ニ居ルコトヲ得サル者
三　年齡滿六十歲以上ノ者
四　官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
五　四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
六　其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少クモ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下其町村公民タル

ノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分ノ一乃至四分ノ一ヲ增課スルコトヲ得

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九條　町村公民タル者第七條ニ揭載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

町村公民タル者公權停止中又ハ租稅滯納處分中ハ其公民タルノ權ヲ停止ス家資分散若クハ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ復權ノ決定アルマテ又公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ其裁判ノ確定ニ至ルマテ亦同シ（二十八年法律第七號ヲ以テ全條改正）

陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ町村ノ公務ニ參與セサルモノトス現役以外ノ兵役ニ在ル者ニシテ戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキモ亦同シ

町村公民タル者ニ限リテ任スヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第一項乃至第三項ノ場合ニ當ルトキハ自ラ解職スルモノトス職ニ就キタルカ爲メ公民タルノ權ヲ得ヘキ職務ニ在ル者ニシテ本條第二項第三項ノ場合ニ當ルトキモ亦同シ

前項ノ職務ニ在ル町村吏員ニシテ公權剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重罪輕罪ノ爲メ豫審ニ付セラレタルトキハ監督官廳ハ其職ヲ停止スルコトヲ得

第三款　町村條例

第十條　町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得

町村條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ發行スルトキハ地方慣行ノ公告式ニ依ルヘシ

第二章　町村會

第一款　組織及選舉

第十一條　町村會議員ハ其町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ制合ヲ以テ之ヲ定ム但特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

一　人口千五百以上五千未滿ノ町村ニ於テハ　議員八人
一　人口五千以上壹萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十二人
一　人口壹萬以上貳萬未滿ノ町村ニ於テハ　議員十八人
一　人口貳萬以上ノ町村ニ於テハ　議員二十四人

第十二條　町村公民（第七條）ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セラルル者（第八條第三項、第九條第二項）及第九條第一項ニ揭ケタル者ハ此限ニ在ラス（二十八年法律第七號ヲ以テ本條中改正）

凡內國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル者三名中ノ一人ヨリモ多キトキ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ第七條ノ要件ニ對シテ非ヲ辨スルヲ以テ衆ト爲ス者ハ選舉權ヲ有ス但公民權ヲ停止セラルル者及第九條第三項ノ場合ニ當ル者ハ此限ニ在ラス

第十三條　選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス

一級二級ノ間納稅額同級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ納稅者二名以上アルトキハ其町村內ニ住居スル年數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テシ年齡ニモ依リ難キトキハ町村長抽籤ヲ以テ之ヲ定ム可シ

選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選舉人ハ同級內ノ者ニ限ラス兩級ニ通シテ選舉セラルルコトヲ得

第十四條　特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ選舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條　選舉權ヲ有スル町村公民（第十二條第一項）ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ揭ケル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

一　所屬府縣郡ノ官吏
二　有給ノ町村吏員
三　檢察官及警察官吏
四　神官僧侶及其他諸宗教師
五　小學校教員

其他官吏ニシテ常選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

代言人ニ非スシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ非ヲ辨スルヲ以テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラルルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ縁故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラレタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ縁故アル者ハ之ト同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其縁故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ受クルトキハ其縁故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條　議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改選ス若シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解任ス可キ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

退任ノ議員ハ再選セラルルコトヲ得

第十七條　議員中欠員アルトキハ毎三年定期改選ノ時ニ至リ同時ニ補欠選舉ヲ行フ可シ若シ定員三分ノ一以上欠員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨時補欠ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補欠選舉ヲ行フ可シ

補欠議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改選及補欠選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ可シ

第十八條　町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ縱覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町村會ノ裁決（第三十七條第一項）ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リテ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ關スルコトヲ得ス

本條ニ依リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無效トナリタル場合ニ於テ更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條　選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

第二十條　選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ選任シ町村長ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名若クハ其代理者ハ其係長トナリ選舉會ヲ開閉シ投票ノ受理並效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ裁決ス可キ同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證ト爲ス可シ

第二十五條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集テ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ノ正否並其ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ノ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二　被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三　被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四　被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ

投票ノ受理並效力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ裁決ス可キ同數ナルトキハ掛長之ヲ決ス

第二十四條　選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サス

第十二條第二項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法人ニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其代人ハ內國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證ト爲ス可シ

第二十五條　町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ區劃ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ妨ケナシ

分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任シタル代理者ヲ以テ其長トシ第二十條ノ例ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ投票函ノ儘本會ニ集テ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當選ヲ定ム

掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ノ正否並其ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ヲ終ル迄之ヲ開クコトヲ得ス

第二十三條　投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ノ無效トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ（第十七條）投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ最長キ前任者ノ補闕ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條　選舉掛ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顚末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ期說シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉錄ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條　選舉ヲ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ五日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ

一人ニシテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限內何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限內ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條　選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得（第三十七條第一項）

町村長ハ選舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ選舉ノ效力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘ラス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

選舉ノ定期ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ取消シ又被選舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當選ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行ハシムル可シ

第三十條　當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條　小町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經テ町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款　職務權限及處務規程

第三十二條　町村會ハ其町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閱シ町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監查スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第三十六條　町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條　町村住民及公民タル權利ノ有無、選舉人名簿ノ正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル選舉權（第十二條第二項）及町村會議員選舉ノ效力（第二十九條）ニ關スル訴願ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴願中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村會ノ設ケナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若クハ町村長ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條　凡議員タル者ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條　町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條　會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻

子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條　町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條　町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集ス可シ其招集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條　町村會ハ議長ノ決スルコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付招集再回ニ至ルモ議員猶半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス

第四十四條　町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否全數ナルトキハ再議議決ス可シ若シ猶全數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條　議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ同參事會町村會ニ代テ議決ス

第四十六條　町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ其一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有効投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當選トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ最多數ヲ得ル者二名ヲ取リ之ニ就テ更ニ投票セシム若シ最多數ヲ得ル者三名以上同數ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取リ更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當選ヲ定ム

其他ハ第二十二條第二十三條、第二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第四十七條　町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第四十八條　議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然賛成又ハ反ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ其傍聽ヲ退ケ可シ

第四十九條　町村會ハ書記ヲ置キ其議決及選舉ノ顚末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事錄ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員三名以上之ニ署名ス可シ

第五十條　町村會ノ書記ハ議長之ヲ選任ス

町村會ノ書記ハ其會議細則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠金二圓以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第五十一條　第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ町村總會ニ適用ス

第三章　町村行政

第一款　町村吏員ノ組織選任

第五十二條　町村ニ町村長及町村助役ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ヲ置カサルコトヲ得

第五十三條　町村長及助役ハ町公民中年齡滿三十歲以上ニシテ選舉ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣故アル者助役ノ選舉ニ當ルトキハ其當選ヲ取消シ其町村長ノ選舉ニ當リヲ認可ヲ得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條　町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ選舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條　町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合（第七十條第二項ニ於テモ亦同シ）

第五十六條　町村ノ情況ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スルコトヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得

有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當選ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ失フモノトス

第五十七條　有給町村長及有給助役ハ三箇月前ニ申立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條　有給町村長及有給助役ハ他ノ有給職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條　町村長及助役ノ選舉ハ府縣知事ノ

可ヲ受ク可シ

第六十條　府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ內務大臣ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條　町村長及助役ノ選舉其認可ヲ得サルトキハ再選舉ヲ爲ス可シ

再選舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ選舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得

第六十二條　町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ選任ス

收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

第五十六條第二項、第五十七條及第七十六條ヲ收入役ノ選任ニ適用ス

收入役ノ選任ニ郡長ノ認可ヲ受ク可シ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス

郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ寡少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條　町村ニ書記其他必要ノ附屬員並使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條　町村ノ區域廣濶ナルトキハ處務便宜ノ爲町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分ケ每區區長及其代理者各一名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ町村會ニ於テ其區會（第百十條ニ於テ町村ノ公民中選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス區會ハ町村長之ヲ招集ス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ選舉シ町村長之ヲ認可ス

區長及其代理者ハ町村會ニ於テ選舉シ町村長之ヲ認可ス

第六十五條　町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

第六十六條　區長及委員ニハ職務ニ關スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ヲ以テ報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條　町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外職時解職スルコトヲ得

第二款　町村吏員ノ職務權限

第六十八條　町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一　町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律勅令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事

三　町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算其他町村會ノ議決ニ依テ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事

四　町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財產ヲ管理スル事

五　町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

六　町村ノ諸證書及公文書類ヲ保管スル事

七　外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟並和解ニ關シ又ハ他ノ適若クハ人民ト商議スル事

八　法律勅令ニ依リ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料、手數料、町村稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事

九　其他法律命令又ハ上司ノ指令ニ依テ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事

第六十九條　町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス

一　司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依テ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス

二　浦役場ノ事務

三　國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス

右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得

本條ニ揭載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス

第七十條　町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス

町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス可シ

第七十一條　町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十二條　書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス

第七十三條　區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區內ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス

第七十四條　委員（第六十五條）ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ隨時委員會ニ出席シテ其委員長ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

第六十六條　有給町村吏員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ定ムルコトヲ得

第七十五條　名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

實費辨償額、報酬額及書記料ノ額（第六十三條第一項）ハ町村會之ヲ議決ス

第七十六條　有給町村吏員有給助役其他有給吏員及給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長之ヲ許可ス可ラスト認ムルトキハ郡參事會ニ付シテ之ヲ確定ス

町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料給與ニ關シテ異議アルトキハ關係町村會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十七條　町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

第七十八條　有給吏員ニ關シテハ町村會之ヲ議決ス其郡參事會之ヲ裁決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條　退隱料ヲ受クル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ以テ退隱料ト同額以上ナルトキハ其額迄退隱料ヲ減止ス

第八十條　給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村條例ノ規定ヲ以テ之ヲ定ム

第四章　町村有財産ノ管理

第一款　町村有財産及町村稅

第八十一條　町村ハ其不動産、積立金穀等ヲ以テ基本財産ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ

臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財産ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條　凡町村有財産ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及共用スルモノトス但特ニ民法上ノ權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條　慈恵ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其慈慣ヲ改ムルコトヲ得ス

第八十四條　町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シテ之ヲ許可スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條　使用權ヲ有スル者（第八十三條、第八十四條）ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔ス可キモノトス

第八十六條　町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權（第八十三條、第八十四條）ヲ取上ケ又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十七條　町村有財産ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スル場合及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得ルトキハ此限ニ在ラス

第八十八條　町村ハ其必要ナル支出及從前法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラルル支出ヲ負擔スルノ義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手數料（第八十九條）並科料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村稅（第九十條）及夫役現品（第百一條）ヲ賦課徵收スルコトヲ得

第八十九條　町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第九十條　町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一　國稅府縣稅ノ附加稅

二　直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トス特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十一條　此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料、手數料（第八十九條）特別稅（第九十條第一項第二）、從前ノ町村設ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ科料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

科料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十四日以內ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條　三箇月以上町村內ニ滯在スル者ハ其町村稅ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滯在ノ初ニ遡リ徵收ス可シ

第九十三條　町村內ニ住居ヲ構ヘ又ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ町村內ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者（店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク）ハ其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十四條　所得稅法第三條ニ揭ケル所得ハ町村上滯在スルコトナシト雖モ町村內ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其部內ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔スル者ニ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十五條　數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滯在スル者ニ前條ノ町村稅ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村稅ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラス

第九十六條　所得稅ヲ賦課セラルル者官職又ハ府縣郡市町村及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其給料ニ對シテハ町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第九十七條　左ニ揭ケル物件ハ町村稅ヲ免除ス

一　政府、府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ニ公用ニ供スル土地營造物及家屋

二　社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及家屋

三　官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ町村稅ノ賦課ハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條　前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律勅令ニ定ムル所ニ從フ皇族ニ係ル（第百二條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ町村稅ノ賦課ノ例ニ依ル

第九十九條　數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ニ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村內ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部內ニ住居シ若クハ滯在シ又ハ土地家屋ヲ所有シ營業（店舖ヲ定メサル行商ヲ除ク）ヲ爲ス者ニ於テ其修築及保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財產アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用ニ充ツ可シ

第百條　町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ屆出ツ可シ其屆出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徵收スルコトヲ得

第百一條　町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得但學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且ツ之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金圓ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條　町村ニ於テ徵收スル使用料、手數料（第八十九條）町村稅（第九十條）夫役ニ代フル金圓（第百一條）共有物使用料及加入金（第八十四條）其他町村ノ收入ヲ定期內ニ納メサルトキハ町村

長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スル可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度內ニ限リ納稅延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適用ス

第百三條　地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條　町村稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以內ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度內滅稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第百五條　町村稅ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

第百六條　町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ增加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ利期ハ三年以內ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以內ニ還了スル可シ

定額豫算內ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第百七條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條　豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取リ之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

第百九條　町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ豫算表ヲ町村會ニ提出スヘシ其町村事務報告書及財產明細表ヲ提出ス可シ

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備ノ一部若クハ合併町村（第四條）ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲナスモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十條　町村內ノ區（第六十四條）又ハ町村內ノ一部若クハ合併町村（第四條）ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲナスモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得

第百十一條　町村會ニ於テ公債ヲ募集スルノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムル場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ以テ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

第百十二條　町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ利期ハ三年以內ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以內ニ還了スル可シ

定額豫算內ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度內ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノトス

第二款　町村ノ歲入出豫算及決算

第百七條　町村長ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得ヘキ金額ヲ見積リ年度前二箇月ヲ限リ歲入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ內務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第百八條　豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取リ之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

第百九條　町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ豫算表ヲ町村會ニ提出スヘシ其町村事務報告書及財產明細表ヲ提出ス可シ

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備ノ設ケアルトキハ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受クシ

第百十條　町村內ノ區（第六十四條）又ハ町村內ノ一部若クハ合併町村（第四條）ニシテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲナスモノ特別ニ財產ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限リ特ニ其費用（第九十九條）ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得

第百十一條　町村會ニ於テ公債ヲ募集スルノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムル場合ニ於テハ町村會ノ議決ヲ以テ

四　各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事（第八十六條）
五　各種ノ保證ヲ與フル事
六　法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ町村住民ニ負擔ヲ課スル事
七　均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事（第九十條第二項）
八　第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村內ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
九　第百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ賦課スル事

第百二十八條　府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノハ二十五圓以下トス

追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用スヘシ

一　町村長ノ懲戒處分（第六十八條第二項第五）ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二　郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三　本條第一項ニ揭載スル町村吏員職務ニ違フコト五年ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財產ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務擧ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其適時解職スルコトヲ得可キ者ハ（第六十七條）懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四　懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第百三十條　郡參事會府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長、府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行スル可シ

第百三十一條　此法律ニ依リ初テ議員ヲ選擧スル町村長ノ懲戒處分ニ付町村會ノ職務並町村條例ヲ以テ定ム可キ事項ハ郡長又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條　前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル可シ

第百三十四條　社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地ノ習慣ニ從フ

第百三十五條　此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタル數ヲ云フ

第百三十六條　現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十七條　此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ斟酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第百三十八條　明治九年十月第百三十號布告各區町村會公債公借共有物取扱土木起功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十九條　內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

市制町村制理由（明治二十一年四月二十五日頒布）

本制ノ旨趣ハ自治及分權ノ原則ヲ實施セントスルニ在リテ現今ノ情勢ニ照シ程度ノ宜キニ從ヒ以テ立法上其端緒ヲ開キタルモノナリ此法制ヲ施行セントスルニハ必先ツ地方自治ノ區ヲ造成セサル可カラス地方ノ自治區ハ特立ノ組織ヲ爲シ公法民法ノ二者ニ於テ共ニ一個人民ト權利ヲ同クシ之カ理事者タルノ機關ヲ有スルモノナリ其機關ハ法制ノ定ムル所ニ依テ組織シ自治體ハ即チ之ニ依テ其意想ヲ表發シ之ヲ執行スルコトヲ得ルモノトス故ニ自治區ハ法人トシテ財產ヲ所有シ之ヲ授受賣買シ他人ト契約ヲ結ヒ權利ヲ得義務ヲ負ヒ又其區域內ハ自ラ獨立シテ之ヲ統治スルモノナリ然リト雖モ其區域ハ素ト國ノ一部分ニシテ國ノ統轄ノ下ニ於テ其義務ヲ盡ササルヲ得ス故ニ國ハ法律ヲ以テ其組織ヲ定メ其負擔ノ範圍ヲ設ケ常ニ之ヲ監督スル可キモノトス

國內ノ人民各其自治ノ團結ヲ爲シ政府之ヲ統一シテ其機軸ヲ執ルハ國家ノ基礎ヲ鞏固ニスル所以ナリ國家ノ基礎ヲ固クセントセハ地方ノ區畫ヲ以テ自治ノ機體ト爲シ以テ其部內ノ利害ヲ負擔セシメサル可カラス

現今ノ制ハ府縣ノ下郡區町村アリ區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖モ未タ完全ナル自治ノ制アルヲ見ス郡ノ如キハ全ク行政ノ區畫ニシテ幾分カ自治ノ制ヲ兼ネ有セルカ如シト雖モ是亦全ク自治ノ制アリト謂フ可カラス今直迯ノ理由ニ依リ此區畫ヲ以テ悉ク完全ナル自治體ト爲スヲ必要ナリトス即府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體ト爲サントス此階級ヲ設クルハ分縣ノ制ヲ施スニ於テモ亦緊要ナリトス蓋自治區ニハ其自治權共同ノ事務ヲ任可キノミナラス一般ノ行政ニ關スル事ト雖モ全國ノ統治ニ必要ニシテ官府自ラ處理スヘキモノヲ除クノ外之ヲ地方ニ分任スルヲ得策ナリトス故ニ其町村ノ力ニ堪ヘサル者ハ之ヲ其負擔トシ其力ニ堪ヘル者ハ之ヲ其區ニ任シ郡ノ力ニ及ハサル者ハ之ヲ府縣ノ負擔トスルヲ原則トシテ是階級ノ重複スルヲ厭ハスシテ却テ利益アリト爲ス所以ナリ

維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之ヲ中央ノ政府ニ統ヘ地方官ハ各其職權アリト雖モ政府ノ委任ニ依テ代テ事ヲ處スルニ過キス今地方ノ人民ヲシテ之ニ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ參與セシメ以テ政府ノ繁務ヲ盡サシメントスルニ在リ而シテ政府ハ政治ノ大綱ヲ握リ方針ヲ授ケ國家統御ノ實ヲ擧クルヲ可ク人民ハ自治ノ責任ヲ分チ以テ事ヲ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ルヲ可シ蓋人民參政ノ思想發達スルニ從ヒ之ヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ漸ク國事ニ任スルノ實力ヲ養成セントスルニハ技術專門ノ職若クハ常職ヲ除クノ外概ネ地方ノ人民ヲシテ其職務ヲ盡サシメ以テ自治ノ實ヲ擧ケ其負擔セシメ無給ニシテ其職ヲ執ラシムルヲ要スト雖モ其地方人民ノ義務ト爲スヘキ本務ニシテ丁壯ノ兵役ニ服スルト原則ヲ同クシ更ニ一歩ヲ進ムルモノナリ然レトモ人民ヲシテ專ラ此義務ヲ當ラシムルトキハ其任又輕シト爲サス故ニ一朝ニシテ此制ヲ實行セントスルハ頗ル難事ニ屬スト雖モ其目的タル國家永遠ノ計ニ在リテ效果ヲ速成ニ期セス漸次參政ノ道ヲ擴張シテ公務ニ練熟セシメントスルニ在リ是ヲ以テ力メテ多ク地方ノ名望アル者ヲ擧ケテ此仁ニ當ラシメ其地位ヲ高クシ待遇ヲ厚クシ無用ノ勞費ヲ負ハシメス倦怠ノ念ヲ生セサラシムルトキハ漸ク其責任ノ重キヲ知リ參政ノ名譽タルヲ辨スルニ至ラントス且本邦舊來ノ制ヲ考フルニ無給職ニシテ町村ノ事務ニ任スルノ例アリ各地方ノ習慣固ヨリ一定ナルニ非ス且維新後數次ノ變革ニ依テ頗ル此習慣ヲ破リタリト雖モ今日ニ及テ之ヲ墨用メルコト猶難カラサル可シ是此制ヲ實施スルニ方テ多少ノ困難アルニ拘ラス漸次其目的ヲ達センコトヲ期シテ疑ハサル所以ナリ

然レトモ他ノ一方ヨリ之ヲ見ルトキハ又地方ノ情況ニ依リ多少ノ酌量ヲ加ヘサルヲ得サルモノアリ是ヲ以テ町村長ハ公選ト爲スト雖モ其選擧宜キヲ得サルトキハ臨時官選ヲ許シ或ハ官吏ヲ派遣シテ其事務ヲ執ラシムルノ例アリ又島嶼ノ地其他特別ノ事情アリテ此制ヲ實施シ難キ地方ニハ之ヲ行ハサルヲ許スノ例アリ（町村制第六十一條第百三十二條第百三十三條）其他十分ニ實地活用ノ方ヲ與ヘタレハ各地ノ實況ニ照シテ之ニ應スルノ便アルヲ信スト雖モ此等ノ法令ハ人民ノ情態ニ依リ智識ノ度ニ應シテ宜キヲ取ラサルヲ得ス徒ニ自治ノ理論ニ據テ俄ニ其完備ヲ求ムルカ如キハ立法者ノ愼重ヲ加フ可キ所ナリトス是本制多少ノ斟酌ナキヲ得サル所以ナリ

本制ヲ施行スルニ付テハ漸ヲ以テ郡府縣ノ制度ノ改正ニ及ハサルヲ得サルモノアリ今其概略ヲ擧クレハ郡ニ郡長ヲ置キ府縣ニ府縣知事ヲ置キ其選任組織等固ヨリ慈ノ如クシテ之ヲ改メスト雖モ府縣會ノ外新ニ郡會ヲ開キ府縣郡ニ各參事會ヲ設ケサルヲ得ス然レトモ是等ノ非ハ府縣郡制ノ制定アルヲ待テ始メテ定マル可キ事ニシテ今只之ヲ以テ本制ノ參考ニ供スルノミ

本制ニ制定スル市町村ハ共ニ最下級ノ自治體ニシテ市ト云ヒ町村ト云ヒ都鄙ノ別ニ依テ其名ヲ異ニ

ル無智無産ノ小民ニ放任スルコトヲ欲セサルカ爲メナリ然レトモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資産者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶タンコトヲ期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準トシ爲シ市制町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件タル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ（市制町村制第九條）即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一國民籍ヲ失フ事

二公權ヲ失フ事

三市町村内ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事

四公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事

六市町村内ノ分任ヲ止ムル事

七市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅貳圓以上ヲ納メサル事

租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラルルモノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉被選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任スル義務アリ然レトモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資産者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶タンコトヲ期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準トシ爲シ市制町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件タル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ（市制町村制第九條）即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一國民籍ヲ失フ事

二公權ヲ失フ事

三市町村内ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事

四公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事

六市町村内ノ分任ヲ止ムル事

七市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅貳圓以上ヲ納メサル事

租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラルルモノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ公民權ヲ有スル者ハ一方ニ在テハ選舉被選舉ノ權利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任スル義務アリ然レトモ本制ニハ二級若クハ三級選舉法ヲ行フニ依テ幸ニ小民ノ多數ヲ以テ資産者ヲ抑壓スルノ患ヲ免ル可キカ故ニ其制限ハ之ヲ低度ニ定ムルモ妨ケナシ元來選舉權ヲ擴充シ以テ細民不滿ノ念ヲ絶タンコトヲ期スルハ此選舉法ノ他ニ優レリトスル所ナリ故ニ本制ニ於テハ二年以來町村内ニ於テ地租ヲ納ムル者ハ其制限額ヲ設ケス其他ノ納稅者ハ二圓以上トセリ而シテ其稅額直接國稅ヲ標準トシ爲シ市制町村制第十二條、第十三條ノ場合ノ如ク市町村稅ヲ標準トセサル所以ノモノハ現今町村費ノ賦課法タル各地方異同アリテ未タ完全ノ域ニ達セサルヲ以テ町村稅ニ依リ其標準ヲ立ツルハ頗ル難事ニ屬スルヲ以テナリ

公民權ヲ得ルノ要件タル以上ハ其要件ヲ失フ者ハ又其權ヲ喪フ可シ（市制町村制第九條）即公民權ハ左ノ事件ト共ニ消滅スルモノトス

一國民籍ヲ失フ事

二公權ヲ失フ事

三市町村内ニ住居セサル事即住民權ヲ失フ事

四公費ヲ以テ救助ヲ受クル事

五獨立ヲ失フ事即一戸ヲ構フルコトヲ止メ又ハ治産ノ禁ヲ受クル事

六市町村内ノ分任ヲ止ムル事

七市町村内ノ所有地ヲ他人ニ讓リ又ハ直接國稅貳圓以上ヲ納メサル事

租稅滯納處分中ノ者ハ公民權ヲ喪失スルニアラスシテ停止セラルルモノナリ其他市制町村制第九條第二項ニ記載セル場合ハ總テ之ニ同シ喪失ト停止トノ區別ハ停止ノ時ハ其權利ヲ存シテ只法律ニ定メタル事由ノ存スル間之カ執行ヲ止ムルニ在リ

セス公布ヲ竣ヲ初メテ他人ニ對シテ效力ヲ有スルハ一般ノ法理ニ照シテ疑ナキ所ナリ

市制町村制第二章　市會町村會

市町村ハ法人タル者ナレハ之ニ代テ思想ヲ發露シ之ニ代テ業務ヲ行フ所ノ機關ナカル可カラス其機關ニ代議ノ機關ト行政ノ機關トノ二者アリ

代議ノ機關トハ即市會町村會ニシテ其沿革ノ詳ナルハ今姑ク措キ往時町村ノ寄合ト稱セシモノニ起リ維新後ニ至テ府縣會ト同ク各地方ニ町村會ヲ開キタリ然レトモ其法律ヲ以テ制定シタルハ即明治十三年ノ區町村會法ヲ創始トシ其後明治十七年ノ改正ヲ經テ今日ニ及ヘリ然レトモ其法律ハ會議ノ大則ヲ定メタル過キスシテ餘ハ之ヲ各地方ノ適宜定ムルニ任セタリ又全國ノ町村盡ク之ヲ開設スルニ非ス小町村ノ如キ會議ヲ設ケサルモ亦少シトセス今之ヲ改メテ會議ノ規則ヲ制定スト雖モ猶多少ノ酌量ヲ地方ニ任セ且小町村ノ如キハ代議會ヲ設ケサルヲ許シ代フルニ選舉人ノ總會ヲ以テセリ

第一款　組織及選舉

代議機關ハ完全ナル機利ヲ有セル市町村民ノ選舉ニ出ツルモノトス其組織ノ方法ニ至テハ外國ノ例ヲ參考スルニ各多少ノ異同アリ善國ノ情況ニ適合スル完備ノ法ヲ立ツルハ易カラサル所ナリト雖モ今古來ノ沿革時勢人情ヲ考察シ傍ラ外國ノ例ヲ參酌シテ以テ其宜ヲ制定ス其要點左ノ如シ

一　選舉權

選舉權ハ素ヨリ完全ナル權利ヲ有スル公民ニ限リテ之ヲ有ス可シ然レトモ此權利ヲ擴張シ特例トシテ之ヲ公民ナラサル者ニ與フルコトアリ（市制町村制第十二條）是其人ノ利害ニ關スル所最厚ク且市町村稅負擔ノ最重キカ故ナリ此點ハ上ニ之ヲ詳述セリ

利ヲ有シ一方ニ在テハ市町村ノ代議及行政上ノ名譽職ヲ擔任ス可キ義務ヲ負フモノトス此義務ハ運道、病院ノ類）ノ組織及其使用法ヲ規定スルモノチノ關係即市町村ノ組織中ニ在テ權利義務ヲ規定スルモノヲ謂フ其法律命令ニ牴觸スルヲ得サルハ二者共ニ相同シ但條例ニ在テハ此外猶制限アリ即法律ニ明文ヲ揭ケテ特例ヲ設クルコトヲ許シ或ハ法律ノ明條ナクシテ自主ノ權ヲ許シタル場合ニ限モノトス明文ヲ以テ條例ヲ設クルコトヲ許シタル場合ヲ列擧スレハ市制ニ在テハ第十一條、第四十九條、第六十九條、第七十三條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第百二條、町村制ニ在テハ　第十一條、第十四條、第三十一條、第五十二條、第六十五條、第七十七條、第八十四條、第九十一條、第九十七條、第百二條、第百四條ニ於テ條例ト謂フ其他本制ニ於テ條例ニ均シキ規定ヲ許シタル場合モ亦少カラス其條例ト則言セサル所以ハ專ラ許可ヲ要セサルニ在リ（市制第四十條、第四十八條、第五十條、第六十條、第六十四條、町村制第四十二條、第五十條、第六十四條）

條例規則ヲ新設改正スルハ市町村會之ヲ議決シ（市制第三十一條第一、町村制第三十三條第一）市制第百二十一條第一及第百二十三條第一、町村制第百二十五條第一及第百二十七條第一、ニ依リ許可ヲ受ク可キモノトス但町村制第三十一條及第百十四條ニ於テハ特例トシテ之ヲ那參事會ノ議決ニ委任セリ是町村會ニ於テ此議決ヲ爲スヲ得ス又其議決ノ偏頗ニ失スルノ恐アルヲ以テナリ又本制施行ノ當初未タ市町村會ヲ召集セサル間ニ於テ條例ヲ以テ規定ス可キ事項ノ處分法ハ市制第百二十八條及町村制第百三十一條ニ依リ其條例規則ヲ論

市町村ノ自主ノ權ヲ以テ設ケル所ノ法規ニ條例及規則ノ別アリ規則トハ市町村ノ營造物（瓦斯局、水

二　被選舉權

被選舉權ハ選舉權ヲ有スル者ニ限リテ之ヲ有ス可シト雖モ其市町村ノ公民ニ非サル者ニ至テハ假令選舉權ヲ有スルモ被選舉權ヲ有セス其他被選舉權ノ要件ニ同シテハ市制第三十八條、第四十三條、第四十五條、第百四條ニ於テ其區別アリ

三　選舉等級

本制ニ於テハ納稅額ニ依テ選舉人ノ等級ヲ立テ選舉權ヲ以テ市町村稅負擔ノ輕重ニ伴隨セシム蓋名譽職ニ任スルハ町村公民ノ輕カラサル義務ナレハ資產アル者ニ非サレハ之ニ任スルコト能ハス又其稅額ノ多寡ハ姑ク之ヲ論セサルモ其事ヲ自治ノ義務ヲ負擔スル者ニ相當ノ權力ヲ有セシムルハ固ヨリ當然ノ理ナリ今等級選舉法ヲ以テ常例トセルハ即此要旨ニ外ナラス等級選舉ノ例ハ本邦ニ於テハ創始ニ屬スト雖モ之ヲ外國ノ實例ニ照スニ則ニ其眞結果アルヲ徵スルニ足ル本制被選舉權ノ資格ヲ廣クシテ而シテ其流弊ナキヲ信スル所以ノモノハ即此選舉法ニ依テ以テ細民ノ多數ニ制セラルルノ弊ヲ防クニ足ルヘキヲ以テナリ

選舉人ノ等級ヲ立テ其選舉人ノ納稅額ニ依テ各地ニ通スル一定ノ稅額ヲ設ケテ等級ヲ分ツコトヲ得又單ニ土地ノ所有ヲ以テ選舉權ノ標準ト爲スコトヲ得ス是ヲ以テ等級法ヲ立テント欲スルニハ市町村内ニ於テ徵收スル市町村稅ノ總額ヲ標準トシ各自納稅額ノ多寡ニ依テ其順序ヲ定メ等級ヲ立ツルノ外他ニ良法アルヲ知ラス然ルニ市ハ通シテ三級トシ町村ハ單ニ二級トセルハ市民ハ戶口多ク貧富ノ階級アルコト町村民ノ等差少キカ如キニ非サルヲ以テナリ（市制町村制第十三條）但町村ニシテ特別ノ事情アルモノアリ例ヘハ選舉人寡少ニシテ其稅額ノ等差モ亦少クシテ或ハ一二ノ納稅者アリテ非常ニ多額ノ稅ヲ納ムルカ或ハ大町村ニ於テ其納稅者ノ等差極メテ甚キノ類ニシテ二級選舉法ヲ適當トセサル場合モアル可シ此場合ニ於テハ町村條例ヲ以テ三級選舉法ヲ設クルコトアル可ク或ハ等級ヲ設ケス或ハ更ニ他ノ方法ヲ立ツルコトヲ得セシメントス尤二級若クハ三級選舉法ヲ以テ常例トスルカ故ニ不得已ノ事情アリテ許可ヲ受クルニ非サレハ此特例ヲ設クルコトヲ得サル可シ

被選舉人ハ其區內級內ノ者ニ限ラストスルハ（市制第十三條、第十四條、町村制第十三條）市町村會ノ議員ハ全市町村ノ代表者タルノ原則ヨリ出ツルモノニシテ是亦實際ノ便宜トスル所ナリ

四　選舉ノ手續

選舉ノ事務タル其關スル所輕カラサルヲ以テ其細則ニ至ルマテ法律ヲ以テ之ヲ規定スルヲ要ス其單ニ手續ニ屬スル事項ト雖モ力メテ法律ニ之ヲ制定スル所以ノモノハ選舉ノ公平確實ナルコトヲ保シ行政廳ノ干涉ヲ防キ或ハ干涉ノ疑ヲ避クンカ爲メナリ其順序大略左ノ如シ

選舉ハ通例三年毎ニ之ヲ行フノ之ヲ定期選舉トシ議

又ハ選挙人名簿ノ調製ニ供シ其ノ調製ニ関スル事務ヲ処理スル為メ市ニ於テハ市長ヲ以テ、町村ニ於テハ町村長ヲ以テ選挙管理委員ヲ設ケ選挙ニ関スル事務ヲ管理セシム

選挙管理委員ハ選挙人名簿ノ調製ニ関シ異議ノ申立アリタルトキハ之ヲ決定シ其ノ決定ニ不服アル者ハ府県参事会ニ訴願スルコトヲ得

一

町村長ハ町村ノ執行機関ニシテ町村ヲ統轄シ町村ヲ代表ス

町村長ハ名誉職トス但シ町村ノ状況ニ依リ有給トスルコトヲ得

町村長ハ町村会ニ於テ選挙ス

町村長ノ選挙ニ関スル訴訟ハ府県参事会ニ出訴スルコトヲ得

町村長ノ選挙ニ関スル訴訟ハ選挙ノ日ヨリ五日以内ニ之ヲ提起スルコトヲ要ス

町村長ノ選挙ニ関スル訴訟ハ府県参事会ニ於テ裁決スルニ非サレハ其ノ効力ヲ生セ

ナレハ市町村公民ハ特リ會議又ハ參事會ニ加ハルノミナラス委員ノ列ニ入リテ市町村ノ行政ニ參與シ之ニ依テ自ラ實務ノ經驗ヲ積ミ能ク施政ノ難易ヲ了知スルコトヲ得可シ又地方ノ事情ヲ表白スルノ機會ヲ得テ大ニ事務吏員ノ短處ヲ補フコトヲ得可シ蓋シ委員ハ自治ノ制ニ於テ緊要ナル地位ヲ占ムルモノニシテ本制施行ノ際委員ノ設ケヲ促シテ市町村公民ヲシテ之ニ參與セシメンコトヲ務ム可シ委員ノ廢置ハ固ヨリ市會町村會ノ決議ニ在リ其組織及職務ハ市町村條例ノ定ムル所ニ在リト雖モ町村長及市參事會ハ正系ノ行政機關ニシテ委員ハ其一部分ニ參與スルニ過キサレハ委員ハ町村長若クハ市參事會ニ從屬シ概ネ市長若クハ町村長ヲ以テ委員長ト爲シ參事會員ヲ以テ多クノ之ニ加ヘ市會町村會議員モ亦成ルヘク此委員ニ列セシメンコトヲ要ス市會町村會ノ議員ニシテ行政ノ事務ニ加ハルトキハ能ク施政ノ緩急利害ヲ辨識シ行政吏員トヲ互ニ協同シテ事務ヲ擔任スルノ慣習ヲ生シ自ラ代議機關ト行政機關トノ軋轢ヲ防制スルコトヲ得可シ

五　區長

區域廣濶又ハ人口稠密ノ地ハ施政ノ便ヲ計ランカ爲メ之ヲ數區ニ分ツノ必要アル可シ故ニ本制ハ市町村ニ區ヲ劃設スルコトヲ許シ之ニ區長及代理者ナル行政ノ機關ヲ設置セリ此機關ハ其市町村ノ行政廳ニ隷屬スルモノニシテ其指揮命令ヲ奉シテ事務ヲ區内ニ執行スルモノトス其委任事務ノ範圍ハ土地ノ情況ト市町村行政廳ノ酌量ニ在ルモノニシテ豫メ之ヲ定メスト雖モ區長ハ名譽職ニシテ則ニ區ノ附屬員ナル者アルニアラサレハ（三府ヲ除クノ外）實際此事情ヲ斟酌セサルヘカラス要スルニ區ハ市町村内則ニ特立シタル一ノ自治體タルニ非ス區長モ亦其固有ノ職權アルニ非スシテ單ニ町村長市參事會ノ事務ヲ補助執行スルノ便ニ供フルニ過キス故ニ區長ハ市町村ノ機關ニシテ區ノ機關ニ非ス區ハ法人ノ權利ヲ有セス財產ヲ所有セス歲計豫算ヲ設ケス又議會若クハ其他ノ機關ヲ存スルコトナシ蓋區ヲ設クルトキハ施政ノ周到ナルヲ得可ク、一市町村内ノ各部ニ於テ利害ノ軋轢スルヲ調和シ、市町村費賦課ノ不平衡ヲ矯メ又能ク行政ノ勞費ヲ節略スルヲ得可シ要スルニ區長ヲ設クルハ町村制中ニ加フルモノ

市會ノ議決ヲ要セス市參事會ノ意見ヲ聽キ府縣知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムルコトヲ得

公債ヲ起シ又ハ起債ノ方法利子ノ定率及償還ノ方法ヲ變更セントスルトキハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百十三條　市ハ其ノ負擔ニ屬スル費用ニ充ツル爲特別稅ヲ賦課スルコトヲ得

第百十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ルコトヲ得

第百十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルコトヲ得

第百十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百二十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百三十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百四十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百五十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百六十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百七十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百八十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第百九十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百二十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百三十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百四十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百五十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十一條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十二條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十三條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十四條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十五條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十六條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十七條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十八條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百六十九條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ又ハ之ヨリ收益ヲ得ル權利ヲ設定スルニハ市會ノ議決ヲ要シ府縣參事會ノ許可ヲ受ケサルヘカラス

第二百七十條　市ハ其ノ財産及營造物ヲ使用シ